

大田原市文化財保存活用地域計画

令和3年3月

大田原市教育委員会

ごあいさつ

栃木県の北東部に位置する大田原市は、関東平野の最奥部にあり、南流する那珂川を挟んで西に那須野が原（那須扇状地）の平野部、東に八溝山地の山間部が展開します。この特徴的な地形は、本市の歴史文化を形成する大きな母体となり、原始・古代から現代に至るまで連綿と、また非常に濃密で特色ある歴史文化を築き上げてきました。

その歴史文化のもとに形づくられ、伝えられてきた重要な文化財も数多く、国・県・市指定等の文化財は210件に及び、詳細な調査が十分に行き届いていない未指定の文化財も相当の件数にのぼっております。一方で、そうした文化財の所有あるいは継承において、過疎化や少子高齢化などの社会問題が進行することによって、文化財が散逸あるいは途絶えてしまうような危機的な状況も見えてまいりました。

そこで本市としましては、文化財を保存・継承していくための基本的な考え方を整理し、それに沿った事業展開ができるように、文化庁が推し進めていた「歴史文化基本構想」の策定に平成29年（2017）に着手しました。ほどなく、これまでの保存・継承にとどまらず、活用することも視野に入れ、より実効性を高めるための措置も加えた「文化財保存活用地域計画」の作成が平成30年（2018）に改正された文化財保護法に盛り込まれましたので、平成31年（2019）の施行に合わせて同計画の作成へと移行しました。

本計画を作成する上での基本情報となる文化財の悉皆調査は、時を同じくしてスタートした市史編さん事業と連携しながら丹念に進め、本市の歴史文化の特徴を「接・結つなぐむすぶの地」と整理しました。本市の特徴的な地理的条件によって、異なる地域や文化と接し結び付いていく、本市ならではの歴史観であります。そして、本市の目標を「まもる手結びむす 未来へ接つなぐ 大田原の文化財（たからもの）」とし、未来へつなぐための保存と活用に関する数多くの措置を盛り込んだ計画としてまとめることができ、令和2年（2020）12月18日付けで本計画が文化庁長官に認定されました。

計画期間となっている今後5年間において、本市関連部局や関係機関・団体が連携しながら、本計画に沿った事業取組が着実に進められ、目標とする方向に少しでも近づくことができるよう願ってやみません。

最後に、本計画の作成をお願いいたしました元栃木県考古学会会長の海老原郁雄先生をはじめ大田原市歴史文化基本構想策定委員会・大田原市文化財保存活用地域計画協議会の委員の皆様、ご指導・ご助言をいただきました文化庁地域文化創生本部広域文化観光・まちづくりグループ及び栃木県教育委員会事務局文化財課、ならびに、ご協力いただきました多くの関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

令和3年3月

大田原市教育委員会
教育長 植竹 福二

例 言

1. 本書は、大田原市の文化財を保存・活用するために、文化財保護法第 183 条の 3 に基づく文化財保存活用地域計画として、文化庁の定める「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針」（平成 31 年 3 月）に基づいて作成した。
2. 地域計画の作成にあたって、平成 29 年度から平成 31（令和元）年度は文化庁「文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）」、令和 2 年度は文化庁「文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業（地域計画等）」の補助を受けた。また、文化庁地域文化創生本部 広域文化観光・まちづくりグループから指導・助言、栃木県教育委員会事務局文化財課から助言、大田原市文化財保護審議会から調査審議の上建議をそれぞれいただいた。
3. 地域計画の執筆は、大田原市教育委員会事務局文化振興課が行った。また、図の作成と編集は、事務局から委託を受けた株式会社文化財保存計画協会が行った。

目 次

第1章 大田原市文化財保存活用地域計画の作成

1 作成の背景	
(1) 大田原市文化財保存活用地域計画作成の背景と目的	1
(2) 地域計画が対象とする文化財	2
2 作成までの経過	
(1) 実施体制	3
(2) 地域計画作成の経過	5
3 地域計画の位置付け	
(1) 上位・関連計画の位置付け	7
(2) 関連計画・条例	7
(3) 地域計画の計画期間	10

第2章 大田原市の概要

1 社会的環境	
(1) 位置と交通	11
(2) 市域の変遷	12
(3) 人口	13
(4) 産業	14
(5) 観光	16
(6) 祭り・イベント	19
2 自然環境	
(1) 地形・地質	20
(2) 気象	22
(3) 植生	22
3 歴史的変遷	
(1) 原始	24
(2) 古代	26
(3) 中世	28
(4) 近世	32
(5) 近代	35
4 暮らしと文化	
(1) 祭礼・民俗芸能	37

第3章 文化財の概要と特徴

1 文化財の現状	
(1) 指定等文化財	40
2 歴史文化の総合的把握	
(1) 既存の調査・研究	40
(2) 悉皆調査	43
3 文化財の概要と特徴	
(1) 文化財の概要と特徴	45
(2) 地区別の文化財の特徴	47

第4章 歴史文化の特徴	
1 歴史文化の特徴	
(1) 大田原市の歴史文化の特徴	49
第5章 文化財行政に関する本市の目標と方針	
1 文化財の保存・活用に関する課題	
(1) 保存・継承・管理における課題	55
(2) 調査・研究における課題	56
(3) 普及・活用における課題	56
(4) 組織・体制における課題	57
2 文化財に対する本市の目標	
(1) 保存・活用の目標	57
3 基本方針	
(1) 未来へ接ぐため（保存と活用）の方針	58
(2) まもる手を結ぶため（仕組みと体制づくり）の方針	59
第6章 文化財の保存・活用に関する措置	
1 未来へ接ぐため（保存と活用）の措置	
(1) 文化財の保存と継承	62
(2) 文化財の価値と魅力の顕在化	64
2 関連文化財群に関する措置	
(1) 設定の考え方	66
(2) 大田原市を特徴づけるストーリー	68
3 文化財保存活用区域に関する措置	
(1) 設定の考え方	77
(2) 文化財保存活用区域	78
第7章 文化財の保存・活用の推進	
1 まもる手を結ぶため（仕組みと体制づくり）の措置	
(1) 組織体制の整備	87
(2) 市民および学術団体との協働体制の構築	90
(3) 保存・活用のための制度の考え方	90
2 今後の取組	
(1) 地域計画に定める事業の推進	92
(2) 計画の進捗管理と自己評価の方法	92
巻末資料	
1 文化財リスト	
(1) 指定・登録等文化財	93
(2) その他	99
(3) 未指定文化財	100
(4) 文化財調査報告書リスト	109
2 計画作成に伴う調査	
(1) アンケート調査結果	112

第1章 大田原市文化財保存活用地域計画の作成

1 作成の背景

(1) 大田原市文化財保存活用地域計画作成の背景と目的

大田原市には、国宝那須国造碑をはじめ、200件を超える国・県・市指定等の文化財が存在する。それらの保存継承、維持管理に対して、これまで文化財保護法や県・市文化財保護条例、各種補助金交付要綱等に基づいて、補助金を交付する等の支援、保護対策を講じてきた。

しかし、過疎化・少子高齢化等が進行して社会状況が変化していく中、文化財を保存継承していく担い手や財源が減少し、本市の貴重な文化財が滅失あるいは散逸する等の危機的状況にある。那須野が原と八溝山地、各地に見られる湧水や河川等の豊かな自然は、原始からの生活の痕跡や文化、国の天然記念物であるミヤコタナゴ等の希少な動植物等を内包しているが、管理を担ってきた地域住民の高齢化等により、環境の維持が困難になってきている。本市の中心市街地も、かつては旧大田原城下町、奥州道中（奥州街道）の宿場町として賑わい、古民家や近代化の流れで作られた公共施設・蔵等の歴史的価値のある建造物が多く存在したが、市街地再開発事業の区域外では古い建造物を維持・修繕するための人手や財源が不足し、空き家化や取り壊しが進行している。地域に根差した祭礼や民俗芸能も、後継者不足やコミュニティの衰退等によりかつての賑わいが失われつつある。

また、本市には国宝の那須国造碑や国の史跡の侍塚古墳をはじめ、中・近世の城館跡等、魅力ある文化財が数多くあり、平成26年(2014)には那須神社本殿・楼門が重要文化財(建造物)に、その境内全体がおくのほそ道の風景地八幡宮(那須神社境内)として国の名勝に、さらに平成29年(2017)には総茅葺き屋根の大雄寺が重要文化財に指定され、翌平成30年(2018)には那須野が原開拓関連の文化財群が日本遺産に認定されるなど、文化財としての価値が再認識されるとともに、観光地としても注目を集めるようになってきたことから、それらの計画的な保存と整備、効果的な活用が求められている。さらに、指定等には至らないが、本市の特性を物語る数多くの文化財が埋もれた状況にある。平成17年(2005)の大田原市、湯津上村、黒羽町の合併後、平成29年(2017)から新大田原市の市史編さんの準備に着手したが、現状を把握できていない文化財も数多くあり、調査が不十分な地域・分野が明らかになってきた。

一方で、地方創生に関連した支援策を通じて、地域に存在する各種の文化財を活用して地域活性化につなげようとする取り組みを市民主導で進めていく動きも活発化してきている。

こうした文化財の調査・保存・活用を計画的に推進していくため、平成29年度から本市の文化財の保存と活用に関する基本的な方針をまとめる「歴史文化基本構想」の策定に着手した。折しも、平成30年(2018)に文化財保護法(以下、「法」という。)が改正され、法第183条の3第1項において市町村の文化財の保存・活用に関するマスタープランとアクションプランを兼ねる「文化財保存活用地域計画」が制度化されたことから、歴史文化基本構想の策定のために蓄積した情報を引き継ぎながら、『大田原市文化財保存活用地域計画(以下、「地域計画」という。)]を作成するものである。

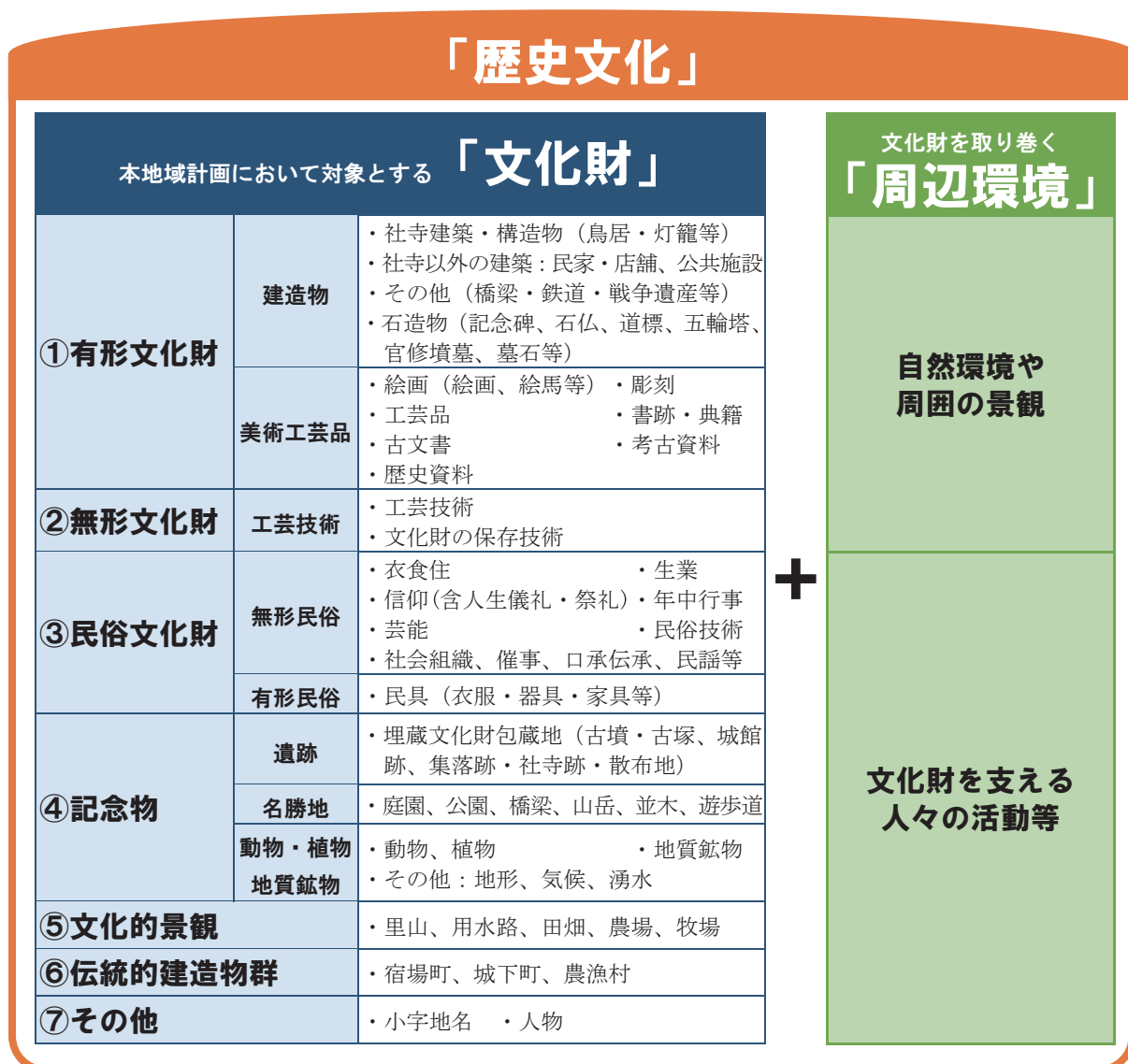
地域計画をもとに、未指定の文化財も含め、有形・無形の文化財の調査を進め、周辺環境と合わせて適切な保存管理を行い、本市のまちづくりに活用していく取り組みを市民と協働で展開していくことで、かつての賑わいを取り戻し、貴重な文化財の次世代への継承を推進する。

(2) 地域計画が対象とする文化財

本地域計画において対象とする「文化財」と「歴史文化」については、次のとおり定義する。

「文化財」とは、法第2条に規定される有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の6つの類型に相当するもの及びそれに準ずるものをいい、中には未指定文化財も含まれる。

「歴史文化」とは、文化庁が定める『「歴史文化基本構想」策定技術指針』に基づき、「文化財」とそれを取り巻く自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動等の「周辺環境」とが一体となったものをいう。



6類型の複数か所に分類可能な未指定文化財は、その文化財の特徴を最も示す1か所に振り分けた。

・石造物（※記念碑・石仏・道標・官修墳墓・墓石）には、評価上、①有形文化財（美術工芸品）、③民俗文化財（有形民俗）、④記念物（史跡）等として指定される例もあるが、本地域計画では便宜上、一括して①有形文化財（建造物）に分類した。

・絵馬には、評価上、③民俗文化財（有形民俗）として指定される例もあるが、本地域計画では便宜上、①有形文化財（美術工芸品）に分類した。

※法に規定される、土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）は④記念物（史跡）、文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能（文化財の保存技術）は②無形文化財に分類した。

2 作成までの経過

(1) 実施体制

地域計画の作成にあたって、大田原市教育委員会事務局文化振興課が事務局となり、平成29年度から30年度まで大田原市歴史文化基本構想策定委員会を組織した。法の改正を受け、歴史文化基本構想から地域計画作成へ移行したため、令和元年度から2年度は大田原市文化財保存活用地域計画協議会を組織し、計画案の検討を行った。なお、栃木県教育委員会事務局文化財課には令和元年度までオブザーバーとして参加していただいた。

<大田原市歴史文化基本構想策定委員会>

※委嘱期間：平成30年（2018）3月16日～平成31年（2019）3月31日

委員長	えびはら いくお 海老原 郁雄	元栃木県考古学会会長
副委員長	おおぬま よしお 大沼 美雄	大田原市文化財保護審議会会長
	たなか かずお 田中 和夫	大田原市文化協会連絡協議会会長（～平成30年（2018）3月31日）
	はすみ あつお 蓮實 淳夫	大田原市文化協会連絡協議会会長（平成30年（2018）7月20日～）
	よしおか ひろみ 吉岡 博美	大田原市観光協会会長
	つつい まさはる 筒井 雅治	大田原市区長連絡協議会会長
	うえの しゅういち 上野 修一	前公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター所長 大田原市なす風土記の丘湯津上資料館長（平成30年（2018）7月1日～）
	あらかわ よしお 荒川 善夫	栃木県立文書館古文書専門員
	きむら やすお 木村 康夫	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館長（～平成30年（2018）6月30日） 大田原市歴史民俗資料館長
	おさかべ たかし 刑部 節	大田原理科クラブ事務局長
	ひらの ゆたか 平野 裕	栃木県教育委員会事務局文化財課長（～平成30年（2018）3月31日）
	いしかわ あきのり 石川 明範	栃木県教育委員会事務局文化財課長（平成30年（2018）7月20日～）
	おのぎき ただし 小野崎 忠	栃木県大田原土木事務所長（～平成30年（2018）3月31日）
	たしろ ひとし 田城 均	栃木県大田原土木事務所長（平成30年（2018）7月20日～）
	かんべ よしひろ 神辺 佳弘	栃木県那須農業振興事務所長（～平成30年（2018）3月31日）
	はら としひろ 原 利浩	栃木県那須農業振興事務所長（平成30年（2018）7月20日～）
	ましこ まさゆき 益子 正幸	大田原市教育委員会事務局教育部長（～平成30年（2018）3月31日）
	きのした よしぶみ 木下 義文	大田原市教育委員会事務局教育部長（平成30年（2018）7月20日～）

<大田原市文化財保存活用地域計画協議会>

※委嘱期間：平成31年（2019）4月1日～令和3年（2021）3月31日

会長	えびはら いくお 海老原 郁雄	元栃木県考古学会会長
副会長	おおぬま よしお 大沼 美雄	大田原市文化財保護審議会会長
	いとう かつお 伊藤 克夫	宗教法人笠石神社代表役員
	はすみ あつお 蓮實 淳夫	大田原市文化協会連絡協議会会長（～令和2年（2020）3月31日）
	おぐら ひさみち 小倉 久通	大田原市文化協会連絡協議会会長（令和2年（2020）4月1日～）

おきかべ 刑部 うえの 上野	たかし 節 しゅういち 修一	大田原理科クラブ事務局長 大田原市なす風土記の丘湯津上資料館長 大田原市歴史民俗資料館長（令和2年（2020）4月1日～）
きむら 木村	やすお 康夫	大田原市歴史民俗資料館長（～令和2年（2020）3月31日） 大田原市史編さん専門員（令和2年（2020）4月1日～）
あらい 新井	あつし 敦史	大田原市黒羽芭蕉の館学芸員
たまき 玉木	しげる 茂	大田原市商工団体連絡協議会会長
よしおか 吉岡	ひろみ 博美	大田原市観光協会会長
つつい 筒井	まさはる 雅治	大田原市区長連絡協議会会長
やまもと 山本	のりゆき 訓志	栃木県教育委員会事務局文化財課長（令和2年（2020）6月22日～）
ひらやま 平原	ひろゆき 浩之	栃木県大田原土木事務所長
はら 原	としひろ 利浩	栃木県那須農業振興事務所長（～令和2年（2020）3月31日）
さいとう 齋藤	まこと 実	栃木県那須農業振興事務所長（令和2年（2020）4月1日～）
さいとう 齋藤	たつろう 達朗	大田原市教育委員会事務局教育部長（～令和2年（2020）3月31日）
おおもり 大森	ただお 忠夫	大田原市教育委員会事務局教育部長（令和2年（2020）4月1～）
オブザーバー		栃木県教育委員会事務局文化財課（～令和2年（2020）3月31日）

また、大田原市歴史文化基本構想策定委員会・文化財保存活用地域計画協議会には、文化財の保存・活用に関連する施策や事業について、関連各課との調整、内容の検討のため、庁内検討部会を置いた。

<庁内検討部会> ※平成30年（2018）5月29日～令和3年（2021）3月31日

教育部長

教育部文化振興課長

教育部文化振興課文化財係長

総合政策部政策推進課政策企画係長

市民生活部生活環境課環境対策係長（～令和2年（2020）3月31日）

市民生活部生活環境課環境保全係長（令和2年（2020）4月1日～）

産業振興部農政課農政係長

産業振興部農林整備課農村整備係長

産業振興部商工観光課観光交流係長

建設部道路建設課道路係長（～平成31年（2019）3月31日）

建設水道部道路課道路係長（平成31年（2019）4月1日～）

建設部都市計画課都市計画係長（～平成31年（2019）3月31日）

建設水道部都市計画課都市計画係長（平成31年（2019）4月1日～）

<教育委員会事務局文化振興課>※平成29年(2017)4月1日～令和3年(2021)3月31日

教育長

うえたけ ふくじ
植竹 福二

教育部長

ましこ まさゆき
益子 正幸 (～平成30年(2018)3月31日)

きのした よしぶみ
木下 義文 (平成30年(2018)4月1日

～平成31年(2019)3月31日)

さいとう たつろう
斎藤 達朗 (平成31年(2019)4月1日

～令和2年(2020)3月31日)

おおもり ただお
大森 忠夫 (令和2年(2020)4月1日～)

文化振興課長

はせがわ みさお
長谷川 操

〃 文化財係長兼市史編さん係長

なかぎ ふとし
中木 太 (～平成30年(2018)3月31日)

〃 文化財係長兼市史編さん係長

こばやし りか
小林 理佳 (平成30年(2018)4月1日

～令和2年(2020)3月31日)

〃 文化財係長

なばため ゆりこ
生田目 友理子 (令和2年(2020)4月1日～)

〃 文化財係主査

せきと まさよ
関戸 正清 (～平成31年(2019)3月31日)

はんた ひろゆき
半田 浩之 (平成31年(2019)4月1日～)

〃 文化財係主任主事

こばり ちか
小針 千佳 (平成30年(2018)4月1日～)

〃 市史編さん係長

こばやし りか
小林 理佳 (令和2年(2020)4月1日～)

〃 市史編さん係主査

やまかわ ちひろ
山川 千博

(2) 地域計画作成の経過

地域計画作成までに、文化財に係る各種調査報告・論文・図録などの確認・整理、文化財の悉皆調査等を通じて、本市に存在する文化財に関する基礎的な情報を集積するとともに、文化財に対する市民意識のアンケートを実施した。それらの情報を踏まえて、策定委員会や協議会、庁内検討部会で計画案を検討し、文化財保護審議会における意見聴取、市民へのパブリックコメントを行うとともに、文化庁からの指導を受けて成案とした。一方で、一般市民を対象にしたシンポジウムやワークショップも開催した。

計画案作成のために開催した会議等のスケジュールと概要を示す。



シンポジウム

「おおたわらの文化財を活かした未来を描く」



文化財保存活用地域計画協議会の開催

地域計画作成の経過

会議等		開催概要
平成29年度	平成30年3月	第1回策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> 基本構想の概要 委員長・副委員長の選出 文化振興課における文化財の悉皆調査の進捗
	平成30年5月	第1回庁内検討部会 <ul style="list-style-type: none"> 基本構想の概要 文化振興課における文化財の悉皆調査の進捗
平成30年度	平成30年7月	第2回策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> 基本構想の構成案 大田原市の概要
	平成30年8月	第2回庁内検討部会 <ul style="list-style-type: none"> 基本構想の構成案 平成30年度の到達目標 大田原市の概要
	平成30年11月	第3回策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用地域計画の構成案 これまでの調査の報告
	平成31年2月	第1回シンポジウム 「おわたわらの文化財を活かした未来を描く」 市内全域の遺跡分布調査結果の概要、本市の原始から中世にかけてのイメージについての講演。各時代の専門家からの報告やパネルディスカッションを実施。当日の参加者は約160名。
	平成31年2月	アンケート <ul style="list-style-type: none"> 第1回シンポジウム会場で参加者を対象に実施。
	平成31年3月	第4回策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> 大田原市の文化財保存・活用の課題、目標、基本方針
	平成31年4月	第3回庁内検討部会 <ul style="list-style-type: none"> 策定スケジュール 大田原市の歴史文化の特性
令和元年度	令和元年7月	第1回協議会 <ul style="list-style-type: none"> 大田原市の歴史文化の特徴と関連文化財群の設定
	令和元年11月	第2回協議会 <ul style="list-style-type: none"> 関連文化財群、文化財保存活用区域の設定 文化財保存活用の方向性と措置
	令和2年2月	第4回庁内検討部会 <ul style="list-style-type: none"> 本市の文化財の保存・活用の目標 関連文化財群の設定と保存活用の方針 文化財保存活用区域の設定と保存活用の方針 文化財保存活用の方向性と措置
	令和2年2月～3月	アンケート 市役所本庁舎・支所・出張所、市内各資料館・図書館
	令和2年2月	第2回シンポジウム ※未開催 「おわたわらの自然と歴史・文化～湧水に見る動植物の生息と人の営み～」 湧水に焦点を当て、湧水と動植物や人の営みの関わりについて各分野の専門家からの講演やパネルディスカッションを予定。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期。
	令和2年3月	第3回協議会 ※未開催 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期。
	令和2年6月	第3回協議会 <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用地域計画修正案の確認 文化財の保存・活用の推進
令和2年度	令和2年6月	第5回庁内検討部会 <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用地域計画修正案の確認（書面開催）
	令和2年8月	第4回協議会 <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用地域計画（案）の確認
	令和2年8月	文化財保護審議会 <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用地域計画（案）の確認
	令和2年8月	パブリックコメント <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用地域計画（案）の確認、市民の意見の反映
	令和2年12月	国へ認定申請 <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用地域計画書の作成

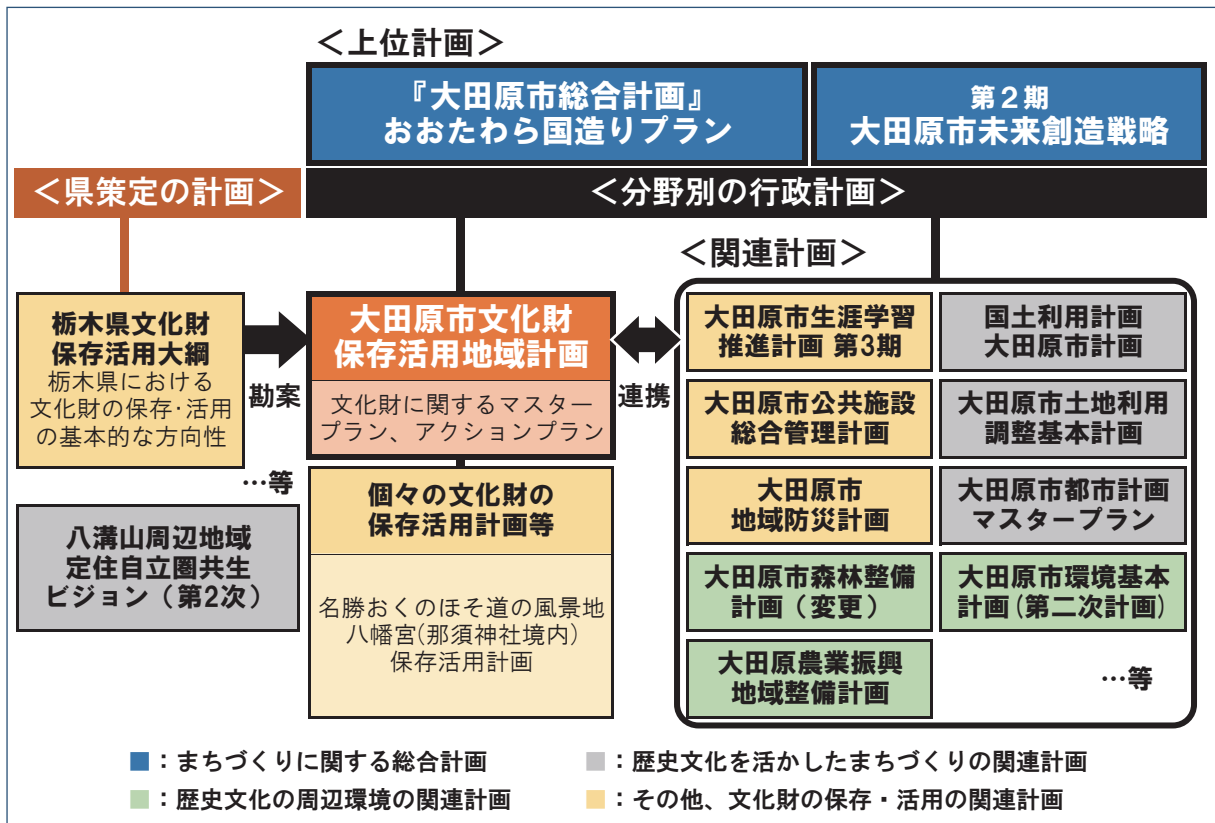
3 地域計画の位置付け

(1) 上位・関連計画の位置付け

まちづくりの最上位計画として市の総合計画『おおたわら国造りプラン』があり、基本政策2「歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり」の中で歴史文化を活かしたまちづくりの方向性について言及されている。また、『大田原市未来創造戦略』では具体的な施策が示され、地域計画の作成はその方向性に沿うものである。

まちづくりに関する関連計画として、『国土利用計画大田原市計画』、『土地利用調整基本計画』、『都市計画マスタープラン』等がある。また、歴史文化の周辺環境を守る計画として『環境基本計画』、『森林整備計画』等がある。これらの他、『生涯学習推進計画』や『公共施設総合管理計画』等があり、地域計画はこれら関連計画と連携しながら推進していく。

さらに、「栃木県文化財保存活用大綱」が令和3年（2021）2月を目途に完成させる予定で策定作業が進められており、同大綱との整合性を図る。



地域計画の位置付け図

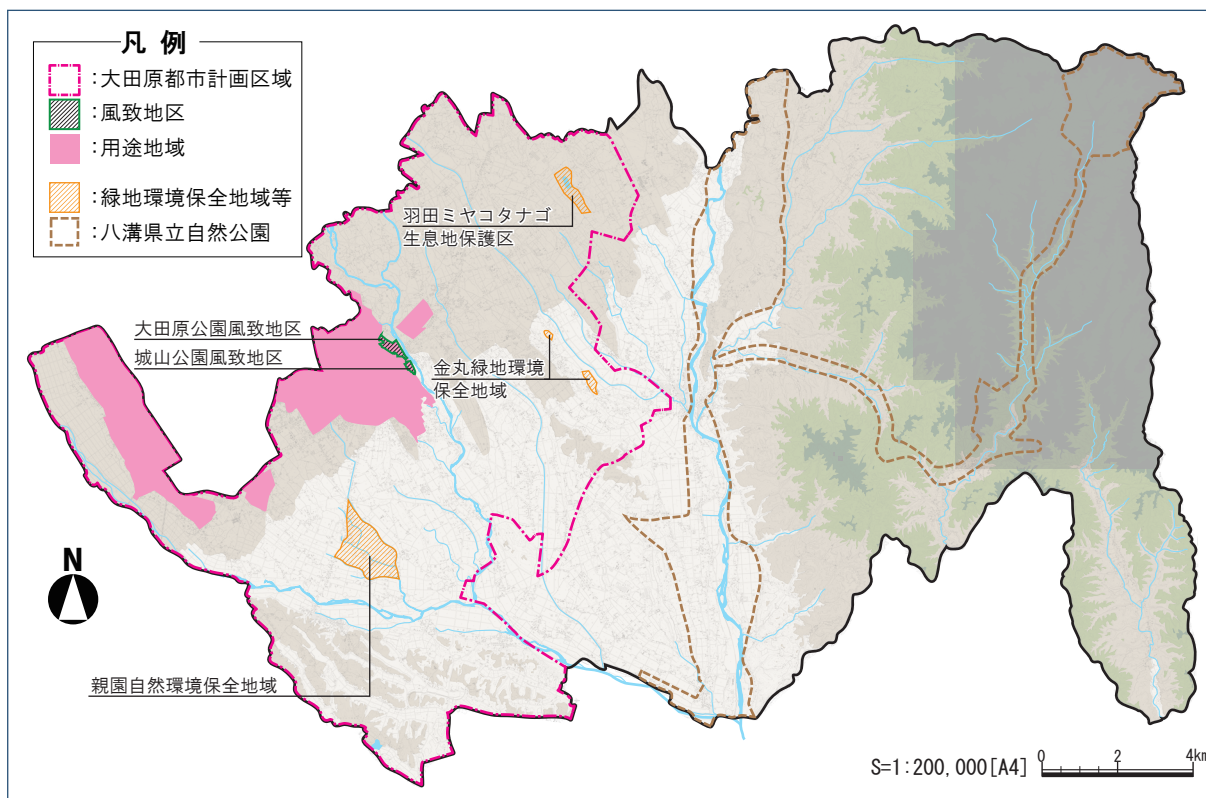
(2) 関連計画・条例

地域計画の上位・関連計画について、歴史文化に関連する事項の概要とその対象範囲を以下にまとめる。また、歴史文化の周辺環境を守る条例として、「自然環境の保全及び緑化に関する条例」と「栃木県立自然公園条例」がある。大田原市域の自然環境も対象となっているため、その概要についても示す。

関連計画・条例一覧表

名 称	概 要
『大田原市総合計画』おおたわら国造りプラン 平成 29 年（2017）3 月策定 構想期間：平成 29（2017）～令和 8（2026）年度 計画期間：平成 29（2017）～令和 3（2021）年度 担当：大田原市総合政策部政策推進課	市の最上位計画で、「知恵と愛のある 協働互敬のまち おおたわら」を市の将来像として、6 つの基本政策（まちづくりの方針）を示している。特に、基本政策 2 として「歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり」を掲げる。
第 2 期大田原市未来創造戦略 令和 2 年（2020）3 月策定 計画期間：令和 2（2020）～6（2024）年度 担当：大田原市総合政策部政策推進課	本市の人口の現状を分析し、本市が目指すべき将来展望を示すとともに、将来展望を実現するための 4 つの基本目標を設定し、具体的な施策を示している。特に、基本目標 2「大田原市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる」では、文化・芸術などの「地域資源を活用した観光振興」を掲げる。
国土利用計画大田原市計画 平成 20 年（2008）3 月策定 計画期間：平成 20（2008）～28（2016）年度 担当：大田原市建設水道部都市計画課	長期にわたり適正な土地利用を確保するために必要な事項を定め、土地の総合的かつ計画的な利用を図るための指針を示している。
大田原市土地利用調整基本計画 平成 20 年（2008）3 月策定 計画期間：平成 20（2008）～28（2016）年度 担当：大田原市建設水道部都市計画課	『国土利用計画大田原市計画』を基本とし、実行性を高めるための計画。地域ごとの詳細な土地利用の方向性を明示し、本市独自の実行性のある土地利用誘導方策を検討する際の基本的な方向性を示している。
大田原市都市計画マスタープラン 平成 22 年（2010）3 月策定 計画期間：平成 22（2010）～令和 7（2025）年度 担当：大田原市建設水道部都市計画課	栃木県が定める『大田原都市計画』（都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン））により、行政区域の一部（約 13,380ha）が大田原都市計画区域に定められ、用途地域、風致地区なども指定している。
八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン（第 2 次） 平成 31 年（2019）3 月策定、令和元年（2019）10 月変更 計画期間：令和元（2019）～5（2023）年度 中心宣言都市：大田原市 担当：大田原市総合政策部政策推進課	八溝山を囲む 2 市 6 町（大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町、福島県棚倉町、矢祭町、埴町、茨城県大子町）が定住自立圏協定を締結し、圏域の将来像や連携した取組を定めたもの。文化、芸術等の連携や広域観光の推進等も掲げている。
大田原市環境基本計画（第二次計画） 平成 28 年（2016）3 月策定 計画期間：平成 28（2016）～令和 7（2025）年度 担当：大田原市市民生活部生活環境課	環境の保全に関する施策を定めた計画。天然記念物のミヤコタナゴ（国指定）等の希少な動植物や郷地里山・水辺環境の保全、歴史遺産・景観の保全等の施策を定めている。
大田原市森林整備計画（変更） 平成 29 年（2017）3 月変更 計画期間：平成 28（2016）～令和 7（2025）年度 担当：大田原市産業振興部農林整備課	森林法に基づき策定した、適切な森林整備の推進していくための計画。
大田原農業振興地域整備計画 平成 29 年（2017）3 月計画見直し 計画期間：平成 29（2017）～令和 7（2025）年度 担当：大田原市産業振興部農政課	農地の有効利用と農業の近代化のための施策を総合的に推進する計画。農用地区域（約 9,560.2ha）を設定するとともに、自然・文化・歴史資源を最大限に生かした農村地域の形成などにも言及している。
自然環境の保全及び緑化に関する条例 昭和 49 年（1974）4 月施行 担当：栃木県環境森林部自然環境課	親園のミヤコタナゴ（国指定 / 天然記念物）の生息地周辺が自然環境保全地域、金丸の那須神社のスギ・ケヤキ等の境内林、北金丸地区ザゼン草群生地（市指定 / 天然記念物）が緑地環境保全地域になっている。
栃木県立自然公園条例 昭和 33 年（1958）7 月施行 担当：栃木県環境森林部自然環境課	栃木県により、県北東部の大田原市・那珂川町・那須町にまたがり、八溝山地から那珂川西岸が八溝県立自然公園（69.18 km ² ）に指定されている。

名 称	概 要
大田原市生涯学習推進計画第3期 平成29年（2017）3月策定 計画期間：平成29（2017）～令和3（2021）年度 担当：大田原市教育委員会事務局 教育部生涯学習課	生涯学習を総合的かつ体系的に推進していくための指針と施策を示した計画。文化・芸術に関する学びの充実や郷土愛の醸成等の施策・事業を示している。
大田原市公共施設総合管理計画 平成28年（2016）11月策定 計画期間：平成28（2016）～令和27（2045）年度 担当：大田原市財務部財政課	健全な財政運営と調和を図りながら、公共施設等の最適な配置と、施設を安全に長く使用するための指針を示した計画。博物館等（歴史・郷土資料）について、主要な博物館や公共施設への集約、施設の老朽化対策等の指針を示している。
大田原市地域防災計画 平成31年（2019）2月策定 担当：大田原市防災会議 （大田原市総合政策部危機管理課）	【文化財の保護】 ①災害発生の措置（通報）：文化財所有者（防火管理者を置くところは防火管理者）を通報責任者として、災害が発生した場合には直ちにその被害状況を市に通報する。所有者、管理者が市の場合の通報責任者は、市教育委員会教育長とする。通報を受理したときは、県に報告し、被災の状況によって係員の派遣を求める。 ②災害状況の調査、復旧対策：災害発生の場合、文化財の被害状況把握に努め、必要に応じて係員を現地に派遣する。また被害状況の詳細を調査し復旧計画等の準備、計画に応援協力するとともに、その結果を県に報告する。 ③文化施設における応急対策：施設の被災により収蔵品等が損傷するおそれがある場合、施設の管理者は、施設・設備の緊急点検、収蔵品等の安全な場所への移動等被災防止の措置をとる。また、見学者、入場者を安全な場所へ避難させる、臨時休業又は開館時間の短縮等の応急措置をとる。 【文化財等の安全対策の促進】 ①文化財等の所有者又は管理者又は管理団体若しくは文化財施設の所有者に対し、防災に関する指導、助言を行う。 ②文化財の特性に応じた防火管理や収蔵庫、火災報知器、消火栓、避雷針等の防火施設・設備の整備充実を促進する。また、非常時に備えて収蔵品等個々の文化財の所在は所有者等に明確に把握させておくとともに、防火標識等の設置を促進し、所有者や見学者等の防火意識の高揚を図る。 ③「文化財防火デー」（1/26）を中心として防火訓練を実施するとともに、文化財についての防火思想の普及啓発を図る。
名勝おくのほそ道の風景地 八幡宮（那須神社境内）保存活用計画 令和2年（2020）11月策定 担当：大田原市教育委員会事務局 教育部文化振興課	保存活用の基本方針として、保存：社殿群と杉並木を重点に指定地内とその周辺の維持管理を行いながら風致景観を保全する。活用：所有者や管理者、地元ボランティア、市が連携して教育やまちづくり・観光に活用する。整備：社殿群の修理、防災・防犯設備の新設、社叢の環境改善、等を定めている。
栃木県文化財保存活用大綱 令和3年（2021）2月策定予定 計画期間：設定なし 担当：栃木県教育委員会事務局文化財課	文化財保護法に基づき、栃木県における文化財の保存・活用に関する方向性を明確化し、今後の取り組みを進めていく上での基本的な方針や措置を定めている。



関連計画・条例位置図

(3) 地域計画の計画期間

本地域計画の計画期間は、本市の総合計画「おおたわら国造りプラン」における基本構想の期間が平成 29（2017）年度から令和 8（2026）年度までの 10 年間であることから、次期の総合計画に本地域計画の内容を反映させるため、令和 3（2021）年度から令和 7（2025）年度までの 5 年間とする。

地域計画と関連計画	計画期間					
	1 年目 令和 3 年度 (2021)	2 年目 令和 4 年度 (2022)	3 年目 令和 5 年度 (2023)	4 年目 令和 6 年度 (2024)	5 年目 令和 7 年度 (2025)	6 年目～ 令和 8 年度～ (2026)
地域計画	第 1 次計画				改定	第 2 次～
大田原市総合計画 「おおたわら国造りプラン」	～前期計画	基本		構想 後期計画		内容を反映 ↓ 改定

第2章 大田原市の概要

1 社会的環境

(1) 位置と交通

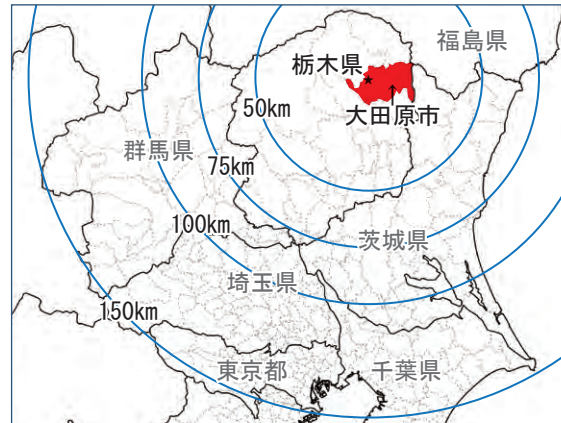
大田原市は栃木県の北部に位置し、市域は東西 30.80 km、南北 20.03 km で、354.36 km²の面積を有する。東京から 150 km 圏域内にあり、東北自動車道や東北新幹線等の高速幹線交通整備により、首都圏と東北圏の結節点となっている。

東は福島県棚倉町・茨城県大子町、西は矢板市、南はさくら市・那珂川町、北は那須塩原市・那須町に接している。

市の中央を南北に流れる那珂川を挟んで、西部の那須野が原の平野部と東部の八溝山地の山間部によって構成されている。西部の平野部、大田原地区には市街地が形成され、活力あふれる栃木県北の拠点地域として、都市機能が集積している。

道路網は南北方向に国道 4 号・294 号、東西方向に国道 400 号・461 号が幹線軸を形成し、市街地から近隣の市町に延びる主要地方道等によって、良好な交通ネットワークを形成している。

公共交通機関は、JR 東北本線（宇都宮線）野崎駅、西那須野駅及び東北新幹線那須塩原駅から市街地を結ぶ市営バスが運行されている。市営バスは市役所を基点に市内各地域へ路線をめぐらせ、民間バスとともに市民の日常の足となっている。黒羽・湯津上・佐久山地域ではデマンド交通（電話予約等利用者のニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通）が運行されている。



大田原市の位置・交通網図

(2) 市域の変遷

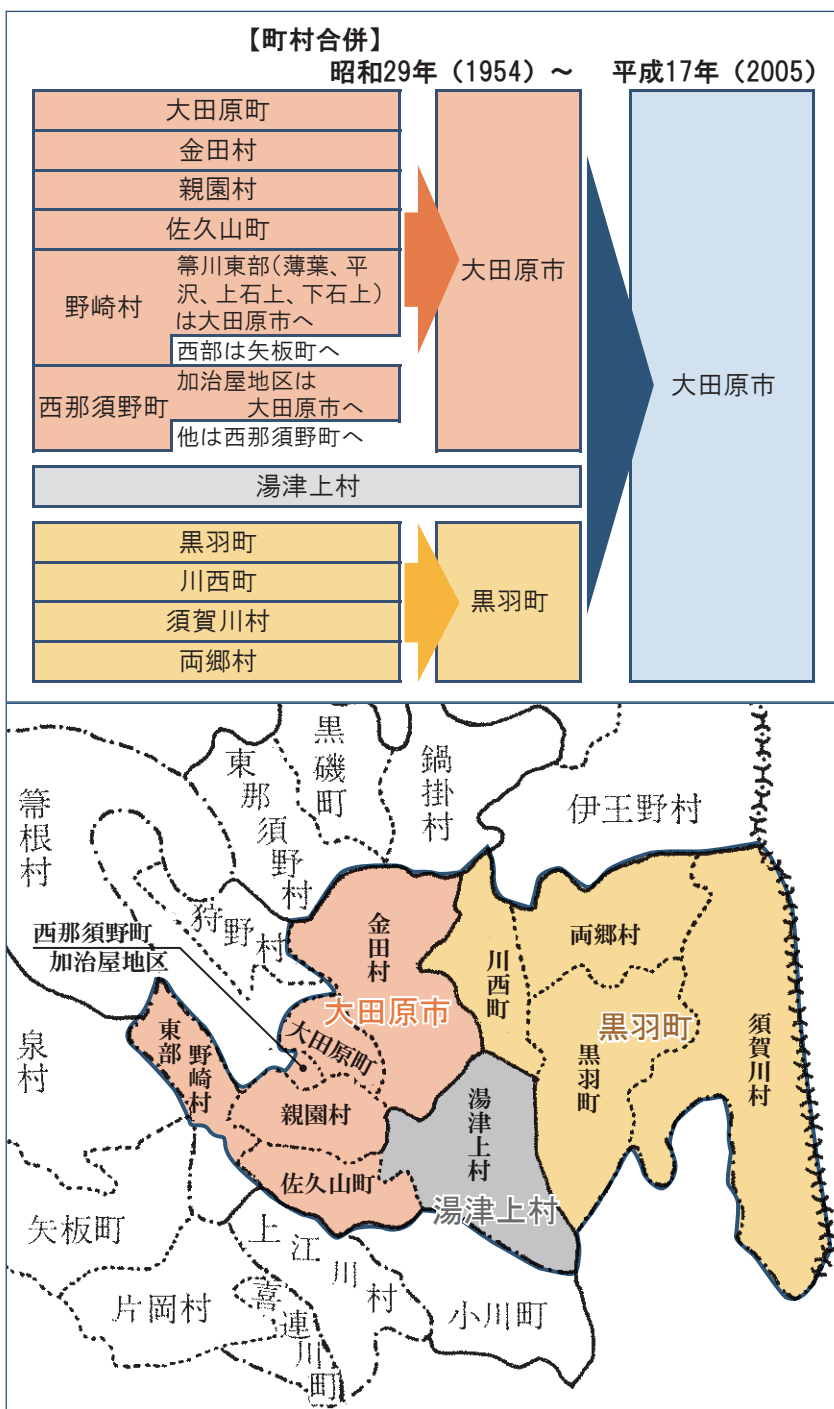
戦後の町村合併促進法により、本市も市町村合併が進められた。

まず、大田原町・金田村・親園村が昭和29年(1954)8月に合併促進協議会を設置し、同年12月1日には県北で初めて市制を施行して大田原市が誕生した。その西側に隣接する野崎村は、同年12月31日、箒川を境に東部の薄葉・平沢・上石上・下石上は大田原市へ、西部の豊田・成田・沢は矢板町へそれぞれ分村合併し、さらに、翌昭和30年(1955)4月には大田原市と西那須野町の境界変更により加治屋地区を編入、同年11月には南側に隣接する佐久山町と合併して、「昭和の合併」による大田原市の市域ができあがった。

一方で、大田原市の南側に位置する湯津上村は、大田原市等との合併問題が盛んに議論されたものの、遂には合併に至らず、また、東側に位置する黒羽町・川西町・両郷村・須賀川村は、昭和30年(1955)2月に合併し新生黒羽町が誕生した。

昭和48年(1973)には、大田原市・湯津上村・黒羽町とともに、黒磯市・那須町・西那須野町・塩原町を含めた那須地区7市町村により、広域市町村圏として那須地区広域行政事務組合が設立され、し尿処理、ごみ処理、と畜場事業などを行う一部事務組合として機能している。

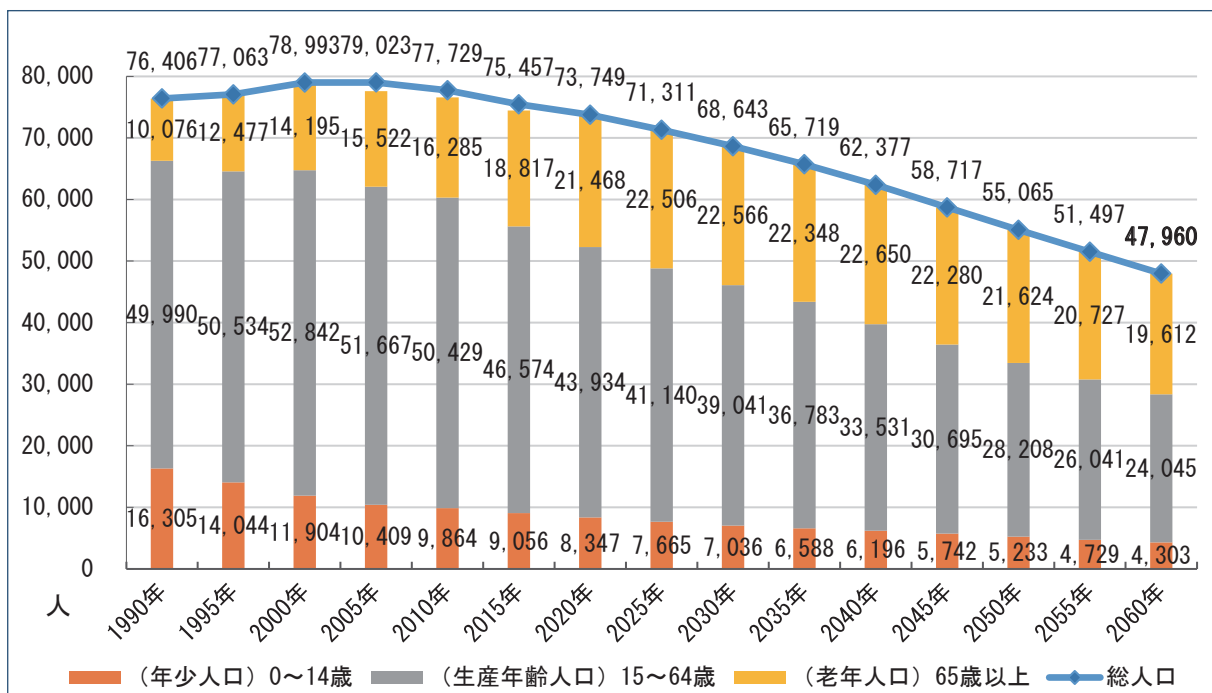
平成17年(2005)には、大田原市に湯津上村・黒羽町が編入合併して、新「大田原市」が誕生し、現在に至っている。



(3) 人口

本市の人口は、平成17年(2005)まで増加傾向にあったが(野崎工業団地への企業誘致によるものと考えられる)、それ以降は人口減少に転じ、平成27年(2015)の国勢調査では75,457人(平成17年人口の95.4%)となっている。出生率の低下と、転出者が転入者を上回る転出超過が人口減少の主な要因と考えられる。2060年には47,960人(平成17年人口の60.7%)まで減少、高齢化率は40.9%になると予測されている。

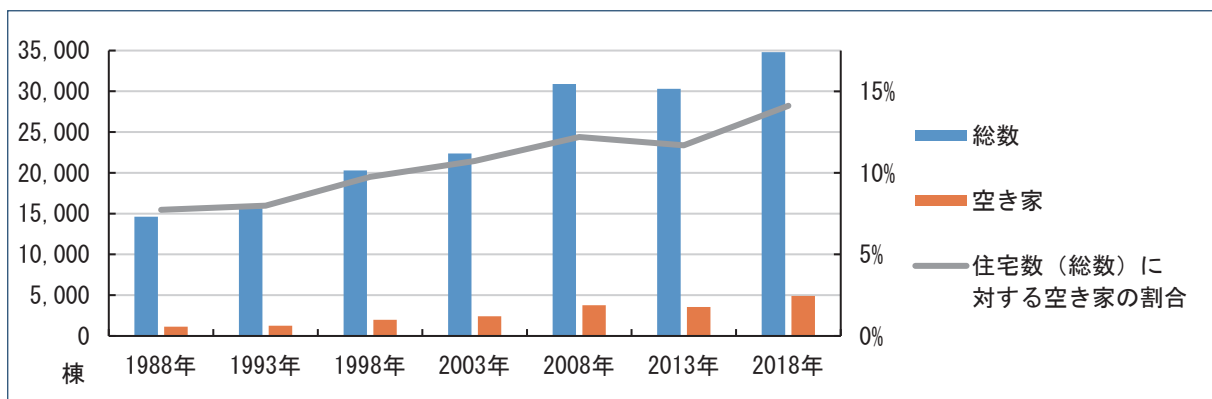
こうした人口構造の変化により、医療・福祉といった社会保障に必要な経費の増加、消費の減少による経済の縮小により、市民生活や地域経済、行政運営における様々な影響が想定されている。市街地であっても空き家が増加傾向にあり、文化財とそれを取り巻く環境においても、文化財を保存・継承していく地域活動の担い手不足や、文化財行政における予算の縮小化などの影響が懸念されている。



大田原市の人口推移と将来推計図

出典：国勢調査結果(総務省統計局)

※令和2年(2020)以降は、国立社会保障・人口問題研究所(平成25年3月推計)の推計値

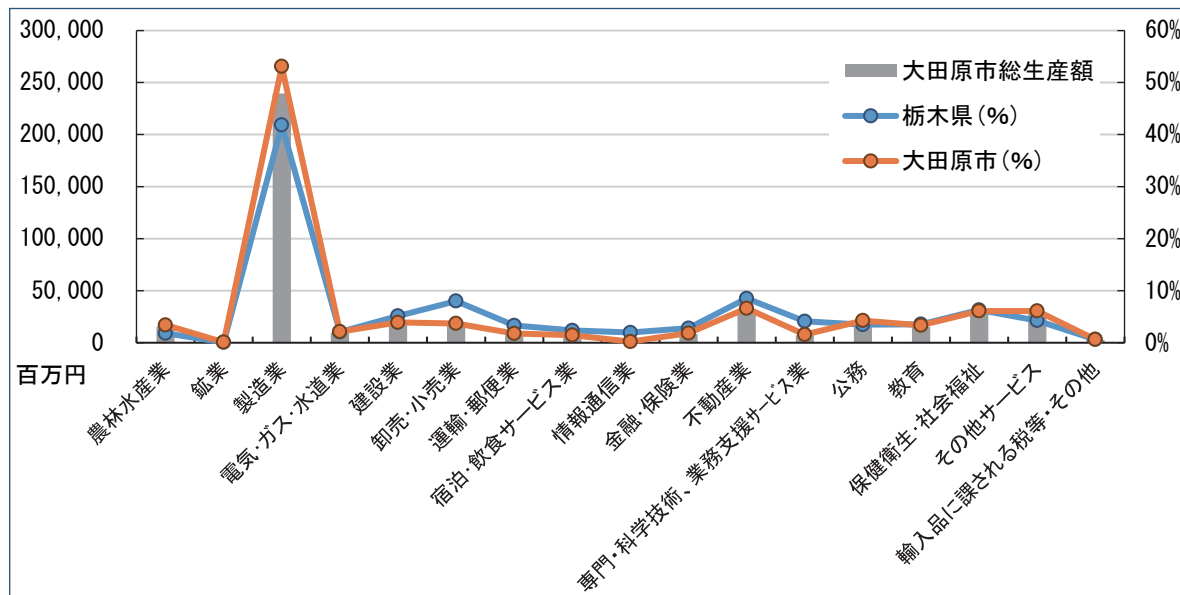


大田原市の住宅数(総数及び空き家)の推移

出典：住宅・土地統計調査(総務省統計局) ※平成15年調査以前の調査地は旧大田原市のみ

(4) 産業

大田原市の産業別市内総生産額の割合を見ると、製造業が最も多く、約53%を占めている。次いで、不動産業、その他サービス、保健衛生・社会福祉と続く。栃木県とほぼ同じ割合を示すが、県の割合と比べて製造業、その他サービス、農林水産業が特に多い。



平成26年(2014)大田原市内総生産額・割合図(栃木県との比較)

出典：平成29(2017)年度 市町村民経済計算 / 令和2年(2020)7月21日公表

①農林水産業

本市の農業は稲作を中心とし、水稻は栃木県内第1位の生産高を誇る。また、首都圏に位置する地理的な優位性を活かし、首都圏農業として園芸作物の振興が図られ、ウド、ニラ、ナス、ネギ、トマト、アスパラガス、イチゴ、ブルーベリー、梨等、多様な野菜・果樹の栽培が盛んで、ブランド力のある農作物も多い。畜産部門では、市営の放牧場もあり、高級国産牛肉であるブランド牛や上質の乳牛の飼育も盛んである。近年では、かつて日本一の生産量を誇った唐辛子「栃木三鷹」の生産復活、商品開発にも注力し、さらに、農家民泊や農業体験のできるグリーン・ツーリズムの取り組みも、市出資の株式会社を設立して積極的に展開している。

森林面積(15,300ha)は本市総面積の43.2%を占め、旧黒羽町は林業の町として知られてきた。八溝山地、特に栃木県側で産出された木材「とちぎ八溝材」は、恵まれた気候条件から素性が良く強度もあり、首都圏に近い立地条件もあって、木材業界では最も高い評価を受けている。また、八溝山麓の須賀川は江戸時代からの茶産地で、「黒羽茶」の生産が行われている。

市内を流れる清流・那珂川は日本一、二を争う鮎の漁獲量を誇る。鮎釣りシーズンには多くの観光客でにぎわう天然鮎のメッカである。

②卸売・小売業

中心市街地には、昔からの商店街に加え、市街地再開発事業により「トコトコ大田原」が拠点施設として整備されている。また、南大通り線（通称、都市計画道路3・3・1号線）沿線を中心に大規模小売店が出店し、商業施設集積地を形成している。

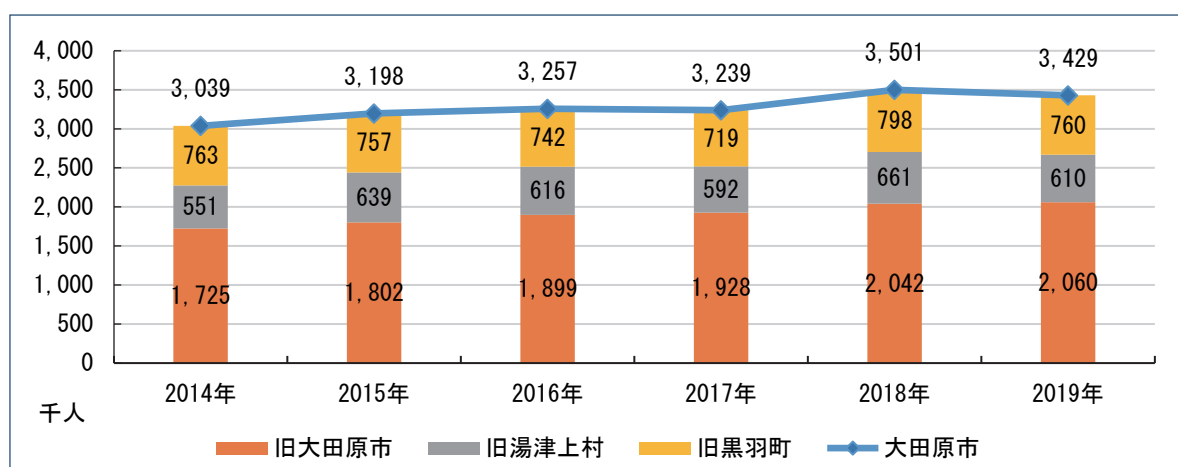
③製造業

野崎工業団地には、大手上場企業やそのグループ企業が集積している。さらに、医療福祉関連産業や研究機関、医療機関などを集積し、産・学・医・官の連携による事業展開で地域活性化を図るとして平成16年（2004）に策定した「医療福祉産業都市構想」を核として、医療福祉関連産業や研究機関をはじめ、将来性のある企業誘致を推進している。また、国際医療福祉大学をはじめ、県内の大学や市内の商工団体・企業・医療機関との協働による産学官連携事業を展開している。

(5) 観光

市内には、日本有数の鮎の漁獲量を誇る清流「那珂川」での釣り、鮎を食することのできる「観光やな」、八溝山地の主峰「八溝山」や富士山を遠望できる「御亭山」等の森林、日本でも珍しい淡水魚の水族館である栃木県なかがわ水遊園、大田原市の農産物や特産物の直売施設である道の駅那須与一の郷のほか、豊かな自然の中に天然温泉、ゴルフ場、宿泊施設や公園等多くの観光施設がある。また、重要文化財の建造物を有する「那須神社」や「大雄寺」、松尾芭蕉ゆかりの「雲巖寺」、神仏混淆が色濃く残る「法輪寺」等の古刹、国宝「那須国造碑」や国史跡「侍塚古墳」等数多くの文化財に恵まれている。

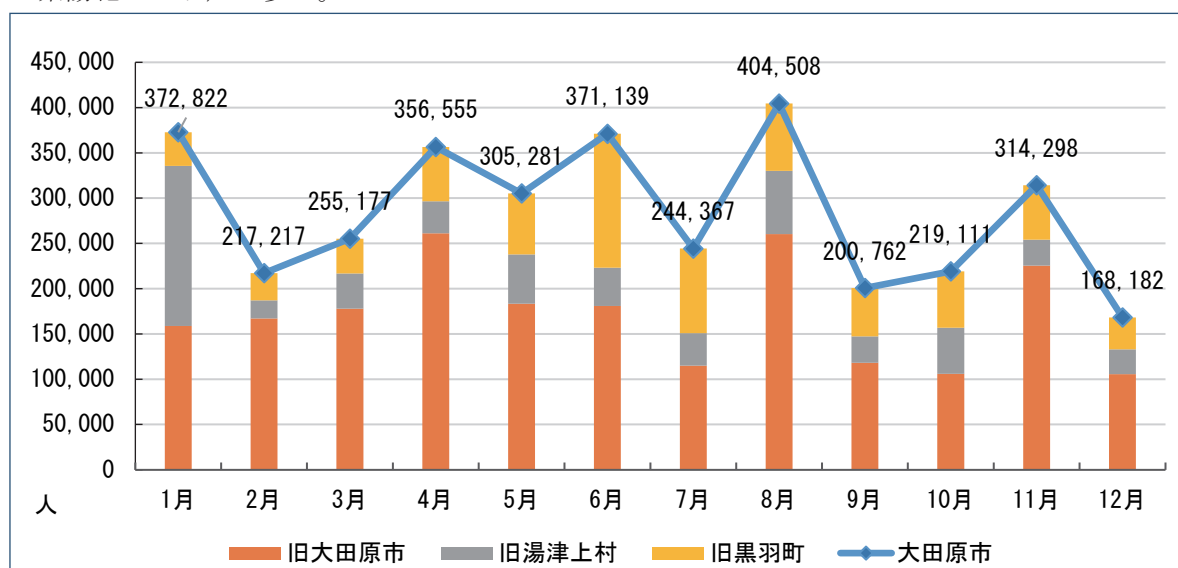
観光客入込数は、外国人観光客を中心に緩やかな増加傾向にあり、アジア圏（台湾、インドネシア等）からの観光客が多い。施設では、道の駅那須与一の郷への入込数の増加が著しい。



大田原市の観光客入込数の推移

出典：令和元年（2019）栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

令和元年（2019）の月別観光客入込数を見ると、与一まつり等夏祭りが行われる8月が最も多い。地区別にみると、旧湯津上村は1月（光丸山法輪寺の初詣）、旧黒羽町は6月（くろばね紫陽花まつり）が多い。



令和元年（2019）月別観光客入込数 ※調査期間：平成31年1月1日～令和元年12月31日

出典：令和元年（2019）栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

主な観光施設等一覧表

名称	概要	
文化施設等	栃木県なかがわ水遊園	栃木県唯一の水族館。栃木県水産試験場に併設された淡水魚水族館及び関連する公園。
	那須与一伝承館	那須与一ゆかりの地として那須家に代々伝わる資料を展示、公開している。
	なす風土記の丘 湯津上資料館	那須国造碑の建立と発見をテーマに、旧石器時代から平安時代までの那須の遺跡や歴史に関する資料等を展示している。
	歴史民俗資料館	傘松農場関係資料（日本遺産）ほか、地域の民俗資料を収集、展示している。
	黒羽芭蕉の館	松尾芭蕉、黒羽藩主大関家の資料の常時展示、企画展を開催している。
	郷土資料館くらしの館	須賀川地区の約150年前の民家を移築、昔の生活用具を展示している。
	大田原市ふれあいの丘 シャトー・エスポワール	学習及び研修センターが備わった公共の宿泊施設で、陶芸や木工、竹工芸等の体験もできる。自然観察館や天文館もある。
	芸術文化研究所	旧両郷中学校の校舎を再生・利用。市民のための芸術文化を研究する施設。那須野が原国際芸術シンポジウムの開催場所。
	文化会館・ホール等	・総合文化会館 ・那須野が原ハーモニーホール ・ピアートホール 那須野が原ハーモニーホールは、パイプオルガンを備える。
屋外彫刻群	ふれあいの丘、那須野が原ハーモニーホール、美原公園、黒羽桜馬場公園等に彫刻が設置されている。	
名所・旧跡	龍城公園	大田原城跡(市指定/史跡)を整備。本丸跡は広場で、春は桜やつつじが楽しみ、市街や那須連山も眺められる。
	御殿山公園	佐久山城跡(市指定/史跡)を整備。樹齢200年以上の「土佐楓」の紅葉が見どころ。
	御亭山緑地公園	御亭山山頂を整備。山頂付近に綾織池、眼下に那須野が原の田園風景、八溝山地が広がり、筑波山や富士山が見られる景勝地として日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」の構成文化財の一つにもなっている。
	黒羽城址公園	黒羽城跡(市指定/史跡)を整備。土塁、空堀、水堀等が保存され、本丸跡から那須、日光連山が一望できる。
	芭蕉公園とその周辺	芭蕉句碑、浄法寺桃雪邸跡。芭蕉の道の先には日本庭園風の芭蕉の広場がある。
	那須国造碑	笠石神社の御神体として安置されている日本三古碑の一つで、国宝。徳川光圀によって保存顕彰されたもので、侍塚古墳の発掘の契機ともなった。
	侍塚古墳・侍塚古墳群	上侍塚古墳・下侍塚古墳の2基(国指定/史跡)。いずれも前方後方墳で、上侍塚は栃木県内では第2位の大きさを誇る。周辺には8基の古墳からなる侍塚古墳群(市指定/史跡)がある。下侍塚休憩所や屋外トイレが整備されている。
	佐良土屋号宿	法輪寺の門前町として栄えた町並み。各家の前に「屋号」が掲げられている。 ・法輪寺：西行桜(市指定/天然記念物)や関東一の大天狗面(市指定/彫刻)などを所有する、神仏混淆の祭礼を伝える古刹。
	那須神社	彫刻や彩色の施された本殿・楼門(国指定/建造物)などの社殿群とともに、長く延びる参道や杉並木・社叢で構成される。松尾芭蕉のおくのほそ道ゆかりの地。
	大雄寺	総茅葺き屋根の本堂、禅堂、庫裏などの建物9棟(国指定/建造物)で伽藍を形成。釈迦如来坐像(県指定/彫刻)、大関家代々墓地(市指定/史跡)など数多くの文化財がある。
雲巖寺	名利で禅宗の日本四大道場の一つ。山門(市指定/建造物)正面の朱塗りの反り橋と四季の景色が見事。	

名称	概要
道の駅那須与一の郷	情報館、加工・物産品や農産物の直売、レストランからなる観光交流の拠点。
トコトコ大田原	中心市街地に位置し、商業施設、公共公益施設（子ども未来館、市民交流センター、大田原図書館）、住宅からなる市民の交流施設。
観光交流センター	大田原市役所黒羽庁舎にある。大田原市の観光案内と市特産品等の販売を行う。
黒羽温泉五峰の湯	那須岳、大佐飛山、高原山、女峰山、男体山の五峰が一望できる温泉。
観光やな	那珂川を下る落ちアユを竹のスノコで造った落簀 <small>おてす</small> に誘い込む伝統的な漁法である簀 <small>あやな</small> が行われている食事処。 ・黒羽観光やな・寒井観光余一やな ・那珂川あゆ街道 ：那珂川に沿って走る国道 294 号の鮎をはじめとし、豊富な農産物、「奥の細道」などの歴史・文化、観光やな・栃木県なかがわ水遊園・道の駅など、優れた地域資源が連携する魅力ある街道。
湯けむりふれあいの丘 ゆーゆーキャビン	キャビンやテントサイト等充実した施設と、アウトドアが楽しめるキャンプ場。広場や温泉浴場を併設する。滞在型スポーツ施設那須スポーツパークが隣接。
NASU FARM VILLAGE	広大な自然の丘陵を巡る乗馬施設。ファームや地産の食材を使用したレストランなども備える。
大田原の地酒	豊富な水資源によって育まれた醸造文化により、栃木県内でも数多い5つの酒蔵が営まれている。 ・池島酒造・菊の里酒造・天鷹酒造・平山酒造店・渡邊酒造



主な観光・文化施設の位置図

(6) 祭り・イベント

市町村合併前の大田原市、黒羽町、湯津上村の各自治体では、都市部・農村部それぞれの地域環境の中で地域のにぎわいを創出するものとして祭りやイベントが開催されるようになり、合併後の今日まで続けられてきている。それらは地域住民による地域意識^{かん}を涵養する舞台となり、大田原市民によるくらしの文化として根付いている。



黒羽芭蕉の里全国俳句大会

祭り・イベント一覧表

名称	概要
花市	だるまやお飾りなどの縁起物のほか、植木、焼きそばやお好み焼きなどの食べ物の店が軒を連ねる。大田原（市役所通り）、佐久山（佐久山小学校通り）、黒羽（黒羽向町旧駅前通り）で、それぞれ1月中に順番に開催される。
おおたわら七福神めぐり	市内の一社六寺（大田原神社・光真寺・洞泉院・正法寺・成田山・不退寺・長泉寺）の「おおたわら七福神」がご開帳される。1月・5月・9月。
子育て地藏尊春祭り	光真寺の地藏尊春大縁日、2月23・24日。
子育て地藏尊夏祭り	光真寺の地藏尊夏大祭、7月。
那須与一公墓前供養祭	那須氏墓碑（市指定）がある玄性寺で、与一弓道大会、餅つき唄（福原）（市指定）が奉納される。
その他社寺等の祭り	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣：大田原神社、光真寺、成田山、光丸山法輪寺他、1月1日。 ・どんと祭：那珂川河川公園、1月中旬。 ・節分祭：大田原神社、光真寺、成田山他、2月3日。 ・七五三祝い：大田原神社・那須神社、11月15日。
観光イベント等	<ul style="list-style-type: none"> ・大田原市さくら祭：龍城公園（お城山）・龍頭公園他、4月。 ・芭蕉の里くろばね桜まつり：黒羽城址公園・桜の馬場公園、4月。 ・芭蕉の里くろばね紫陽花まつり：黒羽城址公園及び周辺各所、6月。 ・黒羽芭蕉の里全国俳句大会：「おくのほそ道」の旅300年を記念して平成元年（1989）から毎年開催。 ・与一まつり：大田原市中心市街地（荒町・上町・仲町・下町の商店街通り）、8月。令和4年度まで休止。 ・芭蕉の里くろばね夏まつり：那珂川河川公園（烏山信用金庫黒羽支店裏手）、8月。 ・芭蕉の里くろばね秋まつり：〃、菊花展、公民館まつり、文化祭、10月下旬。 ・王将戦：将棋のまちとして、黒羽のホテルで開催、1～2月。 ・佐久山納涼花火大会：箒川河川敷（岩井橋付近）、灯籠流し、8月 ・佐久山御殿山紅葉まつり：御殿山公園の紅葉、11月。 ・天狗王国まつり：季節ごとに年4回開催。秋まつりは、かつて栃木県内最大のよさこいまつりとして開催されていた。 ・大田原市街かど美術館：大田原・黒羽地区の市街地内にある施設を利用して公開制作・作品展示を行う、9月。 ・大田原市産業文化祭：栃木県立県北体育館、美原公園他、11月。 ・大田原マラソン大会：市が主催する最大のスポーツイベント、11月23日。令和4年度まで休止。

2 自然環境

(1) 地形・地質

那須野が原（那須扇状地）は高久丘陵と八溝山地が北東端から東端にあり、その境を那須火山に源を発する那珂川が流れている。西端および南西端は喜連川丘陵と接し、その境を高原火山に源流を持つ箒川が流れる。那珂川と箒川は扇状地南東端で合流するため、那須野が原は扇形ではなく木の葉型をしている。那珂川をはじめとする河川流域には河岸段丘がよく発達しており、上位から金丸原面、那須野面、奥沢面、寒井面と呼称され、丘陵から河川までの間に幅広い階段状を呈した平坦面を形成している。

那須野が原の中央を蛇尾川と熊川が縦断しているが、扇状地地面に出てまもなく伏流し、扇央と扇端の境界にあたる標高 220m 付近で再湧出する。ほかにも、扇央から扇端にかけ数多くの湧水が存在し、これを地元では「^{かしらなし}頭無」や「^{でがま}出釜」と呼んでいる。この湧水の存在は、本市の大きな特徴の一つである。

湧水はイトヨ・ミヤコタナゴ等の生息地となっている他、ザゼンソウ・イブキシダ・オオキジノオ・ミズニラ・ヒメザゼンソウ等の希少植物の生息地ともなっている。「大田原市の湧水湿地」はミヤコタナゴ、陸封型イトヨの生息地として、環境省により重要湿地に選定されている。この他、琵琶池や羽田沼に飛来する白鳥、八溝県立自然公園等、多くの貴重な自然資源に恵まれている。

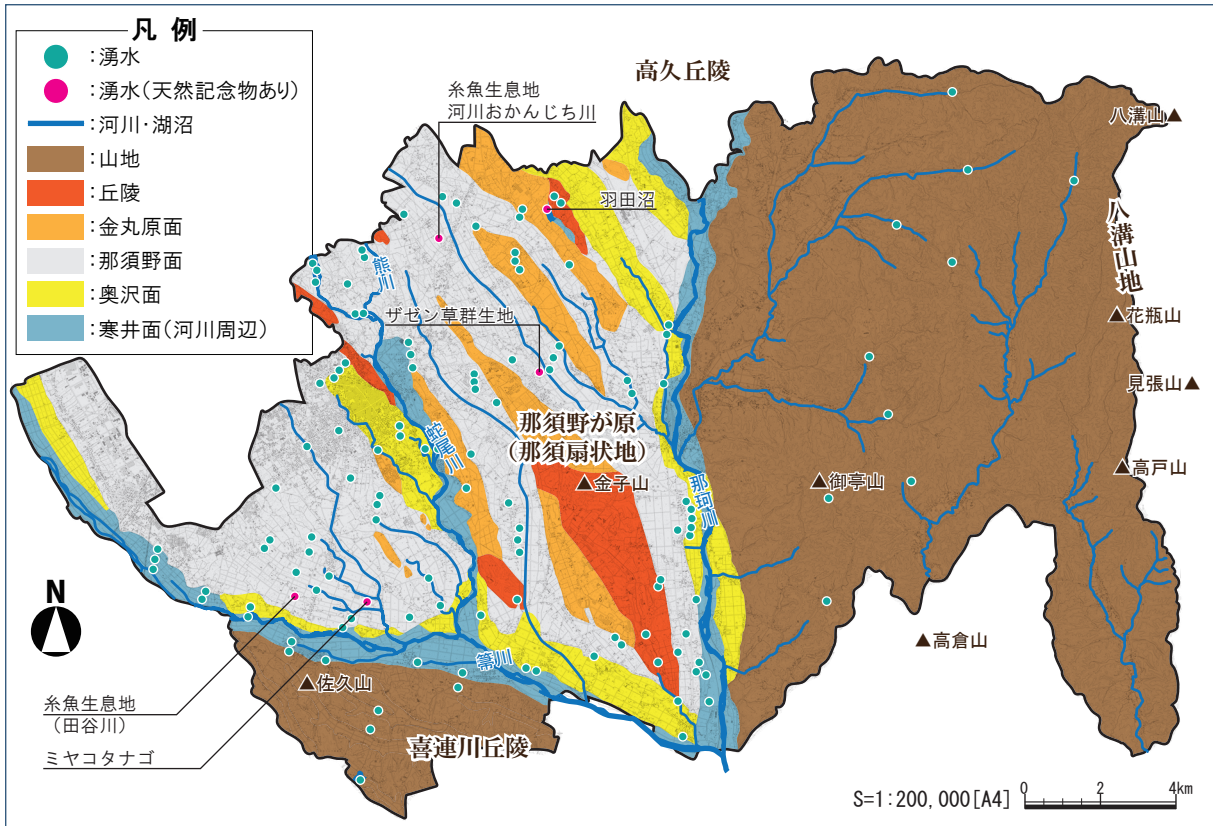


ミヤコタナゴ

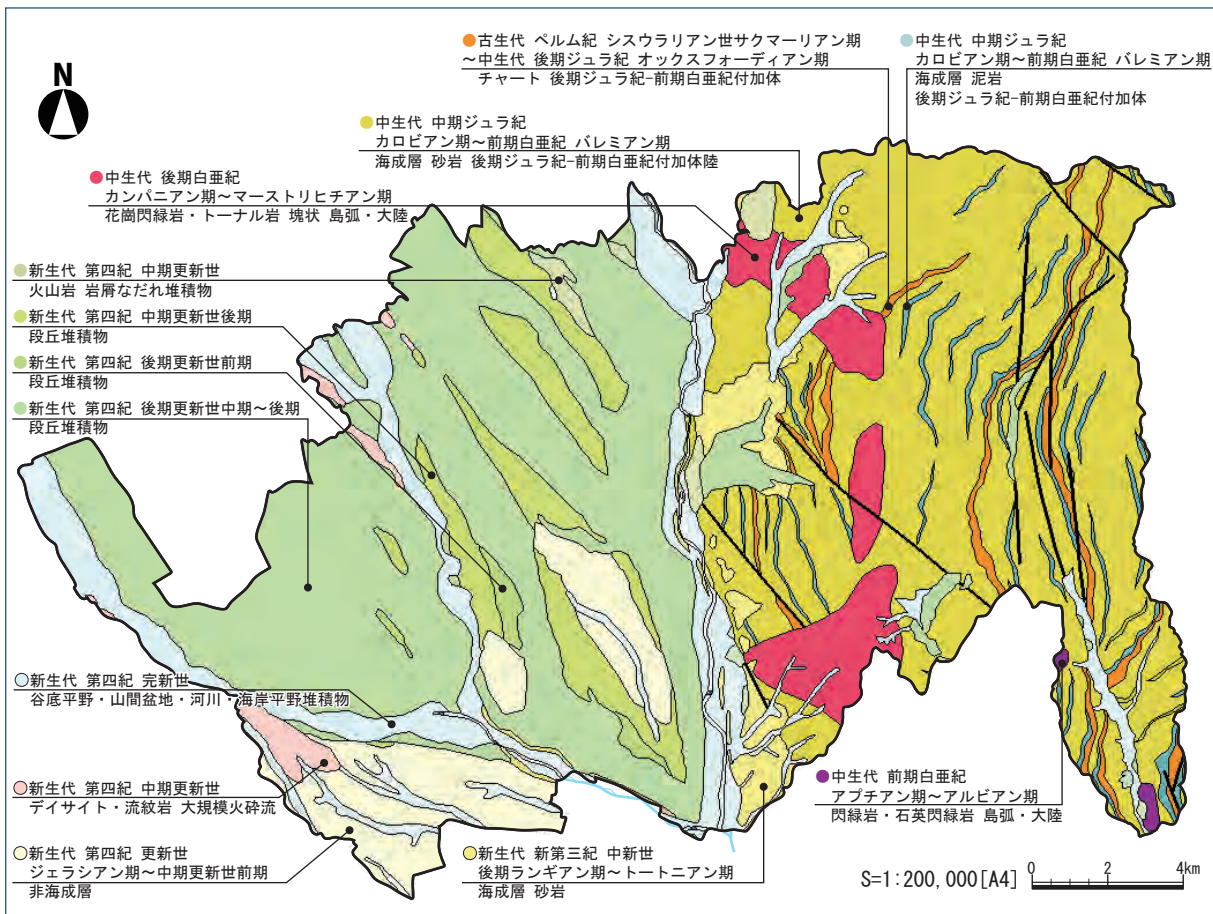
主な水辺の天然記念物

名称	概要
湧水 ※環境省 HP「栃木県の代表的な湧水」ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・池の御前 ・おかんじち湧水池 ・町井沢堀（以前の清水川） ・ため池（古っ溜） ・延命水 ・妙徳寺湧水 ・まないた沢湧水 ・お清水 ・がんがんやまの清水（A） ・百目鬼沢 ・二合沢湧水 ・がんがんやまの清水（B） ・^{どうめきざわ}深井沢湧水 ・藤切場湧水 ・ザゼン草群生地（市指定 / 天然記念物） ・糸魚生息地河川おかんじち川（市指定 / 天然記念物） ・糸魚生息地（田谷川）（県指定 / 天然記念物）：田谷川は湧水から続く小川
ミヤコタナゴ （国指定 / 天然記念物）	栃木県内では大田原市、矢板市、県南東部にのみ生息し、国内希少野生動物種となっている。市内では、生息地として羽田地区が「種の保存法」における生息地保護区、親園地区が「自然環境の保全及び緑化に関する条例」による自然環境保全地域と県の「滝岡ミヤコタナゴ保護地」に指定されている。

八溝山地を形成しているのは、大部分が中生代の地層で、層状チャート、珪質頁岩、砂岩頁岩互層、砂岩の堆積岩類、中生代末期の花崗岩類からなっている。八溝山地の土質はごく一部の花崗岩や花崗岩風化土を除いて極めて土質がよく、スギ等は山麓から峠まで同じに生育する。特に大久保の羽黒山、奈良土沢、御亭山周辺、須佐木、須賀川方面のスギは材質もよく、生育もよい。また、須佐木、須賀川はコンニャク・お茶の産地としても有名である。



地形区分図と主な湧水位置図

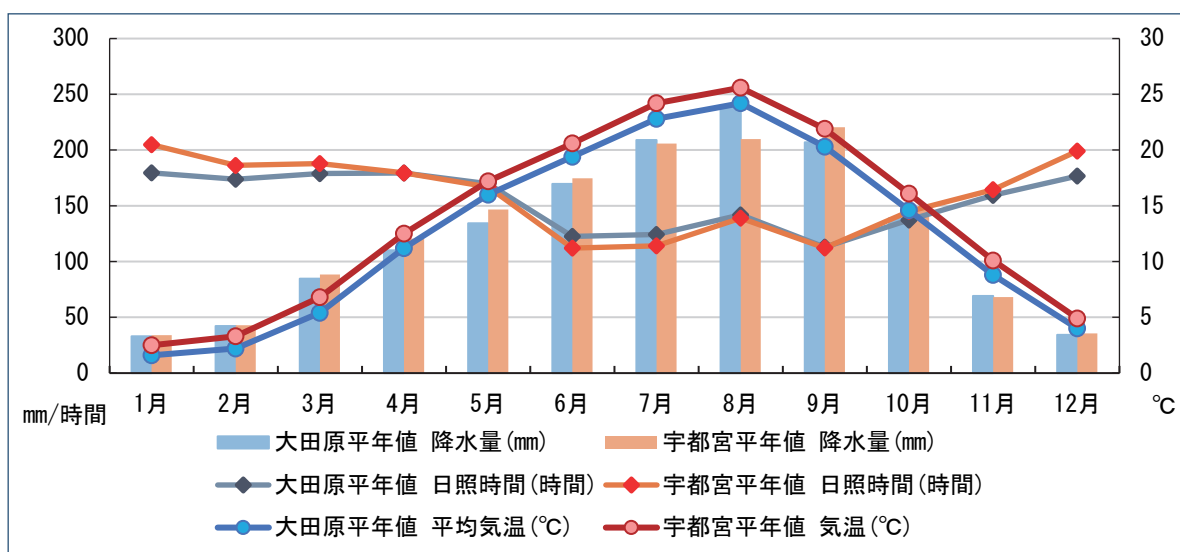


地質図 / <https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php#12,36.85554,140.10781> より作成

(2) 気象

本市の気候は、夏と冬、朝と夕の温度差が大きい内陸性の気候で、冬季に降水量が少ないという特徴がある。

4月中旬から8月終わり～9月上旬まで南寄りの季節風が吹き、夏は気温も高く、降雨もあって蒸し暑さが続く。冬は「那須おろし」と呼ばれる北寄りの乾いた風が吹き、寒さが厳しい。畑の軽い土を飛ばすため、那須野が原には防風林が設置された緑豊かな農村景観が広がっている。雨量は山岳地（2,000～2,300mm）から平野部（1,200～1,500mm）に移るにしたがって変化し、6・7月の梅雨期よりも、7・8月は雷雨、9・10月は台風によってそれぞれ降水量が多く、これらは夏の畑作物の恵みの雨にもなっている。このため、各地に雷神を祀る雷神社（加茂神社、ナルイサン）が見られる。



大田原市と宇都宮市の降水量・日照時間・平均気温の平年値／気象庁「過去の気象データ」を基に作成
※昭和56年～平成22年の30年間の観測値の平均をもとに算出

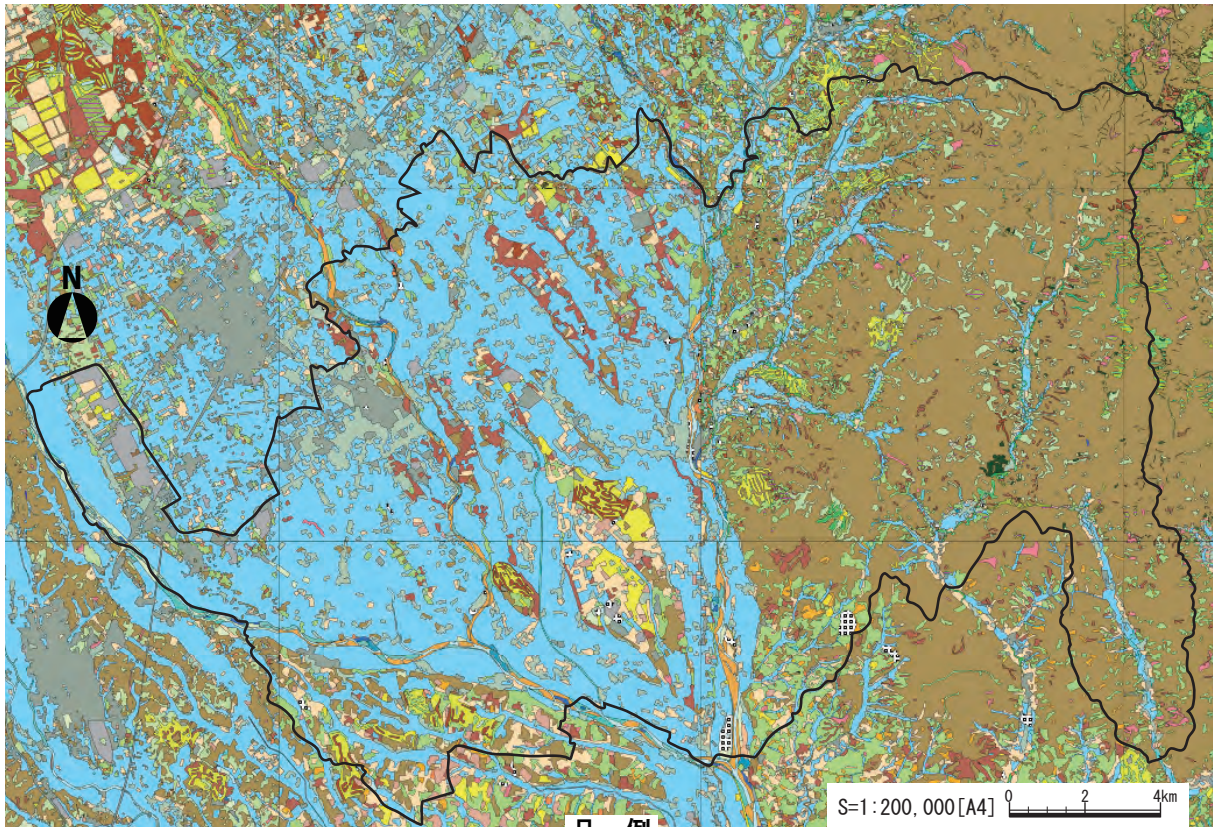
(3) 植生

平野部は、年平均気温が13°Cで暖温帯（暖帯）から冷温帯への推移帯にあり、八溝山地では高度が増すにつれ気温が低下し冷温帯から寒帯へと変化する。こうした気候の違いに対応するように、暖温帯の地域には南方系の植物、冷温帯から寒帯の地域には北方系の植物が分布する。

平野部では、昔から人間の活動によってカシ林などの自然植生が消失し、大部分が二次植生となっている。大部分は水田であるが、台地や丘陵などに分布するコナラ林やアカマツ林などの雑木林では、高度経済成長期までは生活に必要な薪炭や、肥料としての落ち葉を得て、「里山」としての景観を構成してきた。現在は各種開発で消失、あるいは放置されて暗い林床へと変化してしまった。また、スギやヒノキは、建材用として植林されてきた。

八溝山地では、雲巖寺周辺にモミ林が自然林として残るのが注目されるが、大半は近世以降に奨励されてきた植林政策で、建材として利用されたスギ・ヒノキ・サワラを中心とした植生分布となっている。

なお、近年はオオカワヂシャ、アレチウリなど、特定外来生物に指定されている植物の繁殖も確認されており、それらを除去する対策も求められている。



凡例

■ ミヤコザサ-ブナ群集	■ シイ・カシ二次林	■ スギ・ヒノキ・サワラ植林
■ アブラツツジ-イヌブナ群集	■ シラカシ屋敷林	■ スギ巨木林
■ イヌシデ-アカシデ群落	■ クリ-コナラ群集	■ アカマツ植林
■ クリ-コナラ群集 (自然林)	■ クヌギ-コナラ群集	■ カラマツ植林
■ オオモミジ-ケヤキ群集	■ アカシデ-イヌシデ群落	■ ニセアカシア群落
■ アオハダ-モミ群落	■ アカメガシワ-カラスザンショウ群落	■ その他植林
■ ヒメコマツ群落	■ ケヤキ群落	■ その他植林 (落葉広葉樹)
■ タマブキ-ケヤキ群集	■ クサギ-アカメガシワ群落	■ 竹林
■ オニグルミ群落	■ アカマツ群落	■ モウソウチク林
■ 河辺アカマツ群落	■ ヤマツツジ-アカマツ群集	■ ゴルフ場・芝地
■ 岩角地・風衝地低木群落	■ モミ群落	■ 牧草地
■ クリ-ミズナラ群集	■ メダケ群落	■ 路傍・空地雑草群落
■ フクオウソウ-ミズナラ群集	■ 低木群落	■ 放棄畑雑草群落
■ ミヤコザサ-ミズナラ群集	■ クズ群落	■ 果樹園
■ オニグルミ群落	■ ススキ群団	■ 茶畑
■ ケヤキ群落	■ アズマネザサ-ススキ群集	■ 畑雑草群落
■ ニシキウツギ-ノリウツギ群落	■ 伐採跡地群落	■ 水田雑草群落
■ シラカシ群集	■ ヨシクラス	■ 放棄水田雑草群落
■ シキミ-モミ群集	■ ミゾソバ-ヨシ群落	■ 市街地
■ ヤマツツジ-アカマツ群集 (自然林)	■ ツルヨシ群集	■ 緑の多い住宅地
■ イロハモミジ-ケヤキ群集	■ オギ群集	■ 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
■ ハンノキ群落	■ カワラハハコ-ヨモギ群団	■ 工場地帯
■ ヤナギ高木群落	■ ヒルムシロクラス	■ 造成地
■ ヤナギ低木群落	■ 外来水草群落	■ 開放水域
■ フサザクラ群落	■ 河辺一年生草本群落 (タウコギクラス等)	■ 自然裸地
■ タマアジサイ-フサザクラ群集		■ 残存・植栽樹群地

植生図 / 1/25,000 植生図 GIS データ (環境省生物多様性センター) を基に作成・加工
<http://gis.biodic.go.jp/webgis/>

3 歴史的変遷

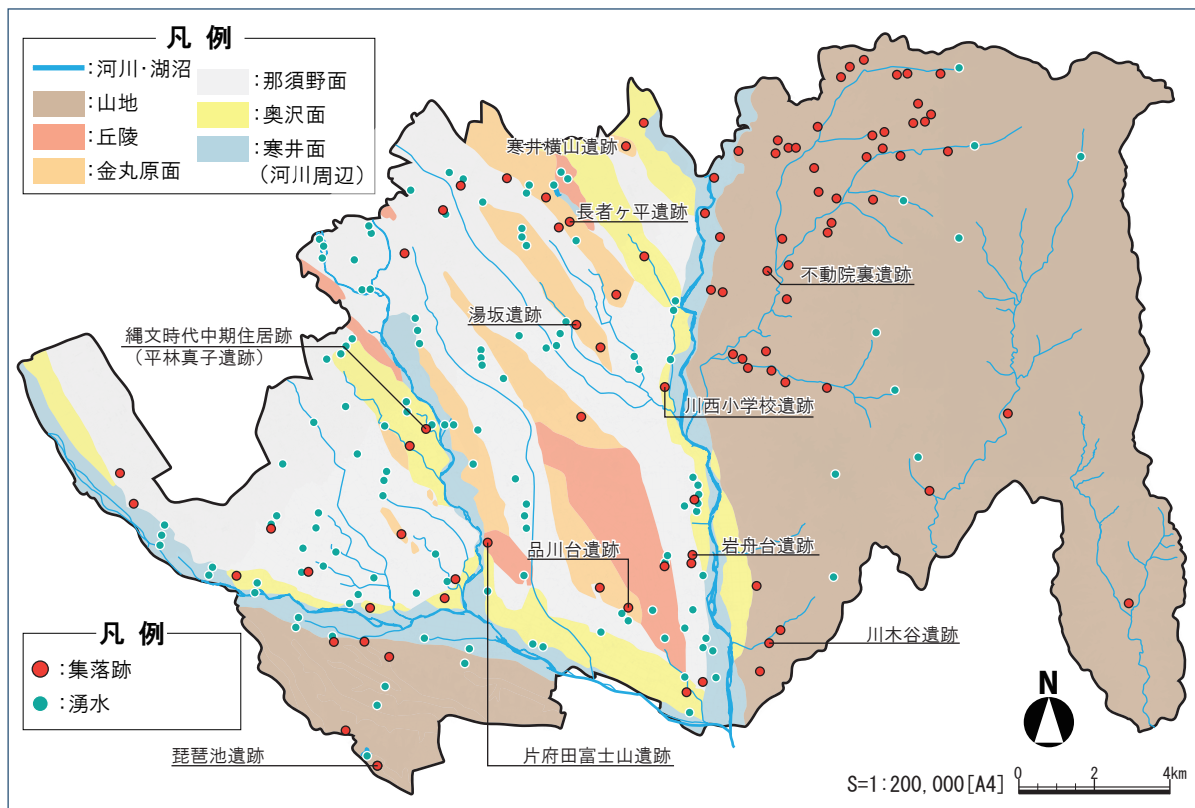
(1) 原始

本市は、西を那須・高原の両火山群、東を八溝山地、南を喜連川丘陵に囲まれた盆地状を呈しているが、周囲の山々は往来が困難なほどの山岳地帯ではないために、原始・古代から峠の道や河川によって栃木県中部や芳賀地域、さらには福島県中通り南部や会津、浜通り南部、茨城県北部の各地域との交流が盛んであった。

旧石器時代においては、本市では湯津上地区などで石器類が断片的な資料として確認されているのみで、具体的な様相は明らかではない。

縄文時代においては、特に中期から後期前葉にかけては、全国的に見ても遺跡密度の高い集落景観が形成されていた。那珂川やその支流の河岸段丘や河川近くの丘陵の縁辺、さらに本市特有の湧水地点周辺においては、拠点集落と言える大規模な遺跡が点在し、その他多くの遺跡の分布が見られる。中でも注目されるのが、白河から猪苗代湖を経ての会津地域との関係や、八溝山麓を経ての浜通り南部地域との交流が見られる点である。これらの地域では、土器の文様や竪穴住居・炉の構造等に共通性が見られる。ほかにも、山形県置賜地域の珪質頁岩の石器、会津地域の碧玉や流紋岩、新潟県の糸魚川地域で採集される硬玉製の玉や、蛇紋岩を加工した磨製石斧等の遺物の存在も、他地域との交流を示す顕著な例である。

続く弥生時代においては、水田稲作に適さない冷涼な地理的条件のためか、確認されている遺跡数は極端に少なく、その規模も小規模なもののみみられる。



原始（旧石器・縄文・弥生）の文化財分布図

原始（旧石器・縄文・弥生）の主な文化財一覧表

名称	概要
寒井横山遺跡	残丘状の高位段丘上に立地する縄文時代中～後期の集落跡。太陽光発電所建設に先立つ確認調査でその範囲が明らかになり、遺存状態も良好。保存措置が講じられている。
長者ヶ平遺跡	乙連沢の集落の東、残丘上の平坦面に立地する縄文時代中期の大集落で、周辺部の発掘調査で竪穴住居跡や貯蔵穴が確認されている。多量の土器や石器が採集され、市の文化財に指定されている。馬高式を模倣したような土器や大形の鯉節形の硬玉製大珠が出土する等、北陸地方との関係を示唆するような遺物が顕著。 ・縄文土器 羽田長者ヶ平遺跡出土（市指定 / 考古資料）
不動院裏遺跡	松葉川の段丘上に八溝山地の西端に近い縄文時代中～後期の集落跡。中期の袋状土坑（貯蔵穴）17基が発掘され、多数の深鉢形土器や石器等も出土している。
湯坂遺跡	那須野が原に残された白旗丘陵の南東端近くに立地する、縄文時代中期前葉～中葉の集落跡。袋状土坑から出土した土器が、市の文化財に指定されている。 ・縄文土器 湯坂遺跡出土（市指定 / 考古資料）
川西小学校遺跡	那珂川右岸の高位段丘上の南端部に立地する縄文時代中期の集落跡。竪穴住居跡や貯蔵穴が確認され、中期後半の土器を中心に磨石や石皿等多量の遺物が出土している。
縄文時代中期住居跡（平林真子遺跡）（市指定 / 史跡）	縄文時代中期～後期の大規模な集落跡。中期末～後期前半の敷石住居跡や列状の配石遺構、立石等が確認され、土器や石器のほか土偶や石棒等の石製品も出土し、一部は市の文化財に指定されている。蛇尾川に面する低地には湧水点が確認されている。 ・縄文土器 平林真子遺跡出土（市指定 / 考古資料）
片府田富士山遺跡	蛇尾川左岸の残丘上に立地する旧石器時代終末～縄文時代の遺跡。米沢周辺の地域で採集されたと考えられる良質の珪質頁岩製を用いた多数の石器が発掘されている。
岩舟台遺跡（市指定 / 史跡）	那珂川右岸の高位段丘上に立地する縄文時代の大規模な集落跡。縄文時代前期～晩期の遺物が出土している。中期前半～後期前葉が中心と推定され、土器や石器、石製品のほか、硬玉製の垂飾（東京国立博物館所蔵、国指定 / 考古資料）が出土している。
品川台遺跡	箒川左岸の高位段丘上に立地する縄文時代の大規模な集落跡。北西地点には大量の三角錐状石器が出土した早期の遺跡があり、中心は中期～後期で、竪穴住居跡や貯蔵穴が確認されている。段丘崖下には複数の湧水点がある。
川木谷遺跡	亀久川の尾根端部の平坦面に立地する旧石器～縄文時代の遺跡。草創期の土器と部分磨製石斧や尖頭器、搔器等が採集され、市の文化財に指定されている。石器には器種によって石材の使い分けが見られる。近くの尾根の裏側に鉱泉の湧水がある。 ・川木谷遺跡遺物（表採）土器 石器（市指定 / 考古資料）
琵琶池遺跡	岩川の左岸で、喜連川丘陵の裾部に立地する遺跡。良質の珪質頁岩製の石刃等の剥片が採集されることで古くから知られる遺跡であるが、未発掘。



縄文時代中期住居跡（平林真子遺跡）



縄文土器 湯坂遺跡出土

(2) 古代

4世紀の古墳時代に入ると、ヤマト政権による東北地方への勢力拡大に向けた最前線拠点地域として、その玄関口となる那須地域において古墳の築造が始まり、本市では特に那珂川中流域右岸の湯津上地区に3基の大型の前方後方墳が築造された。副葬品として希少な銅鏡が伴い、また、この時期の土器（土師器）には、近畿や東海地方との共通性が多く見られる。本市同様に多くの前方後方墳が見られる南隣の那珂川町では、四隅が突出し堀がめぐらされた特異な豪族居館跡や北陸系の土師器も確認できることから、複雑な様相がうかがえる。

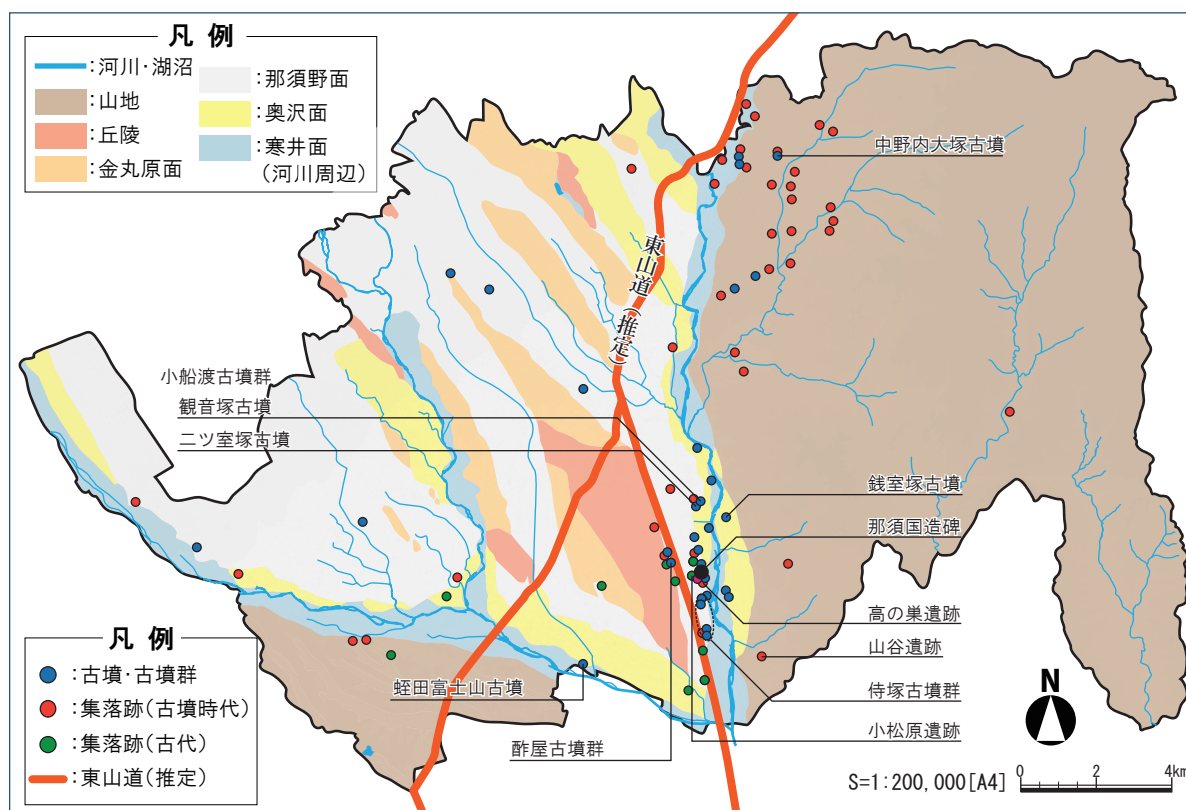
本市における5～7世紀代の古墳の築造は、箱式石棺、横穴式石室、埴輪などを導入しながら、小規模化、群集化していったが、那珂川上流域や箒川流域でも築造されるようになり、地域的な広がりを見せる。一方、同時代の集落跡については、その把握が進んでいない。

さらに、7世紀代には、『日本書紀』の渡来人移住の記事を裏付けるように、同町では瓦を有した寺院跡、さらに近傍では小金銅仏等が確認されているが、本市では「那須国造碑」がその最たる存在となっており、当時の東アジア情勢や、那須国から下野国那須郡（評）への移行期の様相を物語る。

その後、律令国家体制の成立に伴い、那須地域の政治的な重要性は一段と高まり、郡衙が整備され、それらを都とつなぐ政治的な道路である東山道駅路が本市域を那珂川に沿って縦貫するように整備され、その付属施設である駅家も湯津上地区内に整備されていた。



那須国造碑



古墳と古代の文化財分布図

主な古墳、古代の主な文化財一覧表

名 称	概 要
侍塚古墳 (国指定 / 史跡) 侍塚古墳群 (市指定 / 史跡)	那須地方最大の古墳である上侍塚古墳(全長 114 m)と下侍塚古墳(全長 84 m)を主として、前期の前方後方墳や時期の下がる円墳等で構成されている。徳川光圀の命により元禄 5 年(1692)に発掘調査され、鏡や石釧、管玉や鉄器等が出土したが、出土物は調査後に再び埋め戻された記録が残されている。周囲の後期古墳からは円筒埴輪も出土しており、この周辺では継続して古墳の築造が行われていたことが分かる。
酢屋古墳群	西ノ根・酢屋に分布する 5 基の古墳で、1 基は帆立貝式の前方後円墳、他 4 基は円墳。うち 3 基は昭和 52 年(1977)に発掘調査され、箱式石棺、周溝からは住居跡が検出された。また、近くから剣、祭壇に用いられたと思われる土師器、櫛、滑石製の剣形模造品・紡錘車・小玉等が出土し、5 世紀後半～6 世紀初頭に築造されたと考えられる。
蛭田富士山古墳 (市指定 / 史跡)	那珂川と箒川が合流する地点から約 5 km 箒川に沿ってさかのぼった左岸に位置する。帆立貝式の前方後円墳で、5 世紀末～6 世紀前半に築造されたと考えられる。本古墳は未発掘だが、周辺は昭和 45 年(1970)に土地改良事業に伴って調査され、周溝をもつ円墳跡 4 基や箱式石棺、横穴式石室、土師器を伴う住居跡等が確認された。
小船渡古墳群	<ul style="list-style-type: none"> ・観音塚古墳(市指定 / 史跡): 狭原地内にある円墳で、那珂川をはさんで黒羽地区の銭室塚古墳と対しており、墳丘は二段築成で大形である。下段上面に円筒埴輪が環状にみられ、墳頂部からも埴輪片が出土している。 ・ニツ室塚古墳(市指定 / 史跡): 小船渡地内にある前方後円墳で、那珂川右岸に位置する。発掘調査の結果、前方部と後円部の両方から横穴式石室が検出された。後円部の石室は 6 世紀後半、前方部は 6 世紀末～7 世紀初頭頃に設けられたものとされる。
銭室塚古墳 (市指定 / 史跡)	北滝の那珂川左岸の段丘上にある、6 世紀末頃の二段築成の円墳。内部は横穴式石室で、水田の基盤整備後の観察で周溝があったと考えられる。周辺には条里制の遺構が見られ、「館野御前」や「綾織姫」などの長者伝説が残っている。
中野内大塚古墳 (市指定 / 史跡)	松葉川沿いのひらけた土地と丘陵が接する畑地にある円墳。大関増業(1782～1845)編述の「創垂可継」(県指定 / 書跡)には豊城入彦命 <small>まさなり</small> の孫・彦狭島王 <small>とよきいりひこのみこと</small> の衣と髪を祀った塚とされ、また、九尾の狐伝説に付会して尾塚とも呼ばれる。
高の巣遺跡	下侍塚古墳の北方約 400 m に所在する。湯殿大橋に続く県道の拡幅工事の際に古墳時代前期の堅穴住居跡の断面が 7 軒以上確認された。侍塚古墳築造にも関係する時代の集落跡と推定し、令和元年から継続的に確認調査を行っている。
小松原遺跡	那須国造碑のある笠石神社のすぐ西側に位置する奈良～平安時代の集落跡。昭和 52 年(1977)の発掘調査によって 8～9 世紀の堅穴住居跡が 49 軒確認されている。周囲の地理的な景観から考えて東山道駅路の磐上駅家 <small>いわかみのうまや</small> の推定地とされている。地名を表現するような墨書土器も多数出土している。
山谷遺跡	那珂川左岸の丘陵上に広がる平坦面に立地する奈良～平安時代の集落跡。約 20ha の広範囲にわたって奈良～平安時代の土師器や須恵器が多量に散在している。古代の「全倉(矢倉)郷」に比定される遺跡。
那須国造碑 (国宝 / 古文書)	庚子年(700)以降の造立と推定されている花崗岩製の石碑。六朝風の楷書体による 152 文字が刻まれ、高さは約 120 cm。笠石が載せられ、笠石神社の御神体として保存されている、日本三大古碑の一つ。「永昌」の紀年銘や「評督」任官等、古代国家成立期の様相を具体的に示す金石文資料として、東アジアの中でも重要な石碑である。「大日本史」編纂を進める徳川光圀の目にとまり、侍塚古墳発掘の直接的な契機となった。
東山道駅路跡	那珂川の右岸を北上し、那須町の釈迦堂山から伊王野を経て白河から奥州へ向かう古代の主要道路跡。那珂川町にある那須官衙跡以北は調査例が無い。

(3) 中世

関東・奥州往還の奥大道が、古代の東山道駅路を部分的に踏襲しながら本市域を斜めに縦貫し、太平洋に注ぐ那珂川が八溝山地の西裾を南流する。こうした陸上・水上交通の要衝である本市域には、往還する人馬や物流を掌握し、収益を得ようとした那須氏や同氏一族の福原・佐久山氏、同氏重臣の大田原・大関氏が中世初期以来拠点を構え、この地域を支配した。

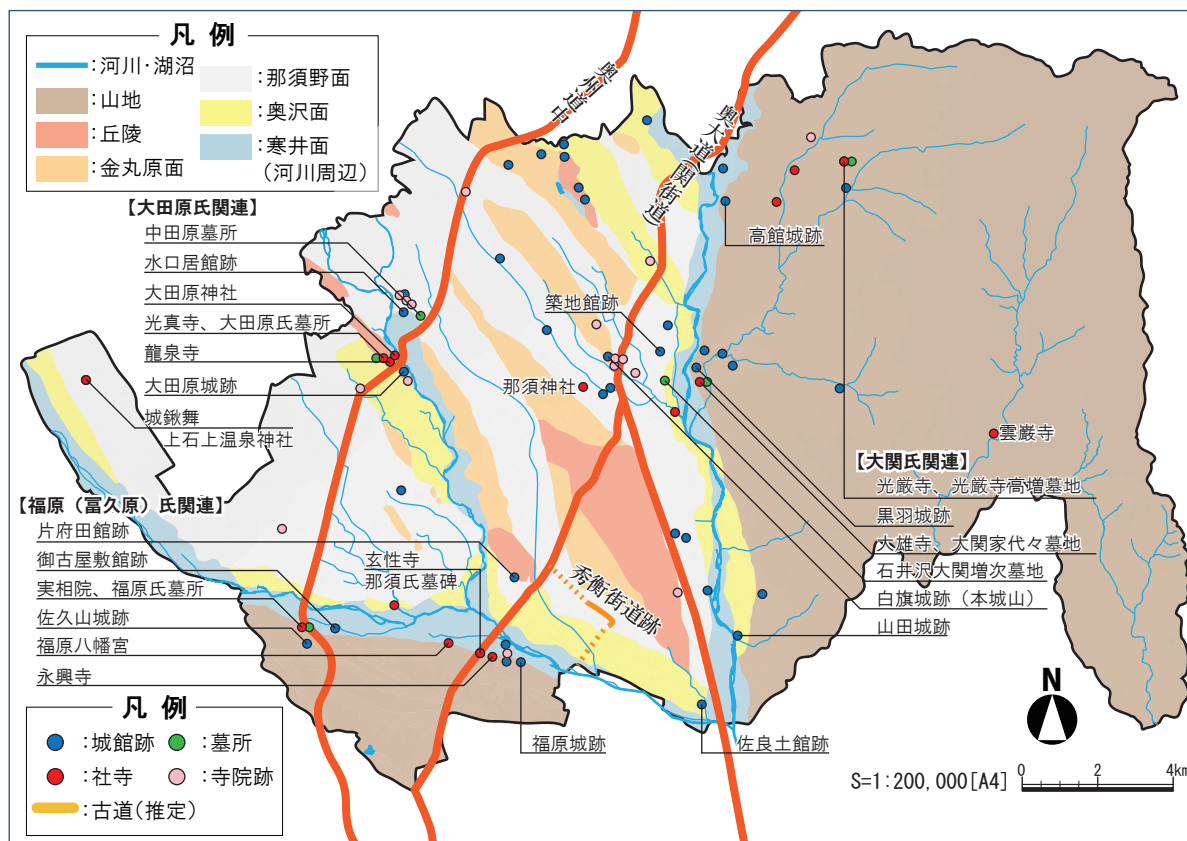
那須氏は、中世前期には黒羽を拠点とし、源平合戦における戦功で一族の惣領になったとされる与一宗隆（源平合戦後資隆と改名、異説もある）の系統が本市域を含む那須荘を支配していたが、南北朝期になると、黒羽の惣領家（太郎・肥前守系、後の上那須氏）と福原の庶子家（五郎・越後守系、後の下那須氏）に分裂し、惣領家側は16世紀初めに滅亡した。その後は、大田原の大田原氏と黒羽の大関氏が上那須地域で台頭、地域の歴史をリードし、豊臣大名となっていく。



佐良土館跡

湯津上地区は那須氏の所領であったが、同地区とその周辺は那須氏と南奥白川氏・常陸佐竹氏らとの戦いでは戦場にもなっていた。現在、佐良土に伝わる大捻縄引だいもじひきは、その戦場の一つである永正17年（1520）の縄釣台の戦いに由来しているといわれている。その他、本市域では、天正13年（1585）、那須氏と宇都宮・塩谷氏間で薄葉が原の合戦も起こった。

戦国期、烏山城（那須烏山市）に移っていた那須庶子家は、天正18年（1590）の豊臣秀吉の宇都宮仕置で改易に処せられて、当主の那須資晴は佐良土館に蟄居となった。しかし、資晴の子資景は、奥羽の一揆鎮圧に参陣することを期待され、秀吉から福原城での復活を許された。



中世の文化財分布図

中世の主な文化財一覧表

名称	概要	
秀衡街道跡 (市指定 / 史跡)	都と奥州を結ぶ東山道が、那珂川に沿った佐良土・湯津上・小船渡・狭原の各地区を經由して黒羽に抜けていたと考えられる。秀衡街道は、その脇街道としての役割を果たしていたと考えられる。	
那須氏関連	築地館(大館)跡	平安後期、那須氏の祖須藤権守貞信が築いたという。奥大道近くにあり、鎌倉中期建長8年(1256)には那須氏惣領肥前前司資村が館の主であったと思われる。館跡近くには新善光寺跡や鎌倉後期正安元年(1299)銘の阿弥陀三尊武蔵型板碑がある。
	高館城跡	平安末期文治年中(1185～90)那須資隆が築城したという。築地館とは那珂川を隔てた対岸北側にある。南北朝期、当時の惣領那須資忠が籠城した山城でもある(「源威集」)。
	黒羽城跡 (市指定 / 史跡)	近世黒羽城の前身。室町時代の「満濟准后日記」正長2年(1429)8月1日条には那須惣領家の本拠として「黒羽城」の名が記されている。
	福原城跡	天正18年(1590)以降、再興那須氏の当主資景が居城にした城跡である。近くに那須四郎久隆が築いたと言われている福原館跡(北岡城跡とも)がある。
	佐良土館跡 (市指定 / 史跡)	天正18年(1590)豊臣秀吉の宇都宮仕置で改易に処せられ隠居した那須資晴の居城。
	げんしょうじ 玄性寺	・那須氏墓碑(市指定 / 史跡): 江戸期に那須資礼 <small>すけひろ</small> により建てられた那須与一宗隆の供養塔や那須資重・那須資景等の宝篋印塔がある。
	こうごんじ 光厳寺	那須与一宗隆が高館城の南麓に建立し、鎌倉中期康元2年(1257)那須資村が現在地に移したという。山門には那須氏の家紋「丸に一文字」の額が掲げられている。 ・光厳寺三鍔銘鐘(市指定 / 工芸品): 銘文によれば鎌倉末期応長元年(1311)に鑄造され、初鑄の時の大檀那は那須加賀守資家(資村の子)であったという。
	雲巖寺 (山門は市指定 / 建造物)	創建は平安後期大治年中(1126～31)と伝えられ、鎌倉後期弘安6年(1283)に北条時宗が大檀那となり、高峯顕日(仏国国師)が中興開山となって再建されたという。臨濟宗寺院。山門前の瓜脰橋 <small>かてつ</small> は、那須資晴が大檀那となり、奉行大関安碩斎(高増)・同増清(清増)の下で、天正13年(1585)に修造されたという(「野州東山雲巖寺旧記」)。 ・絹本著色仏応禪師像(国指定 / 彫刻): 南北朝期貞治2年(1363)作。 ・絹本著色仏国国師像(国指定 / 彫刻): 室町時代の作と推定される。
	那須神社	下野国造奈良別王 <small>わけのおう</small> が国家鎮護のため金瓊 <small>きんけい</small> (黄金の玉)を埋めて塚を築き、祠を建て、天照大神・日本武尊・春日大神を祭ったのが始まりという。平安初期延暦年中(782～806)に坂上田村麻呂が応神天皇を勧請し、金丸八幡宮と称して戦勝を祈願、さらに永承6年(1051)の前九年の役で源頼義が戦勝祈願し、社殿を建立させたという。那須氏代々の氏神で、その後は、那須氏(上那須氏)に代って領主になった大関氏に崇敬されていく。 ・那須神社本殿・楼門附銅棟札(本殿附)・石燈籠・手水舟(国指定 / 建造物): 現在の本殿は寛永18年(1641)頃、楼門は同19年に黒羽藩主大関高増により再建された。本殿は三間社流造で、彫刻や彩色、絵画で全体を華やかに装飾し、楼門は禅宗様を基調とし全体を彩色や絵画で装飾している。建物の形式、細部技法は当地域の中世からの技法を踏襲しつつ、全体を近世の装飾技法で飾るなど中世と近世の特徴を併せ持つ神社建築として価値が高い。
温泉神社	市内には那須氏が那須温泉神社(那須町湯本)を勧請したと言われている那須氏と関係の深い温泉(「おんせん」ないし「ゆぜん」と読む)神社が数多くある(滝岡・片府田・倉骨・佐久山・中野内等)。	

名 称		概 要
福原（富久原）氏関連	佐久山城跡 （市指定 / 史跡）	平安末期文治3年（1187）に那須資隆の次男康隆が築城。戦国期は佐久山氏歴代の本拠となった。戦国期永禄6年（1563）5月、那須一族の富久原資孝に滅ぼされ、廃城となる。
	片府田館跡 （市指定 / 史跡）	鎌倉初期那須資隆の四男福原四郎久隆が築いたという。富久原資孝が佐久山氏を滅ぼし、永禄11年（1568）に御古屋敷館を築き、本拠を移すまでの福原（富久原）氏の本拠。
	御古屋敷館跡	富久原資孝が永禄11年（1568）に築いた富久原氏の本拠。天正18年（1590）の「関八州諸城覚書」（「毛利家文書」）に見える「柵山の城」は御古屋敷館跡であろう。
	ようこうじ 永興寺	鎌倉～戦国期永禄年中以前の福原氏の菩提寺。建久元年（1190）福原四郎久隆が建立したという。境内には建永元年（1206）銘の福原四郎久隆の五輪塔がある。
	実相院	・福原氏墓所（市指定 / 史跡）：富久原資孝が永興寺から改葬した富久原（福原）氏の五輪塔群等がある。久隆から資郡までは永興寺から改葬したものであるという。
	福原八幡宮 （本殿は市指定 / 建造物）	源頼義が平安後期天喜5年（1057）に戦勝祈願のために山城国石清水八幡宮を勧請したのが始まりという。那須与一宗隆が屋島で扇の的を射たときの成功を謝し社殿を再建したという由緒がある。福原（富久原）氏も崇敬したと思われる。
大田原氏関連	みなくち 水口居館跡 （市指定 / 史跡）	戦国前期明応年中（1492～1501）に大田原康清が築いたという。大田原城に本拠を移すまでの大田原氏の本拠。
	大田原城跡 （市指定 / 史跡）	戦国中期天文14年（1545）に大田原資清が築城したという。水口館から移り住み、以後明治4年（1871）の廃藩置県まで大田原氏の本拠。
	中原墓所 （市指定 / 史跡）	大田原築城前後の大田原氏の胤清・資清・綱清の三代が葬られているという。五輪塔のパーツが散在している。
	龍泉寺	大田原康清が水口館を築いた際に、大田原氏の菩提寺兼祈願寺になったという。本拠が大田原城に移ると三の丸下に移転し、明治期に現在地に移った。 ・紙本著色大田原資清と一族の肖像画（市指定 / 歴史資料）：江戸中期作。
	光真寺	天文14年（1545）大田原資清が創建したという大田原氏の菩提寺。 ・大田原氏墓所（市指定 / 史跡）：大田原晴清・政清等大田原氏歴代の宝篋印塔群がある。
	大田原神社	大田原資清以来、大田原城主の大田原氏が崇敬した神社。
	城鎌舞 （県指定 / 無形民俗）	大田原資清が大田原城築城に動員された近在の農民を慰労する酒宴を開いた際に、石上村（現大田原市上石上一帯）の農民藤兵衛が即興で鋤と鎌を持ち舞い、同席の人々も鎌を叩いて囃したことに始まるという。上石上温泉神社へ奉納される。
大関氏関連	山田城跡	鎌倉初期那須資隆の八男片田八郎義隆が築いたと伝えられている。明応年中（1492～1501）に大関宗増が本拠とし、増次の代に白旗城へ移り、廃城になったという。
	しらばた 白旗城跡（本城山） （市指定 / 史跡）	室町時代応永年中（1394～1428）に大関増清が築いたと言われている。増次の代に修築され、天正4年（1576）3月に黒羽城に本拠を移すまで大関氏の本拠となった。
	黒羽城跡 （市指定 / 史跡）	大関高増が天正4年（1576）3月に大関氏の本拠を白旗城から黒羽城に移して以降、明治4年（1871）の廃藩置県まで大関氏の本拠となった。
	石井沢増次墓地 （市指定 / 史跡）	戦国中期天文11年（1542）12月20日、大関増次は大田原資清と石井沢（大田原市黒羽向町）で戦い敗れ自刃したという。増次の宝篋印塔がある。
	光厳寺	大関美作守高増が隠居後隠棲した寺。大関美作守高増の墓塔がある。 ・光厳寺高増墓地（市指定 / 史跡）：宝篋印塔と五輪塔のパーツが混在した形状になっている。

名称	概要
大関氏関連 だいおうじ 大雄寺 (国指定 / 建造物)	<p>室町時代応永11年(1404)の創建と言われ、文安5年(1448)以降、大関氏の菩提寺となったという。戦国期に臨濟宗から曹洞宗となった。元は余瀬の白旗城北東の地にあったが、高増による白旗城から黒羽城への移城に伴い、現在地に移ったという。本堂の建設は17世紀に遡ると推定され、大規模な曹洞宗本堂の形式をよく残している。個々の建造物の建設年代はそれぞれ差があるが、全体として江戸時代後期から末期の形態でまとまっている。位牌堂、開山堂、庫裏の一部、経蔵を除いてすべて茅葺であり、主要部は装飾性を高めた意匠や造形が限定され、本堂から廻廊にいたるまで全体が簡明に統一されており、近世曹洞宗寺院の典型の一つを示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所蔵品(一部県・市指定 / 美術工芸品): 室町時代作と推定される本堂本尊の木造釈迦如来坐像、鎌倉時代作と推定される座禅堂の木造釈迦如来坐像等がある。木像大関晴増椅像(未指定)、紙本着色大関美作守高増画像等も所蔵。 ・ 大関家代々墓地(市指定 / 史跡): 大関増次・高増・晴増・清増・資増・政増等の供養塔(五輪塔と宝篋印塔)がある。近世黒羽藩主大関氏歴代の五輪塔もある。
古文書と 美術・工芸品	<p>【那須与一伝承館寄託 / 所蔵】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武将起請文(市指定 / 古文書): 戦国期那須氏宛て常陸佐竹氏からの起請文等。金剛寿院所蔵。 ・ 那須家資料: 戦国期那須氏宛て古河公方足利氏・上杉謙信・伊達政宗・豊臣秀吉等からの文書と那須氏の系図。 ・ 源平合戦図屏風: 江戸中期。 ・ 屋島合戦図・2幅: 江戸前期、那須家所蔵。 ・ 那須資高画像: 江戸時代、那須家所蔵。 ・ 綾包太刀拵(国指定 / 工芸品): 平安末期、那須家所蔵。那須与一伝承館寄託。 ・ 太刀〈銘成高〉(国指定 / 工芸品): 平安末期、那須家所蔵。那須与一伝承館寄託。 ・ 福原隆史氏所蔵文書: 関ヶ原合戦期を中心に、福原氏等宛ての徳川秀忠等の文書。 ・ 銅製鰐口(文和)(県指定 / 工芸品): 文和4年(1355)8月15日銘。那須神社所蔵。 ・ 銅製鰐口(天正)(県指定 / 工芸品): 天正5年(1577)大関高増・清増が金丸八幡宮(現那須神社)の本殿を改築した際に奉納したもの。 ・ 太刀 伝弘綱(県指定 / 工芸品): 那須与一宗隆が屋島の合戦時に差していたもので、後に戦勝奉賽で宗隆が那須神社に奉納した。 ・ 太刀 銘 一(県指定 / 工芸品): 南奥の白川義親が那須神社に奉納したもの。 <p>【黒羽芭蕉の館所蔵】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙本着色大関美作守高増画像(市指定 / 絵画): 慶長5年(1600)2月、坐像。館蔵。 ・ 絹本着色大関美作守高増画像(市指定 / 絵画): 法体の曲景<small>きょくけい</small>に座る画像。館蔵。 ・ 大関家文書: 戦国期大関氏宛て那須氏や常陸佐竹氏からの文書や、関ヶ原合戦期の大関氏宛て徳川秀忠等東軍諸将からの書状、天文年中端午日付の詠存(大田原資清)から大関高増に宛てた書状。館蔵。



大田原氏墓所



大雄寺本堂



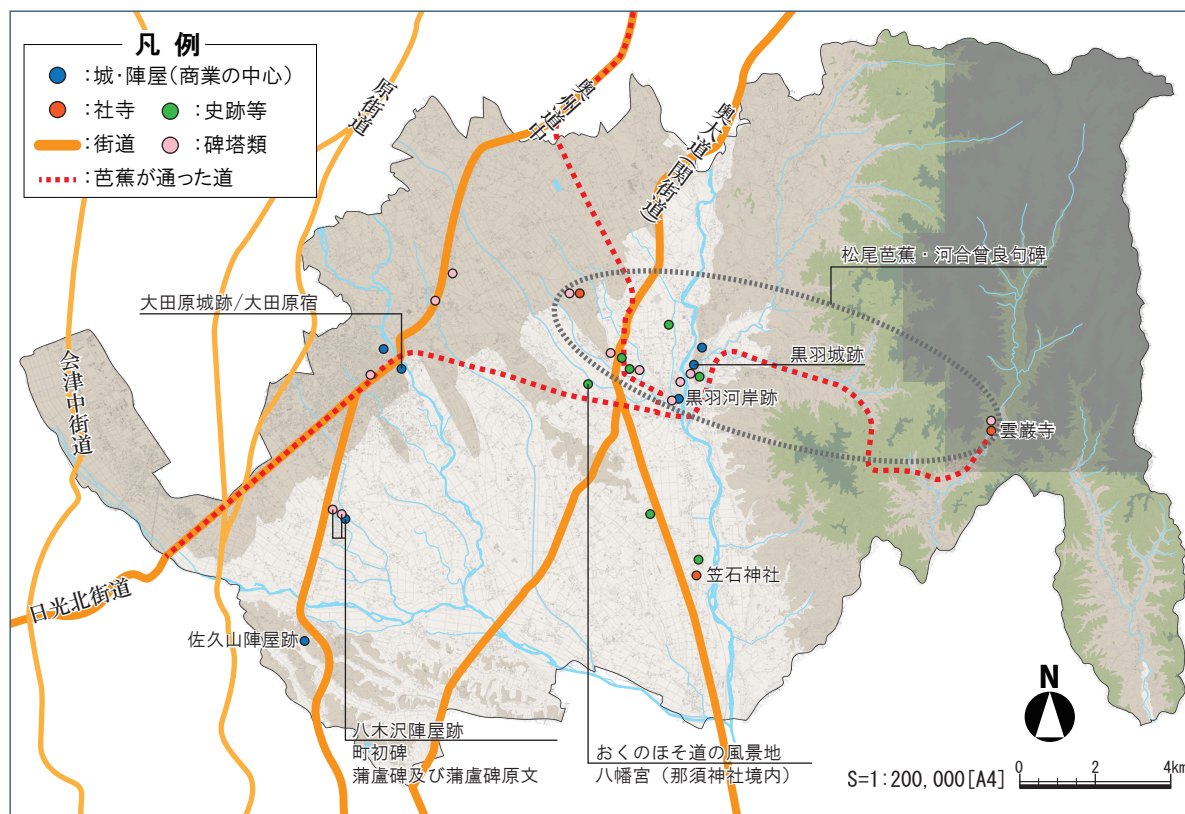
武将起請文

(4) 近世

近世の初期、現在の大田原市域には黒羽藩（大関氏、18,000石、外様）・大田原藩（大田原氏、11,416石、外様）・那須藩が成立し、それぞれ前田（黒羽地区）・大田原・福原（佐久山地区）を本拠地として藩領を支配し始めたが、那須藩は早いうちに廃藩となり、その旧領の多くは幕府領や旗本領となった。大関・大田原両氏については、近世を通じて改易・転封がなかったことが特筆される。

大関・大田原両氏によって城下町の造成や奥州道中（奥州街道）等の街道が整備され、那珂川の河岸が開設された。現在の市域では、黒羽が黒羽藩の城下町、大田原が大田原藩の城下町、佐久山も福原氏（旗本、3,500石）の居所として繁栄した。奥州道中（奥州街道）の宿場町としても、大田原宿と佐久山宿は賑わった。那珂川には、黒羽河岸（上・下河岸）や矢倉河岸・佐良土河岸が整備された。大田原城は戊辰戦争に際して、慶応4年（1868）5月2日、会津兵により焼かれた。

幕府や藩の強大な権力により、長きにわたる平和と安定をもたらし、文化の花を咲かせた。元禄2年（1689）には日光道中（日光街道）や奥州道中（奥州街道）等を利用して松尾芭蕉が黒羽に來訪し長期滞在するなかで、黒羽藩城代浄法寺氏やその弟の鹿子畑（当時は岡）氏らと俳諧を通じた濃密な交流を行った。近世後期には大関増業が藩政改革に取り組み、学芸を奨励し、藩校を設立した。それにより、黒羽の文化興隆となった。湯津上地区では、徳川光圀の命により、那須国造碑の保護措置がとられ、上・下侍塚古墳の発掘が行われた。この発掘は、我が国の考古学上、科学的発掘や保存方法の先駆をなすと評されている。



近世の文化財分布図

近世の主な文化財一覧表

名称	概要
八木沢陣屋跡	天領支配のため享和3年(1803)に奥州道中の大田原城下と佐久山宿の間である八木沢(親園)に設けられた出張陣屋。山口代官は用水路の開削や新田開発等、農村復興に尽力した。 <ul style="list-style-type: none"> ・町初碑(市指定/史跡):奥州道中整備に伴い、寛永年間(1624~44)に八木沢村が街道筋に開かれたことを記念して建立されたという。 ・蒲盧碑及び蒲盧碑原文(市指定/史跡):山口代官の善政と、那須野の蜃気楼の伝承を結び付けて詠んだ蒲盧碑原文を、のちに刻んで建立したものの。
佐久山陣屋跡	福原資倍が元禄15年(1702)に居所を佐久山城跡へ移し、明治4年(1871)の廢藩置県まで続いた。
大田原宿	大田原本陣の印南家は、元禄初年(1688~90頃)に本陣の経営を開始した。現在も宿場町としての名残(金燈籠等)や、史料「印南敬二郎家文書」が残る。
黒羽河岸	林業が盛んだった黒羽藩が木材を江戸に輸送するため、那珂川の水運が利用された。黒羽河岸(上・下河岸)は明暦元年(1655)黒羽向町に開設された。関係史料として「阿久津家文書」が残っている。
歴史の道	古代の東山道駅路をはじめとし、各時代において関東と東北を結ぶ「歴史の道」が本市域を通っていた。主要な「歴史の道」として、東山道を部分的に踏襲しながら本市域を縦貫する奥大道(関街道)、近世に整備された奥州道中(奥州街道)がある他、副道として奥州荷物・原・会津中・立・棚倉・カノ・日光北街道がある。

近世の文化・学問に関わる主な文化財・人物一覧表

名称	概要
文化興隆	<p>【近世前・中期の著名な文化人】</p> <p>○歌人・歌学者戸田茂睡(1629~1706):3代将軍徳川家光の弟の家臣、渡辺忠の息子。和歌を清水谷実業に学ぶ。主な著書に『梨本集』『御当代記』『寛文五年文詞』がある。</p> <p>○蘭山道昶や廓門貫徹(大雄寺住職):元禄12年(1699)、漢詩「向陽亭十二景」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版一切経(県指定/書跡):廓門貫徹が徳川吉宗(1684~1751)から賜った。 ・東野遺稿(市指定/典籍):全3巻(寛延2年<1749>5月刊本)。荻生徂徠の高弟、安藤東野(煥図)編。黒羽田町の大宮司家に伝わる。 <p>○鈴木正長(武助、為蝶軒、1732~1806):農政や風俗の改善に尽力した。文化2年(1805)『農諭』を著し、優れた農政の専門書として全国の各藩でそのまま出版された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人面獸心の壁書(県指定/有形民俗):正長の間引き禁止の壁書き <p>【光圈による発掘調査】</p> <p>○徳川光圈:那須国造碑(国宝)の保存顕彰のため元禄4年(1691)に碑堂の建立を開始、同5年に碑の主を求めて、日本で最初の学術的な発掘調査を上・下侍塚古墳(国指定)で行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笠石神社:光圈が那須国造碑(国宝)のために覆堂をつくり安置した神社。
	<p>【芭蕉とゆかりの地】</p> <p>○松尾芭蕉:元禄2年(1689)に黒羽に来訪。黒羽藩城代浄法寺氏やその弟の鹿子畑(当時は岡)氏らと俳諧を通じた濃密な交流を行い、14日間の長逗留で「八幡宮(那須神社境内)・「殺生石」ゆかりの地などの由緒・来歴の地を訪れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おくのほそ道の風景地八幡宮(那須神社境内)(国指定/名勝):『平家物語』の故事にまつわる境内の風景は、『おくのほそ道』に「感応珠しきりに覚えらる」と記されている。 ・犬追物跡・玉藻稲荷神社:絶世の美女玉藻前に姿を変えた九尾の狐の怨霊が追討にあつて息絶え、石と化したとされる「殺生石」が那須町にあり、そのゆかりの地が大田原市内にもある。玉藻前が狐と化して那須野に隠れ住んでいるのを退治するために、犬を狐に見立てて追い射る武技を行ったとされる「犬追物跡」や、蟬に身をかせ桜の木の陰に隠れていたのを池(鏡が池)に映った真の姿を見つけられ討たれてしまったという伝承のある「玉藻稲荷神社」がある。 ・その他、芭蕉が地として雲巖寺(山門は市指定/建造物)、修験光明寺跡、旧浄法寺邸等がある。 ・松尾芭蕉・曾良句碑(一部市指定/歴史資料):常念寺をはじめとし黒羽周辺に句碑がある。 ・鹿子畑翠桃墓地(市指定/史跡)

名 称	概 要
文化興隆	<p>【近世後期の著名な文化人】</p> <p>○大関増業 (1782 ~ 1845) : 藩政改革に取り組み、学芸を奨励し藩校何陋館・練武園を創設した。大関増勤 (1852 ~ 1905) が藩校の名称を「作新館」とした。増業の編著書は、以下のものをはじめとして、二十余种・七百五十余巻に及ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(黒羽版) 日本書紀 ・日本書紀文字錯乱備考 ・止戈枢要 (県指定 / 書跡) : 武事・産業、その他様々な分野に及ぶ大関増業編述の兵学書。 ・創垂可継 (県指定 / 書跡) : 黒羽藩の歴史・諸制度、郷村の地誌等を編纂した叢書。 <p>○小泉斐 (1770 ~ 1854) : 絵画・漢詩文、特に鮎の絵で有名。市内には、以下の作品など多くの作品が遺されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絹本淡彩広凌観瀾図 (県指定 / 絵画) : 大雄寺所蔵 ・紙本墨画楊柳観音像 (県指定 / 絵画) : 大雄寺所蔵 ・紙本墨画竜に馬師皇図 (県指定 / 絵画) : 明王寺所蔵 ・黒羽城鳥瞰図 (市指定 / 歴史資料) : 市所蔵 <p>○木曾武元 : 私塾を開き大勢の子弟に学問を教えた。「那須記」に金丸八幡宮や雲巖寺などの記載がないことから、史料収集に奔走し、享保 18 年 (1733) 「那須拾遺記」16 巻を著した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曾武元の墓所 (市指定 / 史跡) <p>○村上英俊 (1811 ~ 90) : 佐久山出身の幕末～明治中期のフランス学者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三語便覧・五方通語 (市指定 / 書跡)



町初碑



人面獣心の壁書



笠石神社



芭蕉句碑



創垂可継



竜に馬師皇図

(5) 近代

明治維新の際に起きた明治元年（1868）の戊辰戦争に黒羽藩・大田原藩・佐久山の福原家も参戦し、それぞれ軍功を挙げたが、大田原城下は旧幕府軍の襲撃によって大きな被害を受けた。

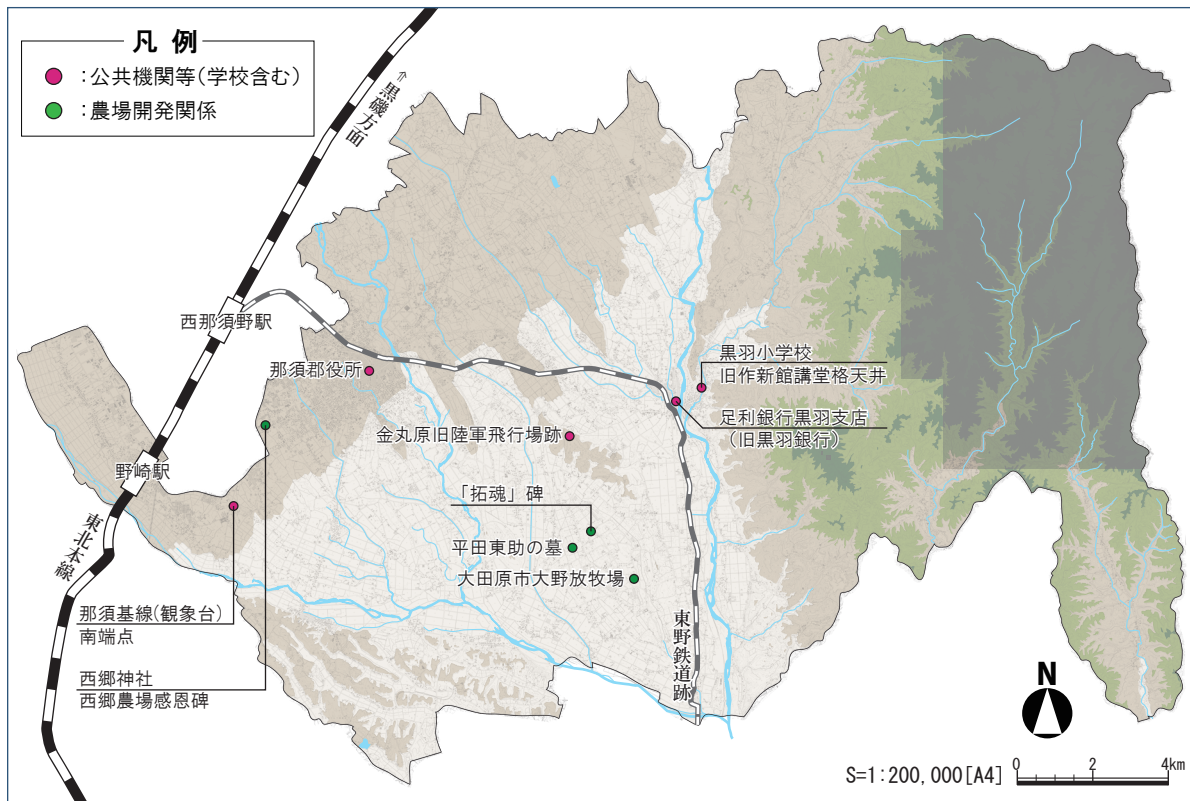
黒羽藩領、大田原藩領、佐久山の福原家領以外の村々は、この戊辰戦争のさなか真岡県、日光県の管轄下に入った。明治2年（1869）に黒羽藩・大田原藩が版籍を奉還、明治4年（1871）の廃藩置県でそれぞれ黒羽県・大田原県となり、両県は宇都宮県に編入され、また明治6年（1873）には宇都宮県が栃木県と合併して栃木県となった。

明治7年（1874）に栃木県が大田原宿に栃木県庁大田原支庁を設置し、大田原の中心部は那須郡、栃木県北地域の政治（行政）・経済・文化・教育の中心地となっていった。

江戸時代より発展してきた旧大田原町・佐久山町に加え、鉄道の開設により新興した野崎駅をはじめ、駅周辺に商店街が形成された。また、明治政府の殖産興業の推奨により、新しい産業技術の導入、農場開発等が行われ、先駆けとして日本全国の測量のための基準線として「那須基線」が設置された。特に那須野が原は華族らによって競って開拓され、大規模農場が展開され、飲用・かんがい用として那須疏水の整備が進められた。市内には加治屋開墾（後に西郷農場）や品川開墾（後に傘松農場）などが拓かれ、那須疏水の一部は品川開墾にまで達した。

大正時代になると各地で地方鉄道網の整備が盛んに進められ、大正7年（1918）には東野鉄道が営業を開始し、八溝地域の林産物の輸送に大きな役割を果たした。

湯津上・金田両地区にわたる広大な原野には、明治45年（1912）陸軍の金丸原演習場が開設され、後にその一角が金丸原飛行場となり、その航空機の格納庫が現在に残る。終戦後この一帯は戦後開拓の舞台となり、一部は市営の大野放牧場として往時の景観を残す。



近代の文化財分布図

近代の文化財分布図

名称	概要
旧作新館講堂格天井 (市指定 / 歴史資料)	黒羽藩校作新館を明治4年(1871)に改築・移転し、教官と生徒たちの漢詩が天井に掲げられた。大関私学作新館として明治18年(1885)まで存続した。「作新」の精神は今も黒羽小学校及び宇都宮市にある作新学院に受け継がれている。建物は大正期に改築されたが、そのまま小学校の和室の天井板として用いられた。昭和57年(1982)・58年(1983)にも改築されたが、会議室の天井板として用いられている。
那須基線(観象台) (日本遺産)	明治11年(1878)に設けられた測量基準線の北端点が那須塩原市、南端点は大田原市親園に位置する。2点間の距離は約10.63km。2点を結んだ道路は「たて道」と呼ばれ、南北に走る本州一長い直線道路である。
開拓農場	<ul style="list-style-type: none"> ・那須疏水(品川堀):明治19年(1886)、第二分水を品川開墾(傘松農場)まで開削。 ・西原開墾(長地農場):大田原の富豪による開墾後、渡辺国武が買収。 ・加治屋開墾(西郷農場):西郷神社(日本遺産)、西郷農場感恩碑 ・品川開墾(傘松農場、蛭田・鹿畑):平田東助の墓(日本遺産) ・金丸原開拓:「拓魂」碑(日本遺産)、大田原市大野放牧場(日本遺産)
足利銀行黒羽支店 (旧黒羽銀行) (国登録 / 建造物)	明治30年(1897)創立の黒羽町内最古の土蔵造りの銀行。昭和11年(1936)に足利銀行の支店となった。
とうや 東野鉄道跡	大正7年(1918)に黒羽・西那須野間の営業を始め、大正13年(1924)に那須小川まで延長、東野地方の主要交通機関となった。昭和14年(1939)黒羽・那須小川間を廃止、昭和43年(1968)に全線が廃止された。蛇尾川近くのトンネル、堂川の橋脚、箒川近くの橋台、佐良土駅のプラットホーム等の痕跡が各所に残る。
旧金丸原飛行場掩体壕 (土木遺産)	金丸原飛行場と呼ばれた旧陸軍飛行学校分教場に関連する航空機の格納庫。



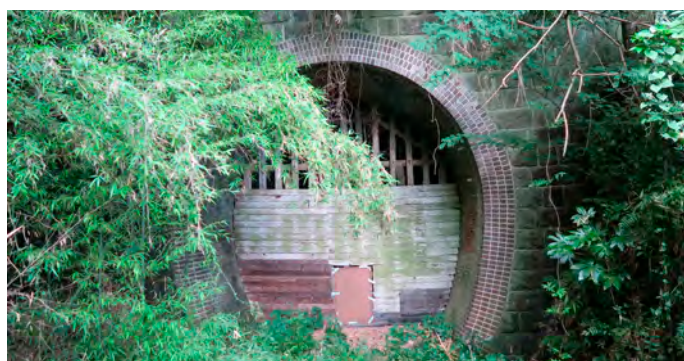
旧作新館講堂格天井



那須基線(観象台)



西郷神社



東野鉄道トンネル

4 くらしと文化

(1) 祭礼・民俗芸能

祭礼や民俗芸能は、地域の歴史や社会構成、住民意識等、地域の文化風土を明確に表している。中でも、大田原市内の民俗芸能は、那須野が原や八溝山地の自然風土が生み出した里地・里山における民間信仰の影響を受けながら、それぞれの地域のくらしや文化として形づくられてきた。また、それらが伝播・伝承される過程においては、古代から近世の各時代において本市域を通過していた「歴史の道」の存在も深く関わっているものと考えられる。

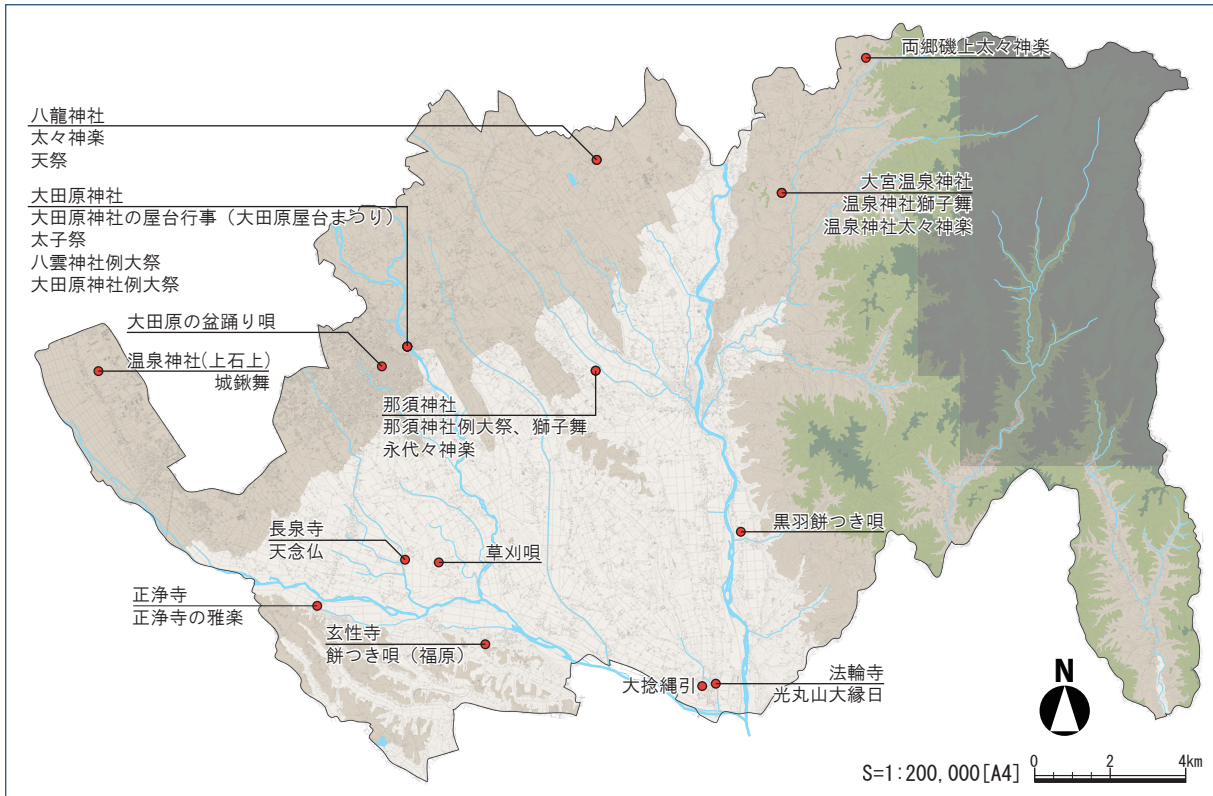


大捻縄引

主な祭礼・民俗芸能一覧表

名称	概要
だいまじひき 大捻縄引 (国選択 / 無形民俗、 市指定 / 無形民俗)	永正17年(1520)、白河城主結城義永と烏山城主那須資房が箒川岸の縄釣台(現那珂川町浄法寺)の戦闘で縄を引き合った故事にならって始められたという。佐良土地区内の住民が8月中旬の土曜日(かつては8月14日)の早朝から直径50cm、長さ50mを超える大縄を振り上げ、その夜、出来上がった大縄を光丸山の参道(国道294号)で引き合い、豊作・家内安全・村内繁昌を祈願する。大縄は佐良土の諏訪神社での奉納相撲の土俵にも使われる。平成29年(2017)、22年ぶりに復活。
光丸山大縁日	光丸山法輪寺で11月3日開催。以前は12月13日が祭日であった。神輿の渡御が佐良土の宿内をねり歩く、神仏習合の名残を今にとどめている貴重な祭礼。
正浄寺の雅楽 (県指定 / 無形民俗)	宗祖親鸞聖人報恩講や春秋の彼岸をはじめ、地域の法要や婚礼等にも演奏される。明和2年(1765)に仙台侯寄進と銘打った笙や、慶応年間(1865～68)に日光東照宮の楽人から指導を受けたという伝承が残り、江戸時代には演奏されていたと思われる。
城鉞舞 (県指定 / 無形民俗)	上石上の温泉神社の例祭(7月17日)に奉納される。天文14年(1545)、大田原城築城の祝宴で領内の農民が踊り、鉞の柄を叩いて囃したのを城主の大田原資清がいたく喜び、毎年正月に城内で演じさせたという。形振とよばれる舞手・笛吹き・太鼓打ち・旗持ち・石上小学校の女子児童による鉞叩きで構成される。
温泉神社獅子舞 (市指定 / 無形民俗)	天正4年(1576)、大関高増が白旗城から黒羽城に本拠を移した時に獅子頭を被り演じて、大関家の繁栄を祈願したという。後に、温泉神社(大宮温泉神社)の4月例大祭(4月第2日曜日)に流鏝馬や太々神楽とともに奉納されるようになった。お囃子5人が牡丹の花を飾り付けた箱を頭に寄せ、箱の四方に唐草模様の布を下げて顔を覆う。手に笛やササラを持って囃す。獅子は腹に小太鼓(鞆鼓)を持ち、撥で小太鼓を打ち調子を取りながら、牡獅子2頭が牝獅子1頭を奪い合う様子を演じる。

名 称	概 要
温泉神社太々神楽 (市指定 / 無形民俗)	温泉神社(大宮温泉神社)例大祭の獅子舞奉納の後、神楽殿で奉納される。元は36座の舞があったが、現在は、11座が奉納される。また、15の面が残っていて、座ごとに装束と面をつけ、笛や太鼓の囃子で舞う。
獅子舞(那須神社) (市指定 / 無形民俗)	大関増清が応永年間(1394～1428)、余瀬に白旗城を築いた時の地鎮祭として、金丸八幡宮(那須神社)に奉納されたという。黒羽城主大関氏の崇拝を集め、9月15日の例大祭には、自らも参拝、獅子舞を鑑賞したという。獅子頭は、大宮温泉神社と共有して演じている。獅子舞の他に流鏝馬・子供角力等も奉納される。
永代々神楽(那須神社) (市指定 / 無形民俗)	文治元年(1185)源平屋島合戦の戦功で那須氏の惣領となった与一宗隆が社殿を再建、社領を寄進し、神職と雅楽奏者を伴い、祭祀を行わせた起源伝承が残されている。演目は36座あったが、現在は10座、3月15日直近の日曜日(那須神社春期大祭)に奉納される。
両郷磯上太々神楽 (市指定 / 無形民俗)	両郷磯上鎮守の講中によって明治10年(1877)頃から舞い継がれてきたという。日光から伝えられ、江戸時代にはすでに舞われていたとも言われている。神楽殿を持たず庭で演じることから「庭神楽」とも呼ばれる。臨時設置の舞台に笹台と注連縄、幔幕を張りめぐらし、囃子方が多彩な演奏を行う。演目は36座あったが、現在は12座が伝えられている。
太々神楽(八龍神社) (市指定 / 無形民俗)	八龍神社の春秋2回の例大祭に奉納される。文政4年(1821)ごろ、地域の神職が京都まで舞いを習いに行き、最初は神職のみで奉納していたが、後に氏子の中から保存会が組織され、日本神話の流れに沿って構成された物語を演じる。オカメ・ヒョットコのコミカルな演技や厄年の人たちによる「ガラマキ」もあって、賑わいを見せる。
天祭(八龍神社) (市指定 / 無形民俗)	八龍神社は風雨を司る二柱の大神様を祀る。台風・雷雨除けや雨乞い祈願として7月27～28日(現在は28日直近の土日)、境内に約10mの櫓を組み、2段の天棚を設けて、一昼夜(かつては三昼夜)笛・太鼓の演奏をする。
餅つき唄(福原) (市指定 / 無形民俗)	治承4年(1180)、那須与一宗隆と兄十郎為隆兄弟が源義経の家来として平家追討に旅立つ時、福原の領民が出陣祝いに餅を搗いて献上したことに始まるという。那須家の墓所がある玄性寺の那須与一公墓前祭などで奉納される。
黒羽餅つき唄 (市指定 / 無形民俗)	明治31年(1898)熊野山(島根県松江市)参詣記念に餅を搗いて盛大に祝ったことに始まる。棟上げや米寿の祝い事には欠かせない行事であった。親類・縁者・近隣の人たちが「千本杵」(12本、月数を示すという)とよぶ長い棒杵で、唄の調子に合わせて餅を搗く。
大田原の盆踊り唄 (市指定 / 無形民俗)	大田原市下町(現中央2丁目)の薬師堂の庭で踊り始めたと言われている。太鼓の代わりに樽を横にして側面を小気味よく叩く。踊りは男性的で、大田原藩の武士たちが、祭礼の祝宴の余興として、酒樽を転がし叩いて節をとりながら踊ったことに由来するという。
草刈唄 (市指定 / 無形民俗)	約300年前から、親園地区の五本木・実取・加治屋、野崎地区の薄葉、那須塩原市の二つ室付近に広がる草原の草刈りの仕事唄として唄い出されたという。唄の節まわしや調子から、草取りの時の唄ではなく、草を運ぶ馬を引く馬子が唄ったとも言われている。
大田原神社の屋台行事 (大田原屋台まつり) (市指定 / 無形民俗)	大田原神社の4月上旬に行われる例大祭の付け祭りで、江戸時代に大田原藩のみこしを奉納した7町内の当番町が引き回したのが起源といわれる。花鳥・唐獅子等が精巧な技法で彫り込まれた9台の屋台が金燈籠交差点でブツケ(お囃子の競演)を行う。 ・屋台(市指定 / 彫刻):江戸時代末期に製作された、上町の彫刻屋台。
太子祭	建築の神様としての聖徳太子を祀る大田原神社で、江戸時代中頃に始まったと伝えられる。昭和53年(1978)から大田原商工会議所が加わり、毎年1月10日に建築業者の仕事始めの儀式として続いている。



主な民俗行事や芸能の位置図



那須神社永代々神楽



正浄寺の雅楽



大田原神社の屋台行事 (大田原屋台まつり)



温泉神社の獅子舞

第3章 文化財の概要と特徴

1 文化財の現状

(1) 指定等文化財

本市の文化財は、文化財保護法及び栃木県文化財保護条例（昭和38年栃木県条例第20号）、大田原市文化財保護条例（昭和52年3月31日条例第14号、改正：平成17年3月25日条例第13号、平成17年9月28日条例第77号）によって指定及び登録されている。

指定及び登録文化財の件数

（令和2年9月現在）

区 分（種別）		国指定 / 選定 / 認定	国選択	県指定 / 選定	市指定	国登録	合 計	
①有形文化財	建造物	2	—	0	11	1	14	
	美術工芸品	絵画	2	—	10	7	0	19
		彫刻	2	—	5	16	0	23
		工芸品	2	—	15	6	0	23
		書跡・典籍	0	—	6	4	0	10
		古文書	1	—	0	8	0	9
		考古資料	0	—	0	5	0	5
		歴史資料	0	—	0	10	0	10
②無形文化財	工芸技術	1	0	0	0	—	1	
③民俗文化財	有形民俗文化財	0	—	1	1	0	2	
	無形民俗文化財	0	1	2	14	—	17	
④記念物	史跡	1	—	0	39	0	40	
	名勝	1	—	0	0	0	1	
	天然記念物	1	—	7	28	0	36	
⑤文化的景観		0	—	—	—	—	0	
⑥伝統的建造物群		0	—	—	—	—	0	
合 計		13	1	46	149	1	210	
				210				

2 歴史文化の総合的把握

(1) 既存の調査・研究

文化財に関連する調査として、これまでに市史編さんに伴う総合調査や、合併前の市町村史（誌）に伴う調査が行われてきた。また、埋蔵文化財の発掘調査、栃木県の総合調査や県史編さん事業に伴う調査により、市内の文化財も対象となってきた。歴史文化に関わるこれまで行った調査を示す。

歴史文化に関わる主な既存調査・研究一覧表

類型	調査事業	調査年度	大田原市の対象文化財
①有形文化財	栃木県における民家緊急調査（基礎調査）	1966	
	栃木県史料所在悉皆調査（栃木県史編さん事業）	1968～1984	旧大田原市16件・旧湯津上村19件・旧黒羽町19件の古文書群
	栃木県緊急碑塔類調査	1970～1972	市内の石仏多数
	栃木県近世社寺建築緊急調査	1977	那須神社・法輪寺・大雄寺
	那須神社楼門修理工事に伴う調査	1977～1979	那須神社楼門
	栃木県緊急民家調査	1980～1981	戸辺家・福原日出野家・阿久津家・松本家住居
	とちぎの絵馬調査	～1985	旧大田原市82件・湯津上村46件・黒羽町75件
	栃木県近代化遺産（建造物等）総合調査	2001～2002	那珂橋・黒羽銀行（足利銀行黒羽支店）・金丸原飛行場跡地・野崎駅舎・龍尾用水ほか
	大雄寺本堂ほか建造物詳細調査	2007～2008	大雄寺本堂ほか
	那須神社本殿調査	2011	那須神社本殿
	栃木県近代和風建築総合調査	2016～2017	旧黒羽銀行（足利銀行黒羽支店）
	大田原市那須与一伝承館所蔵資料電子データ化業務委託	2019	那須家資料ほか
②無形文化財	栃木県諸職関係民俗文化財調査	1987～1988	鞆師・フルイ屋・大工・竹細工・萱手・紺屋
	工芸技術記録映画作成事業	2012・2016	勝城蒼鳳（人間国宝）、藤沼昇（同）
③民俗文化財	栃木県民俗資料緊急調査	1963～1964	蛭田・川上・福原地区
	湯津上村民俗緊急調査	1974	佐良土地区・大捻縄引
	栃木県民謡緊急調査	1981～1982	苗取唄・鎌倉節（苗取唄）・田植唄・早苗振り唄（サナブリ唄）・福原の餅つき唄・大田原盆踊唄（盆踊り）・城嶽舞・親園の子守唄・教え唄・手まり唄・念仏
	那須与一に関する歴史・民俗的調査研究事業	1989～1990	那須神社・滝岡温泉神社・鴻巣馬頭観世音・福原八幡宮・福原千勝神社・福原諏訪神社・福原餅つき唄・光厳寺・光明寺・直笠神社・岡葉師堂ほか
	下野の水車習俗調査	1992	揚水水車（黒羽町川田）
	栃木県民俗芸能緊急調査	1996～1997	城嶽舞・金丸八幡宮永代々神楽・羽田太々神楽・大宮温泉神社太々神楽・両郷磯上太々神楽・阿波大杉・四調目囃子・須賀川中組囃子・檀山松葉流囃子ほか
	栃木県祭り・行事調査	1998～2000	大田原屋台祭りほか
	緊急地域雇用対策特別事業「史実や言い伝え」調査	1999～2000	旧大田原市内民俗資料
	大田原市歴史民俗資料館収集資料電子データ化業務委託	2012	歴史民俗資料館所蔵資料（民具）・菱沼家資料・藤田家資料
	大田原市無形民俗文化財映像記録保存事業	2016～2017	大田原の盆踊り唄・正浄寺の雅楽・黒羽餅つき唄・天祭（八龍神社）・大捻縄引き・太々神楽（八龍神社）
	民俗ヒアリング調査（地域計画作成のための調査）	2018～2019	佐久山地区・親園地区・金田北地区・湯津上地区・狭原地区・両郷地区
	変容の危機のある無形の民俗文化財の記録作成の推進事業における調査	2019	大捻縄引
	市史編さん民俗部会調査	2019～	市内全域

類型	調査事業	調査年度	大田原市の対象文化財	
④記念物	近代の庭園・公園等に関する調査研究	2009～2011	雲巖寺庭園	
	名勝に関する総合調査－全国的な調査（所在調査）	2011～2012	雲巖寺・下侍塚古墳	
	とちぎの名木100選調査	～1989・1996・2005	成田山のゆずりは・高性寺のかや・滝岡温泉神社のあかがし・大野室のいちょう・磯上のやまざくら・西行桜	
	栃木県自然環境基礎調査	1993～1999	地形・地質・植生・植物・鳥類・哺乳類・魚類・両生類・爬虫類・土壤動物・昆虫・変形菌類・菌類・地衣類ほか	
	栃木県植物目録調査	1995～1996	市内植物	
	栃木県植物目録改訂版作成調査	1996～	市内植物	
	湯津上村湧水調査（湯津美花園推進委員会）	1997	旧湯津上村内の湧水26か所	
	栃木県湧水調査（栃木県農務部土地改良課）	～1999？	旧大田原市内の湧水218か所	
	「天狗王国ゆづかみ」名木調査	1998～2000	旧湯津上村内の名木22か所	
	栃木県版レッドリスト作成調査	2001～	地形・地質・植生・植物・鳥類・哺乳類・魚類・両生類・爬虫類・土壤動物・昆虫・変形菌類・菌類・地衣類・藻類・蘚苔類	
	多面的機能支払交付金協定対象区域内湧水地調査（大田原市農林整備課）	～2014	市内の湧水38か所	
	名勝「おくのほそ道の風景地 八幡宮（那須神社境内）」保存活用計画書作成調査事業	2019	おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）	
	市史編さん自然部会調査	2019～	地形地質・種子植物・シダ類・魚類・鳥類・昆虫等	
	おおたわら令和の名木選事業	2019～	市内の名木30か所	
	埋蔵文化財	栃木県中世城館跡分布調査	1979～1981	久保館・小滝館・荒井館・水口館・大田原城・高館城・白旗城・築地館・黒羽城・金丸氏要害・佐良土館ほか
		栃木県重要遺跡基本調査（第1期）	1979～1981	長者ヶ平遺跡・福原城跡・荻野目城跡・上侍塚北古墳・品川台遺跡・長谷田遺跡・薬師平遺跡・川木谷遺跡ほか
		栃木県重要遺跡基本調査（第2期）	1982～1985	福原北岡城跡・薄葉大塚古墳・小松原遺跡・白岩古墳群・不動院裏遺跡・岩谷要害跡・大雄寺跡
栃木県重要遺跡現況確認調査		2012～2013	栃木県重要遺跡基本調査（第1期・第2期）に同じ	
大田原市内遺跡分布調査		2014～2016	市内458か所	
市内埋蔵文化財の保存目的発掘調査		2019～	小松原遺跡・宮沢遺跡・高の巣遺跡	
各種開発に伴う発掘調査等		随時	市内各地	
⑤文化的景観	-	-	-	
⑥伝統的建造物群	佐良土門前町並屋号宿づくり事業調査	1989～1991	字古宿・田宿・仲宿・銀内の内149件	
	黒羽蔵めぐり調査（那珂川・黒羽あゆめの会）	2017	字黒羽田町・黒羽向町の内38件	
	旧大田原城下・市街地建造物調査（地域計画作成のための調査）	2018～2020	旧大田原城下・市街地を中心に築50年以上の建造物236件	
⑦その他	近代土木遺産調査	2001～2003	奥州・陸羽街道・日光北街道・那珂橋・旧東野鉄道跡	
	栃木県歴史の道調査（第2期）	2008～2010	奥州道中（佐久山～乙連沢）	
	栃木県歴史の道調査（第3期）	2011～2014	会津西街道・大田原通会津道・原街道	

(2) 悉皆調査

これまでの文化財に関連する調査状況を、文化財の6類型に基づき、市内の3地区（旧大田原市・旧湯津上村・旧黒羽町）ごとに整理した。まず、調査報告書や文化財に関連する刊行物等の文献上で未指定のものも含む文化財を確認し、文化財リストを作成した。文献上で確認した文化財の件数も併せて示す。

調査状況を整理した結果、天然記念物（湧水・樹木）・民俗・建造物に関する確認調査があまり行われていなかったため、地域計画作成にあたり、悉皆調査を行った。天然記念物では、随時湧水調査を実施したほか、平成29～30年度には指定されている全ての樹木の診断を行い、それと並行して、平成30～令和元年度には市民団体と共同で指定外の樹木調査も実施した。また、民俗では、平成30～令和元年度に市内6地区でヒアリング調査を実施し、令和2年度も市史編さん事業で調査を続けている。さらに、建造物では、平成30～令和2年度に旧大田原城下に見られる築50年以上の建造物について現存状況の確認調査を行った。

しかし、近現代を中心とした建造物や指定文化財等に限られる美術工芸品等の把握についてはほとんど進んでいない状況であり、また、本市にとって重要な存在である古代官道東山道駅路や磐上駅家については所在が未確認であり、今後それらの悉皆調査や詳細調査が必要である。

文化財調査状況一覧

○：ほぼ調査済み（文化財をリスト化）、

△：調査途中（過去に調査済み、刊行物あり）、×：未調査（調査範囲が限定的）

区分〔分類〕	市のリスト	確認 件数	指定等 件数	調査状況				
				旧大田原市	旧湯津上村	旧黒羽町		
①有形文化財	建造物	社寺建築・構造物（神社・寺院・堂・鳥居・山門等・灯籠など）	112	14 (うち登録1)	×	×	×	
		社寺以外の建築（民家・店舗、公共施設）	96		×	×	×	
		その他（橋梁・鉄道・戦争遺産等）	15		×	×	×	
		石造物	記念碑		323	△	×	△
			石仏		1,890	△	×	△
			道標		113	△	×	△
			板碑・五輪塔・宝篋印塔		48	×	×	×
			官修墳墓		12	×	×	×
墓石（近世・近代）	7,695	○	○	○				
美術工芸品	絵画	絵画	19	19	×：指定のみ	×：指定のみ	×：指定のみ	
		絵馬	213		×	×	×	
	彫刻	彫刻	23	23	×：指定のみ	×：指定のみ	×：指定のみ	
	工芸品	工芸品	22	23 (うち認定2)	×：指定のみ	×：指定のみ	×：指定のみ	
	書跡・典籍	書籍・典籍	10	10	×：指定のみ	×：指定のみ	×：指定のみ	
	古文書	古文書群	122	9	×：追跡未	×：追跡未	×：追跡未	
		古文書	未		×	×	×	
	考古資料	考古資料群	26	5	△	△	△	
		考古資料	未		×	×	×	
	歴史資料	絵図	31	10	△：城絵図中心	×	△：城絵図中心	
古写真・絵葉書		1,291	△：市史		△：市史	△：市史		

区分〔分類〕	市のリスト		確認 件数	指定等 件数	調査状況			
					旧大田原市	旧湯津上村	旧黒羽町	
②無形文化財	工芸技術	工芸技術	1	1	×：指定のみ	×：指定のみ	×：指定のみ	
③民俗文化財	無形民俗	衣食住	10	17 (うち 国選択 1件)	△：市史	△：市史	△：市史	
		生業	26		△：市史	△：市史	△：市史	
		信仰（含人生儀礼・祭礼）	203		△：市史	△：市史	△：市史	
		年中行事	177		△：市史	△：市史	△：市史	
		芸能	5		△：市史	△：市史	△：市史	
		民俗技術	72		△：市史	△：市史	△：市史	
		その他	社会組織		31	△：市史	△：市史	△：市史
			催事（近年の祭りやイベント）		7	△：市史	△：市史	△：市史
			口承伝承		91	△：市史	△：市史	△：市史
	民謡（民俗的なもの）		228	△：市史	△：市史	△：市史		
有形民俗	民具（衣服・器具・家具等）	1,172	2	×：歴史民俗資料館所蔵のみ	×：歴史民俗資料館所蔵のみ	×：歴史民俗資料館所蔵のみ		
④記念物	遺跡	古墳・古塚	96	40	○	○	○	
		城館跡	66		○	○	○	
		集落跡・社寺跡・散布地	301		○	○	○	
	名勝地	庭園・公園・橋梁・山岳・並木・遊歩道	12	1	×：指定のみ	×：指定のみ	×：指定のみ	
	動物・植物・地質鉱物	動物・植物	動植物	378	36	△：市史編さん調査中	△：市史編さん調査中	△：市史編さん調査中
			樹木・古木	206		○：指定木診断＋名木調査	○：指定木診断＋名木調査	○：指定木診断＋名木調査
		地質鉱物	ボーリングデータ	91		△：市史編さん調査中	△：市史編さん調査中	△：市史編さん調査中
鉱物			未	×		×	×	
その他		地形・気候 湧水	未 323	×		×	×	
⑤文化的景観	里山・用水路・田畑・農場・牧場	15	0	×	×	×		
⑥伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村	5	0	△：大田原城下・市街地	×	×		
⑦その他	小字地名	3,032	—	○	○	○		
	人物	495	—	×：部分的	×：部分的	×：部分的		

3 文化財の概要と特徴

(1) 文化財の概要と特徴

①有形文化財

建造物：

那須神社本殿・楼門附銅棟札（本殿附）・石燈籠・手水舟（国指定／建造物）や、大雄寺（国指定／建造物）をはじめとし、近世の社寺建造物が指定文化財となっている。この他、大田原城下や黒羽城下であった市街地には未指定の歴史的建造物が多く遺り、足利銀行黒羽支店（旧黒羽銀行）（国登録／建造物）等の建造物や近代化遺産等がある。

美術工芸品：

那珂川流域や畿内と東北を結ぶ古代官道の東山道駅路が縦断する交通要衝地として、原始・古代の遺跡が数多く分布し、そこからの貴重な出土遺物も多い。本市唯一の国宝である那須国造碑はその筆頭である。中世には那須氏・那須衆（福原氏・大田原氏・大関氏ら）といった多くの氏族が群雄割拠した地であることから、その菩提寺となった寺院に伝来した仏像や仏具といった美術工芸品も多く遺されている。

②無形文化財

那須野が原と八溝山地の自然風土が生み出した暮らしの技術が芸術へと昇華され、竹工芸が指定文化財となっている。この他にも、里地・里山の暮らしの技術として、那珂川の鮎の伝統的な漁法や、醸造技術などが今日まで伝えられている。

③民俗文化財

有形民俗文化財：

近世の大田原藩・黒羽藩の暮らしの様子を伝える民俗資料が指定文化財となっている他、当時の生活用具や生業に係る道具類が多く伝えられている。

無形民俗文化財：

市域が那須野が原と八溝山地、近世には大田原藩・黒羽藩、幕府領・旗本領とそれぞれの支配下にあったことから、地域ごとの文化風土と結びついた祭礼・芸能が行われてきた。



大雄寺



黒羽城鳥瞰図



竹工芸



城鍛舞

④記念物

遺跡・名勝地：

原始・古代から南関東や東北地方、北陸地方など周辺地域との交流地として栄えた集落跡等の遺跡や古墳等の埋蔵文化財が多く、東山道駅路をはじめとする「歴史の道」が整備され、那須地方最大規模の侍塚古墳（国指定）等が残されている。中世以降も那須氏・那須衆らが群雄割拠し、築造した城館や寺院跡、菩提寺等が数多く伝えられている。また、松尾芭蕉が黒羽に長期滞在し、おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）（国指定 / 名勝）等の巡見した各地の風景が今日まで伝えられ、名勝となっている。

動物・植物・地質鉱物：

那須野が原と八溝山地等の豊かな自然があり、中でも本市の特徴的な存在である湧水は希少な動植物の生息地となっている。その他、社寺に伝えられる古木・名木等が天然記念物に指定されている。

⑤文化的景観

選定されている文化財はないが、那須野が原や那珂川・箒川による河岸段丘の台地における里地の暮らし、八溝山地における里山の暮らしを反映した風景を見ることができる。那須野が原は明治時代以降の開拓によって大規模農場が整備され、今も那須疏水（品川堀）等で生産が続けられている他、御亭山緑地公園からは、開拓の舞台である那須野が原を一望できる。八溝山地の麓、須賀川では茶畑が残っており、黒羽茶の生産が行われている。

⑥伝統的建造物群

選定されている地区はないが、大田原城下や黒羽城下には歴史的建造物が点在し、往時の町並みを見ることができる。また、奥州道中（奥州街道）等の街道整備により賑わった佐久山や大田原の宿場町、門前町の佐良土にも町並みが残されている。



下侍塚古墳



ザゼン草群生地



御亭山緑地公園から見た那須野が原



旧大田原城下に遺る建造物

(2) 地区別の文化財の特徴

市町村合併前の旧市町村単位で区分した地区別に見ると、それぞれの自然的、歴史的な環境の違いから文化財の特徴を捉えることができる。それらを整理すると、以下のとおりである。

下記の①～③の地区においては、後述する第6章において文化財が集中する区域として設定する「文化財保存活用区域」にもつながっていく。

①大田原地区における文化財の特徴

那珂川と箒川との間に広がる那須野が原（那須扇状地）の扇央から扇端を占める地区。点在する湧水付近には希少な動植物が生息し、縄文時代を中心とした遺跡の分布が見られる。中世以降の那須氏と那須衆である大田原氏・福原氏らによって形成された城館や寺院、一度も改易・転封されなかった大田原藩の支配のもとで花開いた城下の文化、奥州道中（奥州街道）に形成された宿場や街道の風景、近代以降の大規模な農業開拓と近代化の歴史を見ることができる。

②湯津上地区における文化財の特徴

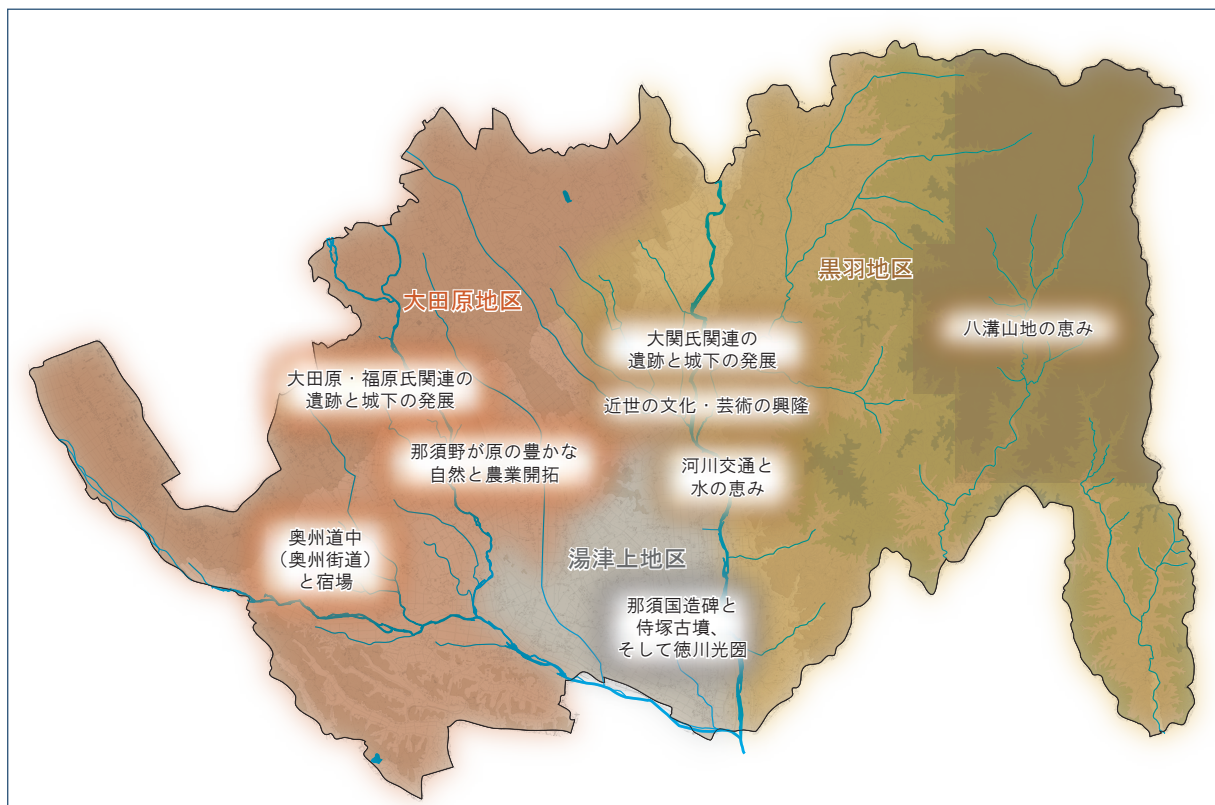
那須野が原（那須扇状地）の扇端を占める、那珂川と箒川の合流点付近の地区。南関東・東北など各地方との交流の様相を示す縄文時代の拠点的な集落跡、栃木県内屈指の大型の古墳や東山道駅路とその関連遺跡など、東北地方への玄関口として発展してきた本市の歴史文化の特徴を示す遺跡が集積している。那須国造碑（国宝 / 古文書）や侍塚古墳（国指定 / 史跡）は、近世に徳川光圀の発掘調査によって再発見され、新たな歴史的価値を形成している。

③黒羽地区における文化財の特徴

那珂川周辺からその東側の八溝山地一帯に広がる地区。八溝山地と那珂川によってもたらされた自然の恵みを活かした生活文化、一度も改易・転封されなかった近世黒羽藩（大関氏）の支配のもとで形成された歴史と文化が色濃く残っている。城下の町並みや古刹、歴史資料のみならず、藩校（作新館）や、「おくのほそ道」を旅した松尾芭蕉の黒羽滞在によって培われた精神文化も継承されている。

地区別の文化財の特徴

特 徴		特徴を構成する主な要素
大田原地区	大田原・福原氏関連の遺跡と城下の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・大田原・福原氏関連の城館跡や寺院（菩提寺） ・大田原城跡と城下町、佐久山陣屋跡 ・大田原氏（大田原藩）・福原氏関連の祭や芸能
	奥州道中（奥州街道）と宿場	<ul style="list-style-type: none"> ・奥州道中（奥州街道）、大田原宿・佐久山宿・八木沢陣屋 ・宿場町の名残や関連資料
	那須野が原の豊かな自然と農業開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・水田を活用した農業 ・旧藩士や富豪による開拓・用水 ・那須駒から始まる産馬 ・湧水と希少な動植物
湯津上地区	那須国造碑と侍塚古墳、そして徳川光圀	<ul style="list-style-type: none"> ・那須国造碑、侍塚古墳群、周辺古墳群 ・東山道駅路とその付属施設磐上駅家 ・光圀の発掘調査に関連する史料
黒羽地区	大関氏関連の遺跡と城下の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・黒羽城跡と城下町、大関氏関連の寺院（菩提寺） ・大関氏（黒羽藩）関連の祭や芸能
	近世の文化・芸術の興隆	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾芭蕉と関連の旧跡や句碑 ・小泉斐等の文化人や作品 ・藩校（作新館）や寺子屋
	河川交通と水の恵み	<ul style="list-style-type: none"> ・那珂川の水運や黒羽河岸 ・漁業（鮎）や金の採掘、醸造、水力発電
	八溝山地の恵み	<ul style="list-style-type: none"> ・林業、栃木県産木材「とちぎ八溝材」 ・黒羽茶



第4章 歴史文化の特徴

1 歴史文化の特徴

(1) 大田原市の歴史文化の特徴

大田原市の歴史文化は、東北地方への玄関口、他の地方と東北地方との結節点としての立地特性に大きく影響されている。

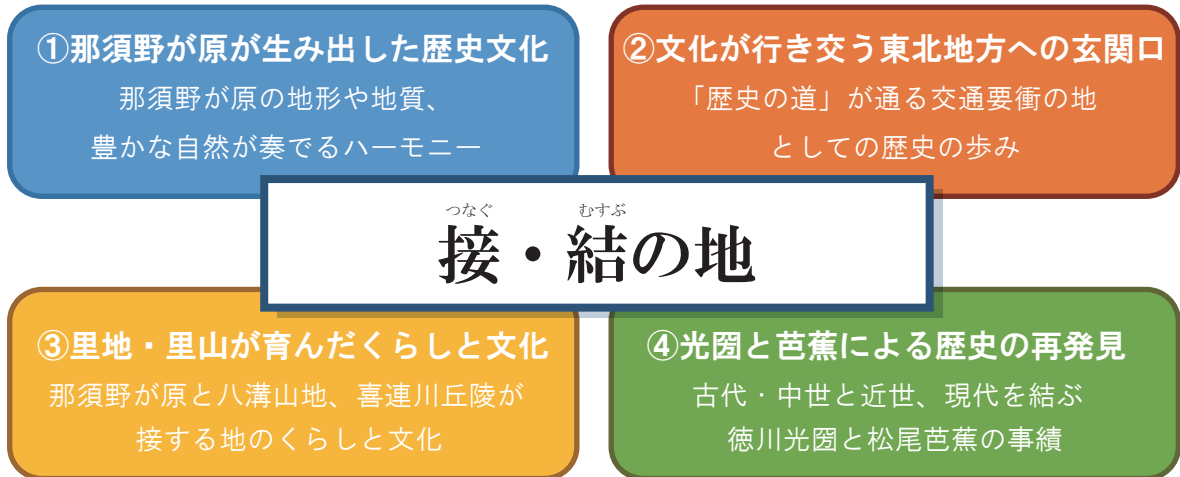
古代から現代まで、京や江戸・東京など時の中心地と東北地方を結ぶ地にあり、地形的にも那須野が原（那須扇状地）と八溝山地と喜連川丘陵が接する地である大田原市の立地と自然が、異なる地域、異なる文化への接触とそれらを結ぶ結節点としての歴史を刻み、独自の風土と文化を育んできた。

大田原市の歴史文化全体の特性

項目		特徴	大田原市の歴史文化全体の特性 接・結の地
社会的環境		<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏と東北圏の結節点 ・栃木県北部の拠点地域 ・栃木県内トップクラスの農業生産 ・関東きっての良材「とちぎ八溝材」の産地 	
自然環境		<ul style="list-style-type: none"> ・那須野が原（那須扇状地）と八溝山地と喜連川丘陵が接する地、境を流れる那珂川と箒川 ・多くの湧水と周囲に形成された湧水湿地 ・ミヤコタナゴ・イトヨ・ザゼンソウ等の貴重な生物の生息地 	
歴史的変遷	原始・古代	<ul style="list-style-type: none"> ・那珂川流域、中通り地域、会津地域、磐城地域、置賜地域、糸魚川地域等、多くの地域との交流を示す縄文文化 ・県内最大級の前方後方墳である上侍塚古墳、下侍塚古墳 ・都と東北地方を結ぶ東山道駅路の整備と那須国造碑の造立 	
	中世	<ul style="list-style-type: none"> ・関東・奥州往還の奥大道沿いの交通の要衝 ・交通の要衝としての地の利を背景とした那須氏と那須衆（福原氏・大田原氏・大関氏ら）による支配と攻防 ・豊臣秀吉による那須氏改易と福原城での復活 	
	近世	<ul style="list-style-type: none"> ・奥州道中（奥州街道）、関街道などの街道整備、那珂川の河岸設置 ・黒羽藩、大田原藩、佐久山等旗本領・幕府領の成立と支配 ・街道沿いの佐久山宿、大田原宿の賑わい ・徳川光圀による侍塚古墳の発掘と那須国造碑の保存 ・松尾芭蕉のおくのはそ道の旅と交流 	
	近現代	<ul style="list-style-type: none"> ・戊辰戦争をめぐる動揺と大田原城下の被害 ・大田原を栃木県北部の政治・経済・文化・教育の中心地とした県庁大田原支庁の設置 ・合併前の旧市町村を結ぶ東野鉄道の開設と新たな地域の発展 ・那須野が原の開拓 ・合併による大田原市の誕生 	
くらしと文化		<ul style="list-style-type: none"> ・扇状地・街道沿い（大田原、湯津上）と山間部（黒羽）のくらし、城下町の名残 ・各地域の文化を伝える祭りと民俗芸能 ・自然と風土を活かした知恵と技術 	

こうした大田原市の歴史文化の特徴から、大田原市の歴史文化全体の特性を「接（つなぐ）・結（むすぶ）の地」と表すことができる。

大田原市の歴史文化の特徴



①那須野が原が生み出した歴史文化

日本有数の扇状地形を誇る那須野が原の河岸段丘や分離丘陵がもたらした雑木林や肥沃な台地。さらには、数多くの湧水や小川。そして、八溝山地の裾野を流れる那珂川と喜連川丘陵をなぞる箒川。こうした豊かな自然環境が大田原市の歴史文化を生み出す母体となり、そこに生きる多様な生物たちが奏でる命のハーモニーは、大田原市の誇るべき歴史文化の特徴の一つである。

那須野が原の扇状地形と湧水

大田原市中西部は扇状地である那須野が原にあり、那須野が原の伏流水は扇央と扇端の境界である標高220 m付近で湧出して南東方向に流下し、那珂川や箒川に合流する。同様に扇央から扇端にかけて湧水地が各所に存在し、それらは「頭（かしら）無（なし）」や「出（で）釜（がま）」とも呼ばれている。それらの周辺では原始・古代の遺跡も数多く発見されており、湧水は今でも営農や生活などのために利用され、また、伏流水を活用する酒蔵も多く立地している。

湧水地付近に生育する希少な植物

湧水地に続く川沿いには、イブキシダ・オオキジノオ・ミズニラ・ヒメザゼンソウ等の希少な植物が記録されている。市内に分布するザゼンソウも地元の保存会により大切に守られている。湧水地の水源の湿地に生育するビャッコイは現在白河市表郷にのみ確認されているが、牧野標本館に収蔵されているタイプ標本は渡辺留吉氏により明治38年（1905）1月3日に大田原市内で採集されたものである。

湧水地に生息する希少な動物

湧水の流れる小川にはミヤコタナゴやイトヨが生息している。ミヤコタナゴは国天然記念物に指定されているほか、イトヨの生息地は県指定の保護地となっている。両種の生息地は「ふるさといきものの里100選（環境庁自然保護局）」にも選定されている。

湯津上地区や金丸原周辺で繁殖するケリは分布が限られている鳥であるが、農耕地に営巣するため農作業による影響を大きく受けて生息しており、人とケリとの共存が望まれる。

②文化が行き交う東北地方への玄関口

大田原市及び周辺地域では、縄文時代から那珂川流域、福島県中通り・会津・浜通り地域、山形県置賜地域などの東北地方各所や、新潟県の糸魚川などの北陸地方との交流を示す遺物が発見されており、古墳時代には近畿・東海地方のほか、山陰・北陸地域と共通する文化要素も見られる。

律令時代の東山道駅路、中世の関東・奥州往還「奥大道」、近世の奥州道中（奥州街道）・原方街道・日光北街道といった「歴史の道」が本市を通過し、各時代に東北地方と時の中心地を結ぶ交通要衝の地としての役割を担っていたことが、この地の歴史文化に刻まれている。さらに、那珂川や箒川などを利用した水運による流通経済や文化交流も、本市の特色ある文化風土を育んできた。



縄文土器 平林真子遺跡出土

縄文時代の拠点遺跡と華やかな土器文化（原始）

長者ヶ平遺跡や縄文時代中期住居跡（平林真子遺跡）（市指定 / 史跡）、岩舟台遺跡（市指定 / 史跡）等の大規模集落から発掘された数々の遺構、遺物。精巧華麗な土器をはじめ、東北地方や北陸地方との交流を物語る遺物が多数出土している。

那須国造碑と侍塚古墳（古代）

那珂川中流域の湯津上地区を中心に多くの前方後方墳が築造された古墳時代。中でも侍塚古墳（国指定 / 史跡）は那須地方最大の古墳である。また、近隣では四隅が突出し堀がめぐらされた特異な豪族居館跡や近畿・東海系の土師器等、国家形成に係る広範な地域との交流を示す遺構・遺物が見られる。

律令時代には都と東北地方を結ぶ東山道駅路が整備され、東北地方への玄関口としての重要性がますます高まった。那須国造から評督となった那須直章提を偲び祀ったことが刻まれている那須国造碑（国宝 / 古文書）は、古代のこの地域の歴史の一コマとしてだけでなく、日本、さらには東アジアの歴史をも物語る貴重な文化財である。

那須与一にはじまる那須氏と那須衆（中世）

中世の大田原市域は、那珂川流域や関東・奥州往還の奥大道沿いの交通要衝地となり、往還する人馬や物流による収益を得ようと、那須氏や那須衆の支配と攻防の地となった。

下野那須氏発展の基礎を築いたのは弓箭の名手として知られる那須与一である。那須氏・那須衆により築造された城館の跡や那須氏・那須衆建立の寺院が市内に多く残る。

奥羽に臨む大田原藩・黒羽藩と宿場の賑わい（近世）

奥州道中（奥州街道）・原方街道・日光北街道・関街道をはじめとする街道の整備と那珂川河岸の開設により、交通の利便性がさらに高まった江戸時代。中世の那須衆に連なる大田原氏・大関氏の統治のもと、大田原藩・黒羽藩は奥羽に臨む要衝の地として発展した。また、奥州道中（奥州街道）沿いの佐久山宿や大田原宿も人馬の往来で賑わった。大田原藩・黒羽藩の城下町や宿場には往時をしのばせる文化財が数多く残されている。

幕府側から新政府軍側に転じた戊辰戦争とその後（近現代）

明治初年の戊辰戦争では大田原藩・黒羽藩とも幕府側から新政府軍側に転じた。東北地方の玄関口としての立地ゆえに大田原城下は旧幕府軍の襲撃によって大きな被害を受けたが、その立地によって明治7年（1874）に栃木県庁大田原支庁が設置され、大田原が那須郡、栃木県北部の政治・経済・文化・教育の中心地となった。

那須野が原の開拓と近代化（近現代）

那須野が原の開拓は、明治維新を先導した維新の志士たちが西欧の進んだ農業技術を知り、これに触発されたことから始まった。明治時代に華族となった彼らは私財を投じて開拓を行った。大田原市でも、西郷従道（隆盛の弟）による加治屋開墾（後に西郷農場）や品川弥二郎による品川開墾（後に傘松農場）が開設された。品川開墾は後に品川弥二郎と平田東助の共同経営となり、明治27年（1894）に「傘松信用組合」を設立、明治33年（1900）の産業組合法（産業組合は後の農協などの前身）制定のさきがけとなった。

大規模農場の開拓と、開拓者の飲用水の必要から那須疏水が整備され、沼野田和（那須塩原市）から湯津上にかけて第二分水（品川堀）が通っている。

合併前の旧市町村を結ぶ東野鉄道（近現代）

大正7年（1918）から同13年（1924）にかけて旧大田原市・黒羽町・湯津上村を結ぶように開通した東野鉄道。日本の大動脈である日本鉄道奥州線（現東北本線）に接続して、八溝地域の林産資源や沿線の農産物を輸送し、地域の近代化を推し進める原動力となった。戦前は金丸原演習場の玄関口として、軍事物資輸送の役割も担った。黒羽以南は昭和14年（1939）に、同43年（1968）には全線が廃線となり、自動車輸送の時代へと転じていったが、現在も鉄道跡が市民の憩いの場になっている。



那須氏墓碑



一里塚

③里地・里山が育んだくらしと文化

那須野が原の扇状地形が生み出した分離丘陵や那珂川・箒川による河岸段丘の台地には、牧畜や雑木林がもたらす腐葉土で肥えた畑地がある。平地には、扇状地の伏流水や複数の河川による用水を利用した水田が広がる。八溝山地に位置する黒羽地区は近世から林業が盛んであり、那珂川の水運を利用して木材が江戸に運ばれた。現在も、関東きっての良材「とちぎ八溝材」を産出している。

このような、大田原市の里山・里地のくらしが、多数の温泉神社や神仏混淆を今に伝える祭礼・民俗芸能、そして、多彩な伝承文化を育んできた。



大捻縄引

那須野が原と八溝山地が織りなす里山のくらし

那須野が原の分離丘陵や那珂川・箒川による河岸段丘の台地は、かつては陸稲・麦・葉煙草・養蚕・唐辛子栽培など、多様な畑作地域であった。現在は「とちぎ三鷹の里」（唐辛子）「ゆづかみ梨街道」「天狗ニラ」、そしてアスパラガス・ウド・トマト・イチゴ、および「とちぎ和牛」など、大田原市だけではなく栃木県を代表する農産物を生み出している。八溝山地は、「とちぎ八溝材」の銘木を産出し林業を支えるとともに、麓では茶産地として黒羽茶が生産されてきた。

那珂川や箒川は、関東の清流として知られ「那珂川鮎街道」として漁撈文化を形成してきた。那須野が原が形成した伏流水は旨い「大田原の地酒」も醸し出している。

里山のくらしと歴史の道が響き合う信仰・祭礼・民俗芸能・伝承

北に那須岳・高原山、東に八溝山、西に男体山を望む大田原は、古代東山道・中世秀衡街道・近世奥州道中（奥州街道）・原方街道・日光北街道などの歴史の道と共鳴して、山岳信仰や民間信仰を形成した。旧道に残る石仏や道標には、豊かな歴史文化が刻まれている。

那須野が原が形成した湧水は、「頭無」や「出釜」ともよばれ、水神信仰とも結びついて多くの温泉神社を残した。夏には「雷様（ライサマ）」と呼ばれるほどの雷を発生させるため、各地に加茂神社（ナルイサン）が残り、八溝山は「嵐除け」の信仰でも親しまれてきた。

起伏に富んだ丘陵や湧水地は、古代から近世の各時代における「歴史の道」とも響き合って、玉藻の前伝説（殺生石伝説）や那須与一・西行法師に関わる「蹴爪のない雲雀伝説」、あるいは「八溝山の岩嶽丸伝説」・「御亭山の綾織が池伝説」など、多彩な伝承文化を生み出した。

各神社に奉納される神楽や獅子舞も、那須野が原や八溝山地の里山のくらしが生み出した生活文化である。特に、獅子舞は「一人立三匹獅子舞」として、関東における民俗芸能の北限を示している。佐良土地区に伝えられる「大捻縄引」は、神仏混淆による「光丸山大祭」とともに、古代・中世の歴史伝承を織り込んで受け継がれている。奥州道中（奥州街道）の金燈籠通りを練り歩く屋台祭りや大田原神社に奉納される太子祭は、大田原城下の都市文化を現代に伝える祭礼である。餅つき唄（福原）（市指定/無形民俗）・正浄寺の雅楽（県指定/無形民俗）・石上の城鉞舞（県指定/無形民俗）・羽田の天祭（八龍神社）（市指定/無形民俗）等も、里山のくらしと歴史の道が醸し出した生活文化と言えよう。

人間国宝誕生につながる竹工芸文化

北那須地域は、良質な竹が生育する地域であることから、古くから日常生活用具としての竹細工が盛んであったが、一方で、芸術としての竹工芸へと昇華させる人たちが現れた。黒羽の鈴木峰斎に始まり、その鈴木に学んだ大田原の八木澤啓造は、竹芸の技術の伝授、普及に努め、多くの竹工芸家を輩出してきた。その系統から、勝城蒼鳳、藤沼昇の2人の人間国宝（重要無形文化財保持者）を誕生させるまでに至っている。こうした土壌を背景に、大田原市では全国から竹工芸作品を募集・展示・表彰する全国竹芸展の開催を重ねてきている。

④光圀と芭蕉による歴史の再発見

湯津上地区に所在する国宝那須国造碑は、江戸時代に磐城の僧侶（円順）によって発見され、徳川光圀によって調査・保護された。光圀は碑文に記された那須直韋提・意志麻呂父子の墓と推定した上侍塚古墳と下侍塚古墳の発掘調査を家臣の佐々宗淳に命じた。これは日本で最初の学術的な発掘調査であった。

また、松尾芭蕉は元禄2年（1689）、奥州・北陸を旅した際に黒羽に14日間滞在し、その間に黒羽や大田原の名所旧跡を巡っている。金丸八幡宮（那須神社）では、『平家物語』で弓の名人として描かれた那須与一と神社の由緒を知り、「感応殊しきりに覚えらる」とその旅の紀行文である『おくのほそ道』に記している。

これら光圀や芭蕉の事績により、大田原市の古代・中世の歴史遺産や由緒に再び光が当てられ、現代に生きる私たちへと結ばれた。これは大田原市の歴史文化の中で特筆すべき特徴である。



上侍塚古墳



那須神社楼門

江戸の発掘調査と史跡整備 徳川光圀と那須国造碑・侍塚古墳

徳川光圀は、大日本史編纂事業の中で、水戸藩領の小口（現那珂川町）の大金重貞が記録した『那須記』の中に那須国造の碑文を見た。碑文に記された「那須国造直韋提」を「那須宣事提」という官職名と判読したため、その碑文の主の墓碑を求めて碑の下の塚と上・下侍塚を佐々宗淳に命じて発掘させる。しかし、当初の目的が達成できなかつたと判断し、出土遺物を絵師に記録させた後、松の木箱に入れて再び埋納して墳丘も復旧し、保存のために小松を植えさせた。また、古墳発掘に先立ち碑（那須国造碑）に鞘堂を建てて敷地内を水戸藩領とした。

これら一連の事業は、現代においてこそ当然の文化財保護事業であるが、江戸時代にあつては画期的な学術調査・史跡整備の実例であり、世界に誇る文化財保護の嚆矢として発信すべきものである。

松尾芭蕉「おくのほそ道」の旅と黒羽

松尾芭蕉は、元禄2年（1689）の『おくのほそ道』の旅の中で長期滞在（13泊）した「那須の黒羽」（大田原市黒羽地区）において、まず滞在3日目となる4月5日に雲巖寺（臨済宗）を訪れ、参禅の師仏頂和尚がかつて修行していた庵を実見し、「木啄も庵は破らず夏木立」の一句を詠んでおり、後にこの句は『おくのほそ道』に掲載されることとなった。

芭蕉の黒羽滞在中の特筆されるべき2点目は、黒羽地内に残る中世の伝説に触れ、中世の史跡を巡視したことであり、4月9日には光明寺（修験道の寺院）を訪れ、ここで着想を得たことにより、『おくのほそ道』には「夏山に足駄を拝む首途かな」の一句が配されることとなった。4月12日には浄法寺桃雪の案内により「犬追物の跡」・「那須の篠原」（歌枕）・「玉藻の前の古墳」を訪れ、同13日には津久井翹輪の案内で金丸八幡宮（那須神社）を訪れ、那須与一の話を知っている。

3点目は、余瀬の鹿子畑（当時は岡）翠桃邸において地元の俳人らとともに歌仙を巻いたことであり、芭蕉・曾良・桃雪（秋鴉）・翠桃の他、翹輪・（森田）二寸・（蓮実）桃里という3人の庶民も参加していた。なお、この作品は、芭蕉が『おくのほそ道』の旅において各地の俳人らと作った連句の中の第一作となっている。芭蕉は黒羽滞在中、文化的にも充実した日々を送っていたものと考えられよう。

第5章 文化財行政に関する本市の目標と方針

1 文化財の保存・活用に関する課題

(1) 保存・継承・管理における課題

①保存管理のための文化財の現状把握

文化財の保存管理の基本となる文化財台帳（データベース）が未整備である。指定文化財のリストや埋蔵文化財に関する埋蔵文化財包蔵地分布地図と遺跡台帳は存在するが、未指定文化財を含めた全ての種別の文化財の現状把握や台帳の整備については、市史編さんの取り組みとも連携して途上であり、未だ活用できるような状況には至っていない。

②指定文化財の修理・保存措置

重要と認められ指定文化財となっていながら、修理や保存措置が手つかず、あるいは未解決になっている文化財が存在する。

大田原市の文化財の中でもその特性を示す国宝那須国造碑の保存施設である鞘堂や、那須神社本殿をはじめ拝殿等の社殿群の修理と、杉並木や社叢の適切な環境整備が必要となっている。総茅葺屋根の大雄寺は定期的な茅葺屋根の葺き替えも必要である。

また、羽田地区における国天然記念物のミヤコタナゴ生息地保護区では、長期にわたりその生息が確認できないことから、生息環境の改善を進めながら再導入の取り組みが進められている。県・市指定のイトヨも生息地である湧水の濁水等の問題を抱える。

樹木等の天然記念物の一部は、暴風雨や病害虫、老齢などにより枯死、倒木の危機にさらされている。さらに、そのことによって、周囲への物的、人的な被害を生じる恐れもあり、未然に防止する対策を講じる必要がある。

③文化財の滅失や破壊への対策

埋蔵文化財については、各種開発との調整機会が頻繁になっており、職員がその対応に追われている状況にある。その周知も必ずしも十分とは言えないことから、法に基づく開発に伴う必要な届出なく埋蔵文化財が破壊され、滅失してしまっている恐れもある。

また、未指定文化財については、指定文化財のように保存に対する制度的な裏付けがないため、滅失や破壊の危機にあるものが一定数存在することが予想される。特に維持管理に費用がかかる歴史的建造物や、生活様式の変化や高齢化による影響を受けやすい民俗文化財はその傾向が高く、それらの現状を把握する必要があるとともに、適切な保存措置が必要である。

④文化財保存団体の存続

伝統工芸や伝統芸能等の無形文化財は、人によってそれらの技や技術が継承されていくため、それらを存続していくには後継者の存在が絶対的に不可欠である。後継者を育成するために必要な保存会等が、今後も安定的に継続して活動できるような環境づくりが必要である。

⑤文化財の防災・防犯対策

防災・防犯のための設備（火災報知器、放水銃、防犯カメラ等）については、指定文化財等を保管する資料館等の公共施設においては相応の設備が整備されているものの、それ以外は一部を除き整備されていないものが多い。特に、個人や寺社所有の指定文化財（主として工芸

品等の有形文化財)、未指定文化財については、それぞれの判断に委ねているのが実情であり、防災・防犯の実態がよく把握されていない。

(2) 調査・研究における課題

①未調査部門の文化財の調査

大田原市の特色ある古代史を形成した礎である古代官道東山道駅路やその関連施設の磐上駅家については、市内に存することが指摘されながらもその確かな所在が明らかにされておらず、解明が待たれている。その保存・活用を図る上でも、調査・研究は急務である。

また、これまでの調査は文化財の時期や分野によって偏りがあり、建造物をはじめ近現代（主に昭和）の文化財等はほとんど把握されていない。先述した文化財の現状把握と合わせて、未調査部門の文化財の調査を推進していく必要がある。

さらに、県指定の無形民俗文化財である「城鉾舞」や「正浄寺の雅楽」などについては、地域の特色ある希少な文化財として保存継承していく体制を整備するためにも、今後国指定を視野に入れた詳細な調査が必要である。

(3) 普及・活用における課題

①文化財の公開・活用

数多くの文化財を保管・展示している資料館等の展示施設の老朽化や展示・収蔵スペースの不足の解消は大きな課題となっている。また、個人や寺社所有の指定文化財の公開のための仕組みや環境が整っていないこと等から、市民が文化財に直接的に触れ、親しみを抱いて様々な活用に向けた行動を起こすことにつながる機会を十分に提供できてはいない。こうしたことが、文化財が有する価値や魅力を周知することが不足する要因ともなっている。

②文化財の価値と魅力の周知

大田原市の指定文化財については、ホームページへの掲載や解説書の発行によって、また、特色ある文化財の一部については、特定の時代・分野を扱う各資料館等における文化財の展示や図録の発行等を通じてある程度周知できているものの、それらを含め文化財全体の価値や魅力を市内外に十分に周知できているとは言いがたい。大田原の歴史文化を特徴づける4テーマに関する文化財も、その存在が市民にほとんど知られていないものも多い。

③文化財の一体的・総合的な保存・活用

指定等がされている個々の文化財については、比較的保存・活用の取り組みが進められているものの、一定の地域における一体的な保存・活用までには結びついておらず、その地域の活性化やまちづくりに活かすところまで発展していない。文化財に対する興味・関心の度合いも、年齢によって差があり、若い世代（40代以下）の関心がやや低いことがアンケート調査によって判明した。未指定文化財も含め、複数の文化財を結びつけた総合的な保存・活用の取り組みが行われていないため、保存・活用の対象としている文化財が限定的になっている。

(4) 組織・体制における課題

①文化財担当部署の体制

文化財行政を担っている教育委員会部局の職員は、近年整備された遺跡分布地図に基づいて増加傾向にある埋蔵文化財の調査への対応に多くの時間をとられているのが実情であり、文化財全体を保存・活用していく取り組みを円滑に進めることができていない。

また、同部署内に観光やまちづくりと連携した幅広い視点で保存・活用に取り組むことのできる文化財専門職員を配置、育成していくことも必要である。

②観光やまちづくりとの連携

大田原市の文化財行政は教育委員会部局が担い、観光振興や地域活性化施策は市長部局が担当しているが、両部局が情報交換を密にして連携するような体制が不十分である。文化財を観光や地域活性化に活かすというような、文化財が有する潜在的な可能性がうまく引き出されていない。このため、文化財を活用した中長期的な計画を作成することにも至っていない。

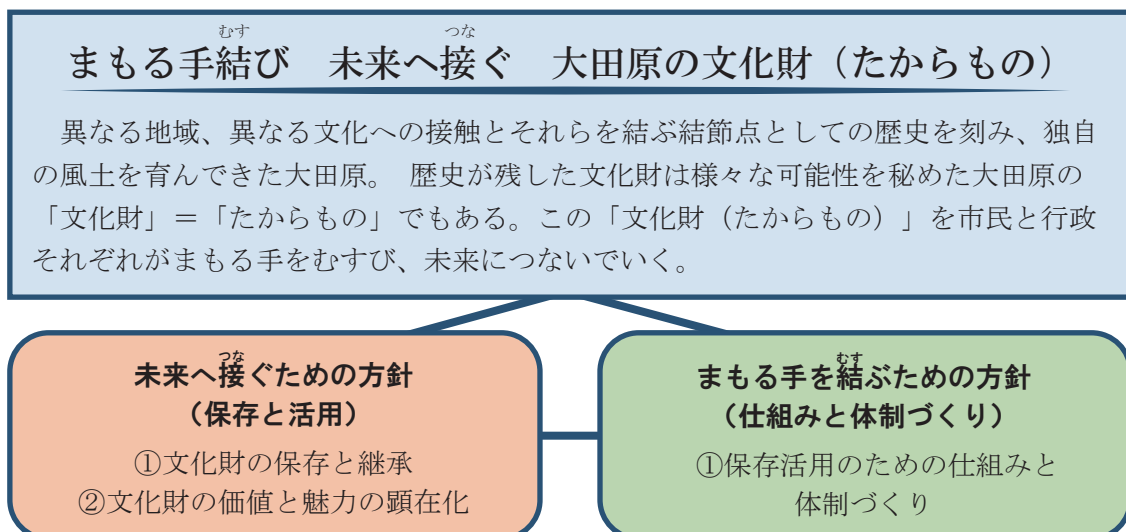
③市民および関係部署・関係機関との連携

大田原市には数多くの文化財が存在し、また、文化財には様々な分野があり各々必要な専門知識も異なる。これを調査し適切に保存管理し、広く活用していくためには、市民との協働体制や大学等の学術機関との連携、関係部署や機関との連携体制の構築が必要である。

2 文化財に対する本市の目標

(1) 保存・活用の目標

文化財の保存・活用に関する課題を解決するため、次の目標に向って文化財の保存と活用を推進していく。文化財とは、文化財保護法において歴史上、芸術上、学術上、鑑賞上等の観点から価値の高いものと定義されている。一方、市民にとって価値あるものとして大切にされているものは、一般に「宝物」（たからもの）と表現されている。文化財をより一層身近なものとして受け入れられるよう、「文化財」＝「たからもの」と捉えて、その保存・活用の基本方針を以下のとおり定める。



3 基本方針

(1) 未来へ接ぐため（保存と活用）の方針

①文化財の保存と継承

・文化財台帳の作成

文化財の保存管理のベースとなる文化財台帳の作成を行う。その作成のための文化財悉皆調査については、市史編さん事業と連携しながら計画的に進めていく。特に、天然記念物においては、病害虫や腐朽などの樹勢診断結果を記録したカルテを定期的に更新していく。

・指定文化財の適切な保存管理

国指定文化財については、保存活用計画の作成やモニタリング、周辺環境の整備なども踏まえて適切な管理に努め、修理や修復等必要な保存措置を行っていく。県および市指定の文化財についても保存活用の方針を定めていくことを検討し、定期的な維持管理に努める。

・未指定文化財の把握と保存

未指定文化財のうち本市にとって重要と認められるものについては、市指定文化財として保存が担保できるよう努めていく。埋蔵文化財については、その保存に向けた周知を徹底していく。また、市民遺産等、広く緩やかに文化財を保存していくための制度設計を検討する。

・文化財保存団体への支援強化

伝統芸能や伝統工芸等の技能保持団体をはじめとする文化財保存団体が、後継者の育成や技能の伝承を継続していけるよう支援強化を図っていく。また、生涯学習や職業訓練なども含めて後継者育成のための研修機会を確保していく。

・文化財の防災・防犯対策の推進

指定文化財については、保存活用計画に防災・防犯対策を盛り込み、必要な設備の設置や防火訓練などの取り組みを推進していく。未指定文化財についてもデータベースやマップの整備を進めて実態把握に努め、本市の文化財保護指導委員の設置により文化財パトロール機能を拡充していくことを検討する。また、近年増加している災害発生時において、被災した文化財の救出や保全活動についても、他の自治体や民間団体との連携体制を整備していく。

②文化財の価値と魅力の顕在化

・調査・研究の推進

文化財の価値を発見していくための調査・研究を悉皆調査とともに市民と協働で進めていく。特に市史編さん事業の自然・民俗・現代の各分野における調査・研究を中核としながら、東山道駅路跡など本市特有の文化財でありながら埋もれたままになっているものや、未調査の分野のもの、悉皆調査で新たな知見が明らかになったものを中心に、より詳細な調査を行う。その成果については、報告書のみならずシンポジウム等で市民に積極的に発信していく。

・文化財公開事業の推進

文化財を公開し積極的に活用するための環境整備を進めていく。特に、国宝の那須国造碑、国指定文化財である侍塚古墳、那須神社本殿・楼門、おくのはそ道の風景地八幡宮、大雄寺といった史跡や歴史的建造物等について、音楽会等のイベント会場や映画のロケ地など、ユニークベニューとしての活用も視野に入れた公開・活用のための環境整備を計画的に進める。

個人所有や寺社所有の美術工芸品等については、所有者の了解を得た上で展示会等を定期

的に開催し、公開の機会を充実できるように努める。さらに、貴重な文献や絵図面などの郷土の史資料については、デジタル化を促進し、インターネット上での公開を推進する。

・ **展示施設の整備・充実**

既存の資料館等の展示施設については、リニューアルによる展示機能の向上を図るとともに、収蔵施設の拡充について検討する。また、市役所や地区公民館、道の駅等の市民や観光客が数多く訪れる場所に本市の文化財の紹介や小規模展示を行うコーナーを設け、市内各所で文化財に触れ親しめる環境を整えていく。さらに、各展示施設・コーナーのネットワーク化についても検討していく。

・ **文化財のまちづくりや観光活用の推進**

既存の観光事業やまちづくり事業において、文化財を有効に活用できるよう推進する。また、文化財を観光資源として活用する取り組みについて検討する。

・ **情報提供機能の強化**

文化財の価値や魅力を伝えるための施設(新たな展示コーナー、説明板等)の整備や、メディア(パンフレット、マップ、ホームページ、SNS等)の制作を行い、文化財に関する情報提供機能を強化する。

・ **関連する文化財や面的に広がる文化財の総合的な保存・活用**

テーマにより結び付ける「関連文化財群」や、地域ごとに面的にまとめる「文化財保存活用区域」により、多面的な価値・魅力を発信することで、より効果的な活用を推進していく。関連文化財群を通して大田原市の歴史文化を分かりやすく伝え、文化財保存活用区域においては、区域全体の一体的な整備、区域同士をつなぐネットワークの構築を目指す。さらに、それぞれを活かした文化財の周知についても検討していく。

(2) まもる手を結ぶため(仕組みと体制づくり)の方針

① 保存活用のための仕組みと体制づくり

・ **文化財専門職員の確保と育成**

文化財の調査および保存活用が適切に行えるよう必要な文化財専門職員の確保に努める。また、文化財担当部署においては、市民や関連部署、関連団体と連携した情報発信や活用事業に取り組む職員を育成することを目指す。

・ **関連部局・関係機関・団体との連携の推進**

観光、地域ブランド、景観整備等、文化財と関連する施策に本市の文化財の活用を位置づけ、文化財を広くまちづくりや地域活性化に活かすため、関連部局や関係機関・団体を含めた協議会を設置する。

・ **市民および学術団体との協働体制の構築**

文化財の巡回を行う文化財パトロールや文化財ガイド等、市民との協働による保存活用体制の強化を図るために必要な対策を協議する場を設ける。また、文化財悉皆調査等への市民参加を促し、文化財に触れその価値の発見に関わることで、文化財への親しみを深めてもらう取り組みについても検討していく。文化財の各種調査・研究においては、大学や専門機関等の学術団体と連携することも検討する。

保存活用の課題と方針一覧表

課 題		方 針	
保存・継承・管理	保存管理のための文化財の現状把握 文化財の保存管理の基本となる文化財台帳（データベース）が未整備である。	文化財台帳の作成 ・文化財悉皆調査の実施、文化財台帳の作成 ・天然記念物のカルテの更新	①文化財の保存と継承
	指定文化財の修理・保存措置 指定文化財となっていながら、修理や保存措置が手つかず、あるいは未解決になっている文化財が存在する。	指定文化財の適切な保存管理 ・保存活用計画の作成 ・修理や修復等必要な保存措置の実施 ・定期的な維持管理	
	文化財の滅失や破壊への対策 埋蔵文化財の周知が十分ではない。また、滅失や破壊の危機にある未指定文化財が存在する。	未指定文化財の把握と保存 ・市指定文化財への指定による保存 ・保存に向けた周知の徹底 ・記録保存の推進 ・市民遺産等、広く緩く文化財を保存していくための制度の検討	
	文化財保存団体の存続 無形文化財の後継者を育成するために必要な保存会等が、安定的に継続して活動できるような環境づくりが必要である。	文化財保存団体への支援強化 ・後継者の育成や技能の伝承を行う文化財保存団体への支援の強化 ・後継者育成のための研修機会の確保	
	文化財の防災・防犯対策 防災・防犯のための設備が設置されていない指定文化財が多い。個人や寺社所有の指定文化財、未指定文化財については、実態が把握されていない。	文化財の防災・防犯対策の推進 ・防災・防犯対策状況の実態把握 ・防災・防犯に必要な設備設置の推進 ・文化財パトロールの拡充 ・災害発生時の文化財救出・保全対策の推進	
調査・研究	未調査部門の文化財の調査 本市特有の文化財が埋もれたままである。近現代（主に昭和）の文化財等がほとんど把握されていなかったりする等、文化財の調査対象となる時代や分野によって偏りがある。	調査・研究の推進 ・本市特有の文化財でありながら埋もれたままになっているものの解明 ・悉皆調査で明らかになった文化財の詳細調査の推進 ・報告書や講演会等による発信	②文化財の価値と魅力の顕在化
普及・活用	文化財の公開・活用 数多くの文化財を保管・展示している資料館等の展示施設の老朽化や展示・収蔵スペースの不足、指定文化財の公開のための仕組みや環境が整っていないこと等から、市民が文化財に直接的に触れ、親しみを抱いて様々な活用に向けた活動を起こすことにつながる機会を十分に提供できていない。	文化財公開事業の推進 ・文化財を公開し積極的に活用するための環境整備の推進 ・郷土の史資料のデジタル公開の推進 展示施設の整備・充実 ・展示施設等のネットワーク化の検討 ・既存展示施設のリニューアル（多言語化、展示内容の見直し等）による展示機能の向上 ・市内各所に本市の文化財の紹介や小規模展示を行うコーナーの設置 ・収蔵施設の拡充の検討 文化財のまちづくりや観光活用の推進 ・既存の観光推進事業への文化財活用の推進 ・文化財を観光資源とした事業の検討	

未来へ接ぐための方針

課 題		方 針	
普及・活用	文化財の価値と魅力の周知 本市の文化財全体の価値や魅力が市内外に十分に周知できているとはいえない。	情報提供機能の強化 ・文化財の価値や魅力を伝えるための施設の整備 ・文化財の価値や魅力を伝えるためのメディア（HP、パンフレット等）の制作	②文化財の価値と魅力の顕在化 未来へ接ぐための方針
	文化財の一体的・総合的な保存・活用 一定の地域における一体的な保存・活用が行われていないため、地域活性化やまちづくりに活かせていない。保存・活用の対象となる文化財が限定的である。	関連する文化財や面的に広がる文化財の総合的な保存・活用 ・関連文化財群や文化財保存活用区域の設定 ・関連文化財群や文化財保存活用区域を活かした文化財の周知	
組織・体制	文化財担当部署の体制 文化財行政の担当職員が、増加傾向にある埋蔵文化財の調査の対応に追われ、文化財全体を保存・活用していく取り組みを円滑に進めていくことができていない。 観光やまちづくりと連携した幅広い視点で保存・活用に取り組むことのできる文化財に精通した職員の配置、育成も必要である。	文化財専門職員の確保と育成 ・文化財の調査および保存活用を適切に行うための文化財専門職員の確保 ・市民や関連部署、関連団体と連携し、情報発信や活用事業に取り組む職員の育成	①保存活用のための仕組みと体制づくり まもる手を結ぶための方針
	観光やまちづくりとの連携 文化財行政と観光振興や地域活性化施策との情報交換、連携が不十分で、文化財が有する潜在的な可能性がうまく引き出されていない。	関連部局・関係機関・団体との連携の推進 ・関連部局や関連団体を含めた協議会の設置	
	市民および関係部署・関係機関との連携 文化財の調査、保存管理、活用を行っていくために必要な市民、学術機関、関係部署や機関との連携体制の構築が必要である。	市民および学術団体との協働体制の構築 ・市民との協働による保存活用体制の強化を図るための協議会の設置 ・文化財悉皆調査等への市民参加等、文化財への親しみを深めてもらう取り組みの検討 ・文化財の各種調査・研究における大学や専門機関等との連携	



おかんじち川湧水地における生き物調査



笠石神社における消防訓練

第6章 文化財の保存・活用に関する措置

1 未来へ接ぐため（保存と活用）の措置

(1) 文化財の保存と継承

未指定文化財も含め、現状を把握しきれていない文化財が数多くあることから、悉皆調査を継続し、今後の保存活用を検討していくための基礎資料となる文化財台帳（データベース）を作成していくことが第一である。指定文化財については、これまでの保存・修理事業等を継続し、文化財の所有者や保全・継承団体の運営・取り組みに対する支援を行っていく。特に滅失の危機にある無形民俗文化財については映像記録作成を行う。未指定文化財は、現状把握、維持管理に必要な措置をさらに進めるとともに、新たな文化財の認定制度も検討していく。事業の実施にあたっては、市費、県費、国費（文化財補助金、地方創生推進交付金等）を積極的に活用するほか、クラウドファンディング等新たな資金調達の方法についても検討していく。

文化財の保存と継承における措置

■：重点的に行う措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ～
文化財台帳の作成									
1- 1	文化財台帳作成事業 近現代の文化財等を中心とした悉皆調査を実施し、文化財台帳（データベース）を作成する。指定等文化財は台帳に付随するカルテを作成し、保存活用計画策定時に活かす。また、台帳を基に定期的な巡視を行うとともに、災害発生時には被災状況確認のための資料として活用する。	市文化振興課	市	～継続					継続～
1- 2	天然記念物カルテ更新事業 平成29・30年度作成の天然記念物カルテを更新する。	市文化振興課	市						
指定文化財の適切な保存管理									
1- 3	指定文化財除草等管理事業 史跡・天然記念物における除草等の管理を所有者等に委託して行う。	市文化振興課	市	～継続					継続～
1- 4	指定文化財等修復等補助事業 指定等文化財等の所有者が行う計画的な修復等事業に対して補助金を交付する。現状変更等を伴う修理や整備については、適切な手続きを取るよう指導する。 ○関連事業・計画／文化庁：文化財保存事業費（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）	文化財所有者／市文化振興課	国・県・市・所有者	～継続					継続～
1- 5	ミヤコタナゴ保護増殖等事業 羽田・親園地区のミヤコタナゴ生息地において、ミヤコタナゴの保護増殖を図るために生息地の草刈り、泥上げ、水路改修等の環境保全活動を行う。 ○関連事業・計画／ミヤコタナゴ保護増殖事業計画（環境庁ほか）	環境省／県自然環境課／市内関係団体／市文化振興課等	—	～継続					継続～
1- 6	イトヨ保護増殖等事業 田谷川・おかんじち川のイトヨ生息地で、イトヨの保護増殖及び生息地の草刈り等の環境保全活動を行う。	市内関係団体／県水産試験場／市文化振興課	市	～継続					継続～
1- 7	無形民俗文化財映像記録保存事業 市内に伝承されている伝統芸能等の無形民俗文化財を映像で記録保存する。	市文化振興課	市						

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ~
1- 8	民俗芸能詳細調査事業 城鞆舞、正浄寺の雅楽を中心とした主要な民俗芸能の詳細調査を行い記録する。	市文化振興課	市		完了 予定				
未指定文化財の把握と保存									
1- 9	埋蔵文化財保護事業 周知の埋蔵文化財包蔵地における開発等への指導とともに、必要に応じ埋蔵文化財の試掘・確認調査及び記録保存のための発掘調査等を行う。 ○関連事業・計画／文化庁：文化財保存事業費（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）	市文化振興課	国・市・ 開発者	～継続					継続～
1- 10	市民遺産（仮称）認定事業 市民に広く親しまれている文化財を指定文化財に準じて掘り起こし、市民遺産（仮称）として認定を行うための制度を検討する。	市文化振興課	市						継続～
1- 11	水生生物教室開催事業 水生生物の採集により河川水の汚染状況を判定する。	市生活環境課	市	～継続					継続～
1- 12	令和の名木選定事業 市民に親しまれている市内有数の巨木、古木を次世代に継承するため、市町村合併後、改めて調査し30箇所を選定し、それを周知する。	市農林整備課	市	R1 選 定・公 表済み					継続～
1- 13	多面的機能支払交付金事業 農業・農村の多面的機能の維持・発揮の一環として、水路の生き物調査やイトヨ・ミヤコタナゴの保全活動、景観形成等に対し補助金を交付する。 ○関連事業・計画／農林水産省：多面的機能支払交付金	各地区環境保全 会／市農林整備 課	国・県・ 市	H27 (2015) ～継続			完了 予定		
1- 14	とちぎの元気な森づくり交付金事業 市民協働による里山林の整備・管理、森づくり地域活動の支援を行う。	市内の自治会・ 団体等／市農林 整備課	県・団 体	R2 (2020) ～継続					継続～
文化財保存団体への支援強化									
1- 15	指定文化財等保全・継承団体補助事業 指定文化財等を保全または継承する団体等に対して補助金を交付する。	市内関係団体／ 市文化振興課	市	～継続					継続～
1- 16	金田北地区公民館市民学校竹工芸コース 市内在住・在勤者を対象とした市民学校として、竹工芸の講座を開催する。	金田北地区公民 館	市	～継続					継続～
1- 17	大田原地域職業訓練センター竹工芸講座 地域住民を対象とした職業講座として、竹工芸の講座を開催する。	職業訓練法人大 田原地域職業訓 練センター管理 公社	団体	～継続					継続～
文化財の防災・防犯対策の推進									
1- 18	文化財防災・防犯設備設置状況調査事業 指定文化財の所有者または管理者における文化財のための防災・防犯設備の設置状況について実態調査を行う。	市文化振興課	市		完了 予定				
1- 19	文化財の防火管理事業 国指定文化財を有する笠石神社、那須神社、大雄寺等において文化財被災を想定した防火訓練を行う。	市・消防・所有 者	広域消 防	～継続					継続～
1- 20	市指定文化財等パトロール事業 市指定または未指定の文化財等について、市独自に巡回パトロールや監視を行う。	市文化振興課	市	～継続					継続～
1- 21	被災文化財レスキュー事業 市内の被災した文化財の保存・保管に努めるとともに、那須地区を中心とした被災文化財の救出・保全の体制整備について関係市町と検討する。	市文化振興課／ 県内ネットワー ク参加市町	市						継続～

(2) 文化財の価値と魅力の顕在化

本市特有の文化財で調査が不十分なものや悉皆調査で確認された文化財の詳細調査を、市史編さんにおける調査事業と合わせて行う。調査結果等をより身近なものとして市民へ還元できるように、これまで行ってきた展示会の他、資料のデジタル化などを進める。また、市内各地を実際に見て回り、体験しながら認識、あるいは再認識してもらうためにも、市内各地の文化財等展示施設のネットワークの構築や、観光関連の事業との連携を積極的に進めていく。



蜂巢地区の郷倉調査

文化財の価値と魅力の顕在化における措置

■：重点的に行う措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ～
調査・研究の推進									
2- 1	自然分野詳細調査事業 動植物、地形地質等の自然分野の調査を実施し、その成果を資料集として刊行する。 ○関連事業・計画／市史編さん基本方針	市文化振興課	市	R1 (2019) ～継続	完了 予定				
2- 2	民俗分野詳細調査事業 市街地、農村部、山村部それぞれにおける民俗調査を実施し、その成果を資料集として刊行する。 ○関連事業・計画／市史編さん基本方針	市文化振興課	市	R1 (2019) ～継続		完了 予定			
2- 3	現代資料詳細調査事業 昭和の合併以降の古写真や行政資料を中心とした資料及び各種情報を収集し、現代編の市史を刊行する。 ○関連事業・計画／市史編さん基本方針	市文化振興課	市	R1 (2019) ～継続			完了 予定		
2- 4	市史研究集刊行事業 自然・民俗・現代の各分野における調査研究の成果を速報的に行う研究集を刊行する。 ○関連事業・計画／市史編さん基本方針	市文化振興課	市	R1 (2019) ～継続			完了 予定		
文化財公開事業の推進									
2- 5	全国竹芸展開催事業 全国から竹工芸作品を募集して、展示会を開催するとともに、優秀作品を表彰する。	全国竹芸展実行委員会	団体	～継続					継続～
2- 6	那須地区郷土芸能フェスティバル開催事業 那須地区における郷土芸能を保存継承する団体が一堂に会し、代々受け継がれてきた郷土芸能を披露するイベントを開催する。	那須地区文化協会／那須地区郷土芸能フェスティバル実行委員会	3市町	～継続					継続～
2- 7	郷土資料デジタル化事業 大田原市立図書館において、先人が記録した貴重な郷土資料をデジタル化し、インターネット上で公開する。	市立図書館／市生涯学習課	市	R2 (2020) ～継続			完了 予定		

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ～
展示施設の整備・充実									
2- 8	文化財展示ネットワーク事業 市内各所で大田原の文化財の紹介や小規模展示を行う文化財展示ネットワークを構築する。	市文化振興課	市						継続～
2- 9	資料館等展示内容見直し事業 各資料館等の展示内容のリニューアルに向けた調査、検討を行う。	市文化振興課	市		完了 予定				
2- 10	収蔵施設等実態調査事業 各資料館等に備えられた収蔵庫の状況や、廃校等の収蔵可能施設の実態調査を行う。	市文化振興課	市		完了 予定				
2- 11	八溝山周辺地域定住自立圏の歴史文化展示及び情報発信事業 八溝山周辺の8市町が連携して、八溝山に関わる歴史文化の巡回展の開催、イベントガイドの作成等を行う。 ○関連事業・計画／八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン（第2次）	八溝山周辺地域定住自立圏推進協議会	国・8市町	R1 (2019) ～継続		完了 予定			
文化財のまちづくりや観光活用の推進									
2- 12	旧須賀川小学校管理事業 旧須賀川小学校の木造校舎の維持管理を委託しながら、ロケ地としての映像資源として提供する。	市商工観光課	市	～継続					継続～
2- 13	南方古民家管理運営事業 南方地区に所在する市有の古民家の維持管理を委託しながら、田舎暮らしを体験させる。	市商工観光課	市	～継続					継続～
2- 14	グリーン・ツーリズム事業 地域における歴史・文化・民俗に係る伝承事業として農業体験、民泊等の体験プログラムを実施する。	株式会社大田原ツーリズム／市商工観光課	市	～継続					継続～
2- 15	活力ある農村づくり事業 那珂川あゆ街道推進協議会等の活動を通じて地域や産業の活性化を図る。	那珂川あゆ街道推進協議会等／市農政課	市・団体	～継続					継続～
2- 16	地域おこし協力隊事業 地域おこし協力隊制度を導入して都市住民を受け入れ、竹工芸分野等での活動を通じて地域活性化等を推進する。	市政策推進課	国・市	H27 (2015) ～継続					継続～
情報提供機能の強化									
2- 17	指定文化財標柱・説明板整備事業 指定文化財の標柱及び説明板の新設及び更新を行う。	市文化振興課	県・市・所有者	～継続					継続～
2- 18	八溝山周辺地域情報発信事業 各種メディア・イベント等を通じて、文化財も取り入れた広域8市町村の魅力を広域的に発信する。 ○関連事業・計画／八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン（第2次）	八溝山周辺地域定住自立圏推進協議会	国・8市町	R1 (2019) ～継続		完了 予定			

2 関連文化財群に関する措置

(1) 設定の考え方

関連文化財群とは、地域の多種多様な文化財を歴史文化や地域の特徴から導き出される歴史的・地域的な関連性（ストーリー）に基づいて、まとまりとして捉えたものである。まとまりとして扱うことで、指定・未指定を問わず文化財を関連文化財群の構成要素として価値付けすることが可能となり、相互に結びついた文化財の多面的な価値・魅力を発見することができる。

第4章では、本市の歴史文化や地域の特徴から、「接（つなぐ）・結（むすぶ）の地」であるという本市の歴史文化全体の特性を導き出した。この特性を基本として、さらに、地理的な条件である①里地・里山が暮らしを、各時代にわたる②歴史の道が文化を、全国に名を馳せた③光圀と芭蕉が時代をそれぞれ「接（つなぐ）・結（むすぶ）」ものとして捉えられる関連文化財群を見出すことができる。こうした観点で、次の3つの関連文化財群を設定した。

大田原市の歴史文化や地域の特徴	関連文化財群
①那須野が原が生み出した歴史文化	①「里地・里山」が つなぐむすぶ くらしを接・結
①那須野が原の扇状地形と湧水	
②湧水地付近に生育する希少な植物	
③湧水地に生息する希少な動物	
②文化が行き交う東北地方への玄関口	
④縄文時代の拠点遺跡と華やかな土器文化（原始）	
⑤那須国造碑と侍塚古墳（古代）	
⑥那須与一にはじまる那須氏と那須衆（中世）	
⑦奥羽に臨む大田原藩・黒羽藩と宿場の賑わい（近世）	
⑧幕府側から新政府軍側に転じた戊辰戦争とその後（近現代）	
⑨那須野が原の開拓と近代化（近現代）	
⑩合併前の旧市町村を結ぶ東野鉄道（近現代）	
③里地・里山が育んだくらしと文化	②「歴史の道」が つなぐむすぶ 文化を接・結
⑪那須野が原と八溝山地が織りなす里山のくらし	
⑫里山のくらしと歴史の道が響き合う信仰・祭礼・民俗芸能・伝承	
⑬人間国宝誕生につながる竹工芸文化	
④光圀と芭蕉による歴史の再発見	那須野が原と八溝山地 湧水・小河川 里山のくらしの文化・産業
⑭江戸の発掘調査と史跡整備 徳川光圀と那須国造碑・侍塚古墳	
⑮松尾芭蕉「おくのほそ道」の旅と黒羽	
	那須氏関連 城下町と都市文化 街道と宿場町
	③「光圀と芭蕉」が つなぐむすぶ 時代を接・結
	徳川光圀 松尾芭蕉

【保存活用の方針】

3つの関連文化財群は、大田原市の豊かな文化財、歴史文化の特徴を捉えたストーリーを構成している。この3つの関連文化財群を主軸に、「大田原の文化財（たからもの）」の持つ価値や魅力について調査研究を重ねてさらに磨き上げ、その保存措置を講じながら、市内外へ情報発信していくことで、文化財への理解をより深めてもらうことを目指す。

市民に広く地域の歴史文化を知ってもらうためのメディア制作や講演会等を展開し、まちづくりや地域活性化のための観光資源等として活かしていく。

3つの関連文化財群の価値や魅力を総合的に発信していくため、以下の取り組みを推進していく。

関連文化財群全体における措置

■：重点的に行う措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ～
3- 1	大田原の文化財（たからもの）ホームページ作成事業 本市の指定文化財を紹介するホームページの他に、未指定も含め幅広い視点でコンテンツを見直したホームページを作成する。	市文化振興課	市						継続～
3- 2	大田原の文化財（たからもの）ガイドブック作成事業 2015年に発行した『大田原市の文化財2015』の内容を見直し、新規の指定文化財の追加、分かりやすい解説、多言語化も視野に入れたガイドブックの作成を行う。 ○関連事業・計画／文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）	市・民間団体等で構成する協議会	国・市						
3- 3	大田原の文化財（たからもの）活用シンポジウム開催事業 関連文化財群の価値や魅力を伝えるため、各分野の専門家を招へいしてシンポジウムを開催する。 ○関連事業・計画／文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）	市・民間団体等で構成する協議会	国・市						
3- 4	大田原の文化財（たからもの）活用企画展開催事業 関連文化財群の価値や魅力を伝えるため、市内の各資料館等の施設を活用して各分野にわたる企画展を開催する。	なす風土記の丘湯津上資料館／那須与一伝承館／黒羽芭蕉の館／歴史民俗資料館	市	～継続					継続～
3- 5	文化財の観光活用事業 市内各所にある文化財を観光資源として活用し、情報発信等により観光誘客を図る。	市商工観光課	市	～継続					継続～
3- 6	大田原市観光協会による文化財活用支援事業 文化財を活用した観光宣伝イベント等を開催する大田原市観光協会の運営を支援する。	市商工観光課	市	～継続					継続～
3- 7	歴史文化関係学校出前授業 小中学校の社会科等の授業に学芸員が出向いて、歴史や文化に関する出前授業を行う。	小中学校／市文化振興課	市	～継続					継続～
3- 8	小学校社会科副読本改訂事業 市内の文化財を取り入れた小学校社会科の副読本の改訂作業を行う。	市学校教育課	市						

(2) 大田原市を特徴づけるストーリー

①「里地・里山」がくらしを接・結つなぐ むすぶ

【ストーリー】

本市域は、那珂川を挟んで那須野が原の平坦な扇状地の広がりとは溝山地の山並みが接する里地・里山である。特に、扇状地上に点在する湧水とそこを水源とする小河川の存在は本市特有の自然環境の要素で、その周辺は希少な動植物の生息・自生地となり、原始・古代の拠点遺跡が形成され、本市の歴史文化の出発点にもなっている。以後もこうした自然環境と人々のくらしは深く結び付き、居住や生業に影響を及ぼしながら、さまざまな民間信仰、民俗芸能の誕生の土壌となり、里地・里山としての文化の形成、産業の興りにもつながった。

那珂川を利用した近世の河川交通や、近代に敷設された東野鉄道は、那須野が原と八溝山地の結び付きを深め、それぞれに根差した里地・里山のくらしや文化・産業の交流が進み、現在の本市の産業や生活文化に息づいている。

【関連する文化財群】

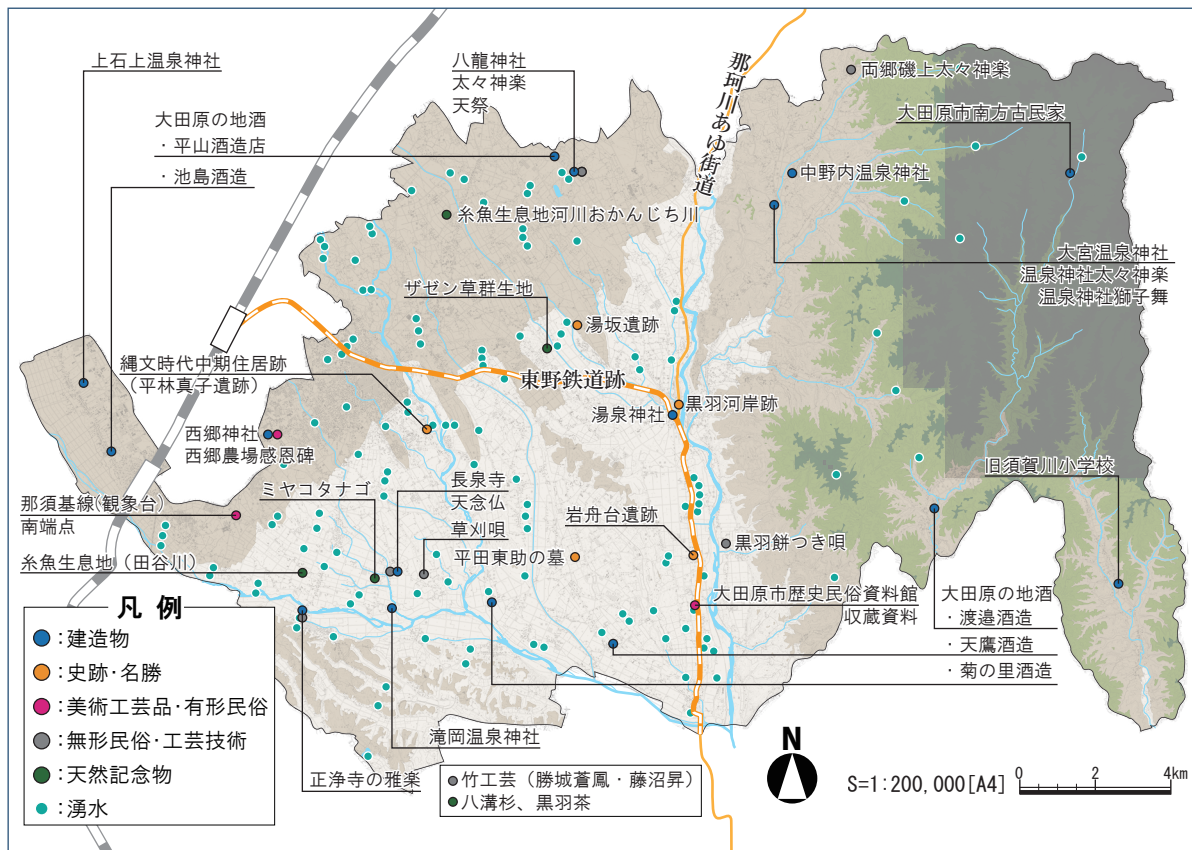
湧水・小河川	市内各地の湧水	
	縄文時代中期住居跡（平林真子遺跡）、湯坂遺跡、岩舟台遺跡	市指定史跡
	湧水付近に形成された縄文遺跡	
	市内各地の温泉神社（滝岡・片府田・倉骨・佐久山・中野内等）	
	ミヤコタナゴ	国指定天然記念物
	糸魚生息地河川おかんじち川	市指定天然記念物
	糸魚生息地（田谷川）	県指定天然記念物
	ザゼン草群生地	市指定天然記念物
里山のくらしの文化・産業	那須疏水（品川堀）	
	草刈唄、黒羽餅つき唄、両郷磯上太々神楽、太々神楽（八龍神社）、天祭（八龍神社）、天念仏※現在休止、温泉神社獅子舞、温泉神社太々神楽	市指定無形民俗文化財
	正浄寺の雅楽	県指定無形民俗文化財
	西郷神社と「西郷農場感恩碑」	西郷神社は日本遺産
	平田東助の墓	日本遺産
	那須基線（観象台）南端点	日本遺産
	大田原市歴史民俗資料館収蔵資料	日本遺産
	竹工芸（勝城蒼鳳・藤沼昇）	国指定無形文化財
	八溝杉	
	黒羽茶	
那須野が原と八溝山地を結ぶ	「那珂川あゆ街道」	
	大田原の地酒	
那須野が原と八溝山地を結ぶ	東野鉄道跡	
	黒羽河岸跡	

【保存活用の方針】

身近に存在する那須野が原と八溝山地、湧水といった本市特有の自然環境。そこに結びついた生活文化といった市民の生活に密接に結びついている文化財が多く存在し、親しみやすいものの文化財としてのなじみは薄い。自然と歴史文化の結びつきをテーマとしたシンポジウムの開催も企画されたが、今後さらなる周知・調査成果の市民への還元が必要である。

里山のくらしの文化・産業の一つである、日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」を構成する文化財も、PRが十分ではなく市民の認知度は低い。この他にも、市内には自然豊かな特性によって生まれた産業があるが、これまで個々に普及・PRが行われてきたが、その魅力を十分に伝えきれていなかった。「自然と人を接・結」文化財群として一体的な活用を推進していく必要がある。また、これらの活用には市内関連部局や、市内外の関係機関・団体との連携も欠かせない。

- ・湧水・小河川における希少な動植物の調査・保全活動の継続、市民参加の呼びかけ
- ・湧水と文化財（遺跡や信仰、伝統文化）との結びつきに関する調査、調査成果の報告
- ・日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」総合活用活性化事業の推進
- ・里山のくらしで生まれた産業とその生産物（竹工芸・八溝杉・黒羽茶・那珂川あゆ街道・大田原の地酒）の普及、市内外へのPR



「里地・里山」がくらしを接・結 関連文化財群の位置図

「里地・里山」がくらしを接・結 関連文化財群における措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ~
3- 9	湧水所在確認調査事業 湧水の所在確認調査を行うとともに、個々の湧水にまつわる歴史や伝承等についても把握する。	市文化振興課	市						
3- 10	ミヤコタナゴ保護増殖等事業（1-5 再掲） 羽田・親園地区のミヤコタナゴ生息地において、ミヤコタナゴの保護増殖を図るために生息地の草刈り、泥上げ、水路改修等の環境保全活動を行う。 ○関連事業・計画／ミヤコタナゴ保護増殖事業計画（環境庁ほか）	環境省／県自然環境課／市内関係団体／市文化振興課等	—	～継続					継続～
3- 11	イトヨ保護増殖等事業（1-6 再掲） 田谷川・おかんじち川のイトヨ生息地において、イトヨの保護増殖及び生息地の草刈り等の環境保全活動を行う。	市内関係団体／県水産試験場／市文化振興課	市	～継続					継続～
3- 12	ザゼン草群生地環境保全活動事業 北金丸地区のザゼン草群生地において、ザゼンソウのための除草、枯れ枝除去、湧水管理等の環境保全活動を行う。	北金丸ザゼン草群生地保存会ほか／市文化振興課	団体・市	～継続					継続～
3- 13	八溝山周辺地域定住自立圏の歴史文化展示及び情報発信事業（2-11 再掲） 八溝山周辺の8市町が連携して、八溝山に関わる歴史文化の巡回展の開催、イベントガイドの作成等を行う。 ○関連事業・計画／八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン（第2次）	八溝山周辺地域定住自立圏推進協議会	国・8市町	R1 (2019)～継続		完了予定			
3- 14	日本遺産「明治貴族が描いた未来」総合活用活性化事業 那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会を構成する、大田原市、那須塩原市、那須町、矢板市で連携し、日本遺産構成文化財のPR及び観光活用を推進する。 ○関連事業・計画／文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）	那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会	国・4市	H30 (2018)～継続					継続～
3- 15	与一の里大田原市産業文化祭開催事業 各分野の企業紹介・商品説明、各種団体による展示・即売を行うイベントを開催する。	与一の里大田原市産業文化祭実行委員会	市	～継続					継続～



滝岡ミヤコタナゴ保護地 泥上げ作業

②「歴史の道」が文化を接・結

【ストーリー】

関東平野最奥部に位置する本市域の特徴的な地形から、西日本や関東と東北とを結ぶ陸路は、自ずと本市域を経由することとなった。古代の東山道駅路においては、東北地方の玄関口として重要な位置付けにあり、中世の関東・奥州往還「奥大道」においては、交通要衝地として那須氏や那須衆の支配の拠点が形成された。近世の奥州道中（奥州街道）においては、大田原藩や黒羽藩の城下町や宿場町としての整備が進み、都市文化が形成され、今日の本市の町並みや祭りの賑わいとして伝えられている。

これら都と地方とを結ぶ「歴史の道」に沿って、古代には駅家、近世には陣屋等が整備されるとともに、人や物の動きに伴って文化が伝播した。現在まで伝えられている街道沿いの石碑や古文書類から、文化交流が盛んに行われてきた往時を知ることができる。

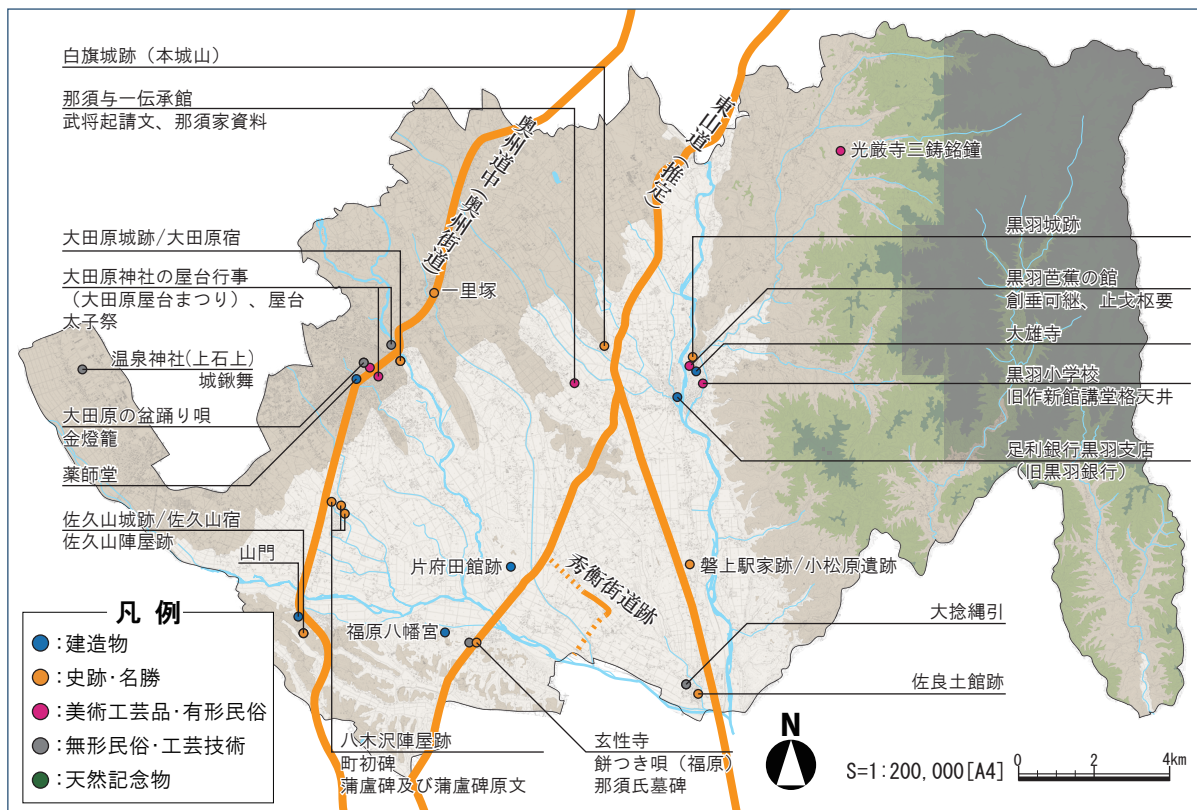
【関連する文化財群】

那須氏関連	那須氏墓碑、佐良土館跡、片府田館跡	市指定史跡
	光厳寺三鍔銘鐘	市指定有形文化財（工芸品）
	福原八幡宮	※本殿は市指定有形文化財（建造物）
	武將起請文	市指定有形文化財（古文書）
	那須与一伝承館保管の那須家資料	
城下町と都市文化	大田原城跡	市指定史跡
	大田原神社の屋台行事（大田原屋台まつり）	市指定無形民俗文化財
	屋台	市指定有形文化財（彫刻）
	城鍛舞	県指定無形民俗文化財
	大田原の盆踊り唄	市指定無形民俗文化財
	太子祭	
	薬師堂	市指定有形文化財（建造物）
	佐久山城跡	市指定史跡
	山門	市指定有形文化財（建造物）
	餅つき唄（福原）	市指定無形民俗文化財
	白旗城跡（本城山）、黒羽城跡	市指定史跡
	大雄寺	国指定有形文化財（建造物）
	創垂可継、止戈枢要	県指定有形文化財（書籍）
	旧作新館講堂格天井（市指定）	市指定有形文化財（歴史資料）
足利銀行黒羽支店（旧黒羽銀行）	国登録有形文化財（建造物）	
街道と宿場町	東山道駅路跡	
	磐上駅家跡（小松原遺跡）	
	秀衡街道跡	市指定史跡
	奥州道中（奥州街道）	
	佐久山宿	
	佐久山陣屋跡	
	八木沢陣屋跡	
	町初碑、蒲盧碑及び蒲盧碑原文	市指定史跡
	大田原宿	
	金燈籠	
	印南敬二郎家文書	
	一里塚	市指定史跡
	大捻縄引	国選択（市指定）無形民俗文化財

【保存活用の方針】

「歴史の道」によって形成されてきた歴史文化、城下町や宿場町など、「歴史の道」が文化を接・結」文化財群は、まず現状把握が不十分である。構成する文化財を洗い出し、その価値を調査し、市民に分かりやすく還元していくことが必要である。

- ・大田原城下町・宿場町、黒羽城下町等の調査（主に建造物等）や、市民と一緒に大田原の文化財（たからもの）を探すワークショップの企画
- ・奥州道中（奥州街道）沿いの碑塔類・陣屋跡等の悉皆調査
- ・東山道駅路跡や磐上駅家跡の所在確認調査、保存対策の構築



「歴史の道」が文化を接・結 関連文化財群の位置図

「歴史の道」が文化を接・結 関連文化財群における措置 ■：重点的に行う措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ～
3- 16	大田原城下町文化財調査事業 大田原城下町について、建造物等の調査を行う。	市文化振興課	市						継続～
3- 17	黒羽城下町文化財調査事業 黒羽城下町について、建造物等の調査を行う。	市文化振興課	市						継続～
3- 18	まちなか文化財探検事業 市民とともに城下町を中心に散策しながら、文化財を探訪・発見する活動を行う。	市文化振興課	市						継続～
3- 19	奥州道中等碑塔類悉皆調査事業 奥州道中沿いを中心とした碑塔類の悉皆調査を行う。	市文化振興課	市						
3- 20	東山道駅路及び磐上駅家所在確認調査等事業 那須国造碑（国宝）及び侍塚古墳（国史跡）周辺に存する東山道駅路及び磐上駅家の所在確認調査を実施するとともに、関係古墳及び古代の集落を調査し、それらの保存及び将来的な整備のための基本情報を蓄積する。 ○関連事業・計画／文化財保存事業費（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）	市文化振興課	国・市	R1 (2019) ～継続		完了 予定			
3- 21	東山道駅路等所在確認関係発掘調査速報展開催事業 東山道駅路等所在確認関係の発掘調査の成果について、なす風土記の丘湯津上資料館／市文化振興課において速報的に展示を行う。	なす風土記の丘湯津上資料館／市文化振興課	市	R2 (2020) ～継続		完了 予定			
3- 22	東山道駅路等所在確認関係発掘調査報告書作成事業 東山道駅路等所在確認関係の発掘調査の概要報告書及び本報告書を作成し、発行する。 ○関連事業・計画／文化財保存事業費（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）	市文化振興課	国・市			完了 予定			



東山道駅路跡所在確認調査

③「^{つなぐ}光圀と^{むすぶ}芭蕉」が時代を接・結

【ストーリー】

古代の文化財である那須国造碑や侍塚古墳は、元禄5年（1692）に、水戸藩主を退き隠棲の身にあった徳川光圀によって、日本で最初の学術的な発掘調査や碑堂の建設によって保存、顕彰され、現在まで継承されてきた。

また、松尾芭蕉は、それを3年遡った元禄2年（1689）に黒羽や大田原の名所旧跡を巡り、『平家物語』の中で源平による屋島の戦いで扇の的を射貫いた弓の名人として描かれた那須与一と、その成就を祈念した那須神社の由緒を知り、「感応殊しきりに覚えらる」と『おくのほそ道』に記している。

光圀や芭蕉の事績により、大田原市の古代・中世の歴史遺産や由緒に、500年から千年も時を経た近世に至って再び光が当てられたことは、時代を超えて結び付いた出来事であり、これは本市の歴史文化の中で特筆すべき特徴である。

【関連する文化財群】

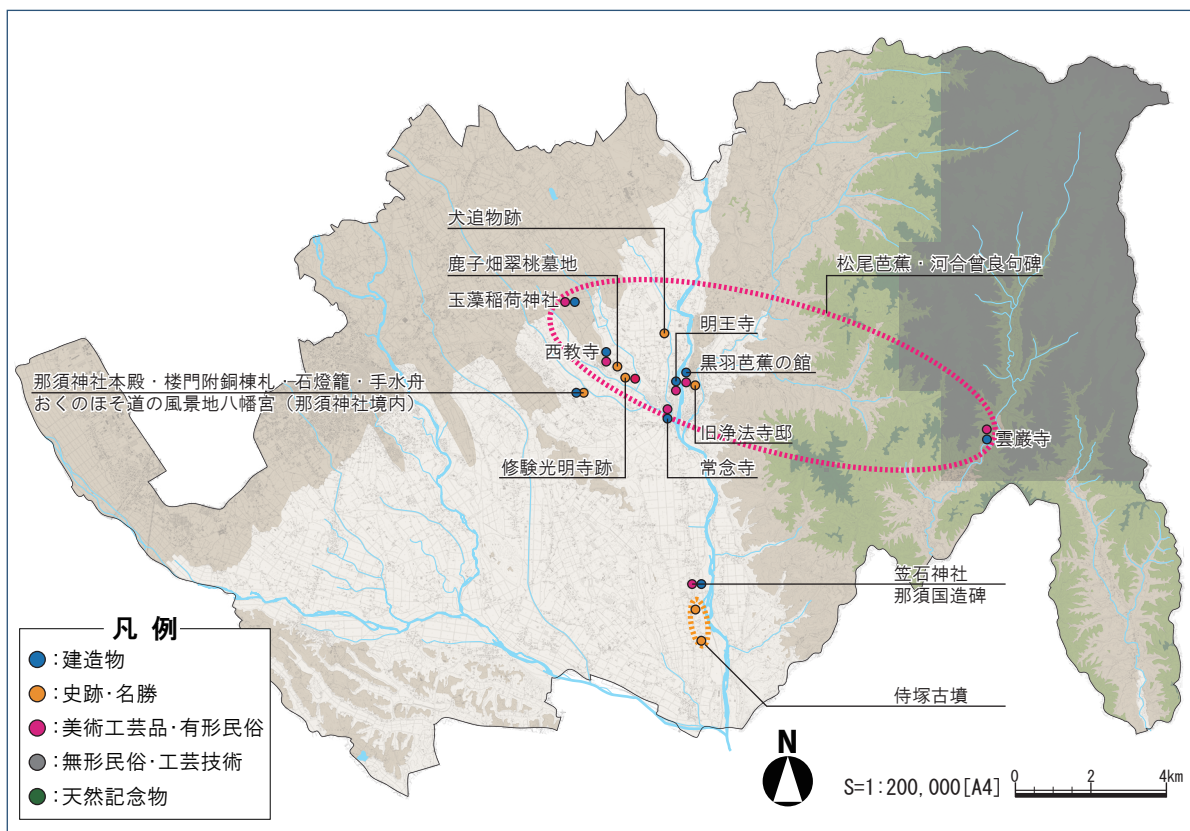
徳川光圀	那須国造碑	国宝（古文書）
	笠石神社	
	侍塚古墳	国指定史跡
	光圀の侍塚古墳発掘調査・碑堂建設に関連する史料群（佐々宗淳の書簡の写しなど）	
	木曾武元『那須拾遺記』	
	下侍塚古墳周溝調査出土遺物	
松尾芭蕉	おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）	国指定名勝
	那須神社本殿・楼門	国指定有形文化財（建造物）
	松尾芭蕉・河合曾良句碑	一部市指定有形文化財（歴史資料）
	旧浄法寺邸	
	鹿子畑翠桃墓地	市指定史跡
	雲巖寺	山門は市指定有形文化財（建造物）
	犬追物跡	
	玉藻稻荷神社	
修験光明寺跡		

【保存活用の方針】

徳川光圀による発掘調査や、松尾芭蕉の来訪によって那須国造碑や侍塚古墳、那須神社が新たな価値付けがされたことは、本市の歴史文化の中で特筆すべき特徴であるが、調査や保存活用の検討が十分ではないため、その魅力を市内外に伝えきれていない。特に、おくのほそ道の風景地に関連する由緒地などは、由来や伝承等の周知が不足しており、市民にも知られていないことが多い。

それらの近隣には関係する資料館も立地していることから、施設間の連携を密にして、さらなる情報発信をしていく必要がある。

- ・ 那須国造碑や侍塚古墳に関する古墳や古代集落の発掘調査、出土遺物や光圀の調査に関連する史料群の再調査
- ・ なす風土記の丘湯津上資料館を核とした、那須国造碑や侍塚古墳周辺の整備
- ・ 全国に所在する名勝おくのほそ道の風景地に関連する文化財群のPR、関係市町との連携
- ・ なす風土記の丘湯津上資料館、那須与一伝承館、黒羽芭蕉の館、歴史民俗資料館の各資料館における情報発信の強化、施設間の文化財展示ネットワークの構築



「光圀と芭蕉」が時代を接・結 関連文化財群の位置図

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ～
3- 23	高の巣遺跡発掘調査事業 徳川光圀が発掘した侍塚古墳の築造に携わった人々の集落跡の様相を把握するための発掘調査を実施する。 ○関連事業・計画／文化財保存事業費（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）	市文化振興課	国・市	R2 (2020) ～継続			完了 予定		
3- 24	上侍塚北古墳発掘調査事業 徳川光圀が発掘した侍塚古墳とほぼ同じ時期・形状の上侍塚北古墳の周溝確認を中心とした発掘調査を行う。 ○関連事業・計画／文化財保存事業費（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）	市文化振興課	国・市				完了 予定		
3- 25	なす風土記の丘湯津上資料館特別展等開催事業 なす風土記の丘湯津上資料館において、那珂川町なす風土記の丘資料館と連携しながら、展示会、シンポジウムを行う。 ○関連事業・計画／八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン（第2次）	なす風土記の丘湯津上資料館／那珂川町なす風土記の丘資料館	国・市・町	H24 (2012) ～継続					継続～
3- 26	史跡解説ボランティア育成事業 「なす地域学講座」の開催を通じて、史跡解説ボランティアを育成する。	なす風土記の丘湯津上資料館／市文化振興課	市	～継続					継続～
3- 27	芭蕉の里観光ボランティアふるさとを知る会運営費補助事業 市内へ訪れる観光客に対し、文化財を含む観光資源の案内、おもてなしを担う団体に対して補助金を交付する。	市商工観光課	市	～継続					継続～
3- 28	おくのほそ道の風景地保存・PR事業 全国に所在する名勝おくのほそ道の風景地の保存、魅力のPRを関係市町が連携して行う。	おくのほそ道の風景地ネットワーク	関係市町	H26 (2014) ～継続					継続～
3- 29	文化財展示ネットワーク事業（2-8 再掲） 市内各所で大田原の文化財の紹介や小規模展示を行う文化財展示ネットワークを構築する。	市文化振興課	市						継続～

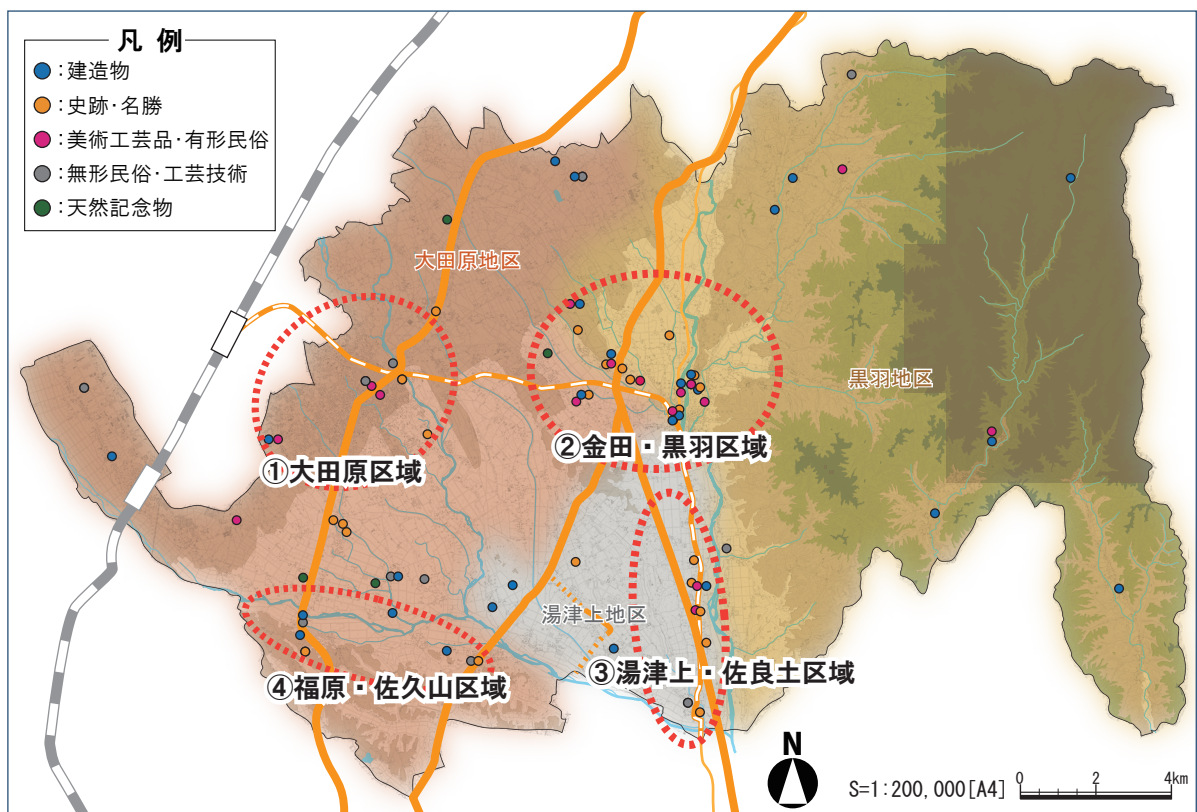
3 文化財保存活用区域に関する措置

(1) 設定の考え方

文化財保存活用区域とは、大田原市の歴史文化の特徴を語る上で重要な文化財が集中している地域であり、その周辺環境も含めて文化財群を核として文化的な空間を創出していくための計画区域として設定するものである。多様な文化財を一体的に保存活用することで、大田原市としての歴史文化が感じられる、魅力的な空間の創出につながり、文化財を活かしたまちづくりや観光拠点となることが期待される。

重要な文化財の分布状況、および「大田原の文化財（たからもの）」に関する情報を発信していく拠点施設を有する次の4つの区域を文化財保存活用区域に設定し、より積極的に保存活用を推進していく。なお、第3章の旧市町村単位で区分した地区と4つの文化財保存活用区域の対応関係は次の表のとおりである。

旧市町村単位の地区（第3章）		文化財保存活用区域
大田原地区	大田原	①大田原区域
	佐久山	④福原・佐久山区域
	親園	
	野崎	
	金田	
黒羽地区	黒羽	②金田・黒羽区域
	川西	
	須賀川	
	両郷	
湯津上地区	湯津上	③湯津上・佐良土区域



文化財保存活用区域位置図

(2) 文化財保存活用区域

①大田原区域

第3章の旧市町村単位で区分した大田原地区のうち、大田原氏の統治によって発展した大田原城跡（市指定）を中核として、その城下町、また、奥州道中（奥州街道）の宿場町として、さらに近現代における県北地域の政治・経済・文化・教育の中心地として発展してきたことをしのばせる建造物や碑塔類等の文化財が集中する区域である。現在、市役所本庁舎等の公共施設が集中し、本市の中心市街地となっている。

大田原区域における主な文化財一覧

番号	文化財の名称	類型
1	一里塚	市指定史跡
2	奥州道中（奥州街道）	
3	大田原神社の屋台行事（大田原屋台まつり）	市指定無形民俗文化財
4	太子祭	
5	大田原城跡	市指定史跡
6	大田原の盆踊り唄	市指定無形民俗文化財
7	金燈籠	
8	屋台	市指定有形文化財（彫刻）
9	薬師堂	市指定有形文化財（建造物）
10	東野鉄道跡	
11	縄文時代中期住居跡（平林真子遺跡）	市指定史跡

大田原区域における拠点施設一覧

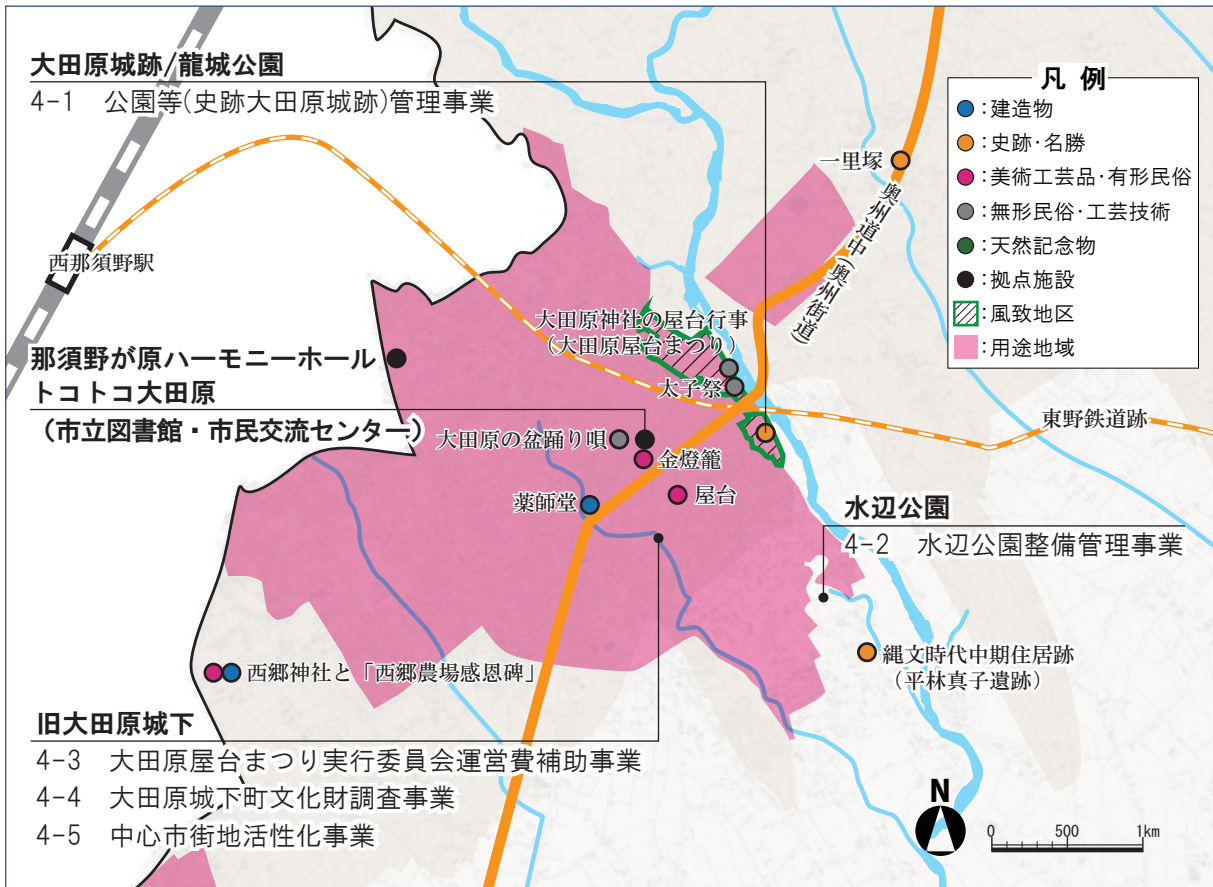
番号	施設の名称	種別
1	那須野が原ハーモニーホール	文化ホール
2	トコトコ大田原（市立図書館・市民交流センター）	図書館・市民会館

【区域における保存活用の課題】

- ・大田原城跡（市指定）は都市公園として管理・活用されているが、文化財（史跡）としての管理や整備が十分ではない。
- ・区域の賑わいを創出する大田原神社の屋台行事（大田原屋台まつり）、大田原盆踊り唄等の無形民俗文化財が、安定的に継続して活動できるような環境づくりが必要である。
- ・区域の中核をなす大田原城下町・宿場町をしのばせる建造物や碑塔類等の未指定文化財が十分に把握されていない。
- ・市民が文化財に直接的に触れられる場所が少なく、文化財を活用した取り組みを起こすことにつながる機会を十分に提供できていない。

【区域における保存活用の方針】

- ・大田原城跡の都市公園「龍城公園」としての環境整備、管理の継続
- ・大田原屋台まつり等、城下の賑わいを創出する祭りや伝統芸能に対する活動支援等
- ・大田原城下町、宿場町等の調査（主に建造物等）、町並みの景観整備、空き家等の活用
- ・トコトコ大田原における市民向けの文化財に関する情報の発信



大田原区域における措置

■：重点的に行う措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ~
4- 1	公園等（史跡大田原城跡）管理事業 史跡大田原城跡に係る龍城公園の管理を行う。	市都市計画課	市	～継続					継続～
4- 2	水辺公園整備管理事業 希少植物等の生息に係る除草管理を行う。	市都市計画課	市	～継続					継続～
4- 3	大田原屋台まつり実行委員会運営費補助事業 市指定無形民俗文化財である大田原神社の屋台行事を保存継承する団体に対して補助金を交付する。	市商工観光課	市	～継続					継続～
4- 4	大田原城下町文化財調査事業（3-16 再掲） 大田原城下町について、建造物等の調査を行う。	市文化振興課	市						継続～
4- 5	中心市街地活性化事業 中心市街地に残る歴史ある市有の蔵「あらまち蔵屋敷」を地域に根差した店舗として活用しながら管理運営する取り組みを委託する。	市商工観光課	市	～継続					継続～

②金田・黒羽区域

第3章の旧市町村単位で区分した黒羽地区とこの西側に接する大田原地区のうち、那須氏由来で後に大関氏の氏神として祀られた那須神社の周辺と、大関氏の統治による黒羽城跡やその風情が残る町並み周辺を合わせた区域である。

黒羽地区は、松尾芭蕉も訪ねた、おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）をはじめ、松尾芭蕉ゆかりの文化財等が集中して存在し、また、数多くの芭蕉関係資料を保管・展示する黒羽芭蕉の館が整備されており、芭蕉とゆかりの深い文化財が数多く残る。大関氏の菩提寺で総茅葺き屋根の大雄寺等の観光地としても魅力的な文化財が集中している。

金田地区は、那須神社に隣接して、那須与一や那須氏についての情報発信が行われている那須与一伝承館が整備されており、道の駅那須与一の郷の敷地内にあることから、観光として訪れる人も多い。

金田・黒羽区域における主な文化財一覧

番号	文化財の名称	類型
1	松尾芭蕉・河合曾良句碑（玉藻稻荷神社・西教寺・明王寺等）	
2	湯坂遺跡	市指定史跡
3	犬追物跡	
4	白旗城跡（本城山）	市指定史跡
5	鹿子畑翠桃墓地	市指定史跡
6	修験光明寺跡	
7	那須神社本殿・楼門	国指定重要文化財（建造物）
8	おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）	国指定名勝
9	芭蕉句碑（常念寺）	市指定有形文化財（歴史資料）
10	足利銀行黒羽支店（旧黒羽銀行）	国登録有形文化財（建造物）
11	湯泉神社	
12	黒羽河岸跡	
13	黒羽城跡	市指定史跡
14	旧浄法寺邸	
15	大雄寺	国指定重要文化財（建造物）
16	旧作新館講堂格天井	市指定有形文化財（歴史資料）
17	東野鉄道跡	

金田・黒羽区域における拠点施設一覧

番号	施設の名称	種別
1	道の駅那須与一の郷	道の駅
2	那須与一伝承館	資料館
3	黒羽芭蕉の館	資料館
4	観光交流センター	観光案内施設

【区域における保存活用の課題】

- ・修理や保存措置が手つかずになっている那須神社、定期的な補修・管理が必要である大雄寺やザゼン草群生地といった指定文化財が多く存在する。
- ・区域の中核をなす黒羽城下町を偲ばせる建造物等の未指定文化財が十分に把握されていない。
- ・市民が文化財に直接的に触れられる場所として那須与一伝承館、黒羽芭蕉の館等があるが、活用が不十分で30歳代以下の若い世代の利用が少ない。文化財の様々な活用に向けた活動を起こすことにつながる機会を十分に提供できていない。本市の文化財の価値や魅力が市内外に十分に周知できていない。

【区域における保存活用の方針】

- ・おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）をはじめとした国指定文化財の保存活用計画の作成、計画に基づく修理や活用、日常管理や定期的な補修等の実施
- ・黒羽城下町の調査（主に建造物等）、町並みの景観整備、空き家等の活用
- ・黒羽城跡の普通公園「黒羽城址公園」としての環境整備、黒羽芭蕉の館との一体的な活用（ユニークベニュー）の推進
- ・那須与一伝承館・道の駅那須与一の郷、黒羽芭蕉の館を核とした文化財に関する情報の発信強化及び周辺の整備、施設のリニューアル（多言語化、展示内容の見直し等）
- ・全国に所在する名勝おくのほそ道の風景地に関するPR、関係市町との連携



金田・黒羽区域における措置

■：重点的に行う措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ~
4- 6	重要文化財那須神社本殿・楼門保存活用計画策定事業 重要文化財の那須神社本殿等の修理に合わせて、保存活用計画を策定する。 ○関連事業・計画／文化財保存事業費（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）	那須神社	国・所有者						
4- 7	那須神社保存修理事業 那須神社（国重文・建造物）の保存活用計画に基づき、おくのほそ道の風景地八幡宮（国名勝）と合わせて保存修理を行う。 ○関連事業・計画／おくのほそ道の風景地八幡宮保存活用計画	那須神社	国・県・市・所有者					完了予定	
4- 8	名勝おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）保存活用計画見直し事業 令和2年に策定した「名勝おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）保存活用計画」の見直しを行う。	市文化振興課	市						
4- 9	公園等（史跡黒羽城跡）管理事業 史跡黒羽城跡に係る黒羽城址公園の管理を行う。	市都市計画課	市	～継続					継続～
4- 10	大雄寺屋根差茅事業 大雄寺の禅堂・鐘楼・総門・廻廊の屋根の差茅工事を行う。 ○関連事業・計画／文化財保存事業費（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）	大雄寺	国・県・市・所有者						
4- 11	黒羽城下町文化財調査事業 黒羽城下町について、建造物等の調査を行う。	市文化振興課	市						継続～
4- 12	くろばね紫陽花まつり実行委員会運営費補助事業 黒羽城址公園（黒羽城跡）に植栽された紫陽花を活用したイベント「くろばね紫陽花まつり」を開催するくろばね紫陽花まつり実行委員会の運営を支援する補助金を交付する。	市商工観光課	市	～継続					継続～
4- 13	那須与一伝承館管理運営事業 那須与一伝承館において、調査研究、展示会、講演会を行う。	市文化振興課	市	H19 (2007)～継続					継続～
4- 14	黒羽芭蕉の館管理運営事業 黒羽芭蕉の館において、調査研究、展示会、講座を行う。	市文化振興課	市	～継続					継続～



那須神社本殿



大雄寺本堂屋根差茅修理

③湯津上・佐良土区域

第3章の旧市町村単位で区分した湯津上地区のうち一つは、古代には都と東北を結ぶ東山道が通り、那須国造碑（国宝）や侍塚古墳（国指定）をはじめとする日本の古代史を語る上でも重要な遺跡が集中する湯津上区域である。文化財としての価値は言うまでもなく、徳川光圀による学術調査や保存顕彰活動が行われ、日本考古学史上でも高く評価された地である。その近くに整備された、考古資料を扱うなす風土記の丘湯津上資料館と民俗資料を扱う歴史民俗資料館において、それぞれ情報発信を行っている。

その湯津上区域の南に位置する佐良土区域には、那須氏の居城ともなった佐良土館跡（市指定）や古刹・光丸山法輪寺の門前町として栄えた町並みが残る。

湯津上・佐良土区域における主な文化財一覧

番号	文化財の名称	類型
1	岩舟台遺跡	市指定史跡
2	小松原遺跡	
3	那須国造碑	国宝
4	笠石神社	
5	侍塚古墳（上・下侍塚古墳）	国指定史跡
6	大捻縄引	国選択無形民俗文化財
7	佐良土館跡	市指定史跡
8	東山道駅路跡	
9	「那珂川あゆ街道」	

湯津上・佐良土区域における拠点施設一覧

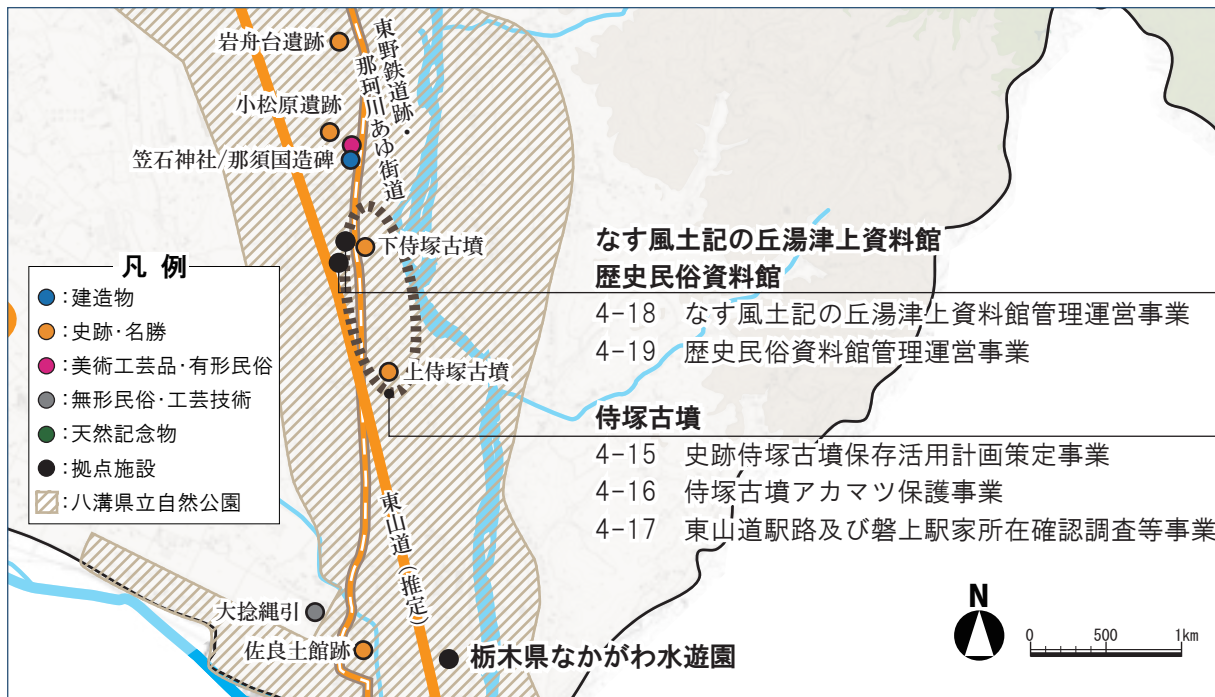
番号	施設の名称	種別
1	なす風土記の丘湯津上資料館	資料館
2	歴史民俗資料館	資料館
3	栃木県なかがわ水遊園	水族館

【区域における保存活用の課題】

- ・侍塚古墳をはじめとした指定文化財が多く存在するが、保存活用計画が未策定で、定期的な維持管理が必要である。
- ・歴史文化の特徴を示す文化財の中でも、古代から近世の各時代において本市を通過していた「歴史の道」の調査が不十分で、その価値が十分に把握されていない。
- ・市民が文化財に直接的に触れられる場所として、なす風土記の丘湯津上資料館及び歴史民俗資料館があるが、40歳代以下の若い世代の利用が少ない。また、施設が老朽化しており、展示パネル等の内容も見直しが必要である。
- ・文化財の様々な活用に向けた活動を起こすことにつながる機会を十分に提供できていない。
- ・文化財の価値や魅力が市内外に十分に周知できているとはいえない。

【区域における保存活用の方針】

- ・那須国造碑や侍塚古墳に関係する古墳や古代の集落跡の発掘調査、出土遺物や光圀の調査に関連する史料群の再調査、保存活用計画の策定
- ・なす風土記の丘湯津上資料館及び歴史民俗資料館における文化財に関する情報発信の強化、施設のリニューアル（多言語化、展示内容の見直し等）
- ・なす風土記の丘湯津上資料館を核とした、那須国造碑や侍塚古墳周辺の整備



湯津上・佐良土区域における措置

■: 重点的に行う措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ~
4-15	史跡侍塚古墳保存活用計画策定事業 史跡侍塚古墳の保存活用計画を策定する。 ○関連事業・計画/文化財保存事業費(国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金)	市文化振興課	国・市						完了 予定
4-16	侍塚古墳アカマツ保護事業 侍塚古墳のアカマツの病害虫防除対策として、農薬空中散布やこも巻き等を行うとともに、倒木・枯死したアカマツの伐採処理を行う。	市文化振興課/ 侍塚古墳松守会	市	~継続					継続~
4-17	東山道駅路及び磐上駅家所在確認調査等事業 (3-20 再掲) 那須国造碑(国宝)及び侍塚古墳(国史跡)周辺に存する東山道駅路及び磐上駅家の所在確認調査を実施するとともに、関係古墳及び古代の集落を調査し、それらの保存及び将来的な整備のための基本情報を蓄積する。 ○関連事業・計画/文化財保存事業費(国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金)	市文化振興課	国・市	R1 (2019) ~継続		完了 予定			
4-18	なす風土記の丘湯津上資料館管理運営事業 なす風土記の丘湯津上資料館において、那珂川町なす風土記の丘資料館と連携しながら、調査研究、展示会、シンポジウム、講座を行う。 ○関連事業・計画/八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン	市なす風土記の丘湯津上資料館 那珂川町なす風土記の丘資料館	国・市・町	H24 (2012) ~継続					継続~
4-19	歴史民俗資料館管理運営事業 歴史民俗資料館において、調査研究、展示会、講座を行う。	市文化振興課	市	~継続					継続~

④福原・佐久山区域

第3章の旧市町村単位で区分した大田原地区のうち、那須氏や同氏一族の福原・佐久山氏由来の城跡や寺院、伝統芸能等が多く残っている区域である。佐久山城跡に移された佐久山宿、陣屋跡の賑わいは、のちに紅葉の見どころともなる自然環境豊かな佐久山御殿山公園として整備され、引き継がれている。

福原・佐久山区域における主な文化財一覧

番号	文化財の名称	類型
1	正浄寺	
2	正浄寺の雅楽	県指定無形民俗文化財
3	山門	市指定有形文化財（建造物）
4	佐久山城跡	市指定史跡
5	滝岡温泉神社	
6	福原八幡宮本殿	市指定有形文化財（建造物）
7	那須氏墓碑	市指定史跡
8	餅つき唄（福原）	市指定無形民俗文化財

福原・佐久山区域における拠点施設一覧

番号	施設の名称	種別
1	大田原市ふれあいの丘 自然観察館	宿泊施設・資料館

【区域における保存活用の課題】

- ・佐久山御殿山公園（佐久山城跡）は公園として管理・活用されているが、文化財（史跡）としての管理や整備が十分ではない。
- ・区域の中核をなす佐久山宿をしのばせる建造物等の未指定文化財が十分に把握されていない。
- ・区域の賑わいを創出する餅つき唄（福原）等の無形民俗文化財が、安定的に継続して活動できるような環境づくりが必要である。
- ・市民が文化財に直接的に触れられる場所の整備や活用が十分でなく、文化財の様々な活用に向けた活動を起こすことにつながる機会を十分に提供できていない。

【区域における保存活用の方針】

- ・佐久山城跡の都市公園「佐久山御殿山公園」としての環境整備
- ・佐久山宿の町並みの景観整備
- ・まち歩きによる街道沿いの文化財調査やワークショップの開催



福原・佐久山区域における措置

番号	事業名 / 事業概要	取組主体	財源	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 ~
4- 20	公園等（史跡佐久山城跡）管理事業 史跡佐久山城跡に係る佐久山御殿山公園の管理を行う。	市都市計画課	市	～継続					継続～
4- 21	佐久山地区活性化協議会運営費補助事業 佐久山御殿山公園（佐久山城跡）のモミジを活用したイベント「佐久山御殿山紅葉まつり」を開催する佐久山地区活性化協議会の運営を支援する補助金を交付する。	市商工観光課	市	～継続					継続～
4- 22	自然観察館管理運営事業 子どもから大人まで楽しめる体験型施設である自然観察館において、本市の動植物等について広く普及・啓発を図る。	市生涯学習課	市	～継続					継続～

第7章 文化財の保存・活用の推進

1 まもる手を結ぶため（仕組みと体制づくり）の措置

（1）組織体制の整備

①文化財専門職員の確保と育成

大田原市の文化財に係る行政は、大田原市文化財保護条例に基づき、大田原市教育委員会が担っている。教育委員会の諮問機関として大田原市文化財保護審議会を設置し、指導・助言を得ているほか、必要に応じて県研究機関や大学等と連携しながら各種調査事業を行っている。

本市では本市の歴史的な特色を紹介する資料館を4館設置しており、それぞれに学芸員を配置して文化財等関係資料の展示会や講座等を開催し、さらに、市史編さん事業においても学芸員1名を確保して事業を進めている。こうした取り組みとは別に、埋蔵文化財の適切な対応をはじめ、市民からの相談や各種需要に応じた文化財の調査及びそれらの保存活用に向けて適切に対処できるよう、文化財専門職員を確保、配置して、文化財行政の体制の強化に努めていく。また、庁内の関連部局、関係機関・団体と連携しながら、文化財に関する情報発信や活用事業に取り組むことのできる職員として育成していく。

②関連部局・関係機関・団体との連携の推進

文化財の保存・活用を円滑に進めるに当たっては、各種開発、観光、まちづくり等の庁内関連部局との連携や調整が不可欠である。本計画の作成に当たり組織した庁内検討部会を基軸として、随時に協議の場を設けて相互の施策の調整を行いながら、効率・効果的な事業の推進、文化財の適切な保存・活用を目指していく。

また、市内はもとより県内には、本市に所在する各種文化財を介して本市との関係性を有する機関や団体も数多く存在する。引き続きその関係性を維持、さらには連携体制を強化し、本地域計画に示した措置を着実に実施していく。

文化財行政の体制

組織		主な業務内容	構成
教育委員会 文化振興課	文化振興係	イベント等の推進 那須野が原国際芸術シンポジウム、全国竹芸展、黒羽芭蕉の里全国俳句大会、移動音楽教室、那須地区芸術祭、那須地区郷土芸能フェスティバル、与一太鼓、黒羽太鼓、那須与一公顕彰事業、文学サロン、王将戦 文化協会等との連携 ・大田原市文化協会連絡協議会 ・大田原文化協会、黒羽文化協会、湯津上文化協会 ・那須地区文化協会 管理運営施設 ・芸術文化研究所	職員 4 名
	文化財係	文化財及び遺跡の保護・調査等 ・指定文化財の指定・解除、修理、現状変更手続き（文化財保護審議会） ・埋蔵文化財関連手続き、発掘調査 ・史資料の調査、収集及び保管 管理運営施設 ・なす風土記の丘湯津上資料館 ・歴史民俗資料館	職員 5 名（学芸員 2 名、事務職員 3 名）
	文化施設 1 係 文化施設 2 係	事業運営等 ・各資料館・文化ホールの管理運営 管理運営施設 ・那須与一伝承館 ・総合文化会館 ・黒羽芭蕉の館 ・ピアートホール ・那須野が原ハーモニーホール（指定管理）	職員 6 名（学芸員 2 名、事務職員 4 名）
	市史編さん係	・市史編さん ・市史編さんに係る資料の調査・収集・保管	職員 2 名（学芸員 1 名、事務職員 1 名）
教育委員会 の附属機関	大田原市文化財保護審議会	大田原市文化財保護条例の第 6 章、第 43 条により設置。教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。	委員 13 名（歴史全般 7 名、天然記念物 2 名、建造物・美術・考古・民俗各 1 名）
	大田原市文化財保存活用地域計画協議会	大田原市文化財保存活用地域計画の作成後も引き続き、措置の進捗確認、見直しを行う。	委員 15 名（関係機関等代表 2 名、有識者 5 名、県職員 3 名、文化財所有者・商工団体等・観光団体・市民代表・市職員 1 名）
	大田原市史編さん委員会	委員会 ・市史編さんに係る重要事項の調査・審議 専門部会 ・市史に必要な資料収集・調査研究・執筆・編集	委員会委員 11 名（有識者 5 名、関係機関・団体代表 1 名、市民の代表 2 名、市職員 3 名） 専門部会委員 13 名（現代 2 名、自然 6 名・民俗 5 名）

連携を推進する関連部局・関係機関・団体

	組織	主な連携内容
庁内の 関連部局	総合政策部政策推進課	総合計画、まちづくり・地域づくりに関すること
	市民生活部生活環境課	環境の保全に関すること
	産業振興部農政課	農業振興地域の整備に関すること
	産業振興部農林整備課	圃場・農道整備、自然保護及び緑化推進、林地開発に関すること
	産業振興部商工観光課	中心市街地活性化、観光・物産の振興、県立自然公園に関すること
	建設水道部道路課	道路の新設改良、河川及び水路の維持修繕に関すること
	建設水道部都市計画課	都市計画、土地利用計画、景観条例、公園及び緑地に関すること
	教育委員会事務局生涯学習課	生涯学習、図書館、地区公民館に関すること
市内の 関係機関	大田原市観光協会	市内の観光案内、特産品販売に関すること
	大田原商工会議所 黒羽商工会 湯津上商工会	市内の商工業の振興、地域づくりに関すること
	株式会社大田原ツーリズム	着地型旅行の企画・調整・営業による旅行者の誘致、地域ブランド商品の開発に関すること
	株式会社 大田原まちづくりカンパニー 職業訓練法人 大田原地域職業訓練センター	市内中心市街地におけるまちづくりの推進に関すること 大田原地域職業訓練センターの竹工芸講座の開催に関すること
栃木県	栃木県教育委員会事務局文化財課	栃木県内の国指定、県指定等の文化財の保存・活用に関すること
	栃木県環境森林部自然環境課	栃木県内の自然環境の保全及び緑化、生物多様性に関すること
	栃木県産業労働観光部工業振興課	栃木県伝統工芸品に関すること
	栃木県立博物館	栃木県内の歴史文化、自然に関する資料の収集、保存、調査研究及び教育普及に関すること
	栃木県立美術館	栃木県関係の美術資料、美術作家に関する調査研究、資料の収集・保存、展示普及に関すること
	栃木県立文書館	栃木県内の古文書・歴史資料等の収集・保存、調査研究、普及啓発に関すること
	栃木県水産試験場	栃木県内の水域生態系の保全に関すること
	大田原警察署	市内の防犯・事故防止、埋蔵文化財・銃砲刀剣類の発見届に関すること
県内の 関係団体	栃木県埋蔵文化財センター	栃木県内の埋蔵文化財の保護及び調査研究活動
	栃木県なかがわ水遊園	那珂川の淡水魚を中心とした八溝地域の自然・文化に関すること
	那須野が原開拓日本遺産 活用推進協議会	那須野が原の開拓に係る日本遺産構成文化財のPR及び観光活用の推進に関すること
	八溝山周辺地域定住自立圏 推進協議会	八溝山周辺地域定住自立圏域における必要な生活機能の確保、人口定住の促進に関すること（県外市町も含む）
	那珂川あゆ街道推進協議会	那珂川沿川の市町等におけるアユを中核とした地域資源に関する情報の発信に関すること
県外の 関係団体	おくのほそ道の 風景地ネットワーク	名勝おくのほそ道の風景地の保存と魅力のPRに関すること
国	環境省関東地方環境事務所 野生生物課	羽田ミヤコタナゴ生息地保護区の保全に関すること

(2) 市民および学術団体との協働体制の構築

市内には、歴史文化の調査・研究に取り組む研究会や、天然記念物を含む自然環境等の保存・管理を行う市民のグループ等がある。また、観光ボランティア等により市内の史跡や名所等も紹介し、文化財の普及・活用に努めている団体もある。これまでこれら団体等の活動を支援するための補助金の交付程度にとどまっていた関係性を見直し、後継者の確保や担い手育成、文化財の保存・活用に向けた適切な取り扱いなど、団体等が抱える課題を適切に捉え、必要な助言や指導を行いながら、行政と団体等との密接な協働体制を構築していく。

また、近年は大雨や地震などの自然災害が多発傾向にあり、指定文化財はもとより、数多くの未指定文化財が被災する事態が発生している。特に未指定文化財にあっては、行政の手がなかなか及ばないのが実情であり、民間レベルで組織化され進められている資料の救出・保全活動の取り組みとの連携を視野に入れながら、非常時における体制を構築していく。

さらに、こうした様々な団体等について、法に基づく文化財保存活用支援団体の指定についても検討していく。

(3) 保存・活用のための制度の考え方

文化財保護法・条例等、既存の制度では行政の保護の対象となっていない文化財を保護するための制度を検討する。未指定文化財を市指定文化財に準ずる文化財として登録等することで、身近な文化財に対して市民が誇りを持ち、その保存活用の機運が高まっていくことの一助となるような制度として、「市民遺産」（仮称）の取り組みの実現を目指す。

歴史文化に関わる主な市民グループ・団体

	名称	概要	会員数等
歴史	ふるさとを知る会	芭蕉の里観光ボランティア。紙芝居（くろばねに伝わる民話や歴史を題材にして制作したもの）を月に1回、黒羽温泉「五峰の湯」で上演。	14名
	なす香	なす風土記の丘中心に活動するボランティアガイド。	71名
	侍塚古墳松守会	侍塚古墳のこも巻き・こも外しを中心とした愛護活動を行う。	60名
	那須国古代ロマンプロジェクト	那須国造碑、侍塚古墳群の調査研究、観光地としての整備を通じて後世に残していく活動を行う。	15名
	金丸地区活性化協議会	国名勝「おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）」を活用して菊花祭等のイベントを開催する。	18名
	那須文化研究会	那須地区における資料の発掘・調査を基礎としながら、地域の総合的な理解を促すことを目的とする。年1回の『那須文化研究』発刊のほか講演会・学習会等を実施。会誌『那須文化研究』は、地域を理解する上での好資料となっている。 ※市域外の団体であるが、本市を含む広域エリアを対象に活動している。	143名
	那須資料ネット	那須地区を中心として、災害時に資料の救出・保全のボランティア活動を行う。令和2年10月設立。	—
民俗芸能	大田原ふるさと民話の会	「ふるさとの民話を聞く会」で、大田原市に伝わる民話を語り継いでいる。	22名
	佐良土地区活性化協議会	国選択無形民俗文化財「大捻縄引」の保存継承活動を行う。	—
	正浄寺の雅楽保存会	正浄寺の檀徒、県無形民俗文化財の「正浄寺の雅楽」を継承している。	11名
	黒羽餅つき唄保存会	市指定無形民俗文化財「黒羽餅つき唄」の保存継承活動を行う。	16名
	大田原盆踊り唄保存愛好会	市指定無形民俗文化財「大田原の盆踊り唄」の保存継承活動を行う。	15名

	名称	概要	会員数等
民俗芸能	親園草刈唄保存会	市指定無形民俗文化財「草刈唄」の保存継承活動を行う。	11名
	羽田太々神楽保存会	市指定無形民俗文化財「太々神楽（八龍神社）」の保存継承活動を行う。	15名
	羽田天祭保存会	市指定無形民俗文化財「天祭（八龍神社）」の保存継承活動を行う。	15名
	両郷磯上太々神楽保存会	市指定無形民俗文化財「両郷磯上太々神楽」の保存継承活動を行う。	15名
	城鉾舞保存会	県指定無形民俗文化財「城鉾舞」の保存継承活動を行う。	21名
	那須神社永代々神楽保存会	市指定無形民俗文化財「永代々神楽（那須神社）」の保存継承活動を行う。	9名
	福原餅つき唄保存会	市指定無形民俗文化財「餅つき唄（福原）」の保存継承活動を行う。	16名
	温泉神社獅子舞保存会	市指定無形民俗文化財「温泉神社獅子舞」の保存継承活動を行う。	19名
	中野内太々神楽保存会	市指定無形民俗文化財「温泉神社太々神楽」の保存継承活動を行う。	19名
	那須神社獅子舞保存会	市指定無形民俗文化財「獅子舞（那須神社）」の保存継承活動を行う。	9名
	大田原市屋台まつり 実行委員会	市指定無形民俗文化財「大田原神社の屋台行事(大田原屋台まつり)」の保存継承活動を行う。	—
	やみぞあづまっぺ協議会	須賀川地区の地域活性化の一環として、雲巖寺境内を利用して薪能を開催する。	24名
那須地区郷土芸能 フェスティバル実行委員会	那須地区3市町持ち回りで、各市町の郷土芸能を一堂に披露するイベントを開催する。	—	
自然	羽田ミヤコタナゴ保存会	国指定の羽田ミヤコタナゴ生息地保護区において、国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」の保護や環境整備を行う。	11名
	岡和久ミヤコタナゴ保存会	県指定の滝岡ミヤコタナゴ保護地において、国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」の保護や環境整備を行う。	14名
	南区イトヨ保存会	県指定天然記念物「糸魚生息地（田谷川）」において、イトヨの保護や環境整備を行う。	17名
	金田北部地域環境保全会	池の御前保存会、エノキ保存会、おかんじち保存会からなる。湧水池（池の御前、おかんじち湧水池、町井沢堀）の保全を行う。	—
	磯上のヤマザクラ保存会	県指定天然記念物「磯上のヤマザクラ」の保全活動を行う。	20名
	北金丸ザゼン草を守る会	市指定天然記念物「ザゼン草群生地」の保全活動を行う。	—
	大田原理科クラブ	大田原市内を中心に、自然分野に関する観察・調査研究及び保護活動を行う。	20名
工芸	全国竹芸展実行委員会	竹工芸愛好者らが中心となって、全国から竹工芸作品を募集、展示、表彰する取り組みを行う。	—
	若竹会	大田原地域職業訓練センターの竹工芸講座受講修了生らで組織する竹工芸の自主活動グループで、竹工芸品の制作を行う。	39名
観光	大田原市の地酒と まちおこし研究会	大田原の地酒（池島酒造・菊の里酒造・天鷹酒造・平山酒造店・渡邊酒造）と商工団体、酒米生産団体及び行政による。地酒を核としたまちおこしを目指す。	12名
	株式会社 大田原ツーリズム	地域に残る日本古来の生活、産業、歴史、文化を観光資源とした体験型プログラムの造成、農家民泊受入農家数の拡大に努めるなど、観光を通じて、地域の歴史、文化や産業を残していく活動を行っている地域DMO。大田原グリーンツーリズム推進協議会と連携し、大田原市役所が関係機関との調整や広域的な情報展開を実施することで、地域一体となった取組を展開している。 ・大田原グリーンツーリズム推進協議会：地域の様々な分野の構成員が参画し、農業体験のインストラクターの養成等に取り組んでいる。	—

2 今後の取組

(1) 地域計画に定める事業の推進

地域計画に定める事業の推進に当たっては、大田原市教育委員会事務局文化振興課が事務局となり、引き続き大田原市文化財保存活用地域計画協議会及び庁内検討部会を組織、運営して、事業の進行管理を行っていく。

協議会の委員については、必要に応じて新たな団体等を参画させることの検討も行う。

(2) 計画の進捗管理と自己評価の方法

地域計画に示した措置のうち、市文化振興課が主体となっていく事業については、本市で行う行政評価に伴う事務事業評価シートにならって、毎年度当初に指標（K P I）を設定し、翌年度当初に自己評価を実施して進行管理を行う。また、他の部署が主体となっていく事業については、本市で行っている行政評価の結果を資料として集約する。それらの状況については、毎年度大田原市文化財保存活用地域計画協議会へ報告するものとする。

また、計画期間の最終年度となる令和7年度においては、地域計画の内容の見直し作業を行い、自己評価と地域計画協議会における指導・助言を踏まえて次期地域計画を作成し、文化庁長官への認定申請手続きを改めて行うものとする。

併せて、令和8年度に予定されている次期総合計画の改定作業にもその内容を反映させるものとする。

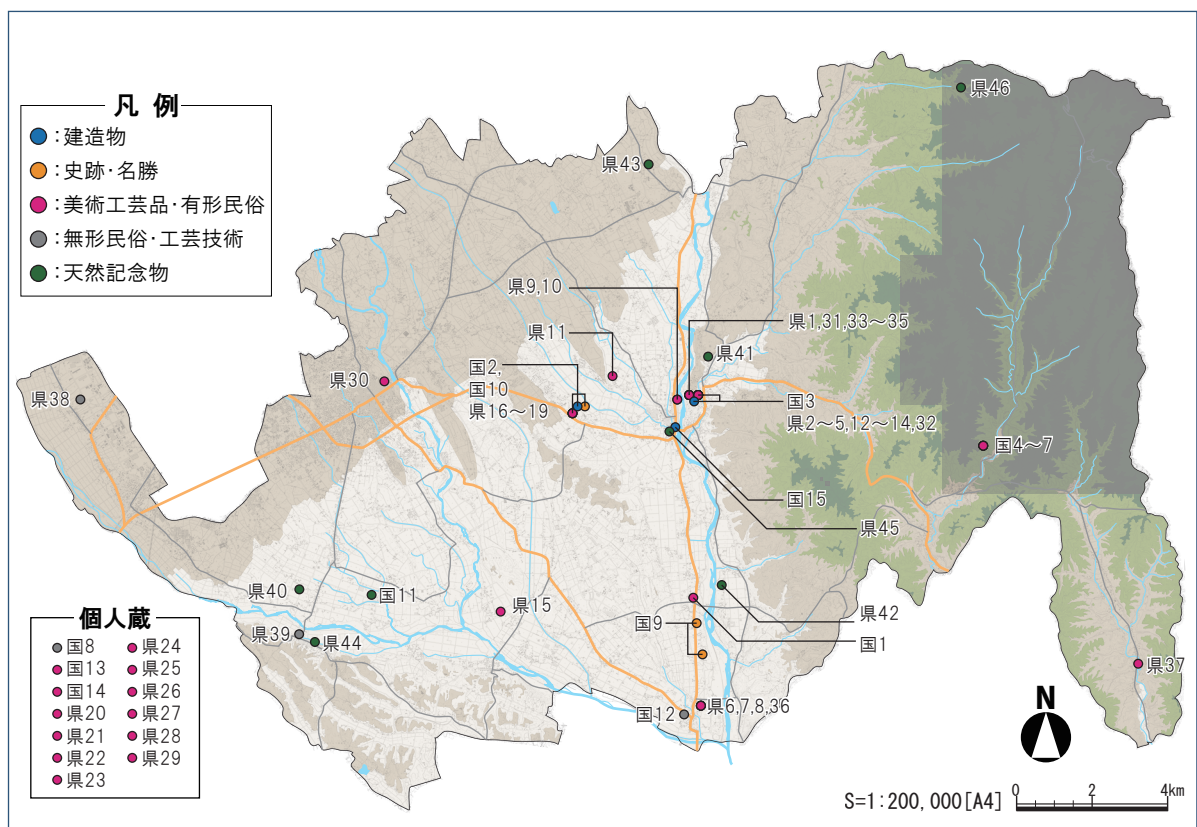
巻末資料

1 文化財リスト

(1) 指定・登録等文化財

No.	指定者	区分〔種別〕	指定名称	所在地	所有者・管理者	指定日
1	国指定	国宝（古文書）	那須国造碑	湯津上	笠石神社	S27. 11. 22
2	国指定	重要文化財（建造物）	那須神社本殿・楼門 附銅棟札（本殿附）・石燈籠・手水舟	南金丸	那須神社	H26. 1. 27
3	国指定	重要文化財（建造物）	大雄寺	黒羽田町	大雄寺	H29. 7. 31
4	国指定	重要文化財（絵画）	絹本著色仏国国師像	雲岩寺	雲巖寺	S25. 8. 29
5	国指定	重要文化財（絵画）	絹本著色仏応禪師像	雲岩寺	雲巖寺	S25. 8. 29
6	国指定	重要文化財（彫刻）	木造無学祖元坐像	雲岩寺	雲巖寺	H21. 7. 10
7	国指定	重要文化財（彫刻）	木造高峰顕日坐像	雲岩寺	雲巖寺	H21. 7. 10
8	国指定	重要無形文化財	竹工芸（勝城蒼鳳・藤沼昇）	市野沢・浅香	個人	H17. 8. 30
9	国指定	記念物（史跡）	侍塚古墳	湯津上	国	S26. 6. 9
10	国指定	記念物（名勝）	おくのほそ道の風景地八幡宮（那須神社境内）	南金丸	那須神社	H26. 3. 18
11	国指定	記念物（天然記念物）	ミヤコタナゴ	県内一円		S49. 6. 25
12	国認定	重要美術品（工芸品）	太刀 銘 吉房	市内	個人	S11. 9. 12
13	国認定	重要美術品（工芸品）	※所有者の意向により非公表	市内	個人	-
14	国選択	無形民俗文化財	大捻縄引	佐良土	佐良土区	H5. 11. 26
15	国登録	有形文化財（建造物）	足利銀行黒羽支店（旧黒羽銀行）	黒羽向町	株式会社足利銀行	H12. 4. 28
1	県指定	有形文化財（絵画）	絹本淡彩黒羽周辺景観図（城東・城西図）	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	S42. 12. 22
2	県指定	有形文化財（絵画）	絹本淡彩広凌観瀾図	黒羽田町	大雄寺	S45. 11. 20
3	県指定	有形文化財（絵画）	絹本著色釈迦涅槃図	黒羽田町	大雄寺	S45. 11. 20
4	県指定	有形文化財（絵画）	紙本墨画楊柳観音像	黒羽田町	大雄寺	S47. 1. 21
5	県指定	有形文化財（絵画）	木版紙本著色五百羅漢像	黒羽田町	大雄寺	S47. 1. 21
6	県指定	有形文化財（絵画）	紙本著色釈迦涅槃図	佐良土	法輪寺	S48. 1. 30
7	県指定	有形文化財（絵画）	板絵墨画虎図	佐良土	法輪寺	S57. 11. 30
8	県指定	有形文化財（絵画）	板絵著色四霊の図	佐良土	法輪寺	S57. 11. 30
9	県指定	有形文化財（絵画）	両界曼荼羅図	黒羽向町	明王寺	S63. 4. 8
10	県指定	有形文化財（絵画）	紙本墨画竜に馬師皇図	黒羽向町	明王寺	S63. 4. 8
11	県指定	有形文化財（彫刻）	木造阿弥陀如来立像	余瀬	西教寺	S38. 7. 1
12	県指定	有形文化財（彫刻）	木造聖観音立像	黒羽田町	大雄寺	S38. 7. 1
13	県指定	有形文化財（彫刻）	木造釈迦如来坐像（本尊）	黒羽田町	大雄寺	S45. 11. 20
14	県指定	有形文化財（彫刻）	木造釈迦如来坐像	黒羽田町	大雄寺	S45. 11. 20
15	県指定	有形文化財（彫刻）	銅造阿弥陀如来及び両脇侍像	片府田	宝寿院	S48. 8. 28
16	県指定	有形文化財（工芸品）	銅製鱈口（文和）	南金丸	那須神社 / 那須与一伝承館	S32. 8. 30
17	県指定	有形文化財（工芸品）	銅製鱈口（天正）	南金丸	那須神社 / 那須与一伝承館	S32. 8. 30
18	県指定	有形文化財（工芸品）	太刀 伝 弘綱	南金丸	那須神社 / 那須与一伝承館	S32. 8. 30
19	県指定	有形文化財（工芸品）	太刀 銘 一	南金丸	那須神社 / 那須与一伝承館	S32. 8. 30
20	県指定	有形文化財（工芸品）	刀 銘（表） 楚州住細川義規作（裏） 慶應三年八月日	市内	個人	S37. 12. 4
21	県指定	有形文化財（工芸品）	刀 銘 野州住源正義作	市内	個人	S41. 3. 18
22	県指定	有形文化財（工芸品）	わきざし 銘 源真守造之	市内	個人	S54. 11. 27
23	県指定	有形文化財（工芸品）	自在鍵図小柄	市内	個人	S55. 2. 8
24	県指定	有形文化財（工芸品）	雲龍図鐺	市内	個人	S55. 2. 8
25	県指定	有形文化財（工芸品）	刀 銘 守勝	市内	個人	S56. 7. 31
26	県指定	有形文化財（工芸品）	半太刀拵（土屋信親作揃金具）	市内	個人	S56. 7. 31

No.	指定者	区分〔種別〕	指定名称	所在地	所有者・管理者	指定日
27	県指定	有形文化財（工芸品）	刀 銘 野州住道賛作之	市内	個人	S56. 7. 31
28	県指定	有形文化財（工芸品）	太刀 銘 作陽幕下土細川正義	市内	個人	S58. 2. 4
29	県指定	有形文化財（工芸品）	短刀 銘 作陽幕下土細川正義 (刻印)	市内	個人	S61. 10. 7
30	県指定	有形文化財（工芸品）	刀 銘 埜州住細川正規作 (刻印)	山の手	龍泉寺	S61. 10. 7
31	県指定	有形文化財（書跡）	創垂可継	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	S42. 10. 20
32	県指定	有形文化財（書跡）	木版一切経	黒羽田町	大雄寺	S42. 12. 22
33	県指定	有形文化財（書跡）	止戈枢要	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	S45. 9. 1
34	県指定	有形文化財（書跡）	乗化亭奇方	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	S45. 9. 1
35	県指定	有形文化財（書跡）	宝暦年中政事改正考草按	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	S45. 9. 1
36	県指定	有形文化財（書跡）	紺紙金泥大般若波羅密多経	佐良土	法輪寺	S48. 1. 30
37	県指定	有形民俗文化財	人面獸心の壁書	須賀川	個人	S42. 10. 20
38	県指定	無形民俗文化財	城鉾舞	上石上	城鉾舞保存会 / 温泉神社	S52. 7. 29
39	県指定	無形民俗文化財	正浄寺の雅楽	佐久山	正浄寺の雅楽保存会 / 正浄寺	S52. 7. 29
40	県指定	記念物（天然記念物）	糸魚生息地（田谷川）	親園	南区イトヨ保存会	S29. 3. 29
41	県指定	記念物（天然記念物）	堀之内のツクバネガシ	堀之内	堀之内区	S42. 10. 20
42	県指定	記念物（天然記念物）	片田のヒイラギ	片田	御霊神社	S42. 10. 20
43	県指定	記念物（天然記念物）	大野室のイチヨウ	寒井	三島神社	S42. 12. 22
44	県指定	記念物（天然記念物）	佐久山のケヤキ	佐久山	長宗寺 / 大日堂	S43. 3. 12
45	県指定	記念物（天然記念物）	湯泉神社社叢アカガシ・スギ・ ヒノキ	大豆田	湯泉神社	S43. 3. 12
46	県指定	記念物（天然記念物）	磯上のヤマザクラ	両郷	個人	S43. 8. 27



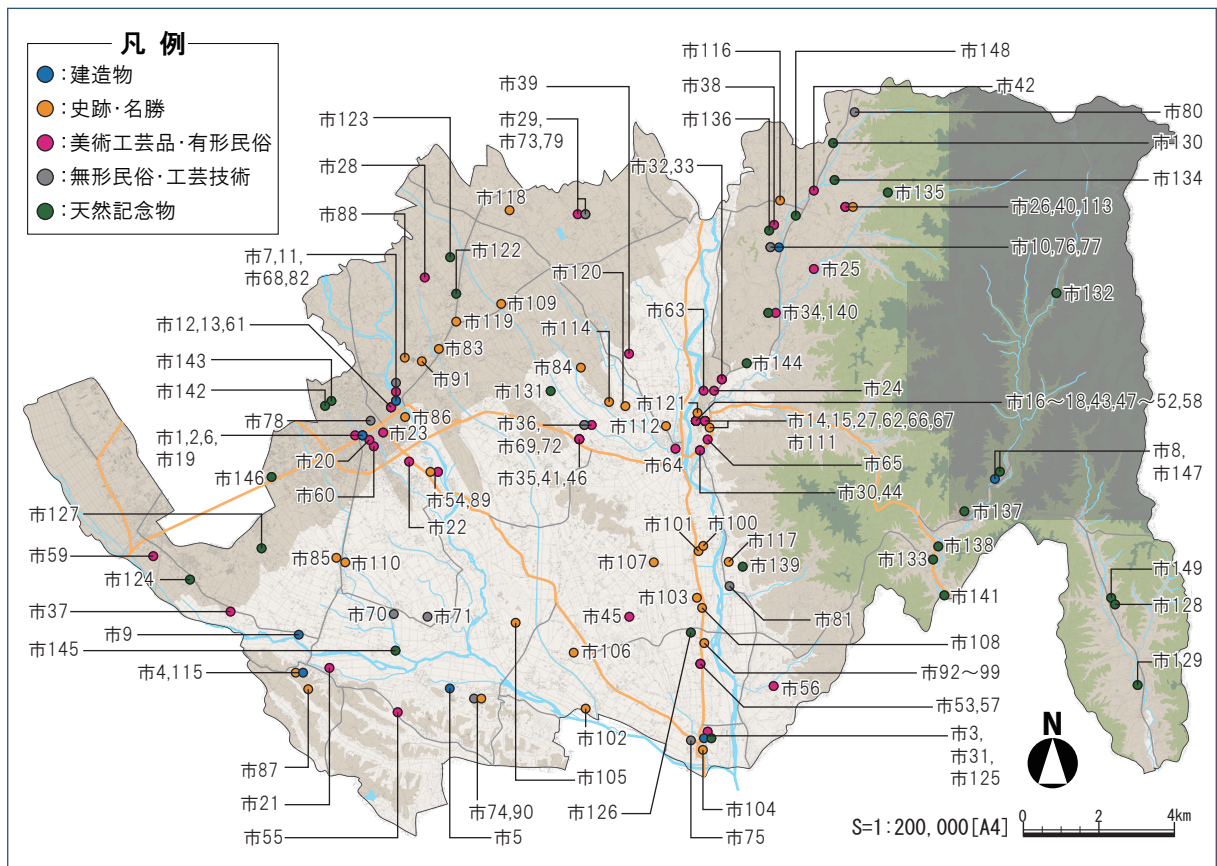
国指定 / 選択 / 認定 / 登録文化財、県指定文化財位置図

No.	指定者	区分〔種別〕	指定名称	所在地	所有者・管理者	指定日
1	市指定	有形文化財（建造物）	七重塔	中央	不退寺 / 薬師堂	S37. 9. 25
2	市指定	有形文化財（建造物）	舎利塔	中央	不退寺 / 薬師堂	S37. 9. 25
3	市指定	有形文化財（建造物）	勅額門	佐良土	法輪寺	S41. 2. 15
4	市指定	有形文化財（建造物）	山門	佐久山	実相院	S41. 7. 28
5	市指定	有形文化財（建造物）	福原八幡宮本殿	福原	八幡宮	S44. 10. 1
6	市指定	有形文化財（建造物）	薬師堂	中央	不退寺 / 薬師堂	H1. 3. 6
7	市指定	有形文化財（建造物）	石灯籠（大田原神社）	山の手	大田原神社	H1. 5. 22
8	市指定	有形文化財（建造物）	雲巖寺山門	雲岩寺	雲巖寺	H8. 12. 9
9	市指定	有形文化財（建造物）	滝沢神社本殿	滝沢	滝沢神社	H16. 2. 12
10	市指定	有形文化財（建造物）	大宮温泉神社の石灯籠	中野内	大宮温泉神社	H27. 6. 19
11	市指定	有形文化財（建造物）	大田原神社の手水盥	山の手	大田原神社	H28. 6. 6
12	市指定	有形文化財（絵画）	涅槃図	山の手	龍泉寺	S48. 12. 18
13	市指定	有形文化財（絵画）	愛染明王図	山の手	龍泉寺	S48. 12. 18
14	市指定	有形文化財（絵画）	紙本著色大関美作守高増画像	黒羽田町	大雄寺	H13. 6. 21
15	市指定	有形文化財（絵画）	板絵著色十六羅漢図	黒羽田町	大雄寺	H13. 6. 21
16	市指定	有形文化財（絵画）	絹本著色大関美作守高増画像	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H17. 2. 16
17	市指定	有形文化財（絵画）	紙本著色大関美作守高増画像	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H17. 2. 16
18	市指定	有形文化財（絵画）	絹本著色黒羽城西之図	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H17. 2. 16
19	市指定	有形文化財（彫刻）	金剛力士像	中央	不退寺 / 薬師堂	S37. 9. 25
20	市指定	有形文化財（彫刻）	十一面千手観音像	新富町	不退寺	S37. 9. 25
21	市指定	有形文化財（彫刻）	不動明王像	佐久山	長宗寺 / 大日堂	S39. 5. 27
22	市指定	有形文化財（彫刻）	刈切地藏	若草	不退寺 / 刈切地藏堂	S41. 7. 28
23	市指定	有形文化財（彫刻）	屋台	新富町	上町クラブ	S41. 7. 28
24	市指定	有形文化財（彫刻）	木造観世音仏立像	堀之内	御堂地観音堂	S46. 2. 12
25	市指定	有形文化財（彫刻）	木造十一面観世音立像	大久保	道坂観音堂	S46. 2. 12
26	市指定	有形文化財（彫刻）	仁王尊像	寺宿	光厳寺	S46. 2. 12
27	市指定	有形文化財（彫刻）	不動明王尊像	黒羽田町	大雄寺	S46. 2. 12
28	市指定	有形文化財（彫刻）	金剛界大日如来像	富池	成就院	S48. 12. 18
29	市指定	有形文化財（彫刻）	羽田太々神楽能面	羽田	八龍神社	S48. 12. 18
30	市指定	有形文化財（彫刻）	田町彫刻屋台	黒羽田町	黒羽田町区	S54. 5. 25
31	市指定	有形文化財（彫刻）	大天狗面	佐良土	法輪寺	H3. 6. 14
32	市指定	有形文化財（彫刻）	木造千手観音菩薩坐像	堀之内	岩谷観音堂	H8. 12. 9
33	市指定	有形文化財（彫刻）	木造御前立千手観音菩薩坐像附棟札	堀之内	岩谷観音堂	H8. 12. 9
34	市指定	有形文化財（彫刻）	木造十一面観音菩薩立像	久野又	不動院	H8. 12. 9
35	市指定	有形文化財（工芸品）	甲冑（紺糸威）	南金丸	市 / 那須与一伝承館	S39. 5. 27
36	市指定	有形文化財（工芸品）	甲冑（紺糸威）	南金丸	那須神社	S39. 5. 27
37	市指定	有形文化財（工芸品）	甲冑（金箔押本小札縹糸威二枚胴具足）	平沢	個人	S41. 7. 28
38	市指定	有形文化財（工芸品）	銅製鰐口	中野内	青木地区	S46. 2. 12
39	市指定	有形文化財（工芸品）	毛織物（フェルト）	蜂巢	個人	S46. 2. 12
40	市指定	有形文化財（工芸品）	光厳寺三鍔銘鐘	寺宿	光厳寺	H13. 6. 21
41	市指定	有形文化財（書跡）	三語便覧・五方通語	佐久山	個人 / 那須与一伝承館	S43. 2. 15
42	市指定	有形文化財（書跡）	初取高覚帳	河原	個人	S50. 12. 12
43	市指定	有形文化財（典籍）	旧黒羽藩主大関家文庫蔵写本佐竹得昭著護法秘策	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H4. 11. 24
44	市指定	有形文化財（典籍）	東野遺稿	黒羽田町	個人	H5. 5. 27
45	市指定	有形文化財（古文書）	検地帳・名寄帳・地検の証	湯津上	市教育委員会	S43. 7. 26
46	市指定	有形文化財（古文書）	武將起請文	福原	金剛寿院 / 那須与一伝承館	S43. 2. 15
47	市指定	有形文化財（古文書）	旧黒羽藩主大関家蔵領知朱印状・旧黒羽藩主大関家蔵領知目録	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H4. 11. 24

No.	指定者	区分〔種別〕	指定名称	所在地	所有者・管理者	指定日
48	市指定	有形文化財（古文書）	旧黒羽藩主大関家蔵徳川秀忠より大関左衛門督宛状	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H4. 11. 24
49	市指定	有形文化財（古文書）	旧黒羽藩主大関家蔵本多弥八郎より大関左衛門督宛状	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H4. 11. 24
50	市指定	有形文化財（古文書）	佐竹義重起請文	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H11. 11. 12
51	市指定	有形文化財（古文書）	賞典書	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H11. 11. 12
52	市指定	有形文化財（古文書）	太政官辞令（黒羽藩知事）	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	H11. 11. 12
53	市指定	有形文化財（考古資料）	縄文土器 湯坂遺跡出土	湯津上	市 / なす風土記の丘湯津上資料館	S54. 3. 28
54	市指定	有形文化財（考古資料）	縄文土器 平林真子遺跡出土	若草	個人	S54. 3. 28
55	市指定	有形文化財（考古資料）	縄文土器 高山遺跡出土	佐久山	市 / なす風土記の丘湯津上資料館	S54. 3. 28
56	市指定	有形文化財（考古資料）	川木谷遺跡遺物（表採）土器 石器	亀久	個人	H1. 9. 20
57	市指定	有形文化財（考古資料）	縄文土器 羽田長者ヶ平遺跡出土	湯津上	市 / なす風土記の丘湯津上資料館	H15. 4. 25
58	市指定	有形文化財（歴史資料）	黒羽城鳥瞰図	前田	市 / 黒羽芭蕉の館	S53. 7. 19
59	市指定	有形文化財（歴史資料）	半鐘	薄葉	上薄葉区長	S53. 9. 7
60	市指定	有形文化財（歴史資料）	大田原宿町並の図	新富町	個人	S54. 3. 28
61	市指定	有形文化財（歴史資料）	紙本著色大田原資清と一族の肖像画	山の手	龍泉寺	H10. 2. 23
62	市指定	有形文化財（歴史資料）	紙本著色黒羽城郭（居館）の図	黒羽田町	大雄寺	H13. 6. 21
63	市指定	有形文化財（歴史資料）	大関公之碑	前田	鎮国神社	H13. 6. 21
64	市指定	有形文化財（歴史資料）	芭蕉句碑	黒羽向町	常念寺	H13. 6. 21
65	市指定	有形文化財（歴史資料）	旧作新館講堂格天井	黒羽田町	市 / 黒羽小学校	H17. 2. 16
66	市指定	有形文化財（歴史資料）	紙本墨画達磨図	黒羽田町	大雄寺	H22. 8. 16
67	市指定	有形文化財（歴史資料）	絹本墨画乗龍菩薩・竹・梅	黒羽田町	大雄寺	H22. 8. 16
68	市指定	有形民俗文化財	額絵馬	山の手	大田原神社	H1. 3. 6
69	市指定	無形民俗文化財	永代々神楽（那須神社）	南金丸	那須神社永代々神楽保存会 / 那須神社	S36. 3. 22
70	市指定	無形民俗文化財	天念仏	花園	天念仏保存会 / 長泉寺	S36. 12. 8
71	市指定	無形民俗文化財	草刈唄	花園	草刈唄保存会	S36. 12. 8
72	市指定	無形民俗文化財	獅子舞（那須神社）	南金丸	那須神社獅子舞保存会 / 那須神社	S37. 6. 22
73	市指定	無形民俗文化財	太々神楽（八龍神社）	羽田	羽田太々神楽保存会 / 八龍神社	S37. 6. 22
74	市指定	無形民俗文化財	餅つき唄（福原）	福原	福原餅つき唄保存会 / 女性寺	S38. 3. 7
75	市指定	無形民俗文化財	大捻縄引	佐良土	佐良土区	S41. 2. 15
76	市指定	無形民俗文化財	温泉神社獅子舞	中野内	久野又獅子舞保存会 / 温泉神社	S46. 2. 12
77	市指定	無形民俗文化財	温泉神社太々神楽	中野内	中野内太々神楽保存会 / 温泉神社	S46. 2. 12
78	市指定	無形民俗文化財	大田原の盆踊り唄	中央	大田原盆踊り唄保存愛好会	S53. 9. 7
79	市指定	無形民俗文化財	天祭（八龍神社）	羽田	羽田八龍神社天祭保存会 / 八龍神社	S53. 9. 7
80	市指定	無形民俗文化財	両郷磯上太々神楽	両郷	両郷磯上太々神楽保存会	S62. 5. 21
81	市指定	無形民俗文化財	黒羽餅つき唄	北滝	黒羽餅つき唄保存会	H17. 2. 16
82	市指定	無形民俗文化財	大田原神社の屋台行事（大田原屋台まつり）	中央	大田原屋台まつり実行委員会	H30. 10. 25
83	市指定	記念物（史跡）	一里塚	中田原	市	S36. 3. 22
84	市指定	記念物（史跡）	湯坂遺跡	北金丸	個人	S36. 3. 22
85	市指定	記念物（史跡）	蒲盧碑及び蒲盧碑原文	親園	親園北区区長 / 湯殿山神社	S36. 8. 22 S36. 12. 8

No.	指定者	区分〔種別〕	指定名称	所在地	所有者・管理者	指定日
86	市指定	記念物（史跡）	大田原城跡	城山	市	S36.12.8
87	市指定	記念物（史跡）	佐久山城跡	佐久山	市	S36.12.8
88	市指定	記念物（史跡）	水口居館跡	町島	市、個人	S36.12.8
89	市指定	記念物（史跡）	縄文時代中期住居跡 （平林真子遺跡）	若草	市、個人	S36.12.8
90	市指定	記念物（史跡）	那須氏墓碑	福原	玄性寺	S37.6.22
91	市指定	記念物（史跡）	大田原氏墓所	中田原、 山の手	市、光真寺	S40.10.1
92	市指定	記念物（史跡）	侍塚古墳群 1 号墳	湯津上	個人	S41.2.15
93	市指定	記念物（史跡）	侍塚古墳群 2 号墳	湯津上	個人	S41.2.15
94	市指定	記念物（史跡）	侍塚古墳群 3 号墳	湯津上	個人	S41.2.15
95	市指定	記念物（史跡）	侍塚古墳群 4 号墳	湯津上	個人	S41.2.15
96	市指定	記念物（史跡）	侍塚古墳群 5 号墳	湯津上	個人	S41.2.15
97	市指定	記念物（史跡）	侍塚古墳群 6 号墳	湯津上	個人	S41.2.15
98	市指定	記念物（史跡）	侍塚古墳群 7 号墳	湯津上	個人	S41.2.15
99	市指定	記念物（史跡）	侍塚古墳群 8 号墳	湯津上	個人	S41.2.15
100	市指定	記念物（史跡）	観音塚古墳	狭原	個人	S41.2.15
101	市指定	記念物（史跡）	二ツ室塚古墳	小船渡	個人	S41.2.15
102	市指定	記念物（史跡）	蛭田富士山古墳	蛭田	蛭田区	S41.2.15
103	市指定	記念物（史跡）	岩舟台遺跡	湯津上	個人	S41.2.15
104	市指定	記念物（史跡）	佐良土館跡	佐良土	法輪寺	S41.2.15
105	市指定	記念物（史跡）	片府田館跡	片府田	個人	S41.2.15
106	市指定	記念物（史跡）	秀衡街道跡	蛭田	個人	S41.2.15
107	市指定	記念物（史跡）	真里谷清雲の墓所	湯津上	個人	S41.2.15
108	市指定	記念物（史跡）	木曾武元の墓所	湯津上	個人	S41.2.15
109	市指定	記念物（史跡）	小滝城跡	小滝	個人	S42.7.22
110	市指定	記念物（史跡）	町初碑	親園	個人	S43.2.15
111	市指定	記念物（史跡）	大関家代々墓地	黒羽田町	大雄寺	S46.2.12
112	市指定	記念物（史跡）	石井沢増次墓地	黒羽向町	市	S46.2.12
113	市指定	記念物（史跡）	光厳寺高増墓地	寺宿	光厳寺	S46.2.12
114	市指定	記念物（史跡）	白旗城跡（本城山）	余瀬	西教寺ほか	S46.2.12
115	市指定	記念物（史跡）	福原氏墓所	佐久山	実相院	S47.3.1
116	市指定	記念物（史跡）	大塚古墳	中野内	個人	S48.12.14
117	市指定	記念物（史跡）	銭室塚古墳	北滝	銭室塚管理者	S52.5.18
118	市指定	記念物（史跡）	久保館跡	乙連沢	個人共有	S59.6.1
119	市指定	記念物（史跡）	道標	小滝	小滝自治会	S60.5.15
120	市指定	記念物（史跡）	鹿子畑翠桃墓地	余瀬	市	S63.6.24
121	市指定	記念物（史跡）	黒羽城跡	前田	市	H13.6.21
122	市指定	記念物（天然記念物）	コウヤマキ	小滝	小滝区長	S36.3.22
123	市指定	記念物（天然記念物）	糸魚生息地河川おかんじち川	市野沢	市野沢区長	S36.3.22
124	市指定	記念物（天然記念物）	カヤ（高性寺）	薄葉	高性寺	S36.12.8
125	市指定	記念物（天然記念物）	西行桜	佐良土	法輪寺	S41.2.15
126	市指定	記念物（天然記念物）	大かやの木	湯津上	個人	S41.2.15
127	市指定	記念物（天然記念物）	夏グミ	実取	実取区長 / 安波原地蔵堂	S43.7.26
128	市指定	記念物（天然記念物）	下宮のカヤ	須賀川	個人	S46.2.12
129	市指定	記念物（天然記念物）	竹の内のカヤ	須賀川	個人	S46.2.12
130	市指定	記念物（天然記念物）	両郷のハリキリ（センノキ）	両郷	個人	S46.2.22
131	市指定	記念物（天然記念物）	ザゼン草群生地	北金丸	市	S47.8.1
132	市指定	記念物（天然記念物）	南方のキャラ	南方	南方共同墓地管理者	S48.12.1
133	市指定	記念物（天然記念物）	洲崎のイチイ	須佐木	個人	S48.12.1

No.	指定者	区分〔種別〕	指定名称	所在地	所有者・管理者	指定日
134	市指定	記念物（天然記念物）	河原のゴヨウマツ	河原	個人	S48. 12. 14
135	市指定	記念物（天然記念物）	入小滝のヤマザクラ	寺宿	個人	S48. 12. 14
136	市指定	記念物（天然記念物）	青木のシダレザクラ	中野内	龍念寺	S48. 12. 14
137	市指定	記念物（天然記念物）	浄居寺のシダレザクラ	須佐木	個人	S48. 12. 14
138	市指定	記念物（天然記念物）	須佐木のイモタネザクラ	須佐木	個人	S48. 12. 14
139	市指定	記念物（天然記念物）	法善寺のシダレザクラ	北滝	法善寺	S48. 12. 14
140	市指定	記念物（天然記念物）	不動院のカヤ	久野又	不動院	S48. 12. 14
141	市指定	記念物（天然記念物）	二斗内のカヤ	須佐木	個人	S48. 12. 14
142	市指定	記念物（天然記念物）	ハクウンボク群生地	本町	市 / 鶯谷公園	S54. 3. 28
143	市指定	記念物（天然記念物）	ユズリハの木	本町	成田山	S54. 3. 28
144	市指定	記念物（天然記念物）	大塩のイチョウ	北野上	鼻取り地藏堂	S56. 11. 19
145	市指定	記念物（天然記念物）	アカガシ群生地	滝岡	滝岡温泉神社	S60. 12. 6
146	市指定	記念物（天然記念物）	ヌマスギ群生地	加治屋	加治屋自治会 / 西郷神社	S62. 7. 1
147	市指定	記念物（天然記念物）	雲巖寺のスギ	雲岩寺	雲巖寺	H4. 11. 24
148	市指定	記念物（天然記念物）	中野内温泉神社のスギ	中野内	温泉神社	H4. 11. 24
149	市指定	記念物（天然記念物）	鹿島神社のモミジ	須賀川	鹿島神社	H17. 2. 16



市指定文化財位置図

(2) その他

No.	区分〔種別〕	指定名称	所在地	所有者・管理者	指定日	
1	日本森林学会林業遺産	「太山の左知」をはじめとした興野家文書	前田	個人 / 黒羽芭蕉の館	H26. 3. 26	
2	土木学会推奨土木遺産	栃木の防空関連施設群 旧金丸飛行場掩体壕	南金丸	那須野ヶ原カン トリークラブ	H24	
3	日本遺産	明治貴族が描いた未来 ～那須野が原開拓浪漫譚～	-	-	H30	
		西郷神社	加治屋	加治屋自治会	-	
		市内の 構成文化財	平田東助の墓	蛭田	品川自治会	-
		御亭山緑地公園	北滝	北滝森林同盟会	-	
		那須基線（観象台）南端点	親園	個人	-	
		「拓魂」碑	湯津上	中の原自治会	-	
		大田原市歴史民俗資料館収蔵資料	湯津上	市	-	
		大田原市大野放牧場	湯津上	市	-	

(3) 未指定文化財

番号	区分〔種別〕		名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等
1- 1- 1	有形文化財	建造物	旧東野鉄道トンネル	山の手2丁目	関東自動車株式会社	大正7年 (1918)	全長82m、レンガ、切石、 コンクリート造
1- 1- 2	有形文化財	建造物	旧東野鉄道湯坂川橋梁	大豆田		近代	コンクリート造
1- 1- 3	有形文化財	建造物	旧東野鉄道箒川築堤橋台	佐良土		近代	コンクリート造
1- 1- 4	有形文化財	建造物	旧東野鉄道佐良土停車場ホーム	佐良土		近代	コンクリート造
1- 1- 5	有形文化財	建造物	洞泉院本堂	山の手1丁目	洞泉院	江戸	
1- 1- 6	有形文化財	建造物	洞泉院山門	山の手1丁目	洞泉院	江戸	
1- 1- 7	有形文化財	建造物	光真寺山門	山の手2丁目	光真寺	江戸	
1- 1- 8	有形文化財	建造物	大田原神社 鳥居	山の手2丁目	個人	江戸	
1- 1- 9	有形文化財	建造物	清水寺地藏堂	城山2丁目		大正7年 (1918)	金属板葺、木造、方型
1- 1- 10	有形文化財	建造物	正法寺本堂	中央1丁目	正法寺	江戸	
1- 1- 11	有形文化財	建造物	不退寺薬師堂の石灯籠	中央2丁目	不退寺	天和4年 (1684)	
1- 1- 12	有形文化財	建造物	忍精寺	新富町3丁目		文政11年 (1828)	
1- 1- 13	有形文化財	建造物	西郷神社本殿	加治屋	加治屋自治会	明治36年 (1903)	総高343cm×最大幅138cm、石造
1- 1- 14	有形文化財	建造物	稲荷神社本殿	中田原	個人	江戸	
1- 1- 15	有形文化財	建造物	羽田温泉神社本殿	羽田	個人	江戸	
1- 1- 16	有形文化財	建造物	奥沢温泉神社本殿	奥沢	個人	江戸	
1- 1- 17	有形文化財	建造物	愛宕神社の石灯籠			元禄10年 (1697) 元禄12年 (1699)	高さ161cm
1- 1- 18	有形文化財	建造物	薄葉温泉神社本殿	薄葉	個人	江戸	
1- 1- 19	有形文化財	建造物	実相院本堂	佐久山	実相院		
1- 1- 20	有形文化財	建造物	温泉神社本殿	佐久山	個人	江戸	
1- 1- 21	有形文化財	建造物	愛宕神社本殿	佐久山	個人	江戸	
1- 1- 22	有形文化財	建造物	前坂観音堂	佐久山		明治中期	
1- 1- 23	有形文化財	建造物	荒町薬師堂	佐久山		延宝7年 (1679)	銅板葺、木造
1- 1- 24	有形文化財	建造物	正浄寺本堂	佐久山		江戸末期頃	
1- 1- 25	有形文化財	建造物	金剛寿院本堂	福原	金剛寿院	明治中期	金属板葺、木造
1- 1- 26	有形文化財	建造物	金剛寿院大師堂	福原	金剛寿院	江戸	
1- 1- 27	有形文化財	建造物	金剛寿院山門	福原	金剛寿院	江戸	
1- 1- 28	有形文化財	建造物	笠石神社（那須国造碑覆堂）	湯津上	笠石神社	明治	
1- 1- 29	有形文化財	建造物	法輪寺本堂	佐良土	法輪寺	江戸	
1- 1- 30	有形文化財	建造物	法輪寺鳥居	佐良土	法輪寺	江戸	
1- 1- 31	有形文化財	建造物	法輪寺鐘楼	佐良土	法輪寺	江戸	茅葺
1- 1- 32	有形文化財	建造物	法輪寺大日堂	佐良土	法輪寺	江戸	
1- 1- 33	有形文化財	建造物	稲荷神社鳥居	片府田	宝寿院	江戸	
1- 1- 34	有形文化財	建造物	黒羽神社の常夜灯	黒羽田町		明治11年 (1878)	
1- 1- 35	有形文化財	建造物	玉藻稲荷神社の石鳥居	蜂巢			
1- 1- 36	有形文化財	建造物	飯縄山神社本殿	前田	個人	江戸	

番号	区分〔種別〕	名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等	
1- 1- 37	有形文化財	建造物	鎮国神社本殿	前田	個人	江戸	
1- 1- 38	有形文化財	建造物	温泉神社本殿	北野上	個人	江戸	
1- 1- 39	有形文化財	建造物	天満宮本殿	北野上	個人	江戸	
1- 1- 40	有形文化財	建造物	生駒神社本殿	亀久	個人	江戸	
1- 1- 41	有形文化財	建造物	常念寺本堂	黒羽向町	常念寺	江戸	
1- 1- 42	有形文化財	建造物	常念寺山門	黒羽向町	常念寺	江戸	
1- 1- 43	有形文化財	建造物	湯泉神社本殿	大豆田	個人	江戸	
1- 1- 44	有形文化財	建造物	稲荷神社鳥居	蜂巢	個人	江戸	
1- 1- 45	有形文化財	建造物	桧木沢の石祠	桧木沢		天和3年 (1683)	高さ58cm×幅110cm
1- 1- 46	有形文化財	建造物	大杉神社	親園			
1- 1- 47	有形文化財	建造物	富士神社本殿	両郷	個人	江戸	
1- 1- 48	有形文化財	建造物	光巖寺山門	寺宿	光巖寺	江戸	
1- 1- 49	有形文化財	建造物	熊野神社本殿	寺宿	個人	江戸	
1- 1- 50	有形文化財	建造物	温泉神社本殿	大輪	個人	江戸	
1- 1- 51	有形文化財	建造物	寅卯神社本殿	須佐木	個人	江戸	
1- 1- 52	有形文化財	建造物	鹿島神社本殿	須賀川	個人	江戸	
1- 1- 53	有形文化財	建造物	鹿島神社拝殿	須賀川	個人	江戸	
1- 1- 54	有形文化財	建造物	雲巖寺山門①	雲岩寺	雲巖寺	江戸	
1- 1- 55	有形文化財	建造物	雲巖寺山門②	雲岩寺	雲巖寺	江戸	
1- 1- 56	有形文化財	建造物	実取温泉神社本殿 (彫刻)	実取			
1- 1- 57	有形文化財	建造物	淡島神社(彫刻)	実取			
1- 1- 58	有形文化財	建造物	あらまち蔵屋敷	中央1丁目	市	明治39年 (1906)	瓦葺土蔵造二階建店舗
1- 1- 59	有形文化財	建造物	片岡屋	中央1丁目	片岡屋		木造二階建店舗
1- 1- 60	有形文化財	建造物	旧大野小児科	中央2丁目			木造平屋建
1- 1- 61	有形文化財	建造物	飯村印刷所店舗	新富町2丁目	個人	大正6年 (1917)	コンクリート造二階建 店舗
1- 1- 62	有形文化財	建造物	佐藤電気商会	住吉町1丁目	個人	大正14年 (1925)	
1- 1- 63	有形文化財	建造物	J R 野崎駅舎	薄葉	J R 東日本 株式会社	明治29年 (1896)	木造平屋建
1- 1- 64	有形文化財	建造物	たまち蔵屋敷	黒羽田町	市		土蔵造平屋建・一部二 階
1- 1- 65	有形文化財	建造物	旧車田医院	黒羽向町	車田医院	昭和2年 (1927)	木造平屋建
1- 2- 1	有形文化財	石造物	板碑	南金丸	那須神社	元応2年 (1320)	
1- 2- 2	有形文化財	石造物	板碑	乙連沢	市	正応4年 (1291)	
1- 2- 3	有形文化財	石造物	板碑	湯津上			
1- 2- 4	有形文化財	石造物	板碑	蛭田	頂蓮寺	貞和元年 (1345)	
1- 2- 5	有形文化財	石造物	板碑	蛭田	頂蓮寺	貞和2年 (1346)	50cm×19cm
1- 2- 6	有形文化財	石造物	板碑	片府田	宝寿院	暦応5年 (1342)	48cm×21cm
1- 2- 7	有形文化財	石造物	板碑	前田	市		
1- 2- 8	有形文化財	石造物	板碑	北野上			
1- 2- 9	有形文化財	石造物	板碑	北野上			

番号	区分〔種別〕		名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等
1- 2- 10	有形文化財	石造物	板碑	余瀬		正安元年 (1299)	
1- 2- 11	有形文化財	石造物	五輪塔	上石上	法善寺	正和 5 年 (1316)	
1- 2- 12	有形文化財	石造物	五輪塔	福原	永興寺	建永元年 (1206)	
1- 2- 13	有形文化財	石造物	五輪塔	佐久山	実相院	中世	
1- 2- 14	有形文化財	石造物	五輪塔	河原			
1- 2- 15	有形文化財	石造物	五輪塔	寒井			
1- 2- 16	有形文化財	石造物	五輪塔	寺宿	光厳寺		
1- 2- 17	有形文化財	石造物	宝篋印塔	上石上	全超寺	近世	
1- 2- 18	有形文化財	石造物	宝篋印塔	湯津上		正徳 6 年 (1716)	不明
1- 2- 19	有形文化財	石造物	宝篋印塔	狭原		寛保	不明
1- 2- 20	有形文化財	石造物	宝篋印塔	市野沢		安政 3 年 (1856)	
1- 2- 21	有形文化財	石造物	宝篋印塔	北滝	法善寺		
1- 2- 22	有形文化財	石造物	宝篋印塔	大輪			
1- 2- 23	有形文化財	石造物	宝篋印塔	黒羽田町	招魂社	不明	不明
1- 2- 24	有形文化財	石造物	宝篋印塔	北野上	万蔵山	不明	67 cm × 240 cm
1- 2- 25	有形文化財	石造物	宝篋印塔	北野上	塩畑	不明	不明
1- 2- 26	有形文化財	石造物	宝篋印塔	八塩		不明	不明
1- 2- 27	有形文化財	石造物	宝篋印塔	黒羽向町	常念寺	不明	不明
1- 2- 28	有形文化財	石造物	宝篋印塔	桧木沢		不明	40 cm × 120 cm
1- 2- 29	有形文化財	石造物	上深田の道標	中田原		元禄 4 年 (1691)	高さ 78 cm × 幅 23 cm
1- 2- 30	有形文化財	石造物	薄葉の庚申仏の道標	薄葉		享保 7 年 (1722)	高さ 85 cm × 幅 42 cm
1- 2- 31	有形文化財	石造物	鷹巢の道標	実取		享保 9 年 (1724)	高さ 55 cm × 幅 33 cm
1- 2- 32	有形文化財	石造物	松並の庚申塔道標	富士見 1 丁目		享保 12 年 (1727)	高さ 64 cm × 幅 24 cm
1- 2- 33	有形文化財	石造物	庚申供養塔の道標	平沢		元文 5 年 (1740)	高さ 1.7 m
1- 2- 34	有形文化財	石造物	念仏供養塔の道標	親園		延享 3 年 (1746)	
1- 2- 35	有形文化財	石造物	永代常夜塔の道標	練貫		宝暦 6 年 (1756)	高さ 74 cm × 屋根幅 52 cm
1- 2- 36	有形文化財	石造物	寒念佛供養塔の道標	上石上		宝暦 12 年 (1762)	高さ 1.5 m
1- 2- 37	有形文化財	石造物	「ひやり道」とある道標	上石上			高さ 50cm。
1- 2- 38	有形文化財	石造物	庚申塔・二十三夜塔などの道標	北金丸		明和元年 (1764)	
1- 2- 39	有形文化財	石造物	大乘妙典六十六部供養塔の道標	薄葉	高性寺	明和 4 年 (1767)	
1- 2- 40	有形文化財	石造物	那須神社前の道標	南金丸		安永 4 年 (1775)	高さ 100 cm × 横 86 cm
1- 2- 41	有形文化財	石造物	鹿畑の道標	鹿畑		天明 2 年 (1782)	高さ 66 cm
1- 2- 42	有形文化財	石造物	二十三夜塔（道標）	小滝		寛政 2 年 (1790)	高さ 60 cm × 幅 35 cm
1- 2- 43	有形文化財	石造物	道標（文字塔）	寒井		寛政 9 年 (1797)	

番号	区分〔種別〕		名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等
1- 2- 44	有形文化財	石造物	道標（馬頭観世音）	小船渡		天保14年 (1843)	
1- 2- 45	有形文化財	石造物	奉納大乘妙典六十六部	中野内		元文5年 (1740)	高さ40cm×幅123cm
1- 2- 46	有形文化財	石造物	奉供養六十六部日本回國	蛭田	上蛭田集落 センター	寛保元年 (1741)	高さ72cm×幅33cm
1- 2- 47	有形文化財	石造物	出羽三山参拝記念	薄葉		天明5年 (1785)	高さ90cm×幅34cm
1- 2- 48	有形文化財	石造物	歌碑	羽田	朝日社温泉 神社	文化3年 (1806)	高さ50cm×幅34cm
1- 2- 49	有形文化財	石造物	桃岸先生碑	上石上	法善寺	文化8年 (1811)	高さ116cm
1- 2- 50	有形文化財	石造物	芭蕉句碑	佐久山	正浄寺	文化12年 (1815)	高さ171cm×幅96cm
1- 2- 51	有形文化財	石造物	甲子還曆記念（文字塔）	黒羽田町	招魂社	元治元年 (1864)	高さ80cm×幅161cm
1- 2- 52	有形文化財	石造物	水戸士族（天狗党） 供養塔	中野内		元治元年 (1864)	高さ80cm、（墓石高65.5cm） ×幅30cm（奥行16cm）
1- 2- 53	有形文化財	石造物	佐久山町道路元標	佐久山	個人	大正	
1- 2- 54	有形文化財	石造物	金田村道路元標	鹿畑	個人	大正	花崗岩製
1- 2- 55	有形文化財	建造物	大田原上町金燈籠台石	中央1丁目		文政2年 (1819)	
1- 3- 1	有形文化財	絵画	絵馬 馬	南金丸	那須神社	正徳4年 (1714)	63cm×57cm
1- 3- 2	有形文化財	絵画	絵馬 神楽	前田	鎮国社	天保5年 (1834)	20cm×38cm
1- 3- 3	有形文化財	絵画	絵馬 乗馬	須賀川	鹿島神社	天保7年 (1836)	61cm×84cm
1- 3- 4	有形文化財	絵画	絵馬 那須与一	前田	鎮国社	天保10年 (1839)	108cm×153cm
1- 3- 5	有形文化財	絵画	絵馬 楠公父子訣別	前田	鎮国社	弘化2年 (1845)	180cm×121cm
1- 3- 6	有形文化財	絵画	絵馬 歌仙	羽田	温泉神社	嘉永2年 (1849)	40cm×56cm
1- 3- 7	有形文化財	絵画	絵馬 鶏	羽田	温泉神社	嘉永2年 (1849)	22cm×31cm
1- 3- 8	有形文化財	絵画	絵馬 神功皇后	羽田	温泉神社	嘉永3年 (1850)	66cm×38cm
1- 3- 9	有形文化財	絵画	絵馬 田植祭	羽田	温泉神社	嘉永4年 (1851)	26cm×91cm
1- 3- 10	有形文化財	絵画	絵馬 梅	羽田	温泉神社	嘉永5年 (1852)	24cm×89cm
1- 3- 11	有形文化財	絵画	絵馬 黄石公、張良	福原	福原八幡宮	慶応2年 (1866)	200cm×107cm
1- 3- 12	有形文化財	絵画	絵馬 朝鮮使節	福原	福原八幡宮	慶応2年 (1866)	105cm×167cm
1- 3- 13	有形文化財	絵画	絵馬 那須与一	福原	福原八幡宮	慶応2年 (1866)	102cm×200cm
1- 3- 14	有形文化財	絵画	掛軸 金屋子神	湯津上	個人	近世以降	
1- 3- 15	有形文化財	絵画	掛軸 栗島大明神	湯津上	歴史民俗資料館	近世以降	30.5cm×84cm（本紙）
1- 3- 16	有形文化財	絵画	掛軸 青面金剛（庚申講）	湯津上	歴史民俗資料館	近世以降	31cm×109cm（本紙）
1- 3- 17	有形文化財	絵画	屏風 四季農業画	湯津上	歴史民俗資料館	江戸時代末	6曲1双。172cm×363cm。

番号	区分〔種別〕	名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等	
1- 4- 1	有形文化財	彫刻	下町彫刻屋台	中央2丁目	下町自治会	文政元年 (1818)	間口 3.3m × 奥行 5.8m ×高さ 3.6m
1- 4- 2	有形文化財	彫刻	木造虚空蔵菩薩坐像	湯津上	威徳院	文政4年 (1821)	像高 27.2 cm ・ 全高 (光背) 49.1 cm
1- 5- 1	有形文化財	工芸品	鱧口	大輪		延宝7年 (1679)	
1- 5- 2	有形文化財	工芸品	鱧口	北滝		寛文5年 (1665)	
1- 5- 3	有形文化財	工芸品	鉄造延命地藏菩薩坐像	湯津上	歴史民俗資料館	天保4年 (1833)	全高 (台座・光背含む) 36 cm
1- 6- 1	有形文化財	書跡・典籍	作新館文庫 (大関文庫)	前田	黒羽芭蕉の館	近世～近代	約 4,400 点
1- 7- 1	有形文化財	古文書	印南家文書		個人	江戸中期～ 明治	約 280 点
1- 7- 2	有形文化財	古文書	那須家資料	南金丸	那須与一伝 承館寄託	古代～近代	約 720 点
1- 7- 3	有形文化財	古文書	金剛寿院文書	南金丸	那須与一伝 承館寄託	中世～明治	約 1,150 点
1- 7- 4	有形文化財	古文書	福原家文書	南金丸	那須与一伝 承館寄託	中世～昭和	約 250 点
1- 7- 5	有形文化財	古文書	人見家文書	南金丸	那須与一伝 承館	近世～近代	約 650 点
1- 7- 6	有形文化財	古文書	東野鉄道関連資料	南金丸	那須与一伝 承館	近現代	約 300 点
1- 7- 7	有形文化財	古文書	旧生涯学習課所蔵資料	南金丸	那須与一伝 承館	近世～現代	約 330 点
1- 7- 8	有形文化財	古文書	大関家文書	前田	黒羽芭蕉の館	中世～近代	約 2,300 点
1- 8- 1	有形文化財	考古資料	岩舟台遺跡出土遺物	湯津上	なす風土記 の丘湯津上 資料館	縄文	
1- 8- 2	有形文化財	考古資料	品川台遺跡出土遺物	湯津上	なす風土記 の丘湯津上 資料館	縄文	
1- 8- 3	有形文化財	考古資料	下侍塚古墳出土遺物	湯津上	なす風土記 の丘湯津上 資料館	古墳	
1- 8- 4	有形文化財	考古資料	酢屋古墳群出土遺物	湯津上	なす風土記 の丘湯津上 資料館	古墳	
1- 8- 5	有形文化財	考古資料	蛭田富士山古墳群出土遺物	湯津上	なす風土記 の丘湯津上 資料館	古墳	
1- 8- 6	有形文化財	考古資料	二ツ室塚古墳出土遺物	湯津上	なす風土記 の丘湯津上 資料館	古墳	
1- 8- 7	有形文化財	考古資料	小松原遺跡出土遺物	湯津上	なす風土記 の丘湯津上 資料館	奈良・平安	
1- 9- 1	有形文化財	歴史資料	源平合戦図屏風	南金丸	那須与一伝 承館	江戸中期	170 cm × 370 cm
1- 9- 2	有形文化財	歴史資料	屋島合戦図	南金丸	那須与一伝 承館寄託	江戸前期	2 幅、本紙 128.1 cm × 64 cm
1- 9- 3	有形文化財	歴史資料	那須資高画像	南金丸	那須与一伝 承館寄託	江戸時代	本紙 85.7 cm × 28.3 cm
1- 9- 4	有形文化財	歴史資料	下野国大田原城焼失場之覚 (修補絵図)	南金丸	那須与一伝 承館	文政8年 (1825)	85.7 cm × 57.0 cm

番号	区分〔種別〕		名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等
1- 9- 5	有形文化財	歴史資料	大田原城まわりの絵図	南金丸	那須与一伝承館	明治34年(1901)	48.5 cm × 44.0 cm
1- 9- 6	有形文化財	歴史資料	拾間五分之分割絵圖(大田原城並郭内屋敷図)	南金丸	那須与一伝承館	享和3年(1803)	148 cm × 150 cm
1- 9- 7	有形文化財	歴史資料	大田原宿絵図(模本)	南金丸	那須与一伝承館	正徳3年(1713)	106 cm × 153 cm
1- 9- 8	有形文化財	歴史資料	大田原城土居石垣修補絵図	南金丸	那須与一伝承館	明治34年(1901)	58.5 cm × 58.5 cm
1- 9- 9	有形文化財	歴史資料	大田原城図	南金丸	那須与一伝承館	明治33年(1900)	32.4 cm × 47.5 cm
1- 9- 10	有形文化財	歴史資料	大田原城景	南金丸	大田原小学校	昭和12年(1937)	70 cm × 123 cm
1- 9- 11	有形文化財	歴史資料	福原村絵図	南金丸	那須与一伝承館	江戸時代後期	77 cm × 150 cm
1- 9- 12	有形文化財	歴史資料	黒羽根御曲輪絵図(黒羽城郭古図)	前田	黒羽芭蕉の館	18C初頭	27.8 cm × 19.9 cm
1- 9- 13	有形文化財	歴史資料	旧黒羽領地区図	黒羽田町	個人	文化元年(1804)写	126.5 cm × 237 cm
1- 9- 14	有形文化財	歴史資料	黒羽城並びに城下絵図	黒羽田町	個人	文政2年(1819)以前	106.5 cm × 270.6 cm
3- 1- 1	民俗	無形民俗	光丸山大縁日	佐良土	光丸山法輪寺		
3- 1- 2	民俗	無形民俗	太子祭	山の手2丁目	大田原神社	江戸時代中頃～現代	
3- 1- 3	民俗	無形民俗	八雲神社例大祭	山の手2丁目	大田原神社		
3- 1- 4	民俗	無形民俗	大田原神社例大祭	山の手2丁目			
3- 1- 5	民俗	無形民俗	須賀川中組囃子	須賀川	須賀川中組囃子保存会	明治?	
3- 1- 6	民俗	無形民俗	檀山松葉流囃子	中野内	檀山松葉流囃子保存会	明治初期～	
3- 1- 7	民俗	無形民俗	那珂川の漁撈習俗	黒羽向町ほか那珂川及び支流周辺			
3- 1- 8	民俗	無形民俗	那珂川流域の落葉堆肥の習俗	黒羽地区(南方・片田・滝沢、湯津上地区(蛭田)ほか			
3- 1- 9	民俗	無形民俗	農耕馬に係る習俗(儀礼及び馬頭観音信仰・馬市等流通も含)	黒羽地区(南方・片田・滝沢、黒羽田町、大田原地区(仲町)ほか			
3- 1- 10	民俗	無形民俗	畑作にかかる農耕習俗	南方・片田・滝沢、湯津上地区(蛭田)、大田原地区(野崎)ほか			
3- 1- 11	民俗	無形民俗	「八溝杉」の林業	南方・川上・須佐木ほか		江戸時代・明治末から	
3- 1- 12	民俗	無形民俗	須賀川の茶づくり	須賀川ほか			
3- 1- 13	民俗	無形民俗	野州田植唄	福原・親園ほか			
3- 1- 14	民俗	無形民俗	納豆ねせ(土納豆づくり)	北滝、狭原、南金丸ほか			
3- 1- 15	民俗	無形民俗	サガンボに関する食習俗	狭原ほか			

番号	区分〔種別〕		名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等
3- 1- 16	民俗	無形民俗	初午にかかる習俗 (稲荷信仰としもつかれ)	片田・蛭田・ 親園・北滝・ 羽田ほか			
3- 1- 17	民俗	無形民俗	小正月行事	市域全域			
3- 1- 18	民俗	無形民俗	月見行事(豊年棒)	佐良土・蛭田			
3- 1- 19	民俗	無形民俗	鍬入り行事	南方・佐久山・ 羽田・狹原他			
3- 1- 20	民俗	無形民俗	盆行事(釜のフタ・ 高灯籠)	市域全域			
3- 1- 21	民俗	無形民俗	須賀川の八溝山信仰	南方			
3- 1- 22	民俗	無形民俗	ワタリバシ	蛇尾川流域			
3- 2- 1	民俗	有形民俗	カンチク	湯津上	歴史民俗資 料館	近代	直径 59 cm × 高さ 11 cm
3- 2- 2	民俗	有形民俗	粉挽き機	湯津上	歴史民俗資 料館	近代	52 cm × 20 cm × 高さ 34 cm
3- 2- 3	民俗	有形民俗	フイゴ	湯津上	歴史民俗資 料館	近代	77 cm × 25 cm × 高さ 44.5 cm
3- 2- 4	民俗	有形民俗	車櫃	湯津上	歴史民俗資 料館	近世～近代	154.5 cm × 87 cm × 高さ 156 cm
3- 2- 5	民俗	有形民俗	氷冷蔵庫	湯津上	歴史民俗資 料館	近代	48 cm × 40.5 cm × 高さ 84.5 cm
3- 2- 6	民俗	有形民俗	揚水機(バーチカル ポンプ)	親園	親園民具等 資料室	近代	
3- 2- 7	民俗	有形民俗	俵編み機	親園	親園民具等 資料室	近代	幅 118 cm × 高さ 43.5 cm
3- 2- 8	民俗	有形民俗	縄織機	湯津上		近代	
4- 1- 1	記念物	史跡	琵琶池遺跡	藤沢	個人	旧石器	東西 190m × 南北 180m
4- 1- 2	記念物	史跡	片府田富士山遺跡	片府田	個人	旧石器・縄 文・弥生	東西 210m × 南北 560m
4- 1- 3	記念物	史跡	寒井横山遺跡	寒井	個人	縄文	東西 200m × 南北 240m
4- 1- 4	記念物	史跡	薬師平遺跡	寺宿	個人	縄文	東西 180m × 南北 160m
4- 1- 5	記念物	史跡	長者ヶ平遺跡	羽田	個人	縄文	東西 460m × 南北 670m
4- 1- 6	記念物	史跡	長谷田 I 遺跡	大輪	個人	縄文	東西 190m × 南北 270m
4- 1- 7	記念物	史跡	不動院裏遺跡	久野又	個人	縄文～古代	東西 290m × 南北 200m
4- 1- 8	記念物	史跡	川西小学校遺跡	黒羽向町	個人	縄文	東西 430m × 南北 510m
4- 1- 9	記念物	史跡	品川台遺跡	蛭田	個人	縄文	東西 680m × 南北 230m
4- 1- 10	記念物	史跡	川木谷遺跡	亀久	個人	縄文	東西 320m × 南北 140m
4- 1- 11	記念物	史跡	大久保遺跡	亀久	個人	縄文	東西 60m × 南北 90m
4- 1- 12	記念物	史跡	金丸塚古墳	南金丸	那須神社	古墳	東西 20m × 南北 18m、方墳?
4- 1- 13	記念物	史跡	上侍塚北古墳	湯津上	個人	古墳	全長 48.5 m、前方後方墳
4- 1- 14	記念物	史跡	白岩古墳群	小船渡	個人	古墳	東西 70m × 南北 250m、 円墳 13 基
4- 1- 15	記念物	史跡	薄葉大塚古墳	薄葉	個人	古墳	直径約 30m、円墳
4- 1- 16	記念物	史跡	酢屋古墳群	湯津上	個人	古墳	東西 70m × 南北 140m、5 基
4- 1- 17	記念物	史跡	小松原遺跡	湯津上	個人	古墳・奈良・ 平安	東西 420m × 南北 600m
4- 1- 18	記念物	史跡	高の巣遺跡	湯津上	個人	古墳	東西 180m × 南北 440m
4- 1- 19	記念物	史跡	山谷遺跡	亀久	個人	奈良・平安	東西 1,240m × 南北 670m
4- 1- 20	記念物	史跡	水口龍泉寺跡	荒井	個人	中世	東西 60m × 南北 50m
4- 1- 21	記念物	史跡	郭内龍泉寺跡	城山 2 丁目	個人	中世～近世	東西 60m × 南北 40m
4- 1- 22	記念物	史跡	光真寺跡	町島	個人	中世	東西 60m × 南北 60m
4- 1- 23	記念物	史跡	大雄寺跡	余瀬	個人	中世	東西 210m × 南北 100m

番号	区分〔種別〕		名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等
4- 1- 24	記念物	史跡	荒井館跡	荒井	個人	中世	東西 130m × 南北 140m
4- 1- 25	記念物	史跡	高館城跡	大輪	個人	中世	東西 460m × 南北 690m
4- 1- 26	記念物	史跡	犬追馬場跡	川西町	個人	中世	東西 210m × 南北 440m
4- 1- 27	記念物	史跡	築地館跡	川西町	個人	中世	東西 210m × 南北 255m
4- 1- 28	記念物	史跡	岩谷要害跡	堀之内	個人	中世	東西 490m × 南北 510m
4- 1- 29	記念物	史跡	荻野目館跡	荻野目	個人	中世	東西 280m × 南北 280m
4- 1- 30	記念物	史跡	北岡城跡	福原	個人	中世	東西 280m × 南北 190m
4- 1- 31	記念物	史跡	福原城跡	福原	個人	中世	東西 260m × 南北 270m
4- 1- 32	記念物	史跡	御古屋敷館跡	佐久山	個人	中世～近世	東西 280m × 南北 150m
4- 1- 33	記念物	史跡	山田館跡	片田	個人	中世	東西 110m × 南北 320m
4- 1- 34	記念物	史跡	箱塚	南金丸	個人	中世	
4- 1- 35	記念物	史跡	経塚	紫塚 1 丁目	経塚稲荷神社	不明	
4- 1- 36	記念物	史跡	八木沢陣屋跡	親園	個人	享和 3 年 (1803)	
4- 1- 37	記念物	史跡	黒羽河岸跡	黒羽向町		明暦元年 (1655) ～	
4- 1- 38	記念物	史跡	戦死塔	佐良土		明治	
4- 2- 1	記念物	名勝	龍城公園	城山 2 丁目	大田原市	近世～近現代	
4- 2- 2	記念物	名勝	御殿山公園	佐久山	大田原市	近世～近現代	
4- 2- 3	記念物	名勝	玉藻稲荷神社とその 周辺	蜂巢		中世～現代	
4- 2- 4	記念物	名勝	黒羽城址公園	前田	大田原市	中世～現代	
4- 2- 5	記念物	名勝	芭蕉公園とその周辺	前田	大田原市	近世～現代	
4- 2- 6	記念物	名勝	大雄寺境内	前田	大雄寺	近世～現代	
4- 2- 7	記念物	名勝	雲巖寺境内	雲岩寺	雲巖寺	中世～現代	
4- 2- 8	記念物	名勝	侍塚古墳及び周辺古 墳群	湯津上		古代～現代	
4- 2- 9	記念物	名勝	東野鉄道線路跡 (ポッポ通り)	住吉町 2 丁目 紫塚 1・2 丁目	大田原市	近現代	
4- 2- 10	記念物	名勝	鶯谷公園	本町 1 丁目	大田原市	近現代	
4- 2- 11	記念物	名勝	羽田沼	羽田			
4- 3- 1	記念物	天然記念物	芭蕉公園のイロハモ ミジ他	前田	市	樹齢 100 年	樹高 10 m、幹周 1.87 m
4- 3- 2	記念物	天然記念物	黒羽城址のシラカシ	前田	市	樹齢 150- 200 年	樹高 20 m、幹周 4 m
4- 3- 3	記念物	天然記念物	八雲神社のケヤキ	黒羽田町	八雲神社	樹齢 600- 800 年	樹高 12 m、幹周 5.3 m
4- 3- 4	記念物	天然記念物	臥竜のフジ	蜂巢	篠原自治会	樹齢 100 年	樹高 3 m、幹周 2.2 m
4- 3- 5	記念物	天然記念物	桧木沢のサクラ	桧木沢	桧木沢集落 センター	樹齢 80 年	樹高 13 m、幹周 3 m
4- 3- 6	記念物	天然記念物	光巖寺のシダレザクラ	寺宿	光巖寺	樹齢 110 年	樹高 12.6、幹周 2.4 m
4- 3- 7	記念物	天然記念物	木佐美椿堂のヤブツ バキ	木佐美	個人	樹齢 150 年	樹高 8 m、幹周 1.9 m
4- 3- 8	記念物	天然記念物	サルスベリ	上石上	個人		
4- 3- 9	記念物	天然記念物	イブキシダ				
4- 3- 10	記念物	天然記念物	オオキジノオ	大田原地区			
4- 3- 11	記念物	天然記念物	ミズニラ	黒羽・大田 原地区			
4- 3- 12	記念物	天然記念物	タシロラン				

番号	区分〔種別〕		名称	所在地	所有者 管理者	時代	法量・材質等
4- 3- 13	記念物	天然記念物	ヒメザゼンソウ				
4- 3- 14	記念物	天然記念物	水元神社の湧水	紫塚2丁目	水元神社		
4- 3- 15	記念物	天然記念物	金毘羅神社の湧水	新富町2丁目	個人	中世～現代	
4- 3- 16	記念物	天然記念物	池の御前湧水池	富池			
4- 3- 17	記念物	天然記念物	おかんじち湧水池	市野沢・富池			
4- 3- 18	記念物	天然記念物	バンカリ湧水	市野沢			
4- 3- 19	記念物	天然記念物	文右エ門湧水群	市野沢			
4- 3- 20	記念物	天然記念物	町井沢堀	上奥沢			
4- 3- 21	記念物	天然記念物	ため池	上奥沢			
4- 3- 22	記念物	天然記念物	延命水	滝岡			
4- 3- 23	記念物	天然記念物	妙徳寺湧水	小滝	妙徳寺		
4- 3- 24	記念物	天然記念物	まないた沢湧水	桧木沢			
4- 3- 25	記念物	天然記念物	お清水	黒羽向町			
4- 3- 26	記念物	天然記念物	がながんやまの清水 (A)	黒羽向町			
4- 3- 27	記念物	天然記念物	がながんやまの清水 (B)	黒羽向町			
4- 3- 28	記念物	天然記念物	百目鬼沢	河原			
4- 3- 29	記念物	天然記念物	二合沢湧水	河原			
4- 3- 30	記念物	天然記念物	深井沢湧水	河原			
4- 3- 31	記念物	天然記念物	藤切場湧水	河原			
4- 3- 32	記念物	天然記念物	二ツ室塚古墳付近の 清水場	小船渡			
4- 3- 33	記念物	天然記念物	隕鉄	湯津上	笠石神社		
5- 1- 1	文化的景観	-	なめりかわ用水(東堀・湯津上堀)	北金丸～湯津上		近世～現代	
5- 1- 2	文化的景観	-	藁沼用水			近世～現代	
5- 1- 3	文化的景観	-	琵琶池	藤沢		近世～現代	
5- 1- 4	文化的景観	-	加治屋堀(那須疏水第4分水)	加治屋		近代～現代	
5- 1- 5	文化的景観	-	品川堀(那須疏水第2分水)	蛭田		近現代	
5- 1- 6	文化的景観	-	駒込の池	堀之内		近世～現代	
5- 1- 7	文化的景観	-	龍尾用水	鹿畑		近現代	
5- 1- 8	文化的景観	-	巻川用水	蛭田		近世～現代	
5- 1- 9	文化的景観	-	天神沢用水	鹿畑～湯津上		近現代	
5- 1- 10	文化的景観	-	佐良土の門前町	佐良土		近世～現代	
5- 1- 11	文化的景観	-	ヤウラのある民家	鹿畑・余瀬ほか		近世～現代	
6- 1- 1	伝統的建造物群	-	大田原宿・大田原城下	城山1丁目・山の手1丁目・中央1丁目・新富町1丁目		近世～現代	
6- 1- 2	伝統的建造物群	-	佐久山宿・佐久山城下	佐久山		近世～現代	
6- 1- 3	伝統的建造物群	-	黒羽城下	黒羽田町・黒羽向町・前田		近世～現代	

(4) 文化財調査報告書リスト

	報告書名	発行者名	発行年
有形文化財	栃木県民俗資料調査報告書第9集 下野の野仏 緊急碑塔類調査報告	栃木県教育委員会	1973
	栃木県の彫刻	栃木県教育委員会	1977
	栃木県建造物調査報告書第1集 近世社寺建築緊急調査報告書	栃木県教育委員会	1978
	栃木県の古建築	栃木県教育委員会	1979
	那須神社楼門修理工事報告書	那須神社楼門保存修理委員会	1980
	栃木県の刀剣	栃木県教育委員会	1980
	栃木県の絵画	栃木県教育委員会	1981
	栃木県の民家 - 民家緊急調査報告書 -	栃木県教育委員会	1982
	栃木県の工芸品・書跡・考古資料	栃木県教育委員会	1983
	栃木県立博物館調査研究報告書 とちぎの絵馬	栃木県立博物館	1985
	栃木県史料所在目録第14集 那須郡2 湯津上村・黒羽町・那須町	栃木県教育委員会	1985
	栃木県史料所在目録第15集 那須郡3 大田原市・黒磯市・西那須野町・塩原町	栃木県教育委員会	1986
	大田原の記念碑	大田原市教育委員会	1987
	栃木県立博物館調査研究報告書 栃木県の仏像	栃木県立博物館	1998
	栃木の建築	栃木県建築士会	2002
	路傍の塔・碑-民間信仰の小さな遺産-	益子文彦	2001
	栃木県の近代化遺産 栃木県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書	栃木県教育委員会文化財課	2003
	栃木県指定文化財 那須神社本殿調査報告書	大田原市教育委員会	2012
	大田原市の道標と碑塔類調査~道標と石造物の著作集~	郷土の歴史散歩の会	2013
	大雄寺の建築とその歴史的環境 栃木県指定有形文化財(建造物)大雄寺本堂ほか建造物調査報告書	曹洞宗黒羽山大雄寺	2016
栃木県の近代和風建築 - 栃木県近代和風建築総合調査報告書 -	栃木県教育委員会文化財課	2018	
無形文化財	栃木県の職人 - 栃木県諸職関係民俗文化財調査報告書 -	栃木県教育委員会	1989
	竹工芸に生きる - 八木澤啓造氏を訪ねて - (ビデオ)	フォースウェイブビデオ	1993
	平成24年度工芸技術記録映画 竹工芸 - 勝城蒼鳳のわざ - (DVD)	文化庁	2012
	平成28年度工芸技術記録映画 竹工芸 - 藤沼昇のわざ - (DVD)	文化庁	2016
民俗文化財	栃木県民俗資料調査報告書第5集 栃木県の民俗 民俗資料緊急調査報告第1 県北編	栃木県教育委員会	1969
	栃木県民俗資料調査報告書第7集 栃木県の民俗 民俗資料緊急調査報告2	栃木県教育委員会	1971
	栃木県民俗資料調査報告書第10集 栃木県民俗地図 - 民俗資料緊急調査報告 -	栃木県教育委員会	1973
	湯津上村民俗調査報告書 大捻縄引きをめぐる民俗	湯津上村教育委員会	1975
	黒羽高校社会部研究報告第5集 北滝 - 栃木県那須郡黒羽町北滝の遺跡と民俗 -	栃木県立黒羽高等学校社会部	1976
	黒羽高校社会部研究報告第6集 大輪 - 栃木県那須郡黒羽町大輪の社会と民俗 -	栃木県立黒羽高等学校社会部	1977
	栃木県那須郡湯津上村大字狭原 南那須町大字八ヶ代 民俗調査報告書 1975 ~ 1976	法政大学史蹟踏歩会	1978
	栃木県民俗資料調査報告書第13集 栃木県民俗地図 - 緊急民俗文化財分布調査報告2-	栃木県教育委員会	1979
	黒羽高校社会部研究報告第8集 藁の民俗 - 栃木県那須郡黒羽町大輪における稲藁の利用と民俗 -	栃木県立黒羽高等学校社会部	1979
	蛭田の民俗 - 栃木県那須郡湯津上村蛭田 -	宇都宮大学民俗研究会	1981
	栃木県の民謡 民謡緊急調査報告書	栃木県教育委員会	1983
	栃木県の民俗芸能	栃木県教育委員会	1985
	那須与一の歴史・民俗的調査研究	栃木県立博物館	1991
	下野の水車習俗 無形の民俗資料記録	栃木県教育委員会	1993
	栃木県の民俗芸能 - 栃木県民俗芸能緊急調査報告書 -	栃木県教育委員会	1998
	栃木県の祭り・行事 - 栃木県祭り・行事調査報告書 -	栃木県教育委員会	2001
	大田原の民謡 - 豊かな自然に育まれて -	増渕春雄	2002
	大田原の盆踊り唄 市指定無形民俗文化財 (DVD)	大田原市教育委員会	2017
	正浄寺の雅楽 県指定無形民俗文化財 (DVD)	大田原市教育委員会	2017
	黒羽餅つき唄 市指定無形民俗文化財 (DVD)	大田原市教育委員会	2017

	報告書名	発行者名	発行年	
民俗文化財	天祭（八龍神社）市指定無形民俗文化財（DVD）	大田原市教育委員会	2018	
	大捻縄引き 国選択無形民俗文化財（DVD）	大田原市教育委員会	2018	
	太々神楽（八龍神社）市指定無形民俗文化財（DVD）	大田原市教育委員会	2018	
記念物	とちぎの名木百選ガイドブック	栃木県	1990	
	栃木県植物目録－希少種と絶滅危惧種－	栃木県植物研究会	1996	
	栃木県の湧水	栃木県農務部土地改良課	1999	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの鳥類 2001	栃木県林務部自然環境課	2001	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの両生類・爬虫類 2001	栃木県林務部自然環境課	2001	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの魚類 2001	栃木県林務部自然環境課	2001	
	栃木県高等植物目録改訂版	栃木県植物同好会	2002	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの地形・地質（文献目録）2002	栃木県林務部自然環境課	2002	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの植生（植物群落）2002	栃木県林務部自然環境課	2002	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの哺乳類 2002	栃木県林務部自然環境課	2002	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの土壌動物 2002	栃木県林務部自然環境課	2002	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの変形菌類・菌類・地衣類・藻類・蘚苔類 2002	栃木県林務部自然環境課	2002	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの植物Ⅰ	栃木県林務部自然環境課	2003	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの植物Ⅱ 栃木県自然環境基礎調査収集標本目録	栃木県林務部自然環境課	2003	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅰ	栃木県林務部自然環境課	2003	
	栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅱ	栃木県林務部自然環境課	2003	
	与一の里 おおたわら名木百一選ガイドブック	大田原市	2003	
	レッドデータブックとちぎ 2005- 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物 -	栃木県林務部自然環境課	2005	
	とちぎの名木 100 選調査報告書	栃木県緑化推進委員会	2008	
	近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書	文化庁文化財部記念物課	2012	
	名勝に関する総合調査－全国的な調査（所在調査）の結果－	文化庁文化財部記念物課	2013	
	レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物	栃木県	2018	
	おおたわら令和の名木選	「おおたわら令和の名木選」選定調査委員会	2020	
	名勝「おくのほそ道の風景地 八幡宮（那須神社境内）」保存活用計画書	大田原市教育委員会	2020	
	伝統的建造物群	佐良土門前町並屋号調査書兼台帳（未刊行）	湯津上村	1991
	埋蔵文化財	栃木県大田原市湯坂中期縄文式遺跡調査報告	渡辺龍瑞著（大田原市教育委員会発行？）	1957？
栃木県大田原市平林真子遺跡発掘調査略報		辰巳四郎・田代寛編著（大田原市教育委員会発行？）	1965	
栃木県大田原市平林真子遺跡第2次発掘調査略報		辰巳四郎・田代寛編著（大田原市教育委員会発行？）	1965	
黒羽高校社会クラブ研究報告第1集 鉢木遺跡・須賀川上組・南方一区の調査－Ⅰ．鉢木遺跡発掘調査略報（昭和41年度）－		栃木県立黒羽高等学校社会クラブ	1969	
栃木県黒羽町長谷田遺跡緊急調査報告書 昭和46年12月実施		黒羽町教育委員会	1971	
栃木県教育委員会埋蔵文化財報告書第6集 蛭田富士山古墳群		栃木県教育委員会（湯津上村教育委員会も同書発行）	1972	
黒羽高校社会部研究報告第3集 不動院裏遺跡－栃木県那須郡黒羽町不動院裏遺跡発掘調査報告－		栃木県立黒羽高等学校社会部	1974	
大田原市長ヶ平西遺跡調査報告書		大田原市教育委員会	1974	
二ツ室塚発掘調査概報・鳥羽新田遺跡発掘調査概報		栃木県教育委員会	1975	

	報告書名	発行者名	発行年
埋蔵文化財	黒羽高校社会部研究報告第4集 浅香内8H遺跡 - 栃木県那須郡黒羽町浅香内8H遺跡発掘調査報告 -	栃木県立黒羽高等学校社会部	1975
	湯津上村埋蔵文化財調査報告第2集 下侍塚周濠発掘調査概報	湯津上村教育委員会	1976
	黒羽高校社会部研究報告第5集 北滝 - 栃木県那須郡黒羽町北滝の遺跡と民俗 -	栃木県立黒羽高等学校社会部	1976
	酢屋古墳群	湯津上村教育委員会	1978
	栃木県埋蔵文化財調査報告書第27集 県営圃場整備事業地内遺跡発掘調査報告 茶臼塚古墳群・小松原遺跡	栃木県教育委員会	1979
	湯坂遺跡	大田原市教育委員会	1979
	栃木県重要遺跡基本資料整備事業調査報告書	栃木県教育委員会	1982
	栃木県の中世城館跡	栃木県教育委員会	1982
	栃木県重要遺跡基本資料整備事業調査報告書	栃木県教育委員会文化課	1986
	品川台遺跡確認調査 - 品川台工業団地造成事業に伴う遺跡確認調査 -	湯津上村教育委員会	1988
	黒羽町文化財調査報告書第2集 川木谷遺跡 - 町道下山田・小砂線道路拡幅改良事業に伴う緊急発掘調査報告書 -	黒羽町教育委員会	1989
	湯津上村埋蔵文化財調査報告4集 栃木県那須郡湯津上村所在小船渡観音塚古墳墳丘測量調査報告	湯津上村文化財愛護協会	1990
	栃木県埋蔵文化財調査報告第128集 品川台遺跡	栃木県教育委員会	1992
	高野・新宿遺跡 - 東京電力株式会社南いわき線鉄塔建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 -	湯津上村教育委員会	1995
	長者ヶ平遺跡発掘調査報告書 NTT 携帯電話基地局の建設に伴う記録保存課	大田原市教育委員会事務局生涯学習課	2002
	上野原遺跡 - 発掘調査報告書 -	湯津上村教育委員会	2002
	栃木県湯津上村 岩舟台遺跡 第2次発掘調査報告書	湯津上村教育委員会	2005
	黒羽町埋蔵文化財調査報告書第3集 川西小学校遺跡 昭和63年度(1988年)発掘調査報告書	黒羽町教育委員会	2005
	大田原市埋蔵文化財調査報告第1集 片府田富士山遺跡 - 市道宇田川佐良土線整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 -	大田原市教育委員会	2012
	大田原市の遺跡	大田原市教育委員会	2012
	東日本大震災栃木県内遺跡・遺物等被災状況報告書	栃木県考古学会	2014
	栃木県埋蔵文化財調査報告第372集 栃木県重要遺跡現況確認調査報告書	栃木県教育委員会	2015
	大田原市埋蔵文化財調査報告第2集 岩舟台遺跡 第3次発掘調査 - 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 -	大田原市教育委員会	2015
栃木県埋蔵文化財調査報告第378集 岩舟台遺跡 - 快適で安全な道づくり事業費(補助)一般国道294号湯津上南工区に伴う発掘調査 -	栃木県教育委員会	2016	
大田原市埋蔵文化財調査報告第3集 大田原市遺跡分布地図	大田原市教育委員会	2017	
大田原市埋蔵文化財調査報告第4集 花園中ノ平遺跡 - 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	大田原市教育委員会	2019	
その他	那須野の地名	那須文化研究会	1989
	地理実習調査報告第27集 足尾地区・黒羽地区	宇都宮大学教育学部地理学教室	1998
	とちぎの土木遺産	土木学会関東支部栃木会	2003
	栃木県歴史の道調査報告書第2集 日光例幣使道・奥州道中	栃木県教育委員会事務局文化財課	2011
	栃木県歴史の道調査報告書第3集 会津西海道・会津中街道・大田原通会津道・原街道(原方道)・足尾道	栃木県教育委員会事務局文化財課	2015
大田原市の文化財 2015	大田原市教育委員会	2015	

2 計画作成に伴う調査

(1) アンケート調査結果

大田原市の歴史文化に関する興味・関心の度合いや対象、イメージ等を把握するためにアンケート調査を実施した。アンケート用紙は、平成30年(2018)2月から令和2年(2020)4月までに、シンポジウムや生涯学習フォーラム等のイベント開催時に配布するほか、市役所入り口に設置する等して合計268名から回答を得た。以下に設問と、設問ごとの集計結果、年齢・住まい別の傾向などを示す。

大田原市の歴史文化に関するアンケート ※質問12以降は令和元年度より追加	
① あなたの情報	
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
年齢	<input type="checkbox"/> 10代以下 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代 <input type="checkbox"/> 80代以上
お住まいの地域	<input type="checkbox"/> 市内(大田原地区・湯津上地区・黒羽地区) <input type="checkbox"/> 県内 <input type="checkbox"/> 県外
② 歴史・文化への興味・関心について	
質問1) 歴史や文化に関する話題や授業・講座・イベントなどに興味はありますか。	
<input type="checkbox"/> 興味がある <input type="checkbox"/> 興味がない <input type="checkbox"/> どちらとも言えない	
質問2) 興味がある時代を教えてください。(いくつでも可)	
<input type="checkbox"/> 旧石器時代 <input type="checkbox"/> 縄文時代 <input type="checkbox"/> 弥生時代 <input type="checkbox"/> 古墳時代 <input type="checkbox"/> 奈良・平安時代 <input type="checkbox"/> 鎌倉時代 <input type="checkbox"/> 室町時代 <input type="checkbox"/> 戦国時代 <input type="checkbox"/> 江戸時代 <input type="checkbox"/> 幕末・明治時代 <input type="checkbox"/> 大正・昭和初期 <input type="checkbox"/> 戦後・現代	
質問3) 過去に行ったことがある市内の文化施設はどこですか。(いくつでも可)	
<input type="checkbox"/> 那須与一伝承館 <input type="checkbox"/> 黒羽芭蕉の館 <input type="checkbox"/> なす風土記の丘湯津上資料館 <input type="checkbox"/> 歴史民俗資料館 <input type="checkbox"/> 芸術文化研究所 <input type="checkbox"/> 自然観察館 <input type="checkbox"/> 天文館 <input type="checkbox"/> 那須野が原ハーモニーホール <input type="checkbox"/> その他() 訪れた施設の感想がありましたら、施設名とその感想をお書きください。[]	
③ 文化財に関する質問	
質問4) どんな種類の文化財に興味がありますか。(いくつでも可)	
<input type="checkbox"/> 古文書・文献 <input type="checkbox"/> 遺跡・古墳・城跡 <input type="checkbox"/> 建造物・街並み <input type="checkbox"/> 祭り・伝統芸能 <input type="checkbox"/> 民話・言い伝え <input type="checkbox"/> 石碑・野仏 <input type="checkbox"/> 美術工芸品(刀剣・絵画・彫刻など) <input type="checkbox"/> 動物・魚・昆虫 <input type="checkbox"/> 植物・樹木 <input type="checkbox"/> 地形・地質(扇状地・湧水など)	
質問5) 「文化財」に対してどんなイメージを持っていますか。(いくつでも可)	
<input type="checkbox"/> 貴重なお宝 <input type="checkbox"/> 指定されているもの <input type="checkbox"/> どこにでもあるもの <input type="checkbox"/> 難しいもの <input type="checkbox"/> 歴史の謎を解き明かすためのもの <input type="checkbox"/> 未来へ継承すべきもの <input type="checkbox"/> 厄介で面倒なもの <input type="checkbox"/> 自分で守るべきもの <input type="checkbox"/> 行政によって守られるべきもの <input type="checkbox"/> 守るべきものだと思うが方法がわからない <input type="checkbox"/> その他[]	
質問6) 平成30年に認定された日本遺産(那須野が原の開拓関係)について、大田原市にも日本遺産に組み込まれた文化財があることを知っていますか。	
<input type="checkbox"/> 知っていた <input type="checkbox"/> 知らなかった	
④ 大田原市に関する質問	
質問7) 大田原市の歴史や文化について、周辺の自治体と比べてどう感じますか。(いくつでも可)	
<input type="checkbox"/> 歴史が有る <input type="checkbox"/> 歴史が無い <input type="checkbox"/> 文化が高い <input type="checkbox"/> 文化が低い <input type="checkbox"/> 魅力が有る <input type="checkbox"/> 魅力が無い <input type="checkbox"/> 分かりやすい <input type="checkbox"/> 分かりにくい	
質問8) 大田原市の中で、好きな場所や風景はどこですか。またその理由も教えてください。歴史や文化に関わる場所以外も結構です。	
質問9) 大田原市について、自慢できるものを一つ選ぶとすれば何ですか。歴史や文化に関わるもの以外でも結構です。	
質問10) 「那須」と聞いて、あなたは何を、またはどこを思い浮かべますか。	

質問 11) 大田原市の文化財等で興味・関心のあるものはどれですか。いくつでも結構です。
また、その中でも特にお気に入りのもの1つを○で囲み、理由をお書きください。

大田原の文化財等一覧			
大田原地区	<input type="checkbox"/> 湯坂遺跡	<input type="checkbox"/> 玄性寺	<input type="checkbox"/> 金灯籠
	<input type="checkbox"/> 長者ヶ平遺跡	<input type="checkbox"/> 永興寺	<input type="checkbox"/> 佐久山宿
	<input type="checkbox"/> 平林真子遺跡	<input type="checkbox"/> 実相院	<input type="checkbox"/> 時習館（大田原藩校）
	<input type="checkbox"/> 薄葉大塚古墳	<input type="checkbox"/> 福原八幡宮	<input type="checkbox"/> 那須基線
	<input type="checkbox"/> 水口居館跡	<input type="checkbox"/> 正浄寺（雅楽など）	<input type="checkbox"/> 東野鉄道
	<input type="checkbox"/> 大田原城跡	<input type="checkbox"/> 薬師堂	<input type="checkbox"/> 金丸原飛行場掩体壕
	<input type="checkbox"/> 佐久山城跡	<input type="checkbox"/> 那須神社	<input type="checkbox"/> 城嶽舞
	<input type="checkbox"/> 福原城跡	<input type="checkbox"/> 大田原神社	<input type="checkbox"/> 太々神楽
	<input type="checkbox"/> 佐久山陣屋跡	<input type="checkbox"/> 刈切地蔵	<input type="checkbox"/> 天祭（天念仏）
	<input type="checkbox"/> 八木沢陣屋跡	<input type="checkbox"/> 西郷神社	<input type="checkbox"/> 餅つき唄
	<input type="checkbox"/> 龍泉寺	<input type="checkbox"/> 奥州道中	<input type="checkbox"/> 大田原の盆踊り
	<input type="checkbox"/> 光真寺	<input type="checkbox"/> 一里塚	<input type="checkbox"/> 親園草刈唄
	<input type="checkbox"/> 金剛寿院	<input type="checkbox"/> 大田原宿	<input type="checkbox"/> 大田原花市
			<input type="checkbox"/> 太子祭
		<input type="checkbox"/> 大田原屋台まつり	
		<input type="checkbox"/> おおたわら七福神	
		<input type="checkbox"/> 村上英俊	
		<input type="checkbox"/> 豊道春海	
		<input type="checkbox"/> 竹工芸（人間国宝）	
		<input type="checkbox"/> ザゼン草群生地	
		<input type="checkbox"/> ミヤコタナゴ	
		<input type="checkbox"/> イトヨ	
		<input type="checkbox"/> 羽田沼	
		<input type="checkbox"/> 琵琶池	
		<input type="checkbox"/> 佐久山のケヤキ	
		<input type="checkbox"/> その他 []	
湯津上地区	<input type="checkbox"/> 片府田富士山遺跡	<input type="checkbox"/> 小松原遺跡	<input type="checkbox"/> 光丸山法輪寺
	<input type="checkbox"/> 岩船台遺跡	<input type="checkbox"/> 東山道駅路跡	<input type="checkbox"/> 大天狗面
	<input type="checkbox"/> 上・下侍塚古墳	<input type="checkbox"/> 磐上駅家跡	<input type="checkbox"/> 大捻縄引き
	<input type="checkbox"/> 侍塚古墳群	<input type="checkbox"/> 那須国造碑	<input type="checkbox"/> 佐良土屋号宿
	<input type="checkbox"/> 酔屋古墳群	<input type="checkbox"/> 佐良土館跡	<input type="checkbox"/> 真里谷清雲の墓
	<input type="checkbox"/> 観音塚古墳	<input type="checkbox"/> 片府田館跡	<input type="checkbox"/> 木曾武元の墓
	<input type="checkbox"/> 二ツ室塚古墳	<input type="checkbox"/> 秀衡街道跡	<input type="checkbox"/> 品川弥二郎
	<input type="checkbox"/> 蛭田富士山古墳		<input type="checkbox"/> 品川開墾（傘松農場）
			<input type="checkbox"/> 金丸原開拓
			<input type="checkbox"/> 大野放牧場
黒羽地区	<input type="checkbox"/> 川木谷遺跡	<input type="checkbox"/> 大関家文書	<input type="checkbox"/> 東野遺稿（安藤東野）
	<input type="checkbox"/> 川西小学校遺跡	<input type="checkbox"/> 黒羽城跡	<input type="checkbox"/> 鈴木武助
	<input type="checkbox"/> 不動院裏遺跡	<input type="checkbox"/> 黒羽河岸	<input type="checkbox"/> 小泉斐
	<input type="checkbox"/> 銭室塚古墳	<input type="checkbox"/> 光厳寺	<input type="checkbox"/> 人面獣心の壁書
	<input type="checkbox"/> 築地館跡	<input type="checkbox"/> 大雄寺	<input type="checkbox"/> 創垂可継・止戈枢要（大関増業）
	<input type="checkbox"/> 山田城跡	<input type="checkbox"/> 雲巖寺	<input type="checkbox"/> 何陋館・作新館（黒羽藩校）
	<input type="checkbox"/> 高館城跡	<input type="checkbox"/> 大宮温泉神社	<input type="checkbox"/> 田町彫刻屋台
	<input type="checkbox"/> 白旗城跡	<input type="checkbox"/> 戸田茂睡	<input type="checkbox"/> 足利銀行黒羽支店（建造物）
	<input type="checkbox"/> 大関増次墓地	<input type="checkbox"/> 松尾芭蕉	<input type="checkbox"/> 八溝山
			<input type="checkbox"/> 御亭山
			<input type="checkbox"/> 磯上のヤマザクラ
			<input type="checkbox"/> 大野室のイチョウ
			<input type="checkbox"/> 堀之内のツクバネガシ
		<input type="checkbox"/> 湯泉神社の社叢（大豆田）	
		<input type="checkbox"/> 片田のヒイラギ	
		<input type="checkbox"/> その他 []	
全域	<input type="checkbox"/> 那須与一	<input type="checkbox"/> 関街道	<input type="checkbox"/> ヤウラ
	<input type="checkbox"/> 那須家資料	<input type="checkbox"/> 那須野が原	<input type="checkbox"/> 湧水
	<input type="checkbox"/> 温泉神社	<input type="checkbox"/> 那須疏水	<input type="checkbox"/> 那珂川
			<input type="checkbox"/> 箒川
		<input type="checkbox"/> 蛇尾川	
		<input type="checkbox"/> その他 []	

⑤ 市民参加について

質問 12) 大田原市の歴史や文化に関わる機会があれば参加したいですか。

はい（→質問 13 へ） いいえ（→質問 14 へ）

質問 13) 質問 12 で「はい」と答えた方で、具体的にどんな機会に参加したいですか。（いくつでも可）

資料館等の展示会 講演会・講座・シンポジウム 体験学習会・研修会
文化財等の見学ツアー 文化財等の調査 その他（ ）

質問 14) 質問 12 で「いいえ」と答えた方で、理由があればお書きください。

質問 15) 文化財の保存や活用に関する活動に興味がありますか。

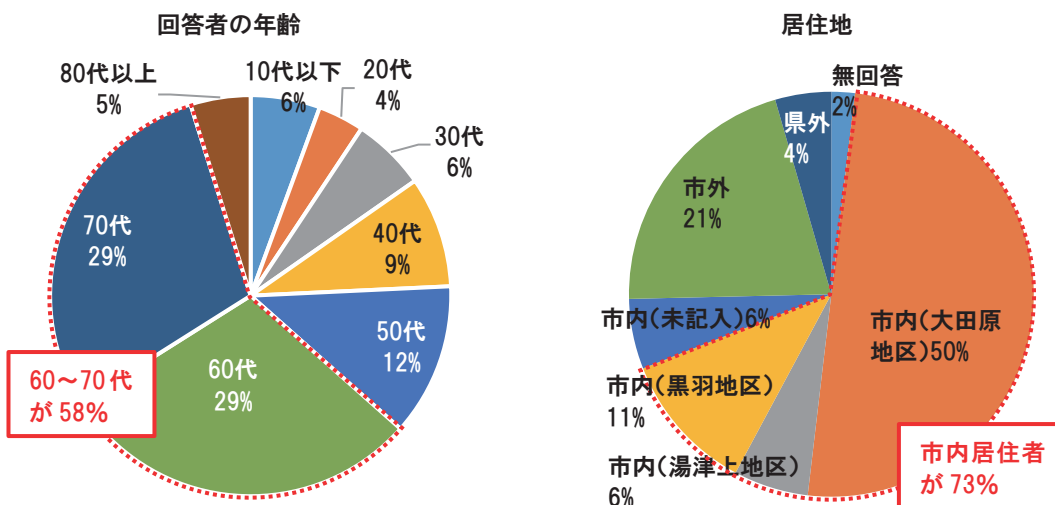
質問 16) 興味があると答えた方で、具体的にどんな活動に興味がありますか。（いくつでも可）

文化財の案内ボランティア 文化財の巡回監視（パトロール）
考古資料や古文書などの資料整理 資料館等における展示補助
史跡や天然記念物、建造物などの保護活動 文化財に関する調査研究 発掘調査
地域の伝統芸能・行事の協力 文化財を活用したイベントの開催 文化財を活用した起業
文化財にかかわる NPO への参加・資金協力 その他（ ）

⑥ その他、歴史・文化に関する要望や質問があれば、お書きください。

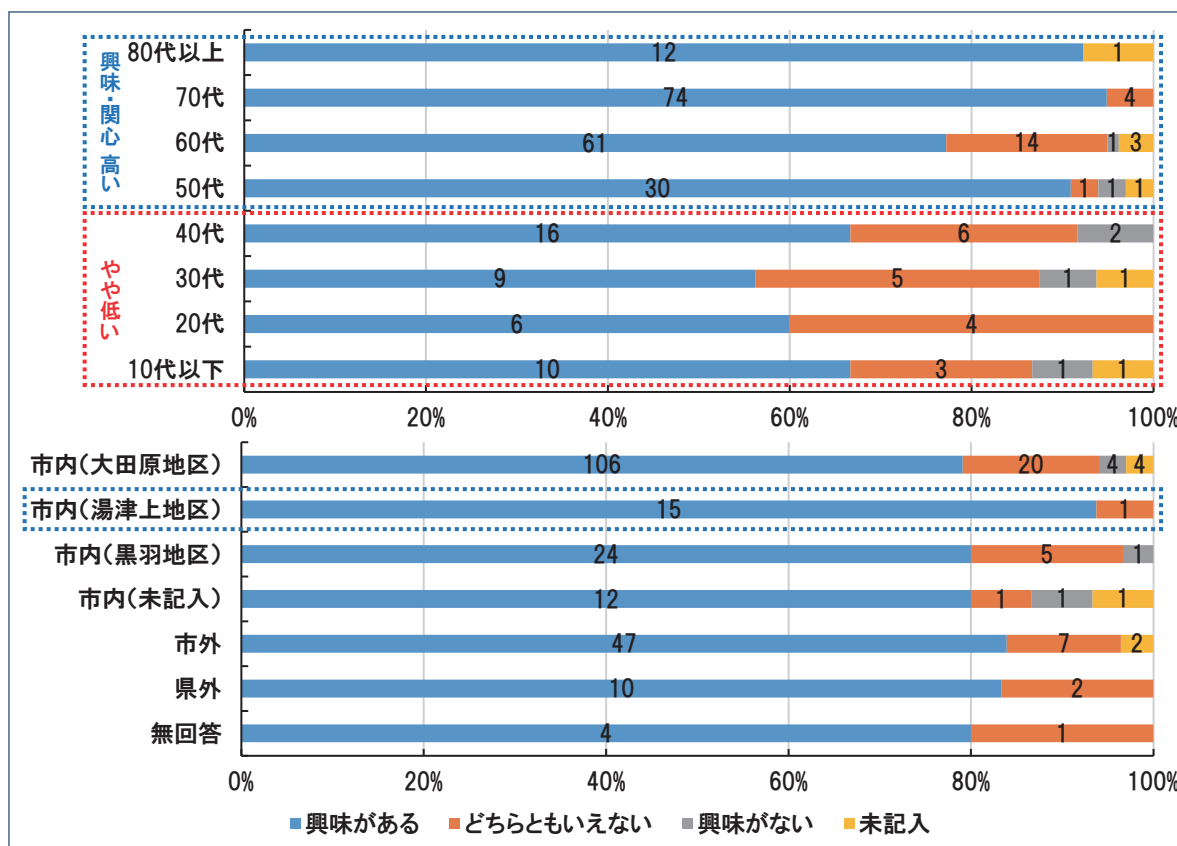
①回答者の属性

回答者の年齢は60～70代が多く58%を占めていた。また、回答者の73%は大田原市内の居住者だった。



②歴史・文化への興味・関心について

質問1) 歴史や文化に関する話題や授業・講座・イベントなどに興味はありますか。



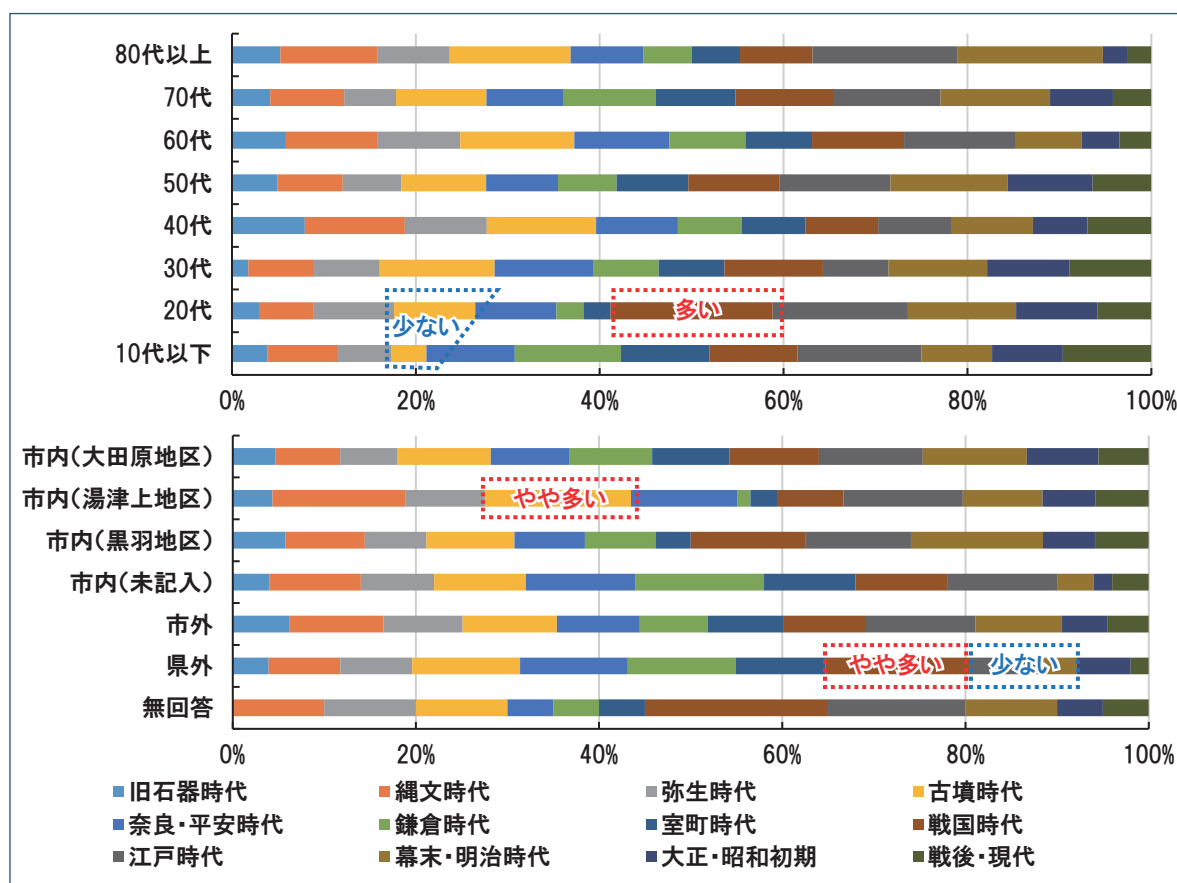
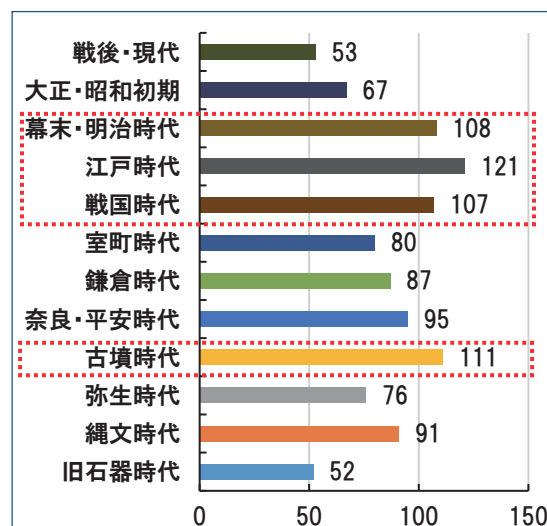
歴史や文化に関する話題や授業・講座・イベントなどに興味について、年齢別の傾向を見ると、50代以上は80%近く(50代・70代・80代以上は90%以上)の人が「興味がある」と回答したのに対し、40代以下は「どちらともいえない」という回答が増え、「興味がある」と回答したのは70%以下だった。40代以下の人の歴史や文化に対する興味が、50代以上の人に比べてやや低いといえる。

居住地別の傾向を見ると、市内・外で大きな差は見られなかったが、市内でも特に湯津上地区の居住者の興味・関心が高く、「興味がある」と回答したのは90%以上だった。

質問2) 興味がある時代を教えてください。(いくつでも可)

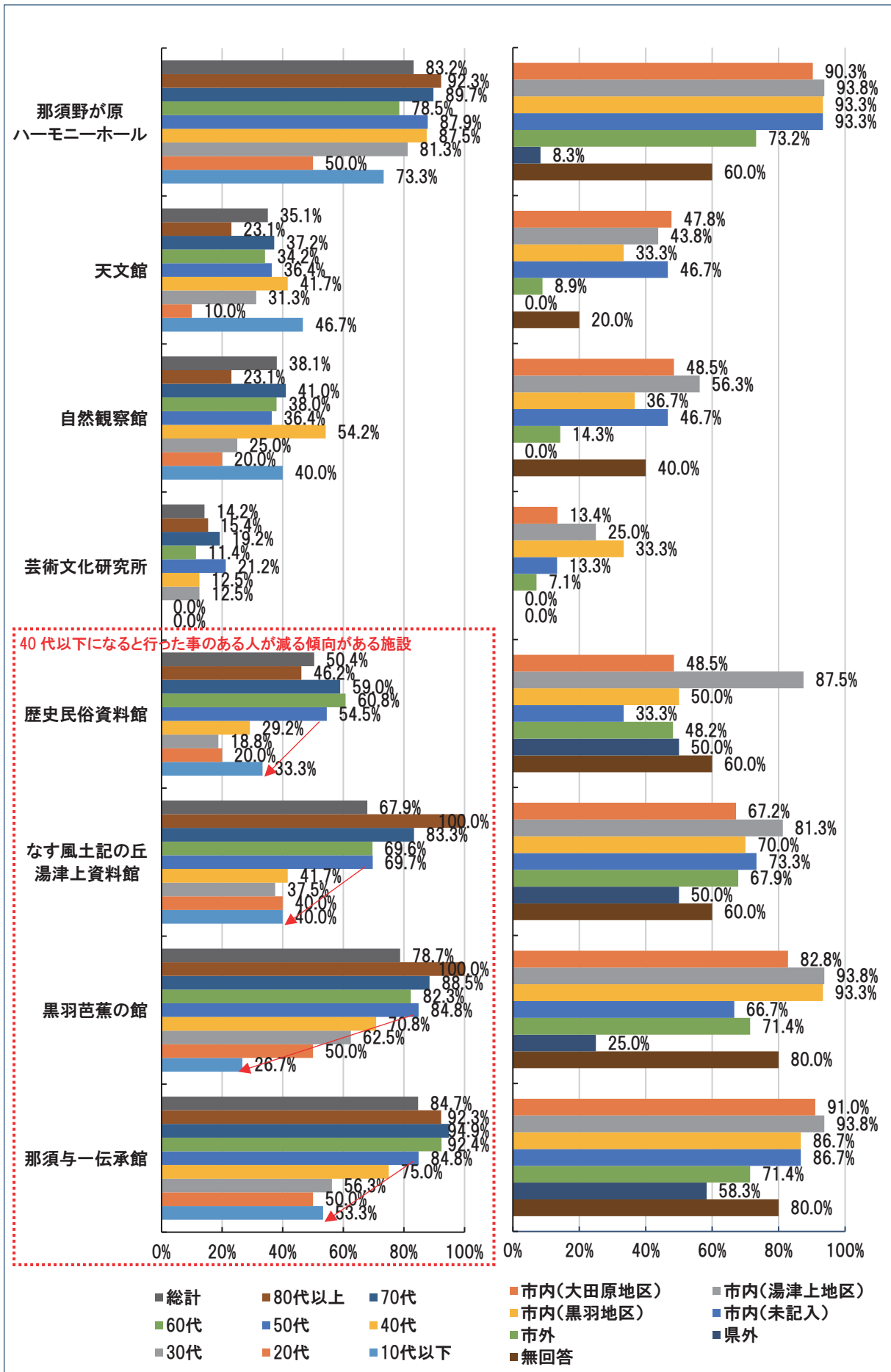
興味がある時代は、「江戸時代」が最も多く、次いで「古墳時代」、「幕末・明治時代」、「戦国時代」が多かった。この4つの時代について、年齢別の傾向を見ると、「江戸時代」はどの年齢でも興味を持たれているが、30～40代ではそれほど多くは無かった。「古墳時代」も20代以下ではそれほど伸びなかったが「戦国時代」はやや多かった。「幕末・明治時代」では、年齢別で大きな差は見られなかった。

居住地区別の傾向に大きな差は見られなかったが、市内(湯津上地区)の居住者は「縄文時代」、「古墳時代」がやや多かった。県外居住者は「戦国時代」がやや多く、「江戸時代」、「幕末・明治時代」は少なかった。



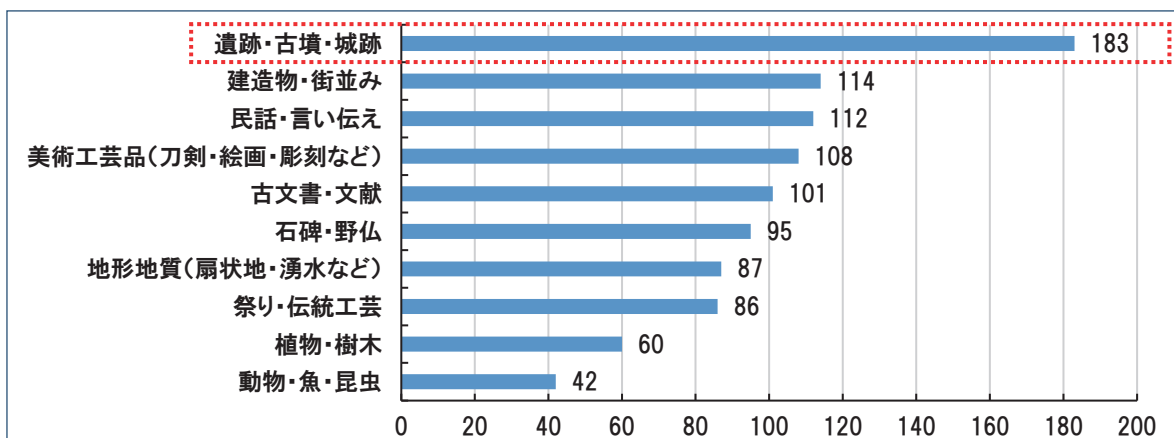
質問3) 過去に行ったことがある市内の文化施設はどこですか。(いくつでも可)

「那須与一伝承館」と「那須野が原ハーモニーホール」、「黒羽芭蕉の館」は回答者の80%近くが行ったことがあるという結果だった。年齢別の傾向を見ると、30代以下の人は行った事のある施設が少なく、特に「歴史民俗資料館」、「なす風土記の丘湯津上資料館」、「黒羽芭蕉の館」、「那須与一伝承館」は40代以下の行った事がある人の割合が少なかった。居住地別の傾向を見ると、県外の居住者はどの施設も行った事のある人の割合が少ないが、特に「那須野が原ハーモニーホール」、「黒羽芭蕉の館」等は市内居住者と比べて行った事のある人が少なかった。他、市内(湯津上地区)の居住者は「歴史民俗資料館」、「なす風土記の丘湯津上資料館」に行った事がある割合が高かった。



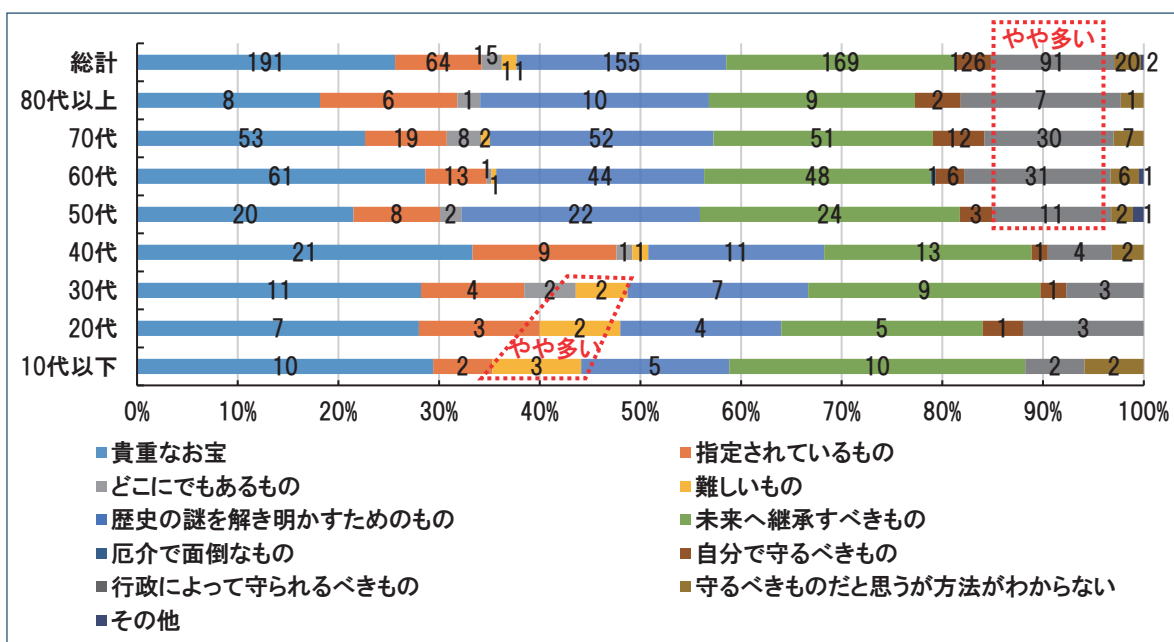
③興味・関心の対象、文化財に対するイメージ

質問4) どんな種類の文化財に興味がありますか。(いくつでも可)



「遺跡・古墳・城跡」への興味が最も多く、次いで「建造物・街並み」、「民話・言い伝え」が多かったが、あまり大きな差は見られなかった。一方、「動物・魚・昆虫」、「植物・樹木」といった天然記念物に相当するものへの興味は少なかった。年齢層や居住地別に回答の傾向を見たが、大きな違いは見られなかった。

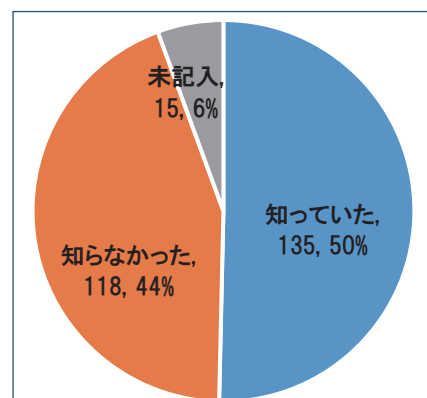
質問5) 「文化財」に対してどんなイメージを持っていますか。(いくつでも可)



「貴重なお宝」、「未来へ継承すべきもの」、「歴史の謎を解き明かすためのもの」というイメージが多かった。年齢別の傾向を見ると、先の3つのイメージを持つ人の割合に大きな差はなかったが、「貴重なお宝」というイメージは40代・60代に多く、50代と80代以上では少なかった。「難しいもの」というイメージは、30代以下に多く、「行政によって守られるべきもの」、「自分で守るべきもの」というイメージは50代以上に多かった。

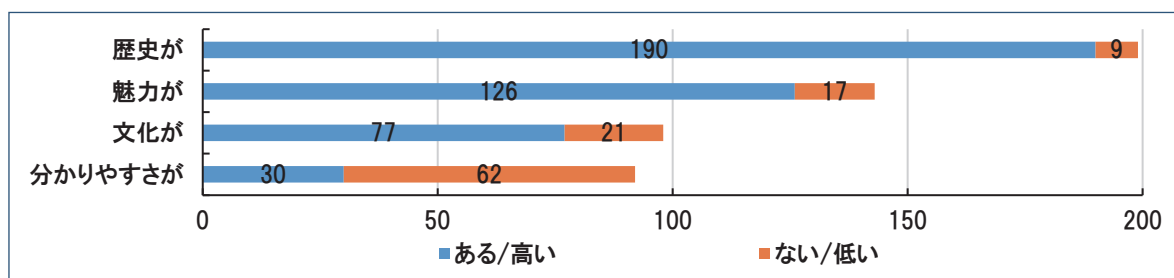
質問6) 平成30年に認定された日本遺産(那須野が原の開拓関係)において、大田原市にも日本遺産に組み込まれた文化財があることを知っていますか。

知っていた人は50%で、まだ認知度は高くなかった。



④大田原市に対する印象

質問7) 大田原市の歴史や文化について、周辺の自治体と比べてどう感じますか。(いくつでも可)



「歴史が有る」という回答が最も多く、次いで「魅力が有る」、「文化が高い」という回答が多かったが、分かりやすさについては「分かりにくい」という回答の方が多かった。

質問8) 大田原市の中で、好きな場所や風景はどこですか。またその理由も教えてください。

好きな場所・風景 ※2票以上あったもの、()は票数				
城跡・古墳等 (46)	社寺・建造物 (23)	自然・田園風景 (49)	施設 (16)	まちなみ (6)
大田原城跡 (18)	雲巖寺 (17)	御亭山 (14)	那須与一伝承館 (3)	黒羽地区 (3)
黒羽城 (8)	大雄寺 (3)	那須野が原ファーム (6)	トコトコ大田原 (3)	市街地街並み (3)
古墳群 (7)	那須神社 (3)	羽田沼 (4)	芭蕉の館 (2)	
侍塚古墳 (6)		田園風景 (4)	大女高 (2)	
上下侍塚古墳 (5)		ザゼン草群生地 (4)	ハーモニーホール (2)	
高館城址 (2)		御殿山(佐久山) (4)	なす風土記の丘 (2)	
		那珂川 (4)	湯津上資料館 (2)	
		大野牧場 (3)	なかがわ水遊園 (2)	
		那須地区の湧水 (2)		
		八溝山系 (2)		
		五峰の湯 (2)		

那須野が原をはじめとする自然風景や河川・湧水、牧場といった田園風景、次いで、城跡や古墳等の史跡が多かった。雲岩寺等の歴史ある社寺も多かった。

質問9) 大田原市について、自慢できるものを一つ選ぶとすれば何ですか。

質問10) 「那須」と聞いて、あなたは何を、またはどこを思い浮かべますか。

質問11) 大田原市の文化財等で興味・関心のあるものはどれですか。いくつでも結構です。

大田原市で自慢できるものとして挙げられた上位5位の内、「那須与一」、「那須国造碑」、「古墳群」の3つが歴史文化に関わるものだった。これらは、文化財で興味・関心のあるものの上位にも挙がっている。

歴史文化に関わるもの以外だと、「農産物」が自慢できるものとして挙げられている。「那須」と聞いて思い浮かべるものとして、「観光地、避暑地(リゾート)」や山・高原といった自然環境が上位に挙がっていることから、豊かな自然への関心が高いものと思われる。

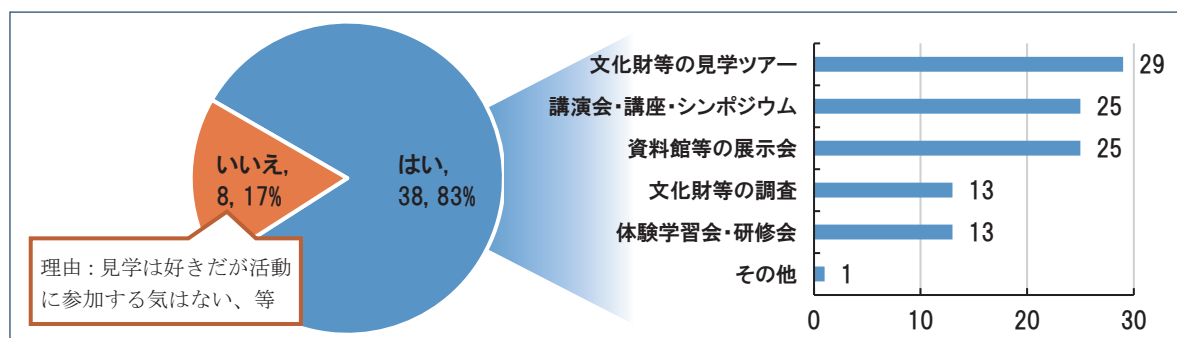
大田原市の自慢できるもの		票数	大田原市の文化財等で興味・関心のあるもの		票数
上位5位	那須与一	20	上位10位	雲巖寺	146
	農産物(とうがらし9、米4、梨2、大田原牛2、いちご1)	20		上・下侍塚古墳	139
	那須国造碑	12		那須与一	133
	福祉活動への支援・充実	12		那須国造碑	116
	古墳群(侍塚古墳群7)	10		侍塚古墳群	114
上位5位	観光地、避暑地(リゾート)	41		大田原城跡	111
	那須連山	35		大雄寺	101
	那須与一	26		那須神社	100
	那須高原	24		那須疏水	95
	那須岳	20		黒羽城跡	92

⑤市民参加

質問 12) 大田原市の歴史や文化に関わる機会があれば参加したいですか。

質問 13) 質問 12 で「はい」と答えた方で、具体的にどんな機会に参加したいですか。(いくつでも可)

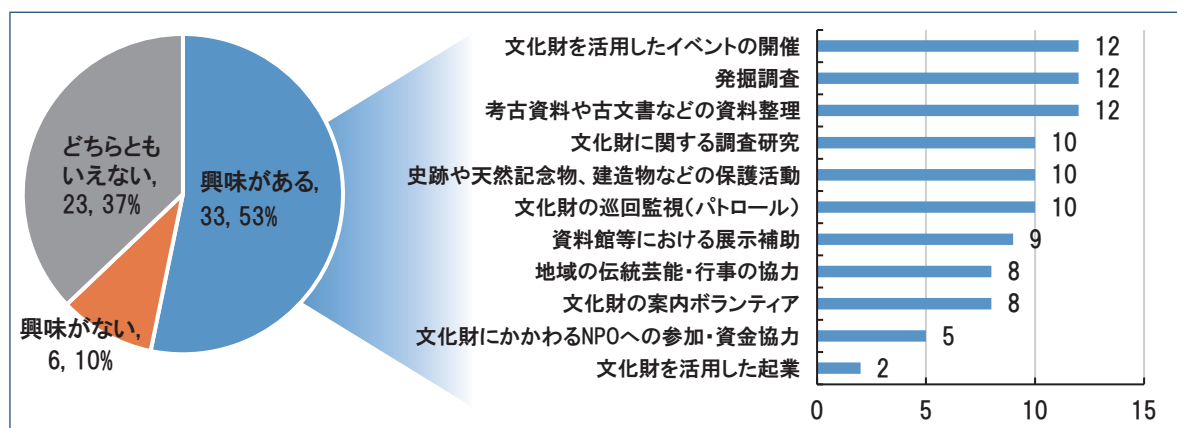
質問 14) 質問 12 で「いいえ」と答えた方で、理由があればお書きください。



歴史や文化に関わる機会があれば「参加したい」という回答が80%を超えており、参加意欲が高いことが分かった。「文化財等の見学ツアー」や「講演会・講座・シンポジウム」、「資料館等の展示会」といった受動的な企画の方が参加しやすいようだった。

質問 15) 文化財の保存や活用に関する活動に興味がありますか。

質問 16) 興味があると答えた方で、具体的にどんな活動に興味がありますか。(いくつでも可)



文化財の保存や活用に関する活動に「興味がある」人が半数を超えた。「どちらともいえない」人も次いで多いが、活動内容によっては多くの人に興味を持ってもらえる可能性があると思われる。

興味のある活動としては、「文化財を活用したイベントの開催」、「発掘調査」、「考古資料や古文書などの資料整理」がやや多かったが、あまり差はなかった。

⑥その他、歴史・文化に関する要望や質問

- ・ **歴史・文化に触れる機会の不足**：市民でも市内の歴史・文化を知らないことが多く、小・中学生への教育に文化財を活用する、社会人の文化施設を利用する機会を増やす、文化財の公開等により見る・体験する機会を増やす、等の具体的な提案が多く寄せられた。
- ・ **歴史・文化のPR不足**：上記にも関連して、市内の歴史・文化の分かりにくさ、情報不足、PR不足の指摘があった。魅力的なものがあるはずなのに、理解するための情報が身近に提供されていないため、市民にとっても分かりにくく、市外の人にも説明しにくい、といった意見が見られた。
- ・ **もっと詳しく知りたい**：こんなテーマでシンポジウムや展示を行ってほしいという要望がいくつか見られた。具体的には、「自然と歴史の関係」、「子供も楽しめる文化財ツアー」等が挙げられていた。
- ・ **文化財の調査**：遺跡や出土物などの埋蔵文化財調査が進んでいない、という意見がいくつか見られた。
- ・ **文化財の修理・整備**：那須神社や大田原城跡といった市内の代表的な文化財が整備しきれていないという意見が多数見られた。那須神社の修理や城跡の整備によって、市民の誇りとなるような、人が集まれる場所となるような活用を求められている。

大田原市文化財保存活用地域計画

発行日 : 令和3年3月

編集 : 大田原市教育委員会事務局文化振興課

〒324-8641 栃木県大田原市本町1-4-1

電話 0287(23)3135

発行 : 大田原市教育委員会